

**第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
のための市民アンケート結果報告書**

令和8年3月
高 浜 市

も く じ

第1章 調査の概要

1 調査の目的.....	1
2 調査の設計.....	1
3 回収結果.....	1
4 報告書の見方.....	2

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 調査対象者の家族や生活の状況.....	3
2 からだを動かすことや外出について.....	11
3 食べることなどについて.....	18
4 日常生活について.....	25
5 就労について.....	39
6 地域での活動について.....	40
7 たすけあいについて.....	50
8 健康について.....	59
9 認知症について.....	69
10 これからの生活について.....	74
11 介護保険について.....	80
12 高齢者施策について.....	88
13 活動能力の指標について.....	90

第3章 在宅介護実態調査

1 調査対象者の家族や生活の状況.....	93
2 外出について.....	101
3 日常生活について.....	105
4 健康について.....	110
5 介護保険サービスについて.....	112
6 介護保険制度等について.....	122
7 認知症について.....	131
8 高齢者施策について.....	135

9	これからの生活について	137
10	介護者について.....	143
11	調査票の記入者.....	153
第4章 介護支援専門員実態調査		
1	調査対象者の属性等	154
2	ケアマネジメントの現状	155
3	介護保険や高齢者福祉サービスについて	168
第5章 介護サービス提供事業者調査		
1	サービス提供の現状	173
2	今後の事業展開等について	176

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定にあたって、対象となる住民の健康状態や生活習慣、介護保険サービス、保健福祉サービスの利用状況やニーズ等を把握するとともに、市内の介護支援専門員や介護サービス事業者からも課題やニーズを把握し、基礎資料とすることを目的とします。

2 調査票の設計

本調査は、図表 1－1 のとおり設計し実施しました。

図表 1－1 調査の設計

調査の種類	調査対象者	抽出方法	調査基準日	調査期間	調査方法
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	要介護 1～5 以外の65歳以上の人	無作為	令和 7 年 12月 1 日	令和 7 年 12月10日～ 26日	配布：郵送 回収：郵送 およびWeb
②在宅介護実態調査	要介護 1～5 の人（施設・居住系サービス利用者を除く）	全 数			
③介護支援専門員調査	市内の居宅介護支援事業所の介護支援専門員	全 数			
④介護サービス提供事業者調査	市内のサービス提供事業者	全 数			

3 回収結果

各対象の配布数及び回収数は、図表 1－2 のとおりです。

図表 1－2 回収結果

調査票の種類	配布数	回収数			回収率	有効回答数	有効回答率
		郵送	Web	合計			
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,000	1,117	79	1,196	59.8%	1,184	59.2%
②在宅介護実態調査	800	324	48	372	46.5%	364	45.5%
③介護支援専門員実態調査	24	19	2	21	87.5%	21	87.5%
④介護サービス提供事業者調査	15	6	8	14	93.3%	14	93.3%

4 報告書の見方

- 図表中のn（Number of Caseの略）は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示しています。
- 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため、パーセントの合計が100%にならない場合があります。
- クロス集計の表やグラフを見やすくするため、性別や年齢などの比較対象となる項目の「無回答」を表示していません。したがって、比較対象となる項目の合計は全体の合計と一致しません。
- 複数回答が可能な質問の場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をします。したがって、各項目の比率の合計は、通常100%を超えています。
- 本報告書中の表、グラフ、本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略してある場合があります。
- 各調査には、次表のとおり性別、年齢、家族構成、要介護度、小学校区について不詳があります。

区 分	性 別	年 齢	家族構成	要介護度	小学校区
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	9	9	31		9
在宅介護実態調査	3	3	3	3	8

- 調査項目については、令和4年に実施した調査と比較分析をしました。図表中「第9期」とあるのは令和4年の調査、「第10期」とあるのは今回の調査を指します。

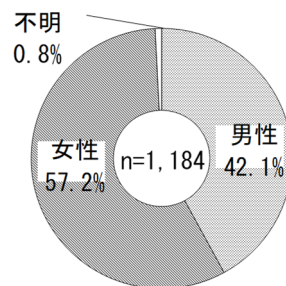
第2章 介護予防・日常生活圏域二一ス調査

1 調査対象者の家族や生活の状況

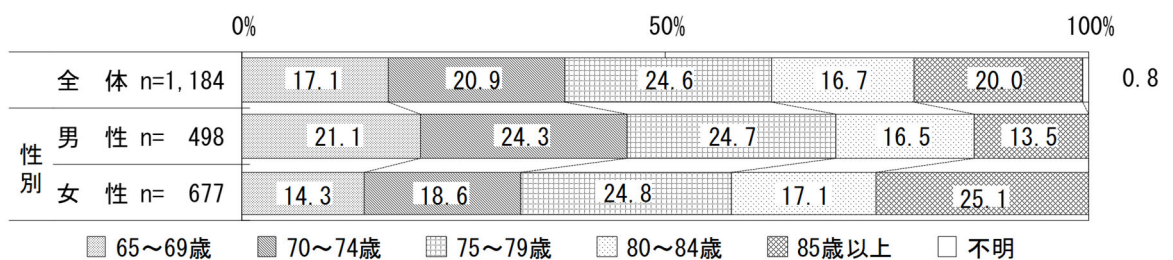
(1) 性別・年齢別

- ▶調査対象者の性別は、男性が42.1%、女性が57.2%です（図表2-1）。
- ▶年齢は、65～74歳が38.0%、75歳以上が61.3%です。性別にみると、女性は男性に比べ75歳以上が12.3ポイント高くなっています（図表2-2）。
- ▶要支援認定等の状況は、認定等を受けていない一般高齢者が73.6%を占めています。年齢が上がるにしたがい、要支援認定者や介護予防・生活支援サービスの事業対象者が高くなっています（図表2-3）

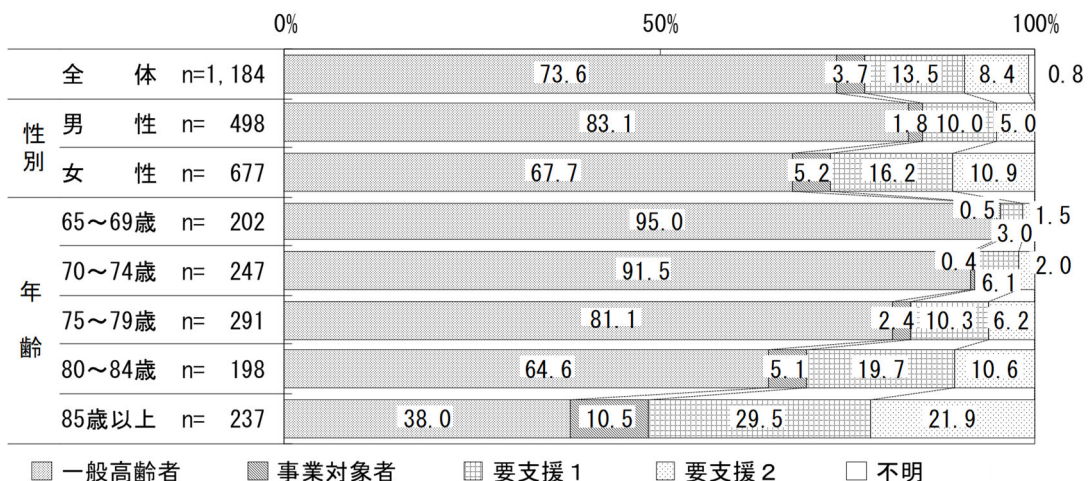
図表2-1 性別



図表2-2 年齢別



図表2-3 要支援認定の状況

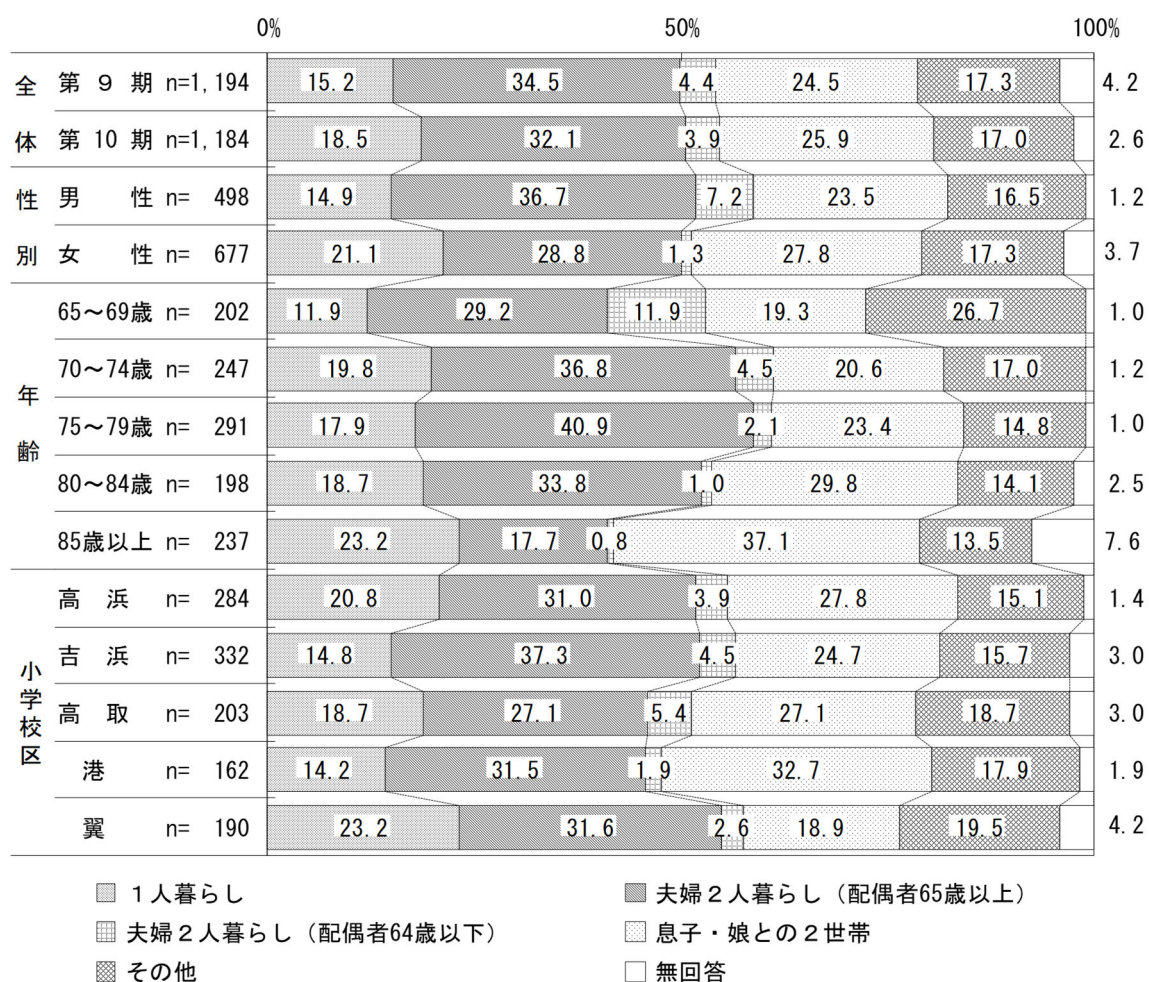


(2) 家族構成

① 家族構成

- ▶家族構成は、「夫婦 2 人暮らし(配偶者65歳以上)」が32.1%と最も高く、「1 人暮らし」(18.5%) との合計《高齢者のみの世帯》は50.6%です。第 9 期の調査結果に比べ「1 人暮らし」が3.3ポイント上昇しています。
- ▶小学校区別にみると、「1 人暮らし」は翼小学校区が、「夫婦 2 人暮らし(配偶者65歳以上)」は吉浜小学校区が最も高くなっています。翼小学校区、吉浜小学校区および高浜小学校区で《高齢者のみの世帯》が50%を超えています。

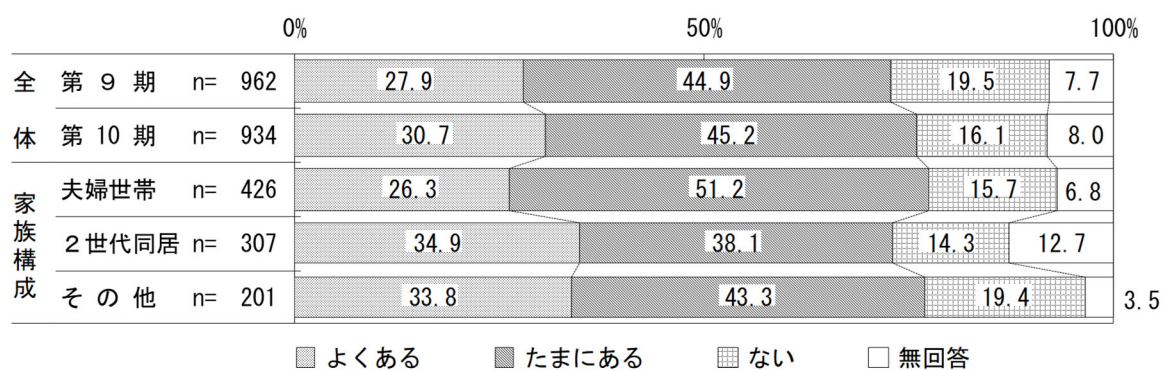
図表 2－4 家族構成



② 日中独居

▶ 1人暮らし以外を対象とした「日中、ひとりになることがありますか」という設問については、「よくある」が夫婦世帯では26.3%、2世代同居では34.9%、その他では33.8%となっています。

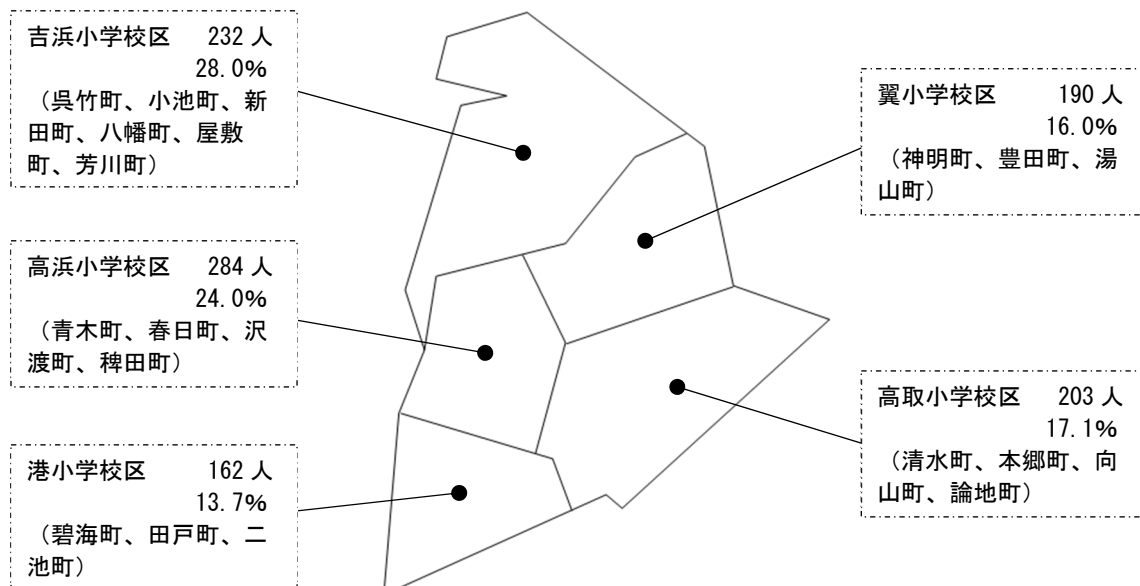
図表 2-5 日中ひとりになることがあるか



(3) 小学校区

▶ 調査対象者の居住する小学校区は、吉浜小学校区が28.0%と最も高く、次いで高浜小学校区が24.0%となっています。

図表 2-6 居住する小学校区

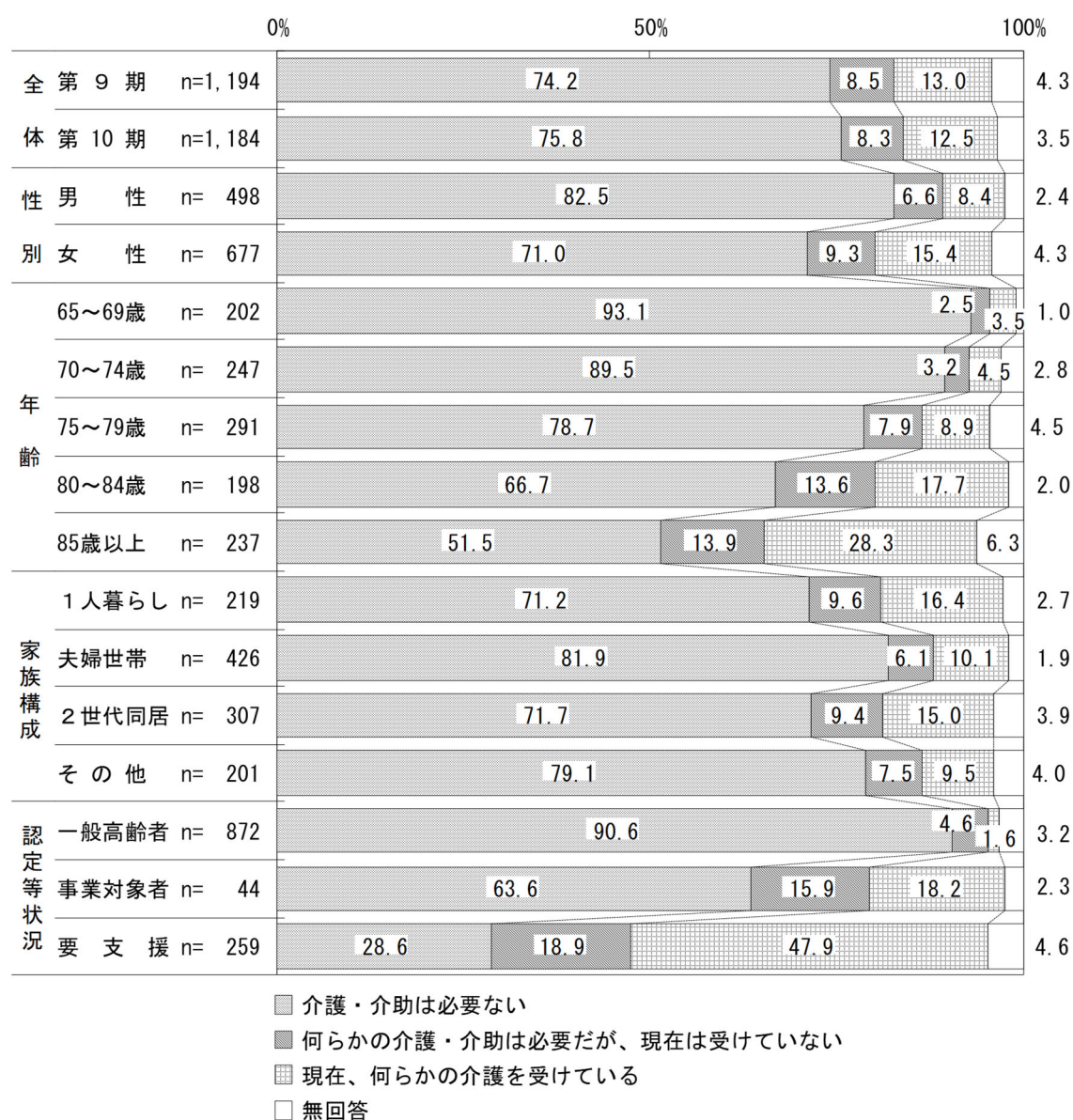


(4) 介護・介助の必要性

▶ 普段の生活で誰かの介護・介助が必要かをたずねたところ、「介護・介助は必要ない」が75.8%を占めています。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は8.3%、「現在、何らかの介護を受けている」は12.5%です。

▶ 年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「介護・介助は必要ない」が低下し、85歳以上では「現在、何らかの介護を受けている」が28.3%となります。

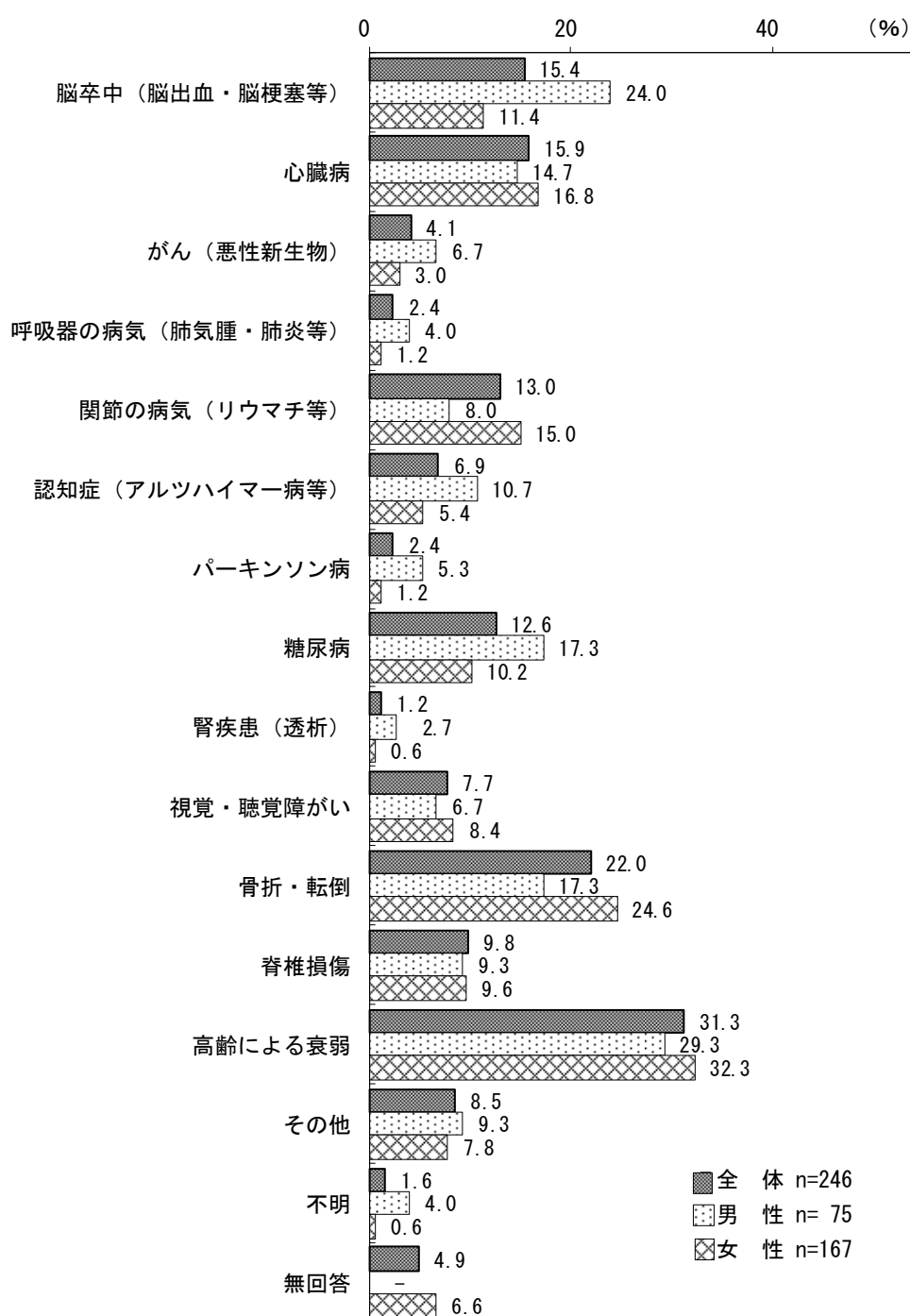
図表 2-7 介護・介助が必要か



(5) 介護・介助が必要になった原因

- ▶「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と回答した246人の介護・介助が必要になった原因としては、「高齢による衰弱」が31.3%と最も高く、次いで「骨折・転倒」が22.0%、「心臓病」が15.9%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が15.4%などとなっています。
- ▶性別により5ポイント以上の大きな差があるのは、男性が高い「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「糖尿病」「認知症（アルツハイマー病等）」、女性が高い「骨折・転倒」「関節の病気（リウマチ等）」です。

図表2-8 介護・介助が必要になった原因（複数回答）

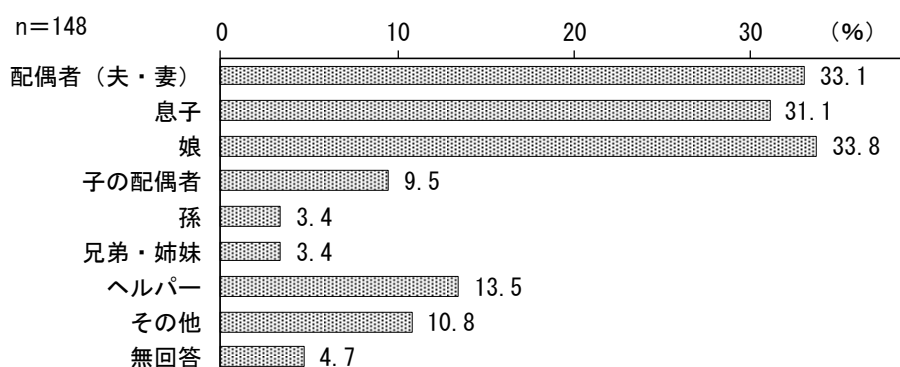


(6) 主な介護・介助者の状況

① 主な介護・介助者

- ▶「現在、何らかの介護を受けている」と回答した148人に、主な介護・介助者をたずねたところ、「娘」が33.8%と最も高く、次いで「配偶者（夫・妻）」が33.1%、「息子」が31.1%、「ヘルパー」が13.5%、「子の配偶者」が9.5%などとなっています。
- ▶「その他」として「母」「同居でない家族」「仲間」等の記載がありました。

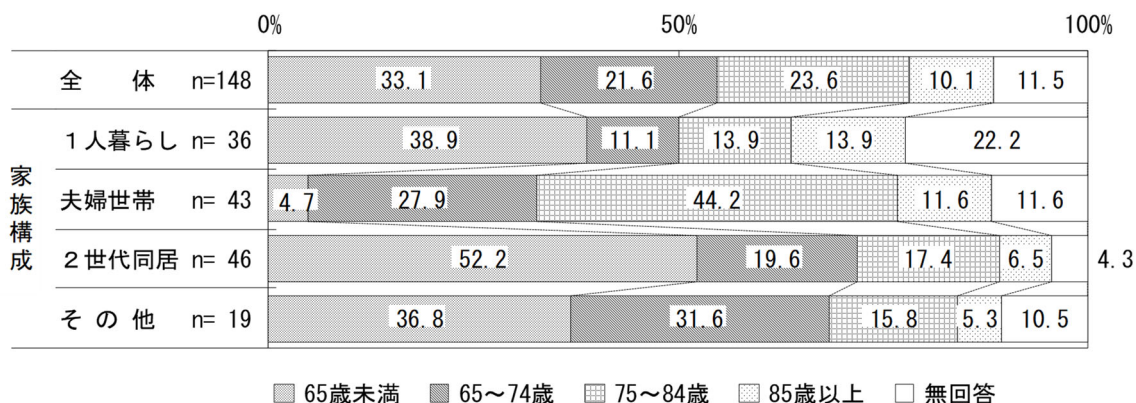
図表 2-9 主な介護・介助者（複数回答）



② 主な介護・介助者の年齢

- ▶主な介護・介助者の年齢をたずねたところ、「65歳未満」が33.1%と最も高く、次いで「75～84歳」が23.6%などとなっています。「85歳以上」が10.1%あり、75歳以上が33.7%と3人に1人以上となっています。
- ▶家族構成別にみると、夫婦世帯では75歳以上が55.8%を占めています。

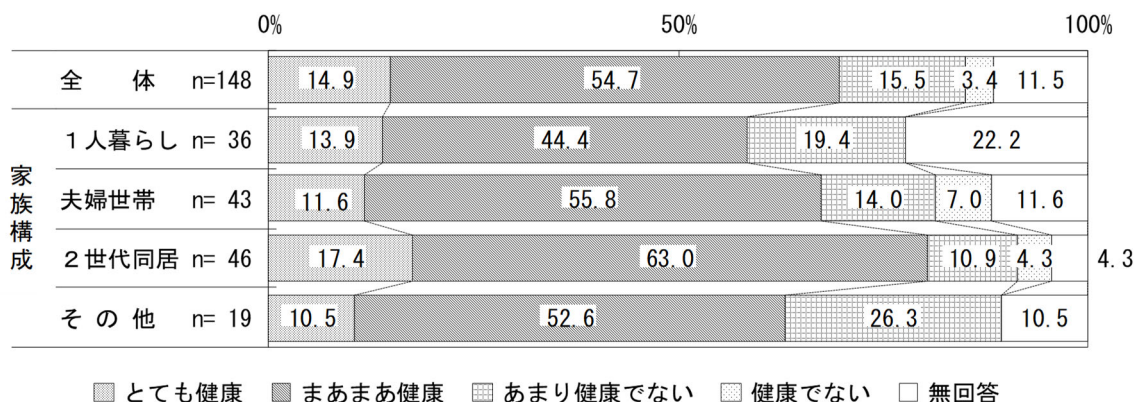
図表 2-10 主な介護・介助者の年齢



③ 主な介護・介助者の健康状態

▶主な介護・介助者の健康状態をたずねたところ、「まあまあ健康」が54.7%を占めており、「とても健康」(14.9%)と合計した《健康》は69.6%、「あまり健康でない」(15.5%)と「健康でない」(3.4%)を合計した《健康でない》は18.9%となっています。

図表 2-11 主な介護・介助者の健康状態

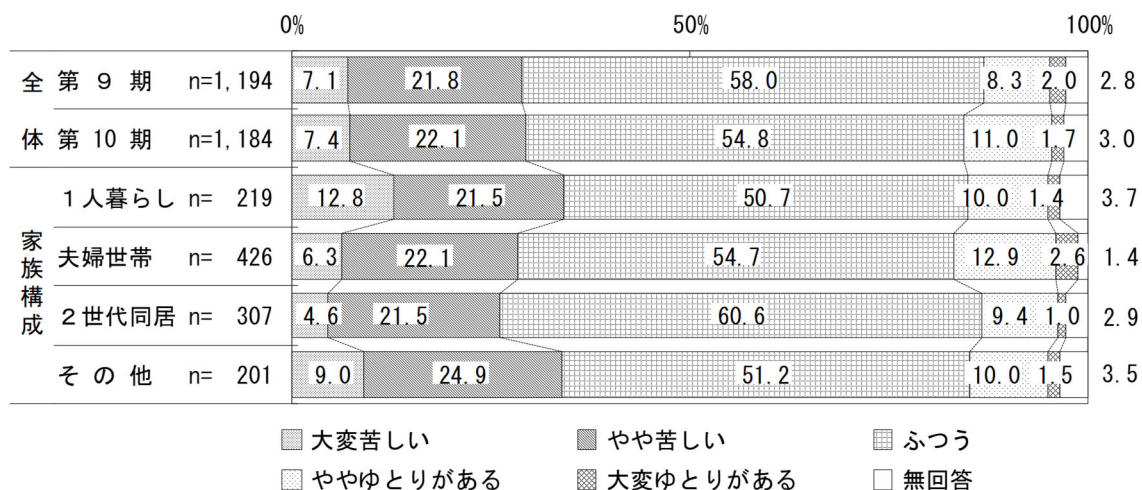


(7) 経済的な状況

▶現在の暮らしの状況は、「ふつう」が54.8%と最も高く、次いで「やや苦しい」が22.1%などとなっています。「大変苦しい」(7.4%)と「やや苦しい」(22.1%)の合計《苦しい》は29.5%、「大変ゆとりがある」(1.7%)と「ややゆとりがある」(11.0%)の合計《ゆとりがある》は12.7%です。第9期の調査結果に比べ《ゆとりがある》が2.4ポイント上昇しています。

▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「大変苦しい」が10%を超えています。

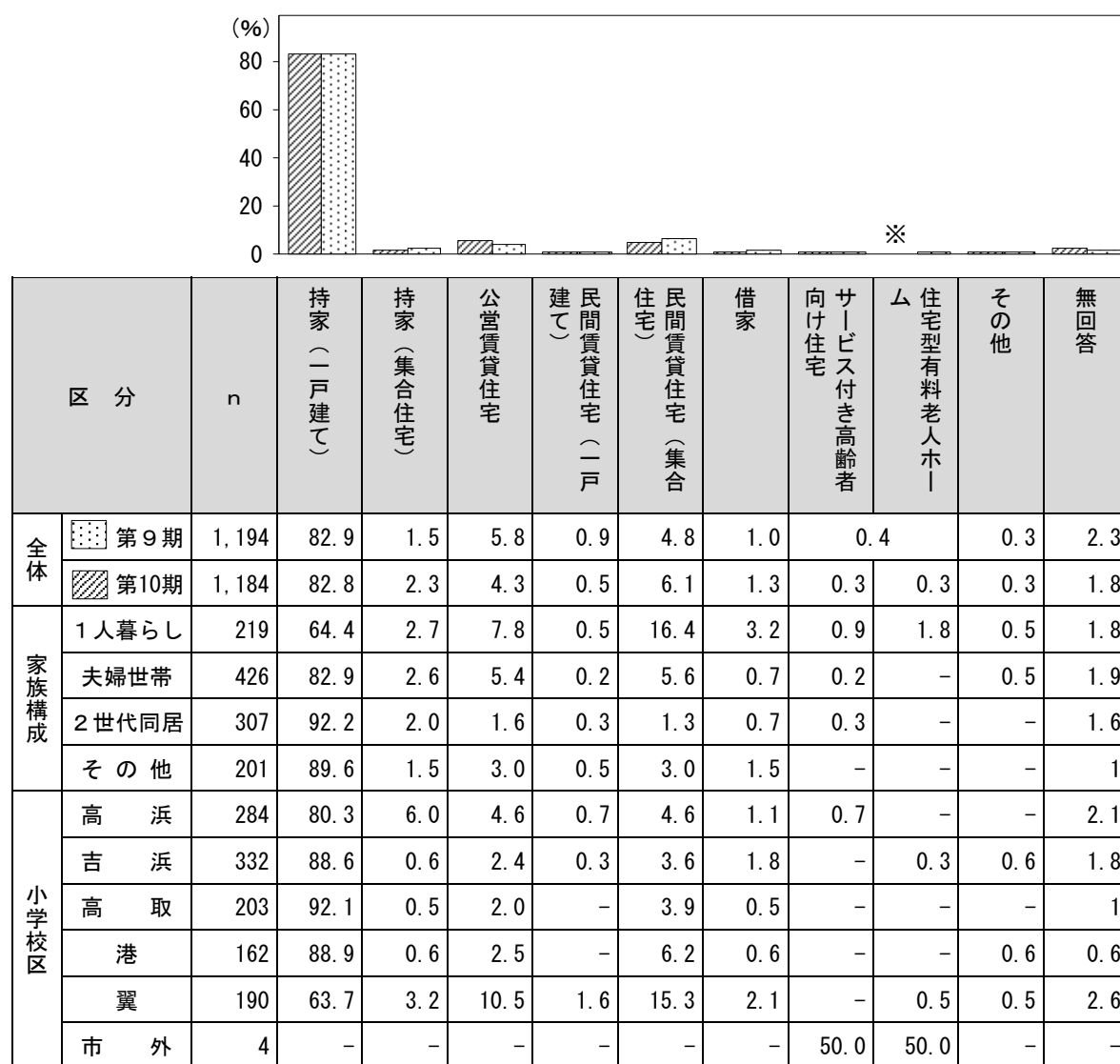
図表 2-12 経済的な状況



(8) 住まいの状況

- ▶住まいは、「持家（一戸建て）」が82.8%を占め、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」が6.1%、「公営賃貸住宅」が4.3%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「持家（一戸建て）」が低く、「民間賃貸住宅（集合住宅）」などが高くなっています。
- ▶小学校区別にみると、翼小学校区では「民間賃貸住宅（集合住宅）」と「公営賃貸住宅」が10%を超えています。

図表 2-13 住まいの状況



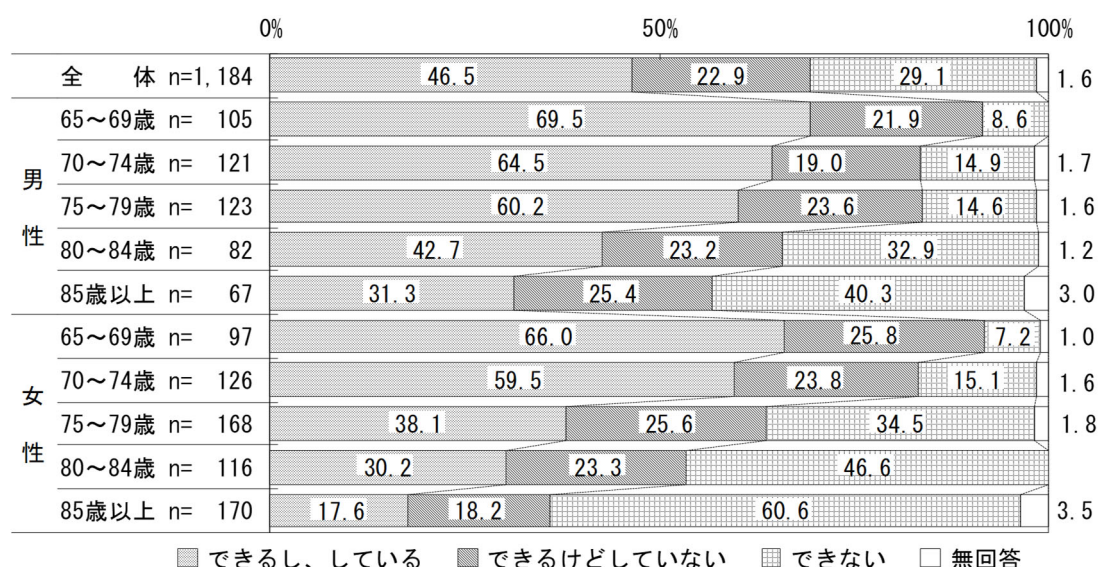
※第9期の選択肢「サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム」

2 からだを動かすことや外出について

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

▶階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が46.5%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい「できない」が高くなっており、特に女性は85歳以上になると60%を超えます。

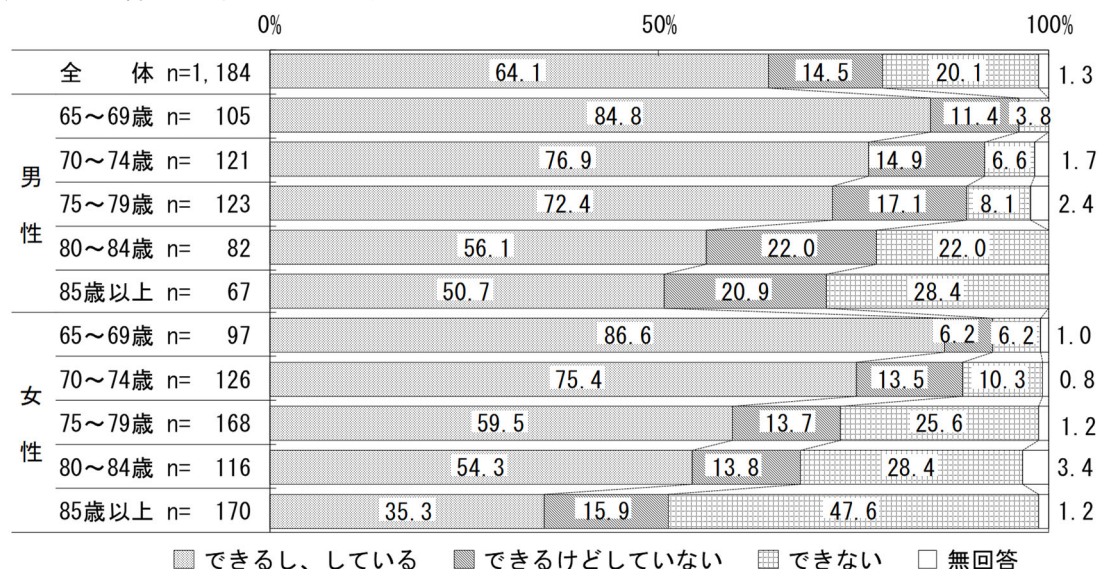
図表 2-14 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



(2) 椅子から何もつかまらずに立ち上がっているか

▶椅子から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が64.1%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい「できない」が高くなっており、特に女性は85歳以上になると50%近くとなります。

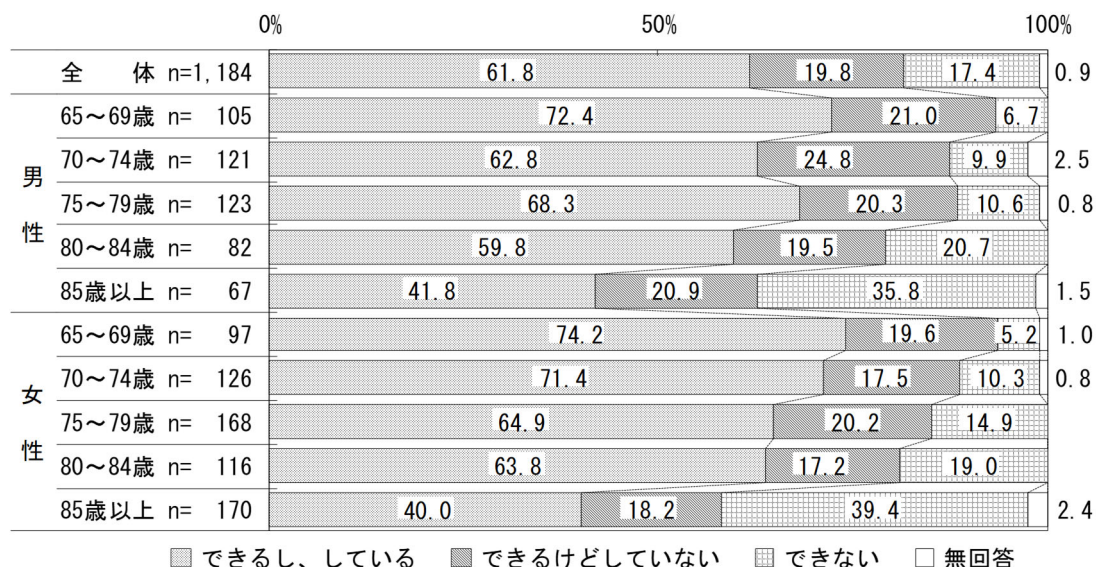
図表 2-15 椅子から何もつかまらずに立ち上がっているか



(3) 15分位続けて歩いているか

▶15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が61.8%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい「できない」が高くなり、85歳以上になると35%を超えます。

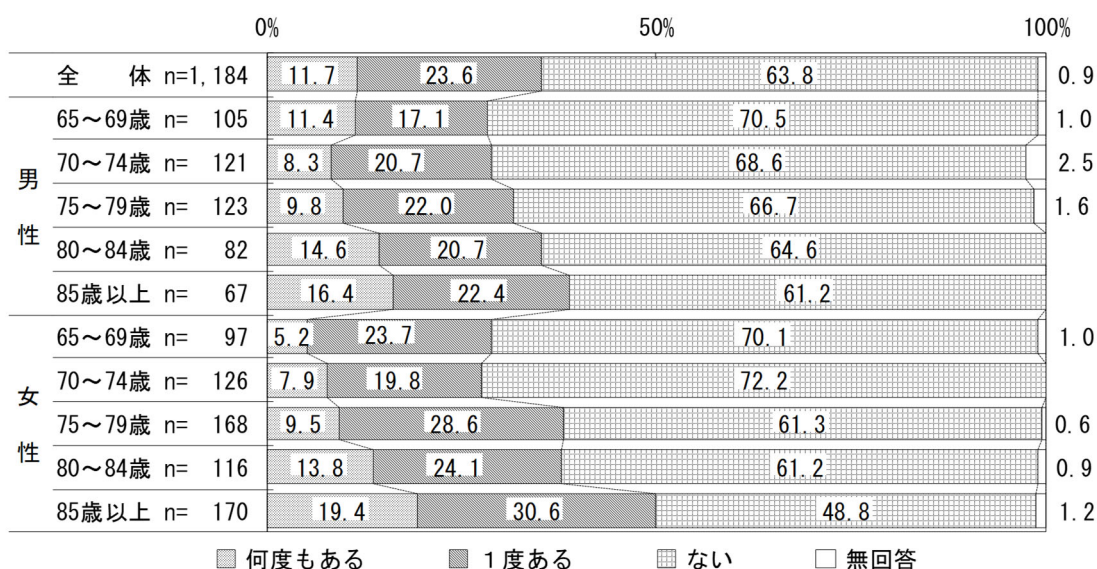
図表 2-16 15分位続けて歩いているか



(4) 転倒経験

▶過去1年間の転倒経験については、「何度もある」（11.7%）と「1度ある」（23.6%）の合計《ある》は35.3%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい《ある》が上昇する傾向にあり、特に女性は85歳以上になると50%となります。

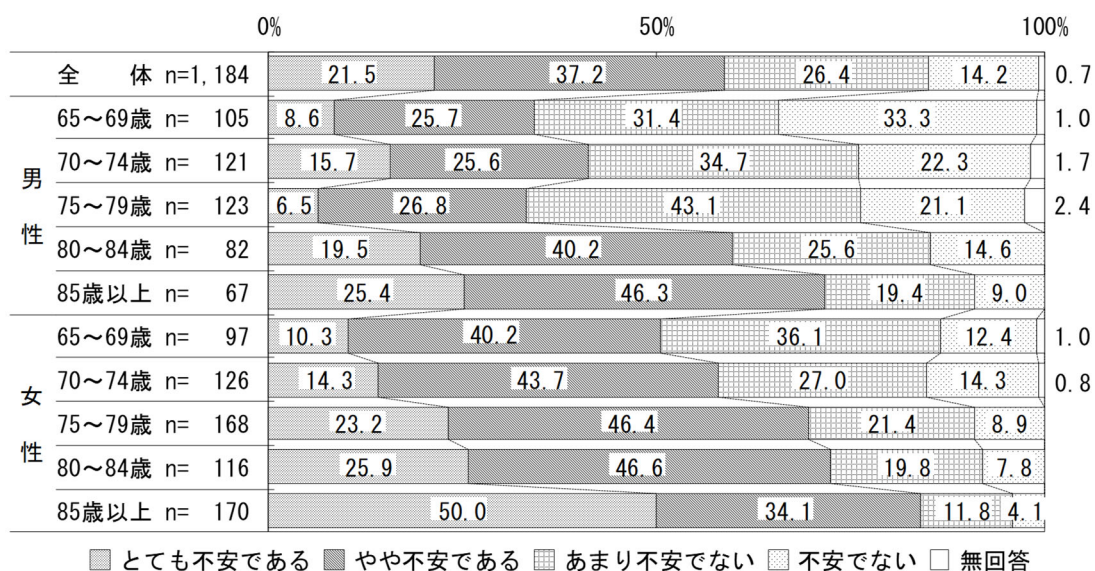
図表 2-17 過去1年間の転倒経験



(5) 転倒に対する不安は大きい

▶転倒に対する不安については、「とても不安である」(21.5%)と「やや不安である」(37.2%)の合計《不安》は58.7%です。《不安》は男性に比べて女性が高くなっており、85歳以上では80%を超えます。

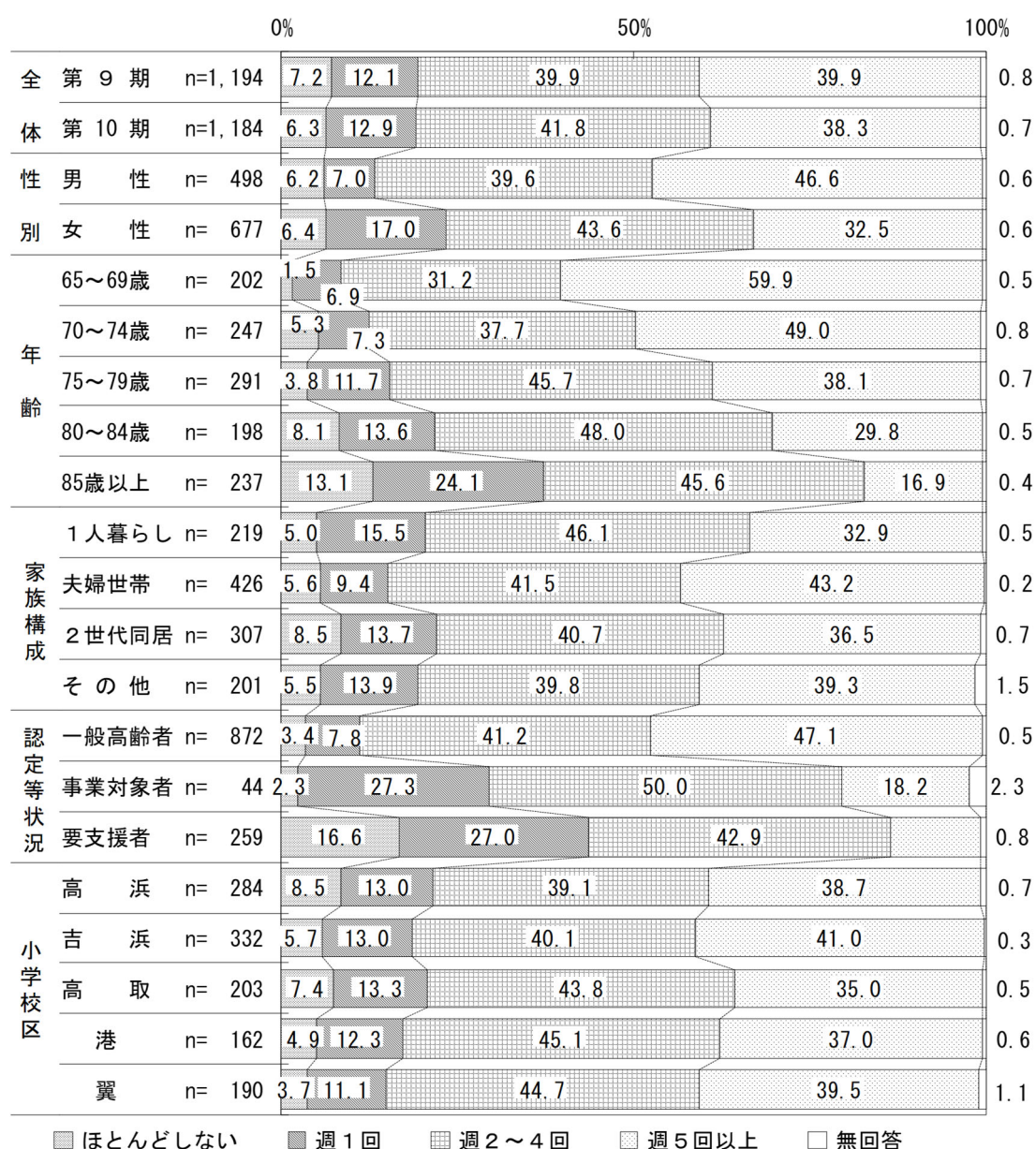
図表 2-18 転倒に対する不安は大きい



(6) 外出頻度

- ▶「週1回以上は外出していますか」という設問については、「週2～4回」が41.8%と最も高く、次いで「週5回以上」が38.3%となっています。「ほとんど外出しない」は6.3%です。
- ▶性別にみると、男性は「週5回以上」、女性は「週2～4回」が最も高くなっています。
- ▶年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい外出頻度は低くなっています。
- ▶認定等状況別にみると、要支援者の外出頻度が低く、「ほとんど外出しない」が16.6%となっています。

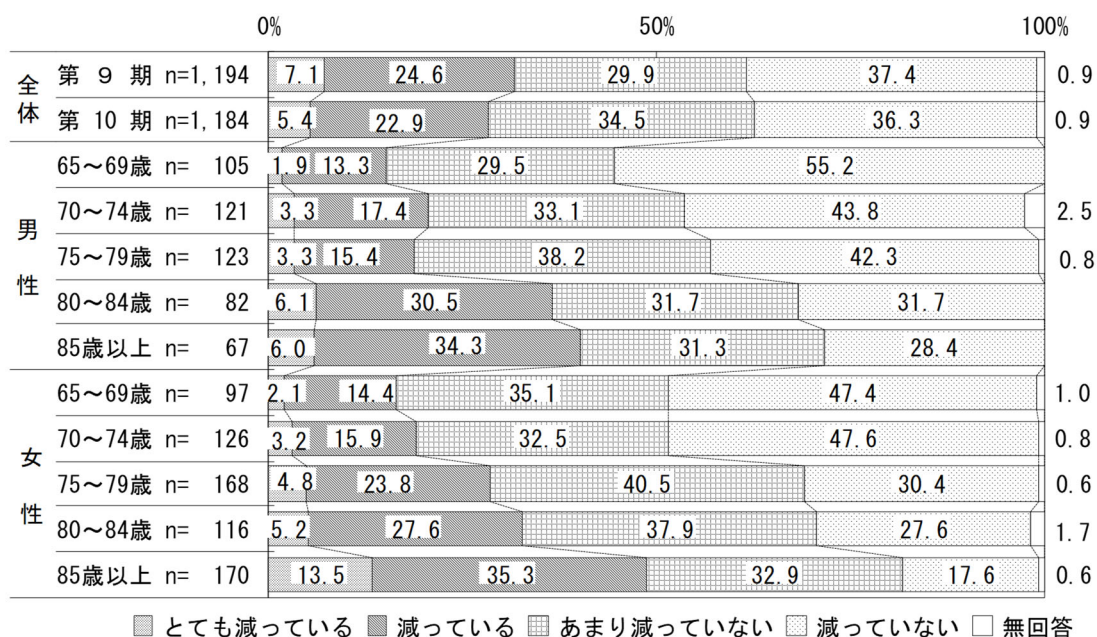
図表2-19 外出頻度



(7) 外出の回数が減っているか

▶「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」という設問については、「とても減っている」(5.4%)と「減っている」(22.9%)の合計《減っている》は28.3%です。第9期の調査結果に比べ《減っている》が3.4ポイント低下しています。

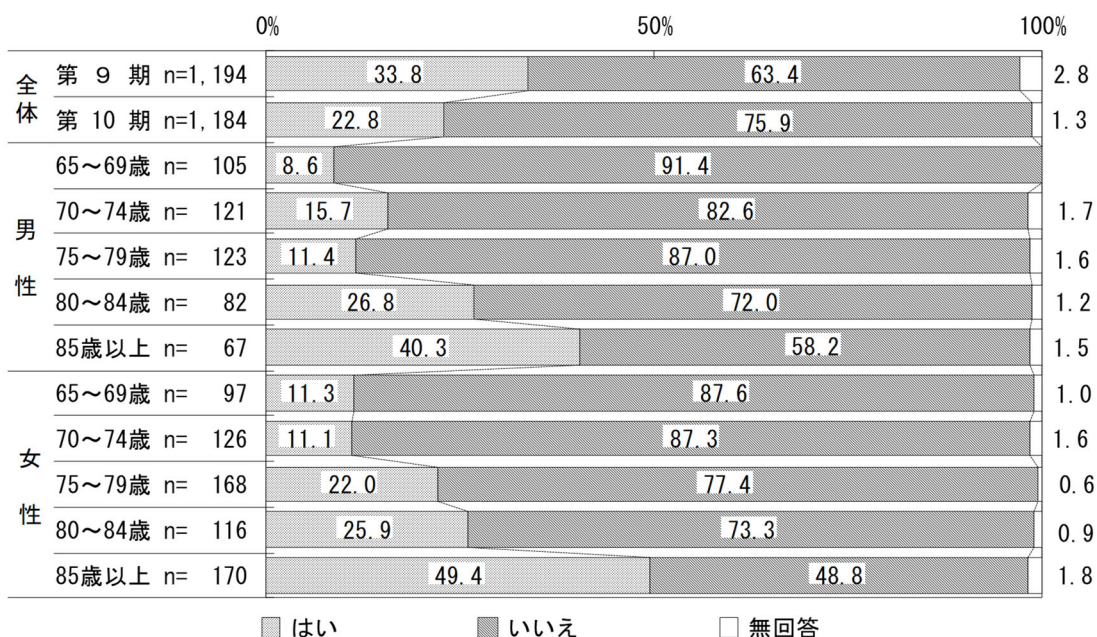
図表2-20 外出の回数が減っているか



(8) 外出を控えているか

▶外出を控えていると答えた人は22.8%で、第9期の調査結果に比べ10ポイント以上低下しています。

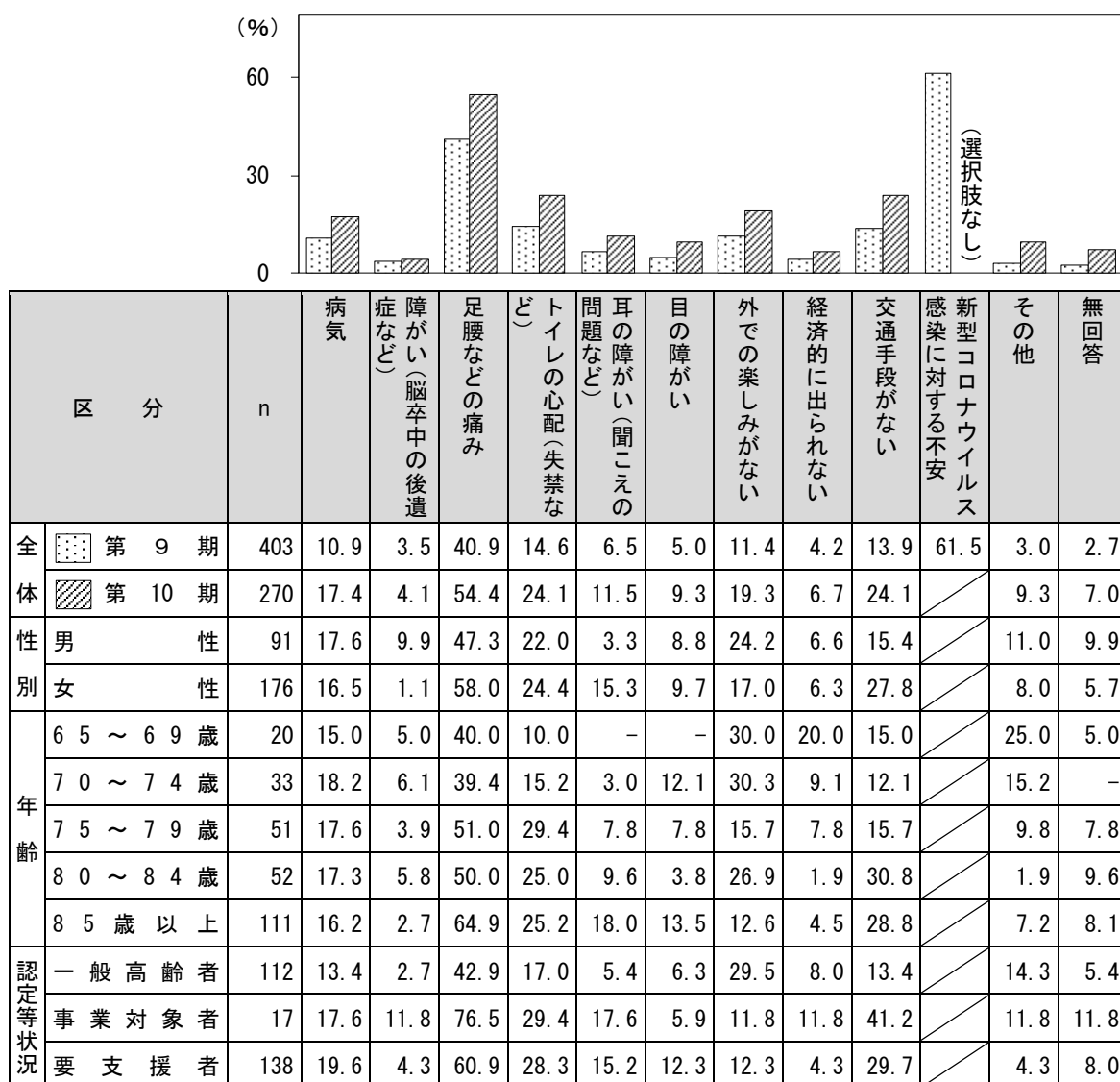
図表2-21 外出を控えているか



(9) 外出を控えている理由

- ▶外出を控えていると答えた270人の外出を控えている理由としては、「足腰などの痛み」が54.4%と突出して高くなっています。次いで、「トイレの心配」および「交通手段がない」が24.1%、「外での楽しみがない」が19.3%などとなっています。なお、今回は選択肢を設けていませんが、第9期は「新型コロナウイルス感染に不安」が最も高く60%を超えていました。
- ▶性別により5ポイント以上の大きな差があるのは、男性が高い「障がい（脳卒中の後遺症など）」「外での楽しみがない」、女性が高い「交通手段がない」「耳の障がい（聞こえの問題など）」「足腰の痛み」です。
- ▶「その他」として、「用事がない」「親の介護等」「必要ないから」「息切れがする」などの記載がありました。

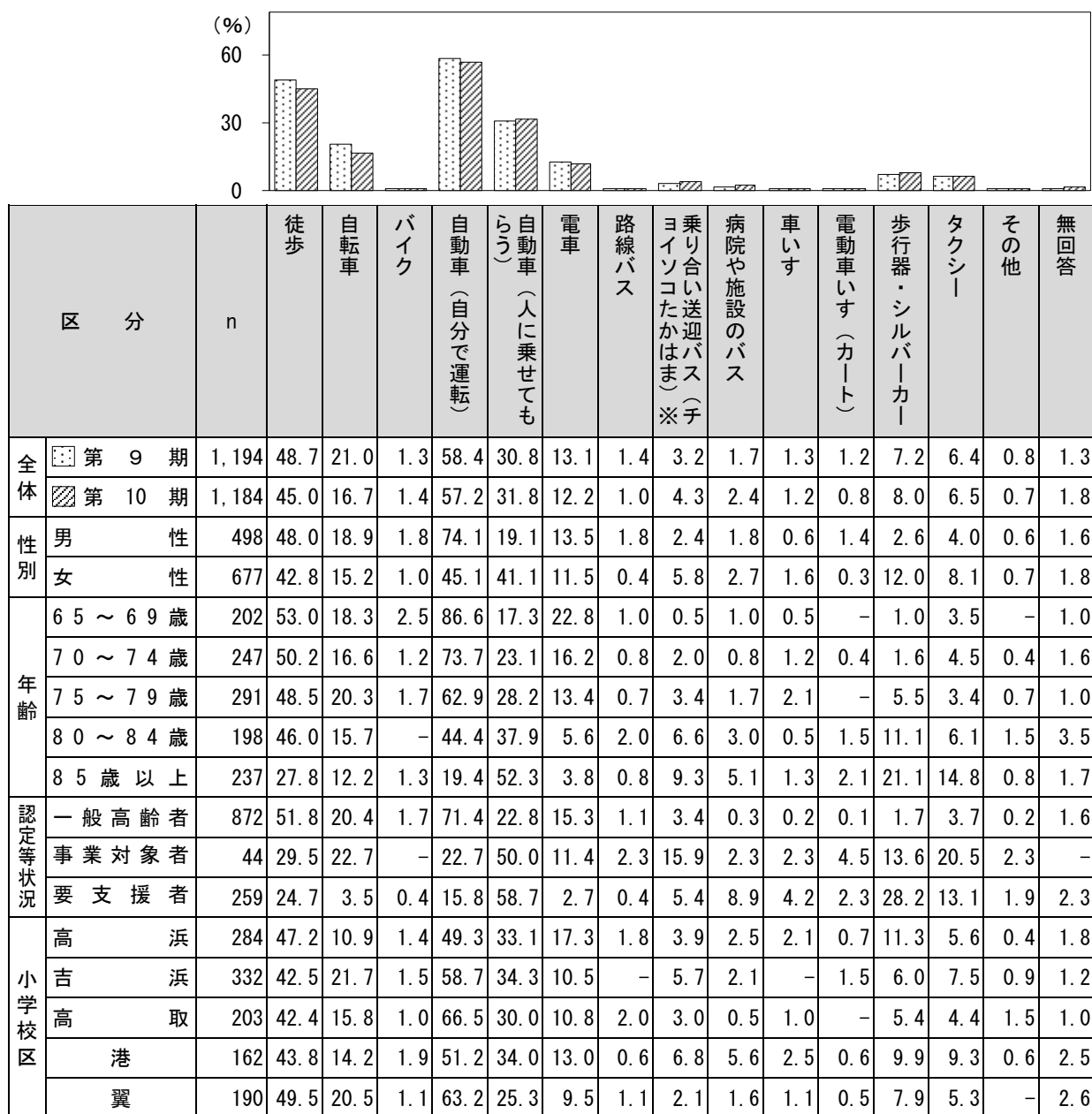
図表2-22 外出を控えている理由（複数回答）



(10) 外出する際の移動手段

- ▶外出する際の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が57.2%と最も高く、次いで「徒歩」が45.0%、「自動車（人に乗せてもらう）」が31.8%などとなっています。
- ▶性別にみると、男性は「自動車（自分で運転）」が74.1%と突出して高くなっていますが、女性は「自動車（自分で運転）」「徒歩」「自動車（人に乗せてもらう）」がそれぞれ40%を超えています。
- ▶年齢別にみると、「自動車（自分で運転）」は年齢が上がるにしたがい低下しますが、85歳以上でも19.4%あります。

図表 2-23 外出する際の移動手段（複数回答）



※第9期の選択肢「市内循環バス（いきいき号）」

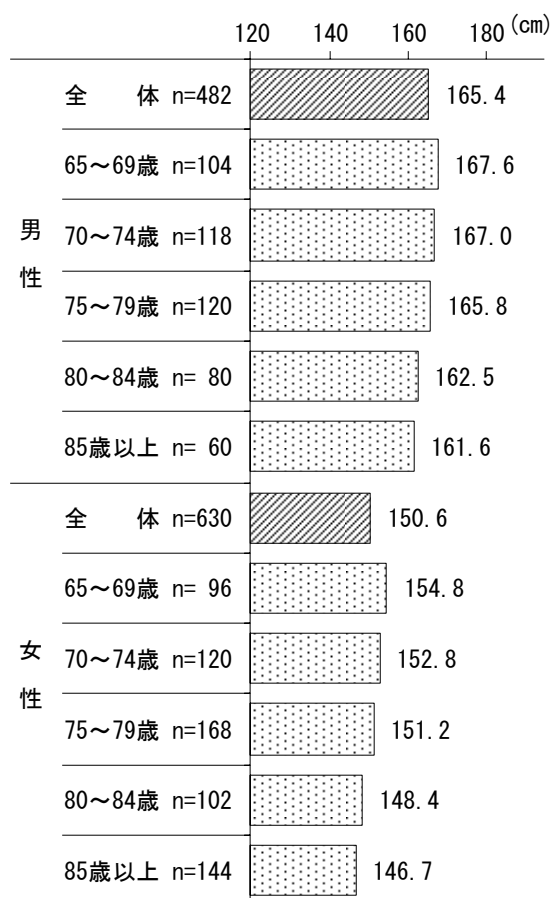
3 食べることなどについて

(1) 身長・体重

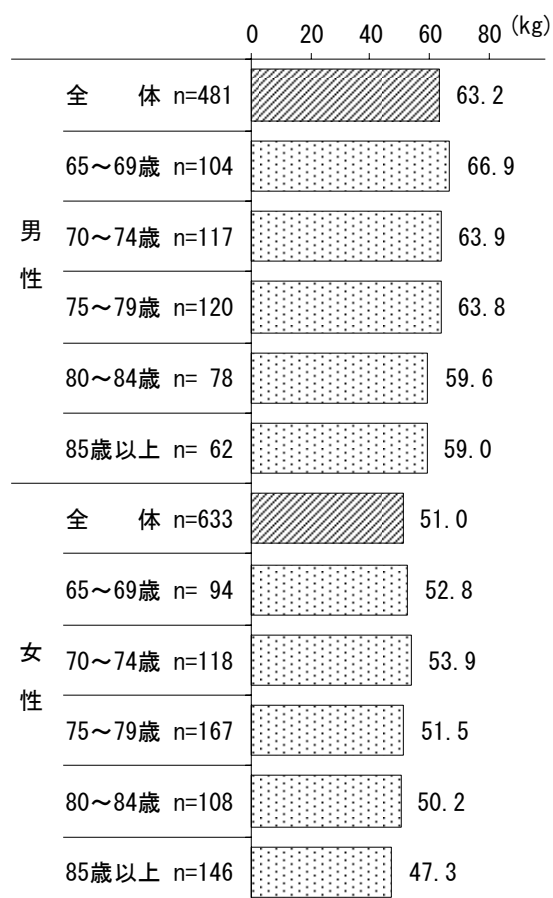
▶身長の平均は、男性が165.4cm、女性が150.6cm、体重の平均は、男性が63.2kg、女性が51.0kgです。年齢が上がるにしたがい身長は低くなり、体重は軽くなる傾向にあります。

図表 2-24 平均身長・平均体重

① 平均身長



② 平均体重

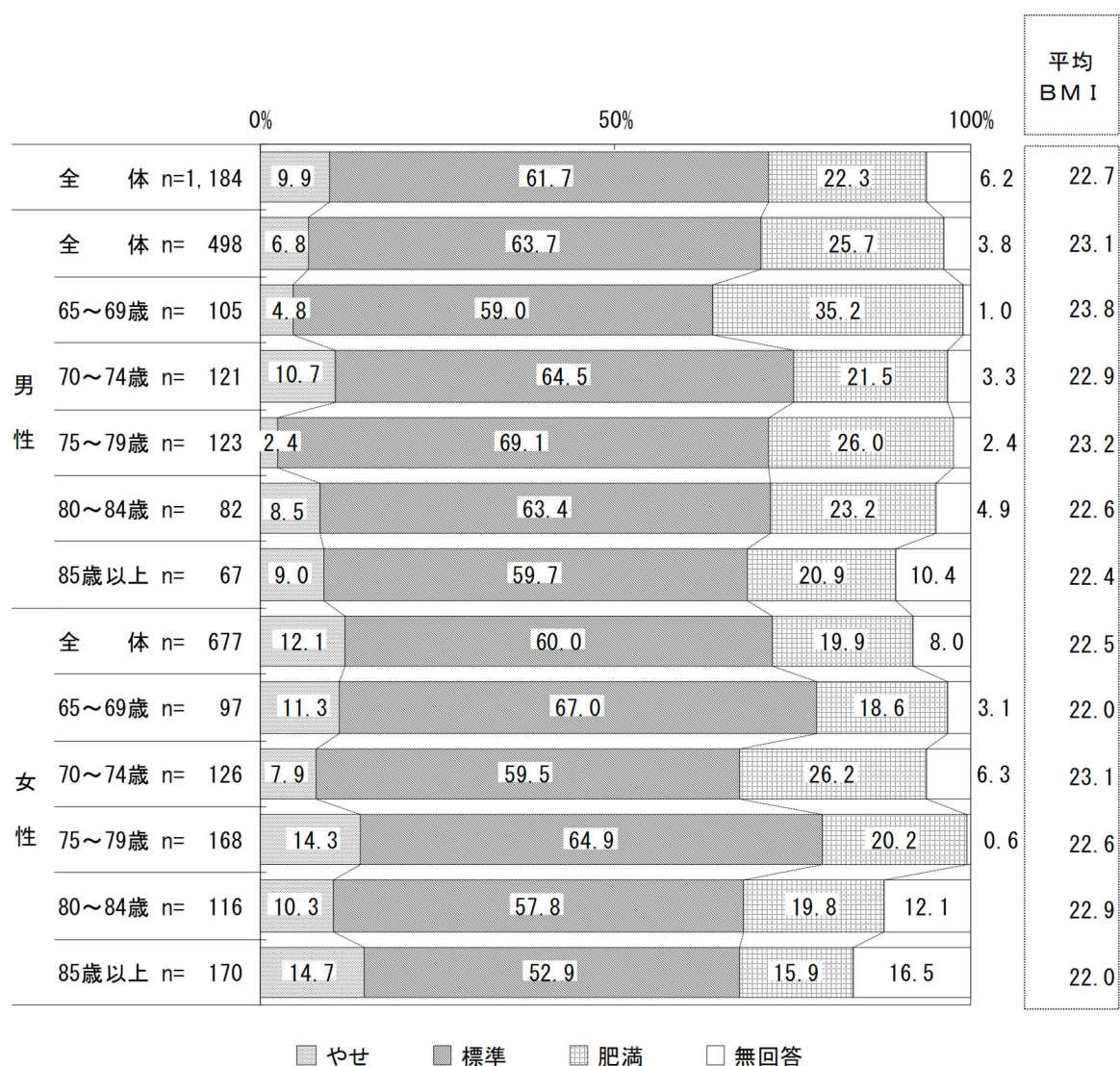


(2) BMI（肥満度指数）

▶調査対象者に身長と体重をたずね、肥満度の指標のBMIを算出しました。BMIとは、体重（kg）を身長（m）の2乗で割った値で、18.5未満が「やせ」、25.0以上が「肥満」とされます。

▶「やせ」に該当するのは、男性が6.8%、女性が12.1%です。「肥満」に該当するのは、男性が25.7%、女性が19.9%です。

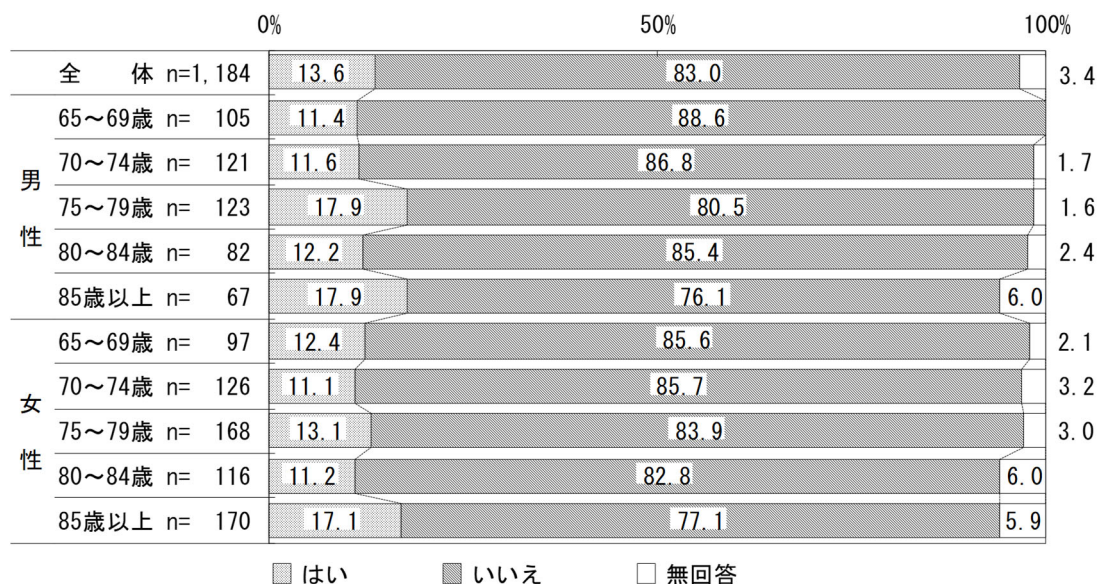
図表2-25 BMI（肥満度指数）



(3) 体重の減少があったか

▶ 6か月間で2～3kgの体重減少があったのは13.6%です。男性の75～79歳および85歳以上、女性の85歳以上では17%を超えています。

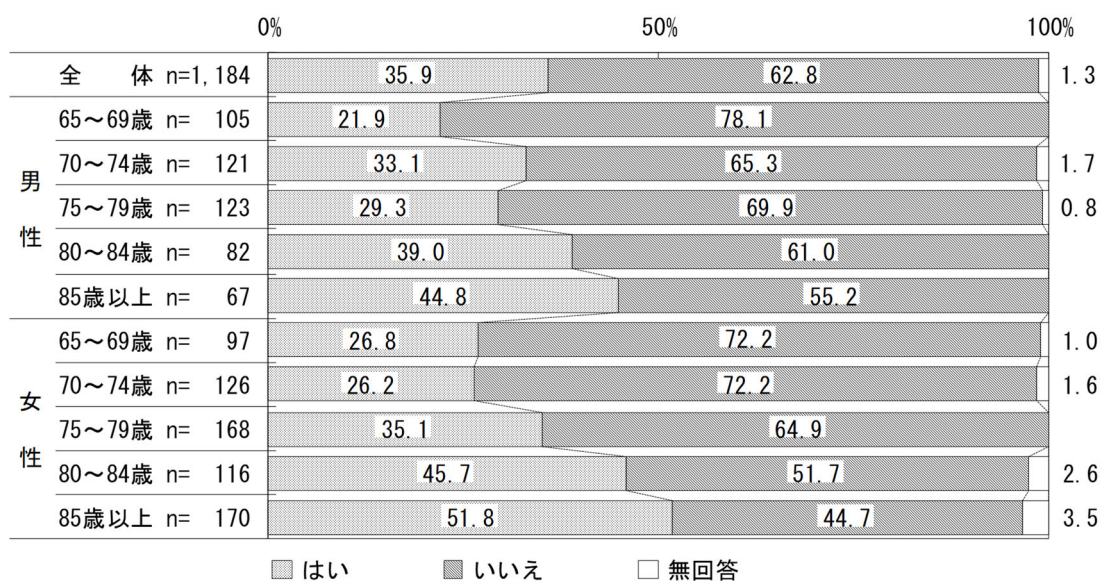
図表 2-26 体重の減少があったか



(4) 固いものが食べにくくなったか

▶ 半年前に比べて固いものが食べにくくなったと答えているのは35.9%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい上昇する傾向にあり、男性は85歳以上、女性は80歳以上になると40%を超えます。

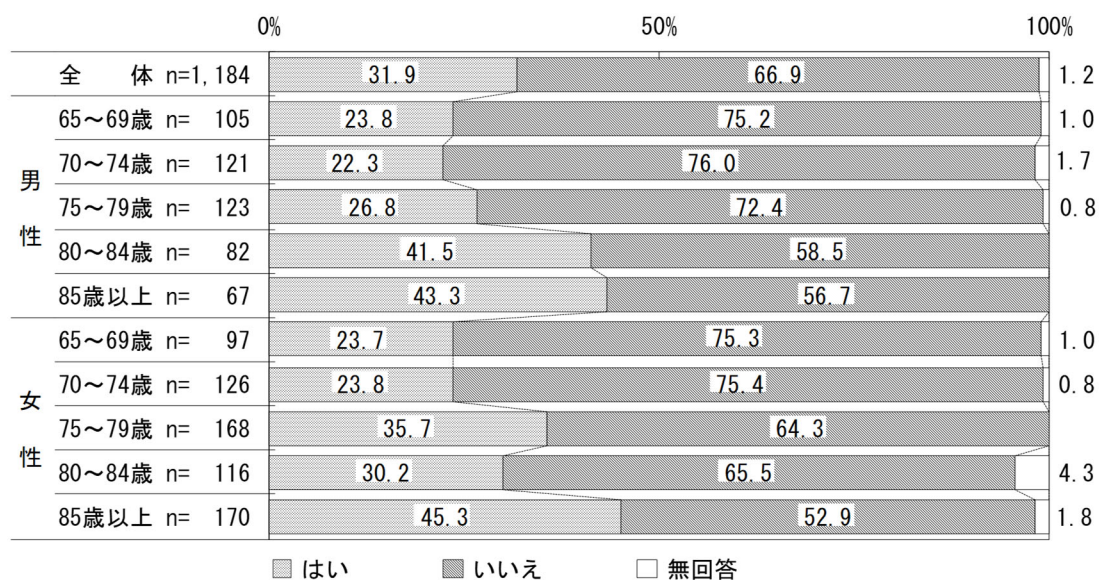
図表 2-27 固いものが食べにくくなったか



(5) お茶や汁物等でむせることがあるか

▶お茶や汁物等でむせることがあるのは31.9%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい上昇する傾向にあり、男性は80歳以上、女性は75歳以上になると30%を超えます。

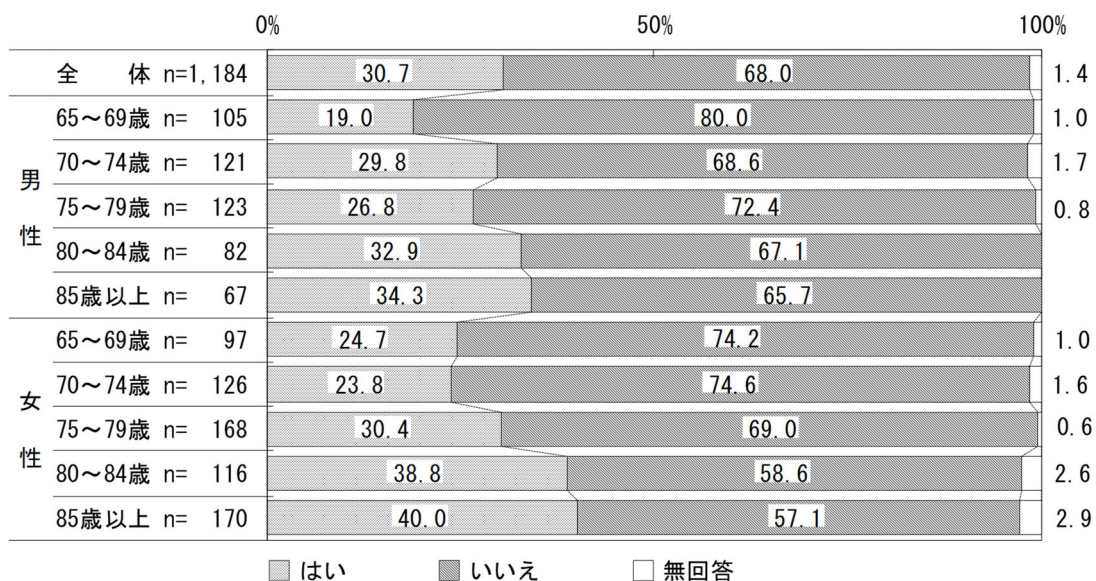
図表 2-28 お茶や汁物等でむせることがあるか



(6) 口の渇きが気になるか

▶口の渇きが気になるのは30.7%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあり、男性は80歳以上、女性は75歳以上になると30%を超えます。

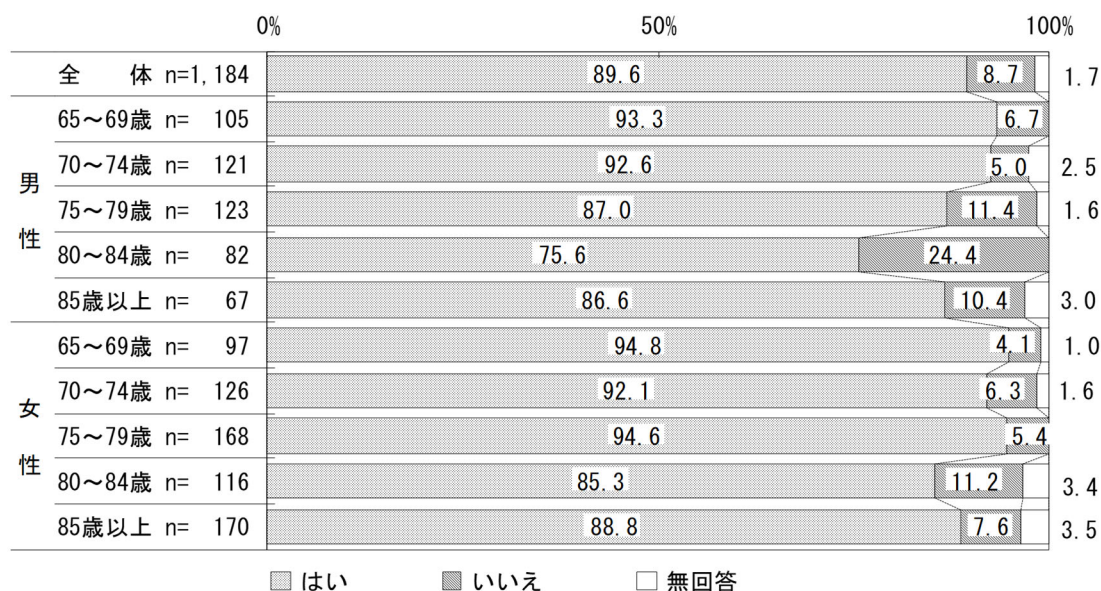
図表 2-29 口の渇きが気になるか



(7) 歯みがきを毎日しているか

▶歯みがき（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているのは89.6%です。男性の80～84歳では「いいえ」が24.4%あります。

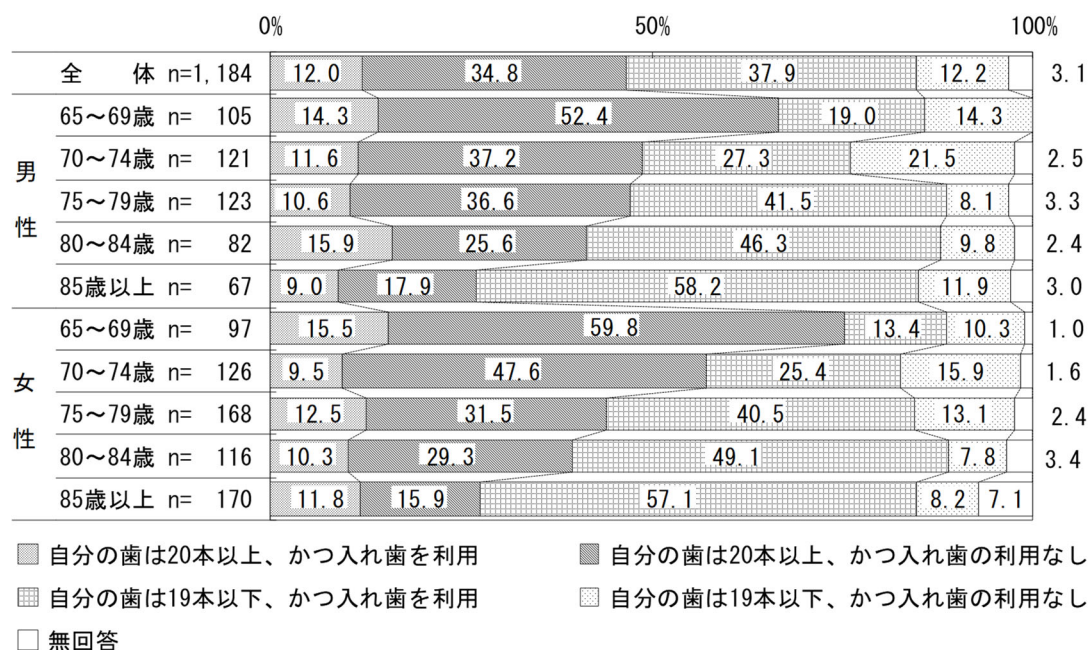
図表 2-30 歯みがきを毎日しているか



(8) 歯の数と入れ歯の使用状況

▶歯の数と入れ歯の使用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が37.9%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし」が34.8%です。年齢が上がるにしたがい自歯の数は減り、入れ歯の利用は増える傾向にあり、男女とも85歳以上では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が60%近くとなります。

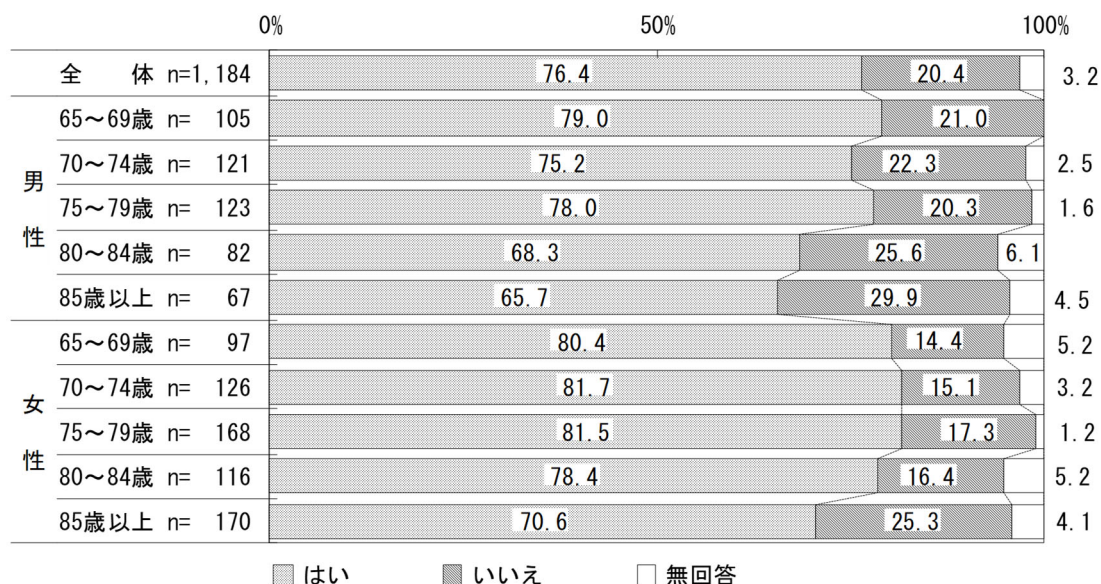
図表 2-31 歯の数と入れ歯の使用状況



(9) 噛み合わせは良いか

▶噛み合わせが良いかをたずねたところ、「はい」（良い）は76.4%です。「いいえ」（良くない）は、いずれの年齢層においても女性に比べて男性が高くなっています。

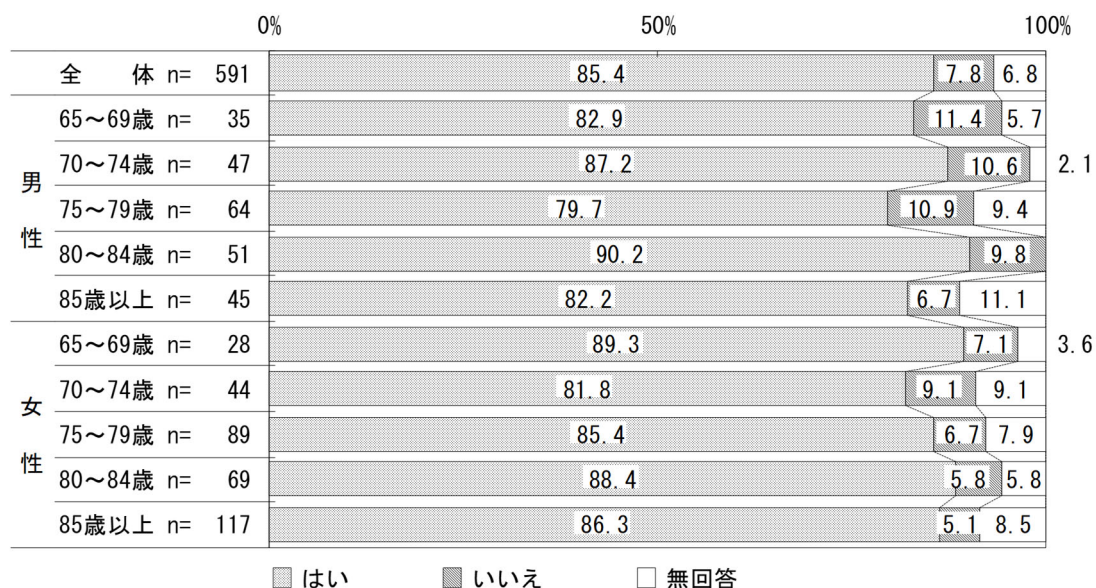
図表 2-32 噛み合わせは良いか



(10) 毎日入れ歯の手入れをしているか

▶入れ歯を利用している591人に、毎日入れ歯の手入れをしているかをたずねたところ、「はい」は85.4%です。

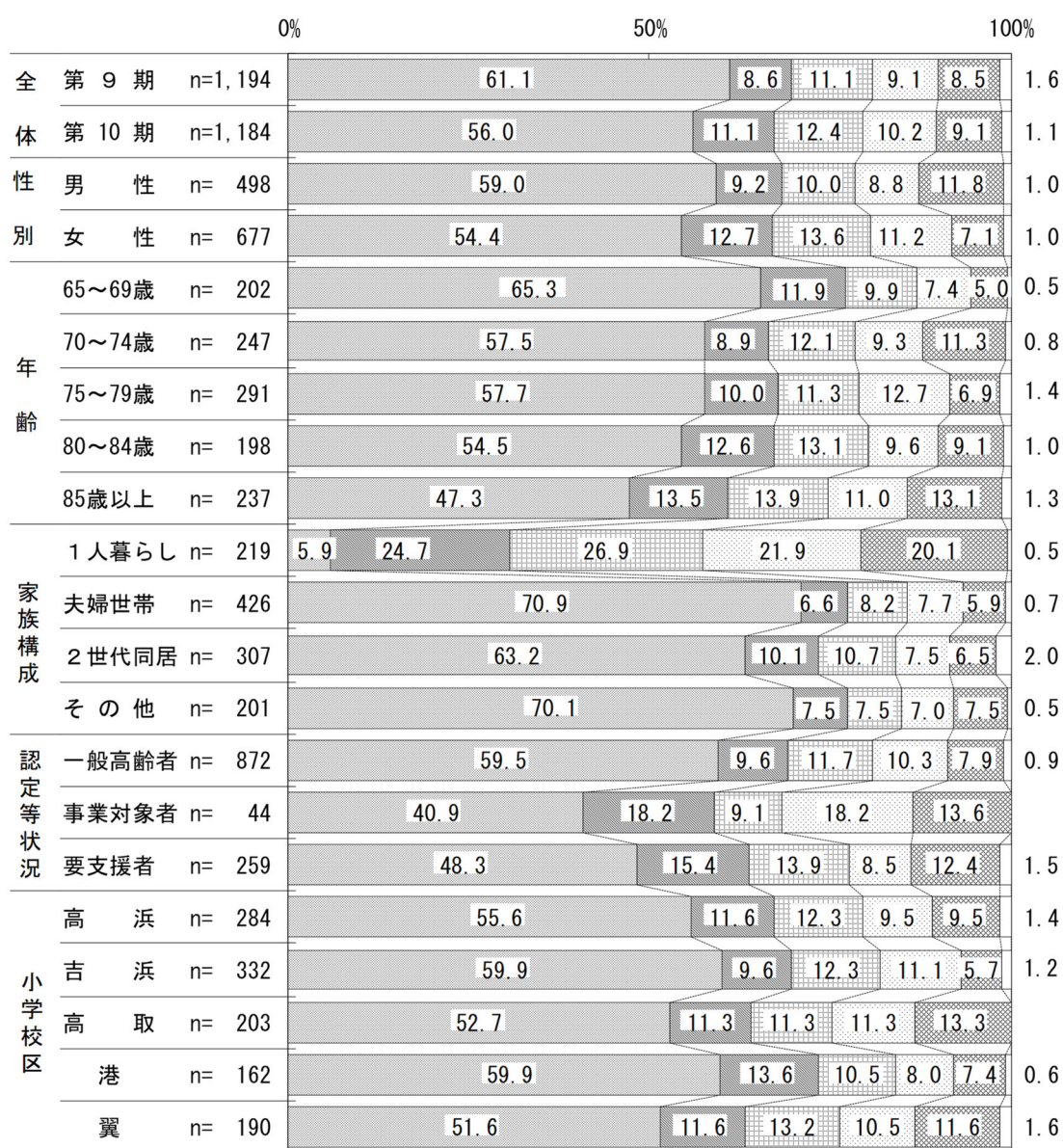
図表 2-33 毎日入れ歯の手入れをしているか



(11) だれかと食事をとにもする機会

- ▶自分一人ではなく、だれかと食事をとにもする機会があるかをたずねたところ、「毎日ある」が56.0%と最も高く、以下「月に何度かある」（12.4%）、「週に何度かある」（11.1%）、「年に何度かある」（10.2%）、「ほとんどない」（9.1%）の順となっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしは「月に何度かある」が26.9%と最も高く、次いで「週に何度かある」が24.7%となっていますが、「ほとんどない」が20.1%あります。

図表 2-34 だれかと食事をとにもする機会はあるか



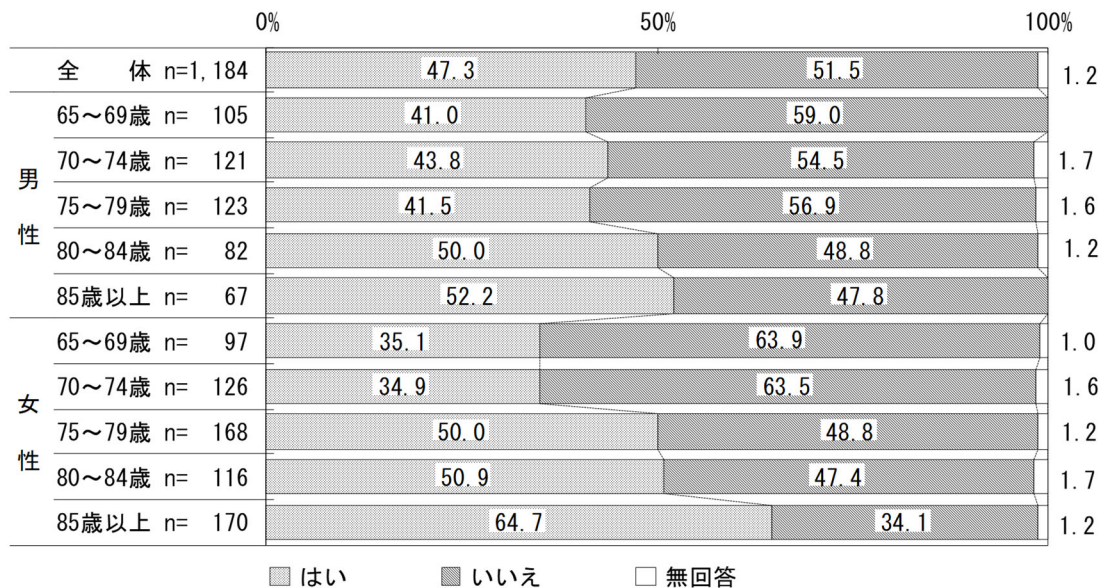
■ 毎日ある ■ 週に何度かある ■ 月に何度かある ■ 年に何度かある ■ ほとんどない □ 無回答

4 日常生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか

▶物忘れが多いと感じる人は47.3%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい上昇する傾向にあり、男性は80歳以上、女性は75歳以上になると50%以上を占めます。

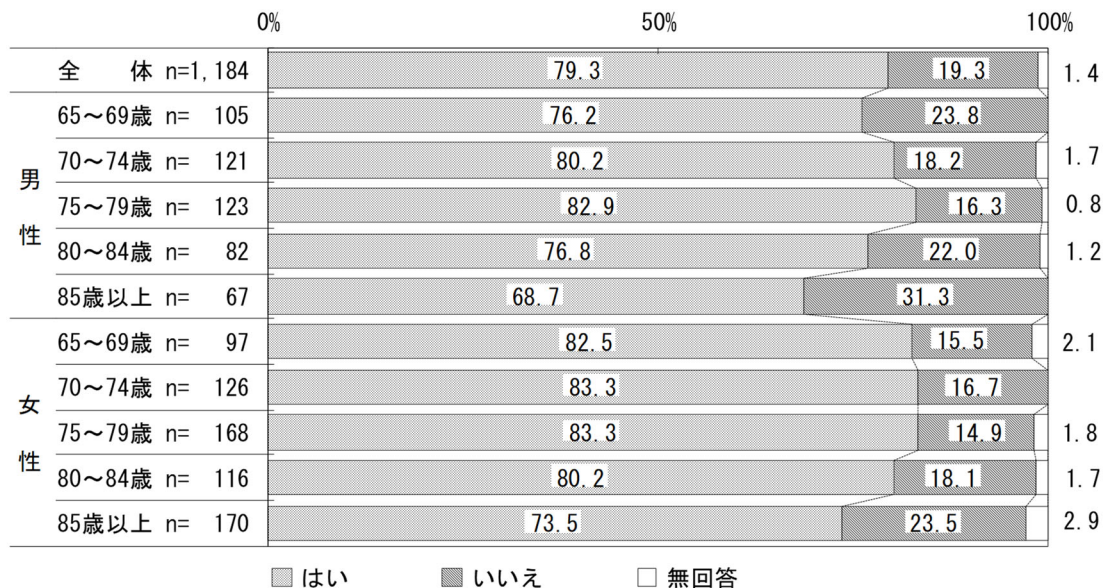
図表 2-35 物忘れが多いと感じるか



(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか

▶自分で電話番号を調べて、電話をかけている人は79.3%です。男女ともに85歳以上になると大幅に低下します。

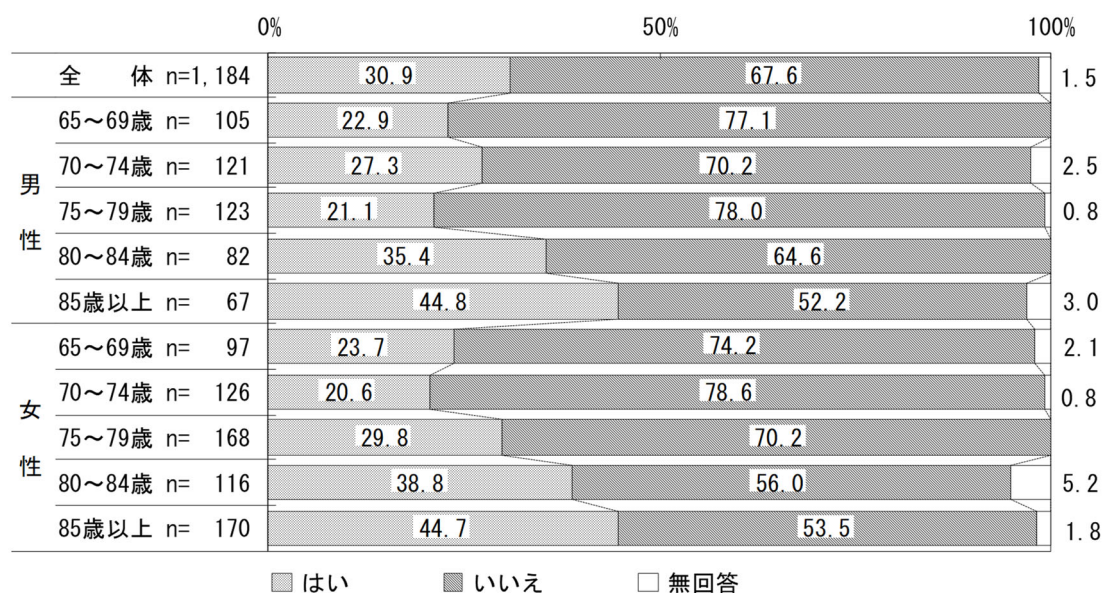
図表 2-36 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか



(3) 何月何日かわからない時があるか

▶今日が何月何日かわからない時がある人は30.9%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあり、85歳以上になると45%弱を占めます。

図表 2-37 何月何日かわからない時があるか

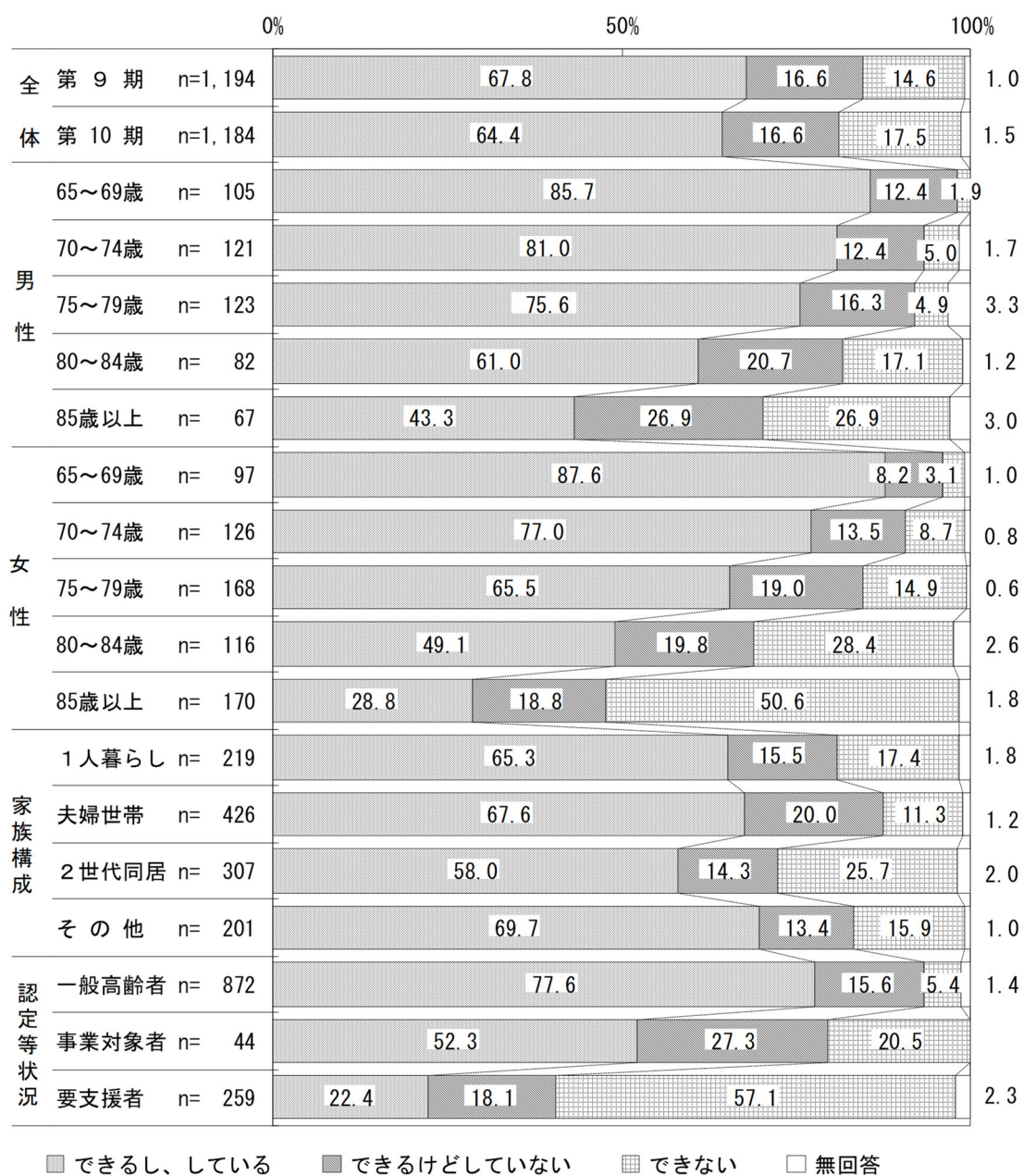


(4) バスや電車で一人で外出しているか

▶バスや電車（自家用車でも可）で一人で外出しているかをたずねたところ、「できるし、している」が64.4%を占めており、「できるけどしていない」は16.6%、「できない」は17.5%となっています。男女ともに年齢が上がるにしたがい「できない」が上昇する傾向にあり、特に85歳以上になると大幅に上昇します。

▶認定等状況別にみると、要支援者では「できない」が57.1%を占めています。

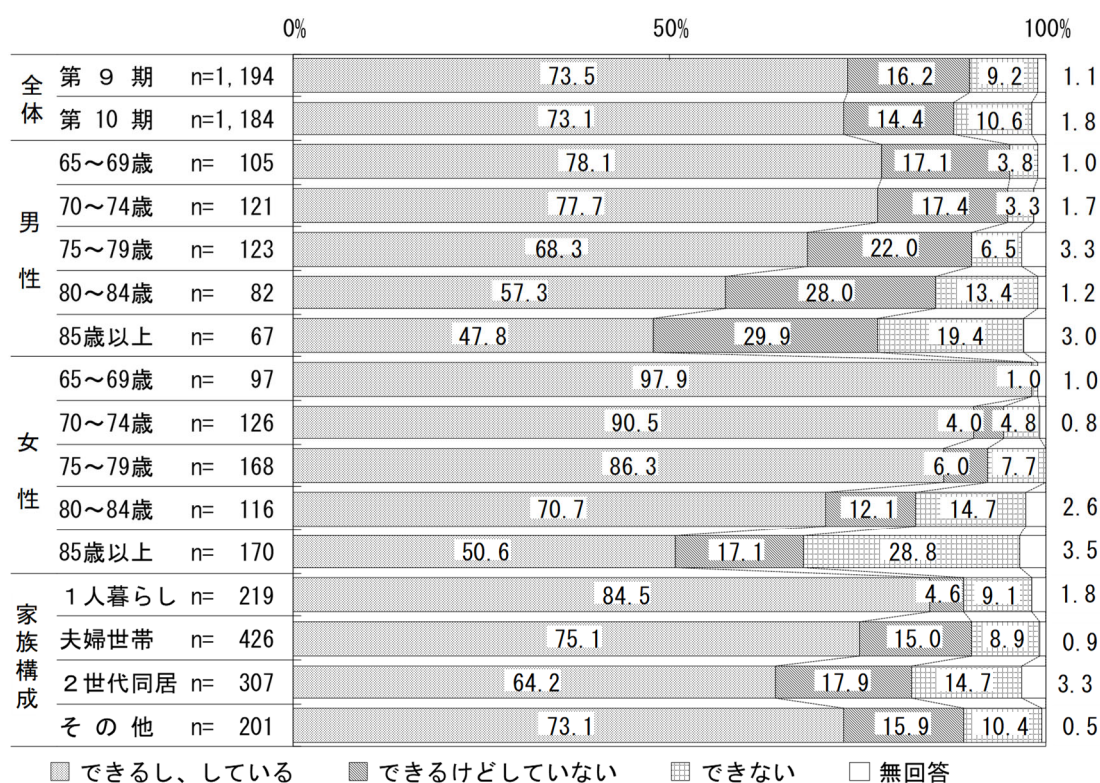
図表 2-38 バスや電車で一人で外出しているか



(5) 買い物をしているか

- ▶自分で食品・日用品の買い物をしているかをたずねたところ、「できるし、している」が73.1%を占めています。男性は女性に比べ「できるけどしていない」が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしは「できるし、している」が80%以上を占めていますが、「できない」も9.1%あります。

図表2-39 買い物をしているか



- ▶「できるけどしていない」または「できない」と答えた297人に、誰が買い物をしているかをたずねたところ、「同居の家族」が75%以上を占めています。1人暮らしは「別居の家族」が50.0%となっています。
- ▶「その他」として「ヘルパー」「施設」「連れてってもらう」等の記載がありました。

図表2-40 買い物は誰がしているか

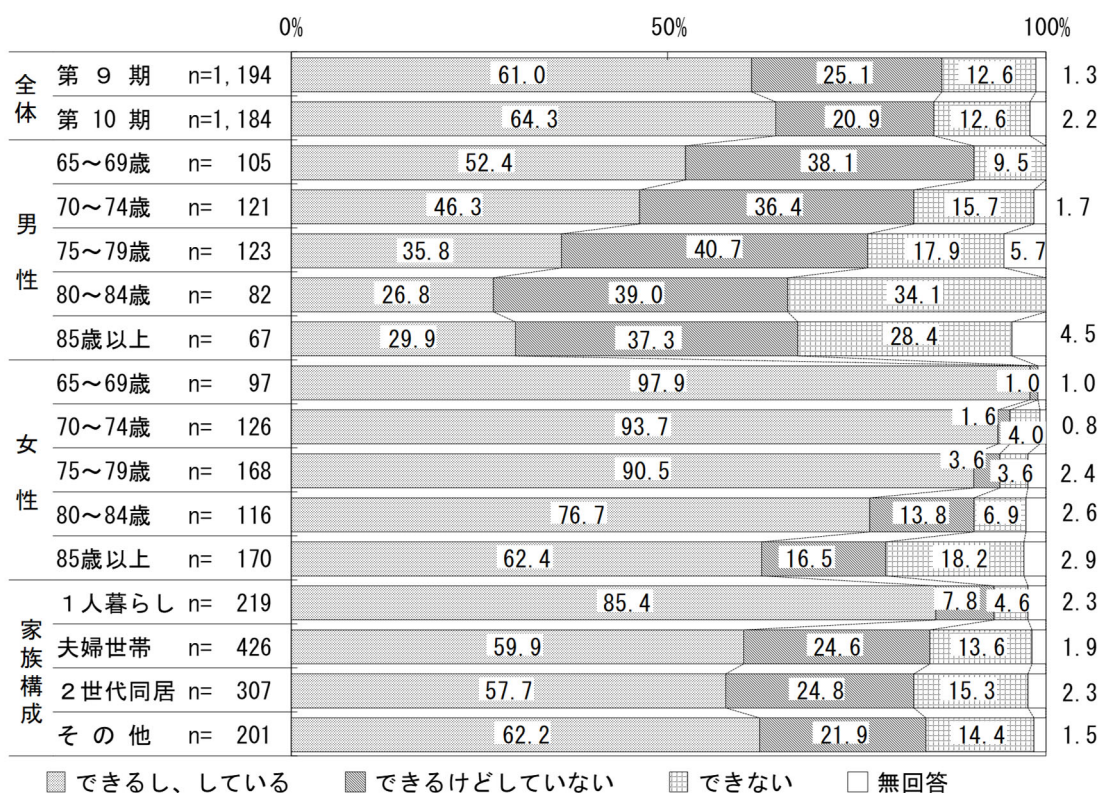
単位：%

区分		n	同居の家族	別居の家族	配達を依頼	その他	無回答
全体		297	75.8	10.1	2.0	4.7	7.4
家族構成	1人暮らし	30	3.3	50.0	3.3	23.3	20.0
	夫婦世帯	102	83.3	5.9	2.0	2.0	6.9
	2世代同居	100	86.0	6.0	1.0	3.0	4.0
	その他	53	83.0	5.7	1.9	3.8	5.7

(6) 食事の用意をしているか

- ▶自分で食事の用意をしているかをたずねたところ、「できるし、している」が64.3%、「できるけどしていない」が20.9%、「できない」が12.6%となっています。男性は女性に比べ「できるけどしていない」が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしは「できるし、している」が85%以上ですが、他の世帯では50～60%台となっています。

図表 2-41 食事の用意をしているか



- ▶「できるけどしていない」または「できない」と答えた397人に、誰が食事の用意をしているかをたずねたところ、「同居の家族」が85.1%を占めています。1人暮らしは「配食サービス」が48.1%となっています。
- ▶「その他」として「外食」「ヘルパー」「弁当」等の記載がありました。

図表 2-42 食事の用意は誰がしているか

単位：%

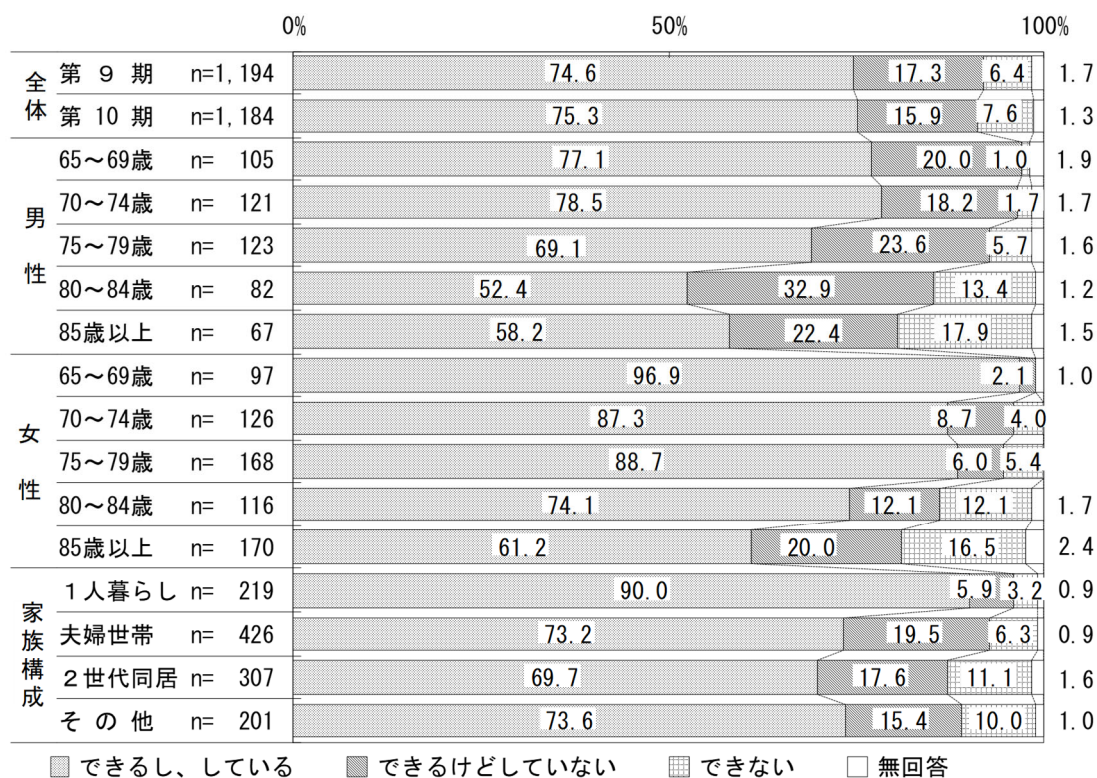
区 分		n	同居の家族	別居の家族	配食サービス	その他	無回答
全 体		397	85.1	2.5	4.3	3.8	4.3
家族構成	1人暮らし	27	-	7.4	48.1	29.6	14.8
	夫婦世帯	163	90.8	3.1	0.6	1.8	3.7
	2世代同居	123	92.7	-	2.4	1.6	3.3
	その他	73	91.8	2.7	-	2.7	2.7

(7) 請求書の支払いをしているか

▶請求書の支払いをしているかをたずねたところ、「できるし、している」が75.3%、「できるけどしていない」が15.9%、「できない」が7.6%となっています。男性は女性に比べ「できるけどしていない」が高くなっています。

▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「できるし、している」が90.0%となっています。

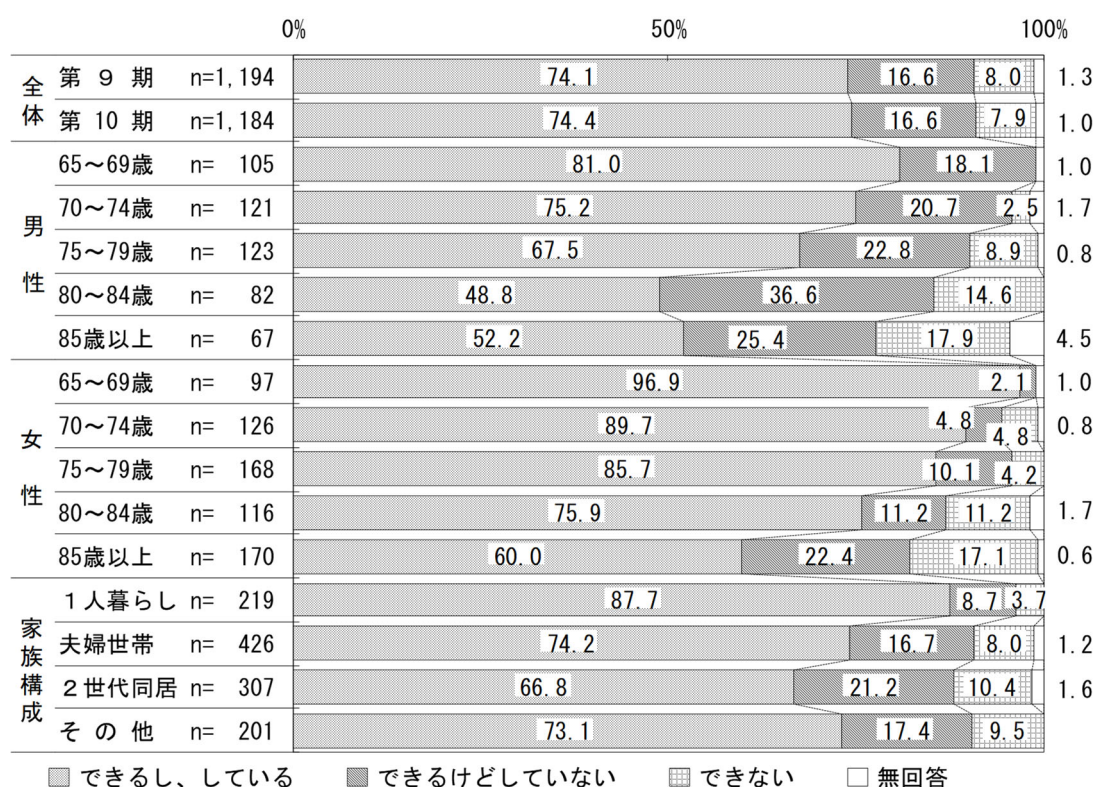
図表 2-43 請求書の支払いをしているか



(8) 預貯金の出し入れをしているか

- ▶ 預貯金の出し入れをしているかをたずねたところ、「できるし、している」が74.4%、「できるけどしていない」が16.6%、「できない」が7.9%となっています。男性は女性に比べ「できるけどしていない」が高くなっています。
- ▶ 家族構成別にみると、1人暮らしでは「できるし、している」が87.7%と、請求書の支払いと同様に高い割合となっています。

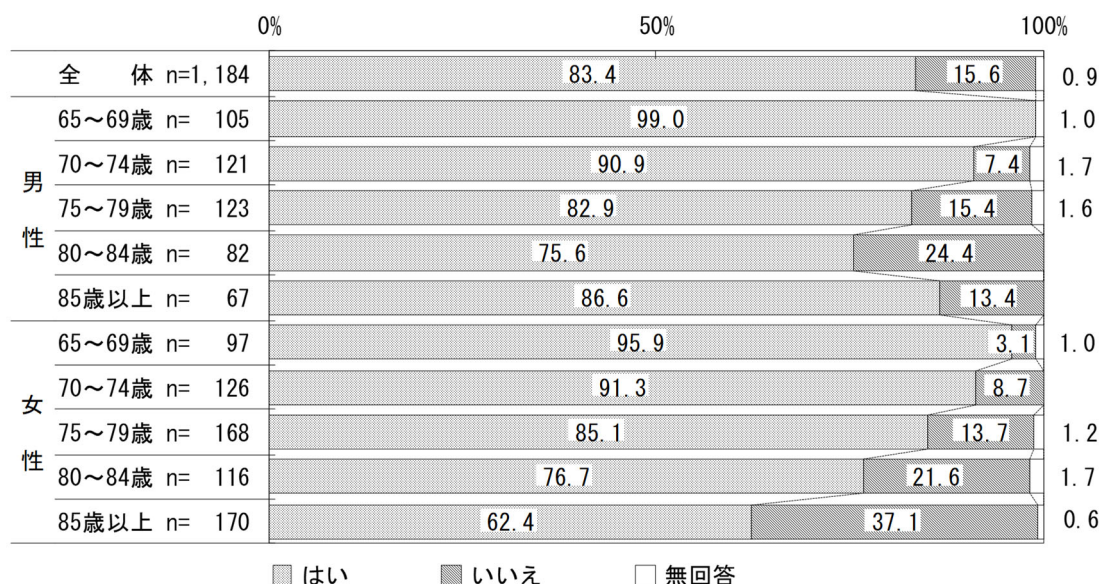
図表 2-44 預貯金の出し入れをしているか



(9) 年金などの書類が書けるか

▶年金などの書類が書ける（「はい」）のは83.4%です。年齢が上がるにしたがい低下傾向にありますが、男性は85歳以上になると再度上昇します。

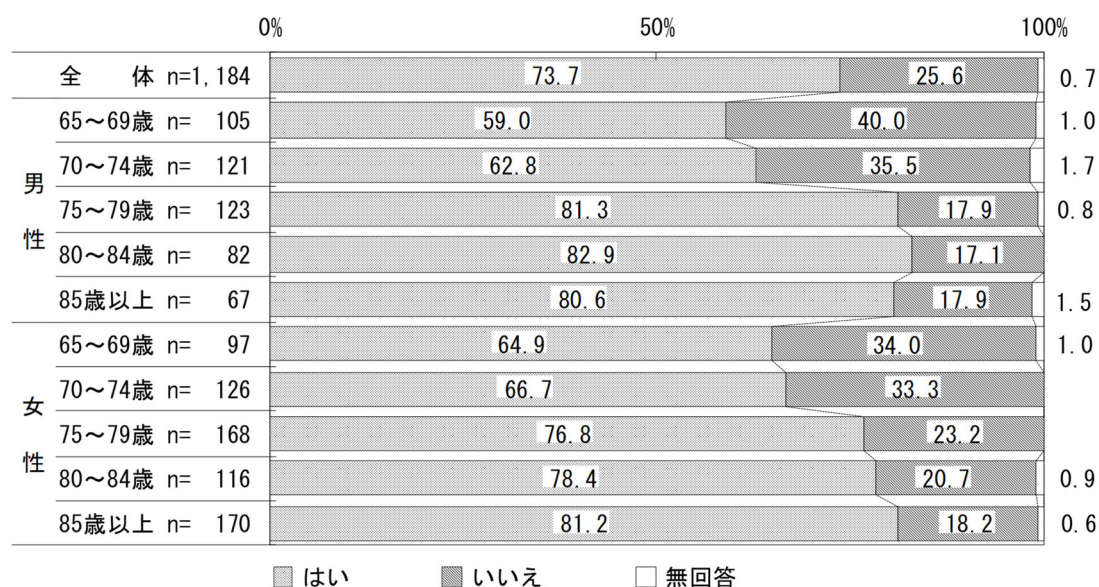
図表 2-45 年金などの書類が書けるか



(10) 新聞を読んでいるか

▶新聞を読んでいる（「はい」）のは73.7%です。年齢が上がるにしたがい上昇する傾向にあり、男性は75歳以上、女性は85歳以上になると80%を超えます。

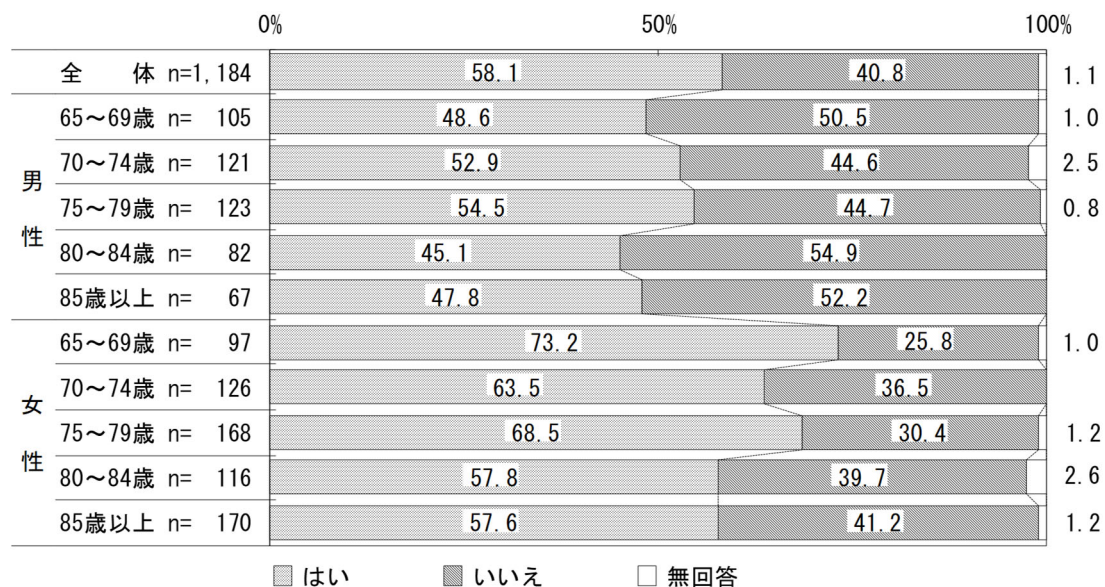
図表 2-46 新聞を読んでいるか



(11) 本や雑誌を読んでいるか

▶本や雑誌を読んでいる（「はい」）のは58.1%です。前項の新聞に比べて15ポイント以上低くなっています。いずれの年齢層においても男性に比べて女性が高くなっています。

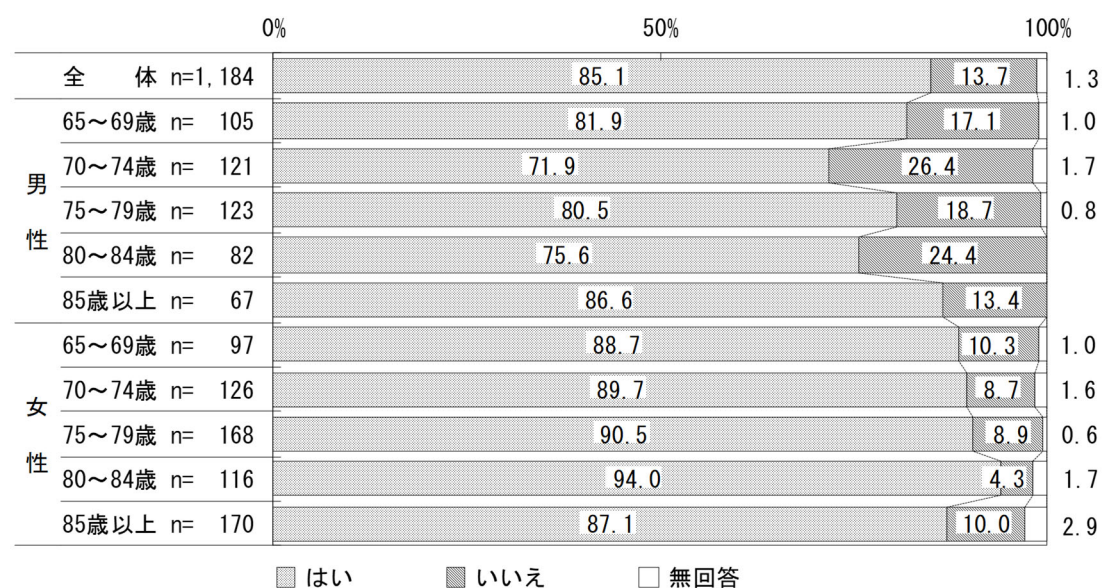
図表 2-47 本や雑誌を読んでいるか



(12) 健康についての記事や番組に関心があるか

▶健康についての記事や番組に関心がある（「はい」）のは85.1%です。年齢が上がるにしたがい上昇する傾向にあり、男性は85歳以上、女性は80～84歳が最も高くなっています。

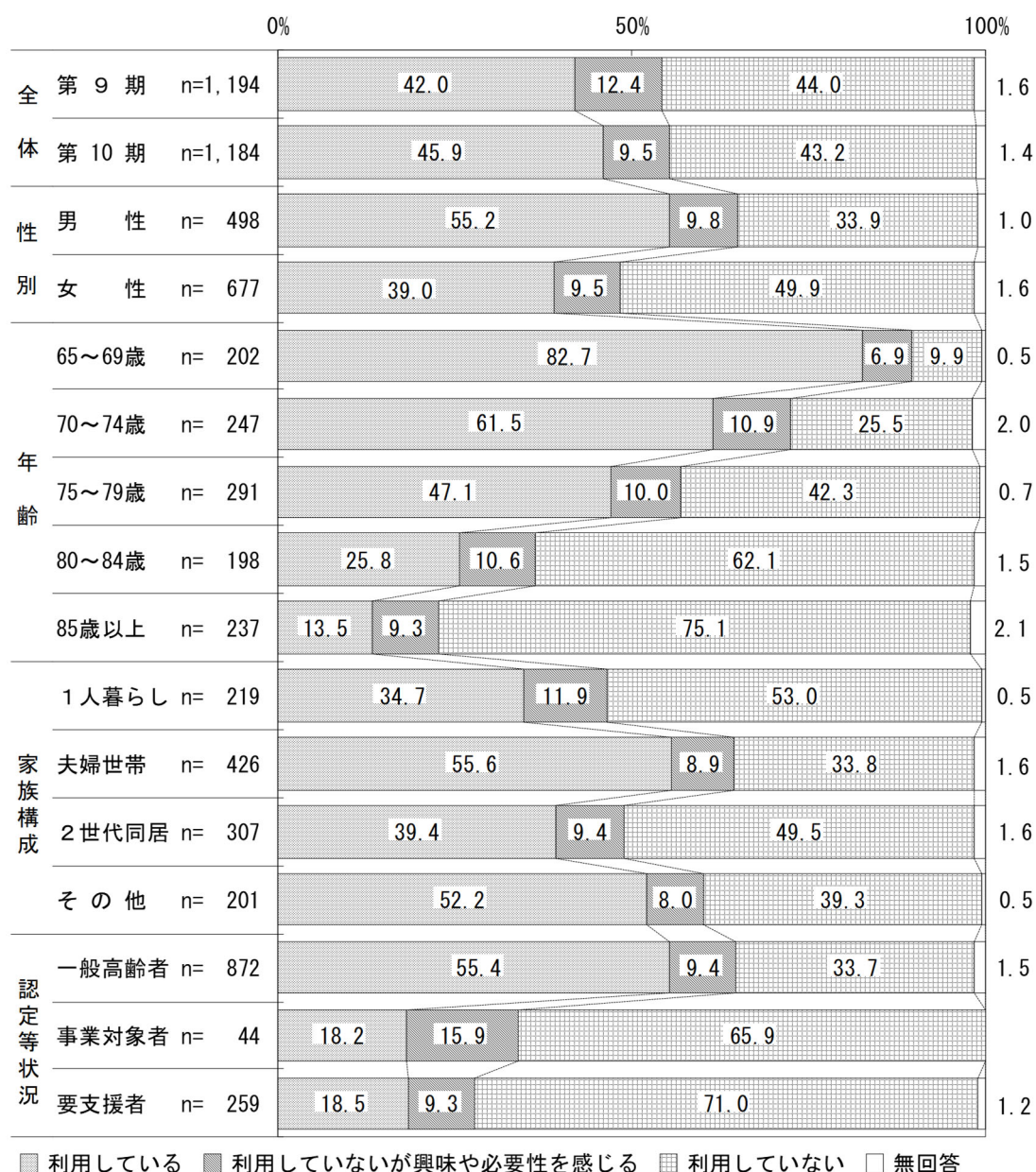
図表 2-48 健康についての記事や番組に関心があるか



(13) インターネットを利用しているか

- ▶パソコンやスマートフォン（スマホ）などインターネットの利用状況は、「利用している」（利用率）は45.9%、「利用していないが興味や必要性を感じる」は9.5%、「利用していない」は43.2%です。第9期の調査結果に比べ利用率が3.9ポイント上昇しています。
- ▶性別にみると、利用率は、男性が女性を16.2ポイント上回っています。
- ▶年齢別にみると、若い年齢層ほど利用率が高く、65～69歳では80%を超えています。また、85歳以上でも13.5%あります。
- ▶家族構成別にみると、夫婦世帯が55.6%と最も高くなっています。

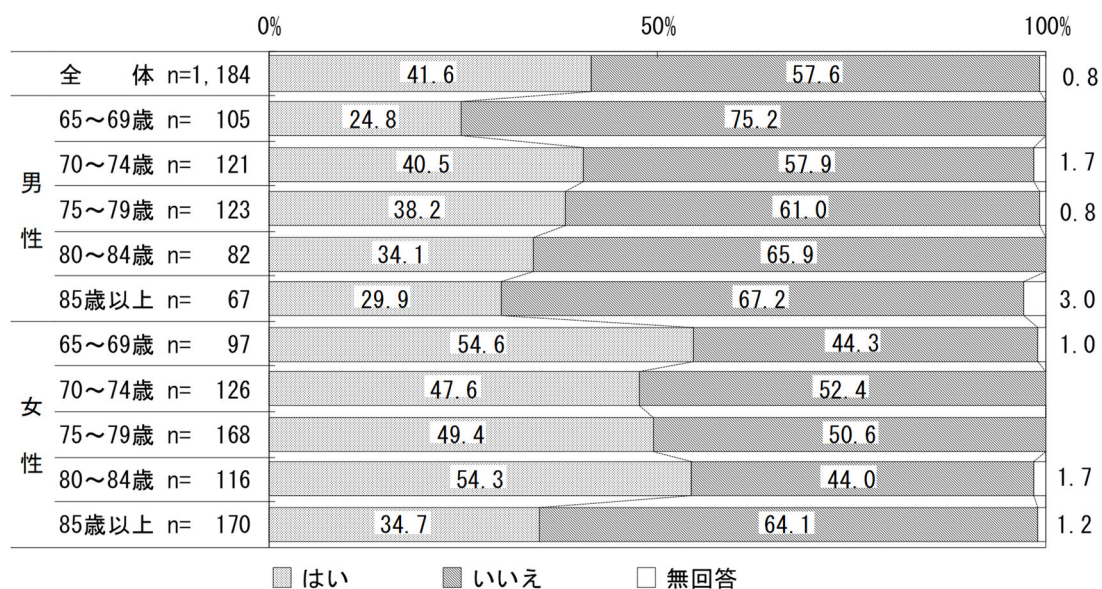
図表2-49 インターネットを利用しているか



(14) 友人の家を訪ねているか

▶友人の家を訪ねている（「はい」）のは41.6%です。いずれの年齢層においても男性に比べ女性が高くなっています。

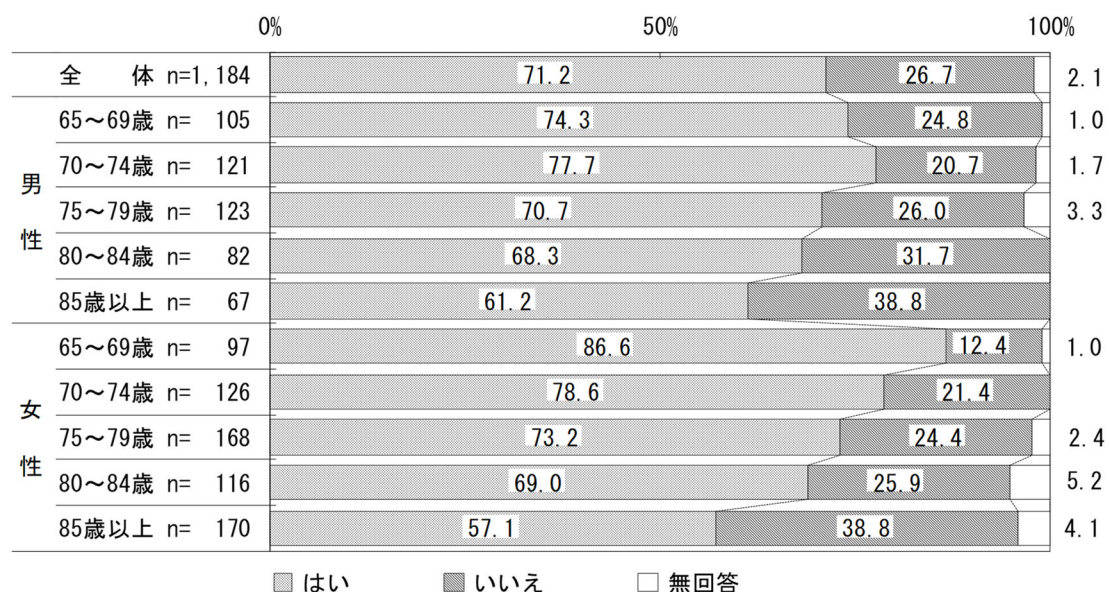
図表 2-50 友人の家を訪ねているか



(15) 家族や友人の相談にのっているか

▶家族や友人の相談にのっている（「はい」）のは71.2%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい低下する傾向にあります。

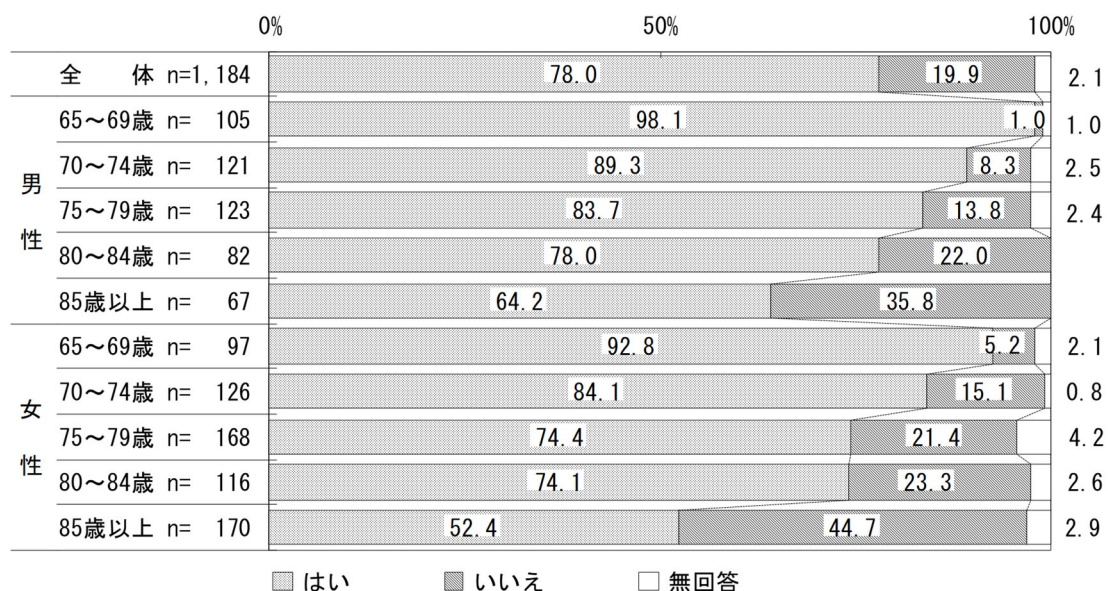
図表 2-51 家族や友人の相談にのっているか



(16) 病人を見舞うことができるか

▶病人を見舞うことができる（「はい」）のは78.0%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい低下します。

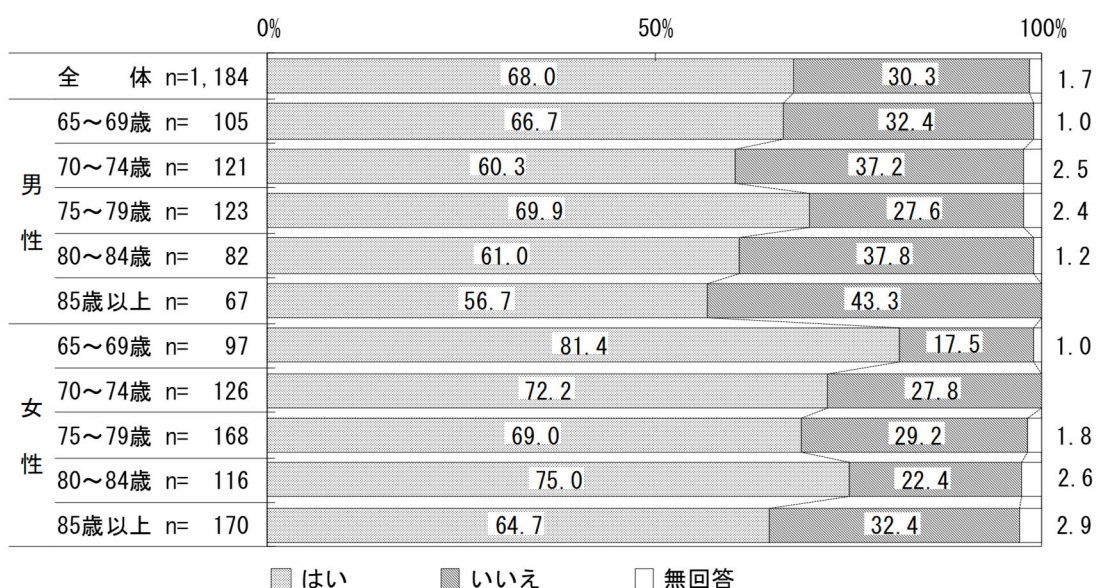
図表 2-52 病人を見舞うことができるか



(17) 若い人に自分から話しかけることがあるか

▶若い人に自分から話しかけることがある（「はい」）のは68.0%です。いずれの年齢層においても男性に比べ女性が高くなっています。

図表 2-53 若い人に自分から話しかけることがあるか



(18) 趣味はあるか

▶趣味については、「趣味あり」が58.1%、「思いつかない」が37.0%です。第9期の調査結果に比べ「趣味あり」が3ポイント低下しています。

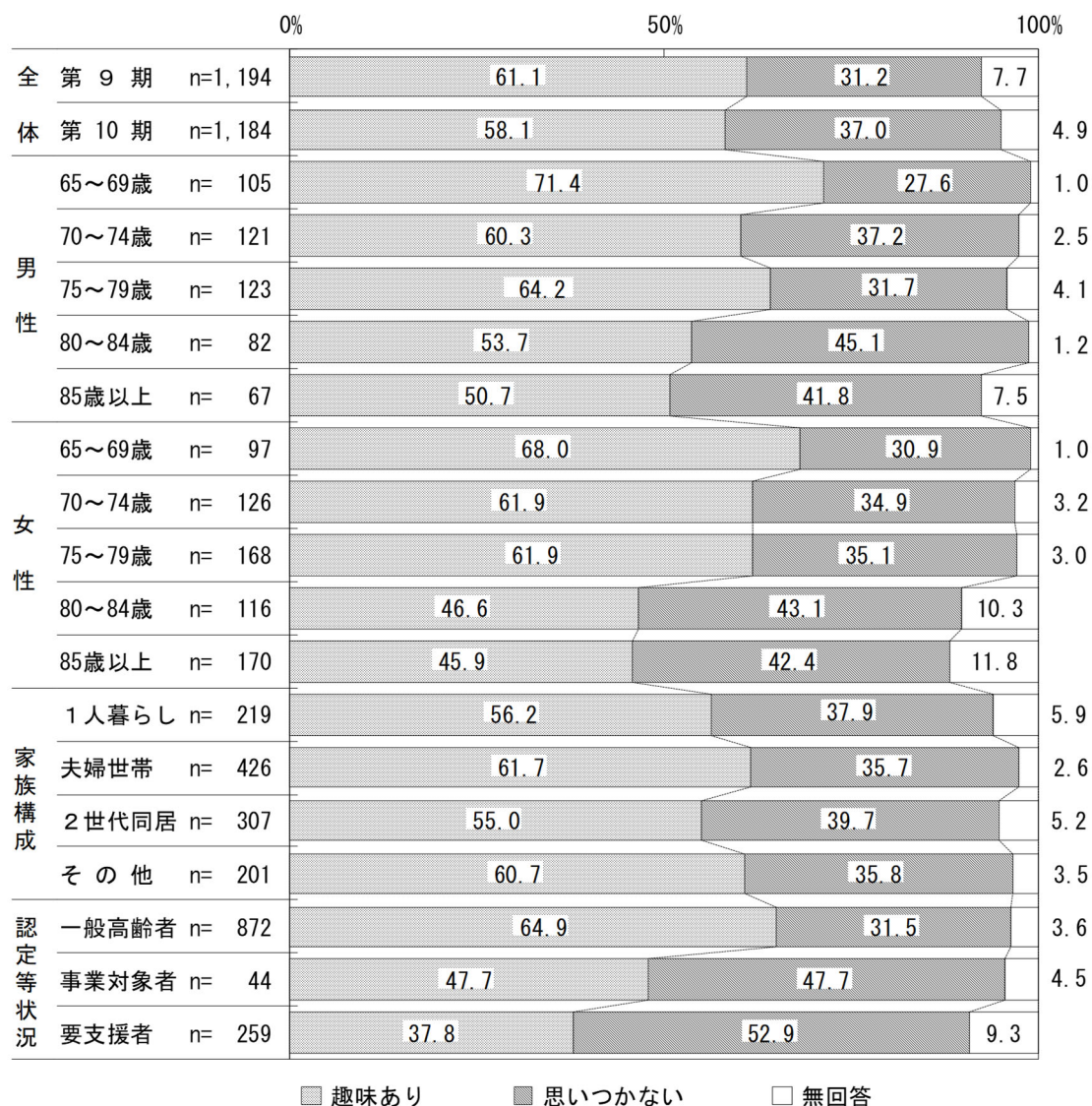
▶性・年齢別にみると、「趣味あり」は、全般的に女性に比べ男性が高くなっています。

▶家族構成別にみると、「趣味あり」は夫婦世帯が他の家族構成に比べ高くなっています。

▶認定等状況別にみると、状態が悪化するにしがたい「趣味あり」が低下しています。

▶「趣味あり」と回答した人に具体的な内容を書いていただいたところ、「園芸・花づくり・庭」（79件）「読書」（59件）「家庭菜園・畑仕事」（54件）「手芸・編み物」（52件）「ゴルフ」（49件）「釣り」（40件）「カラオケ」（34件）「旅行」（31件）「ウォーキング・散歩」（27件）などが記載されていました。

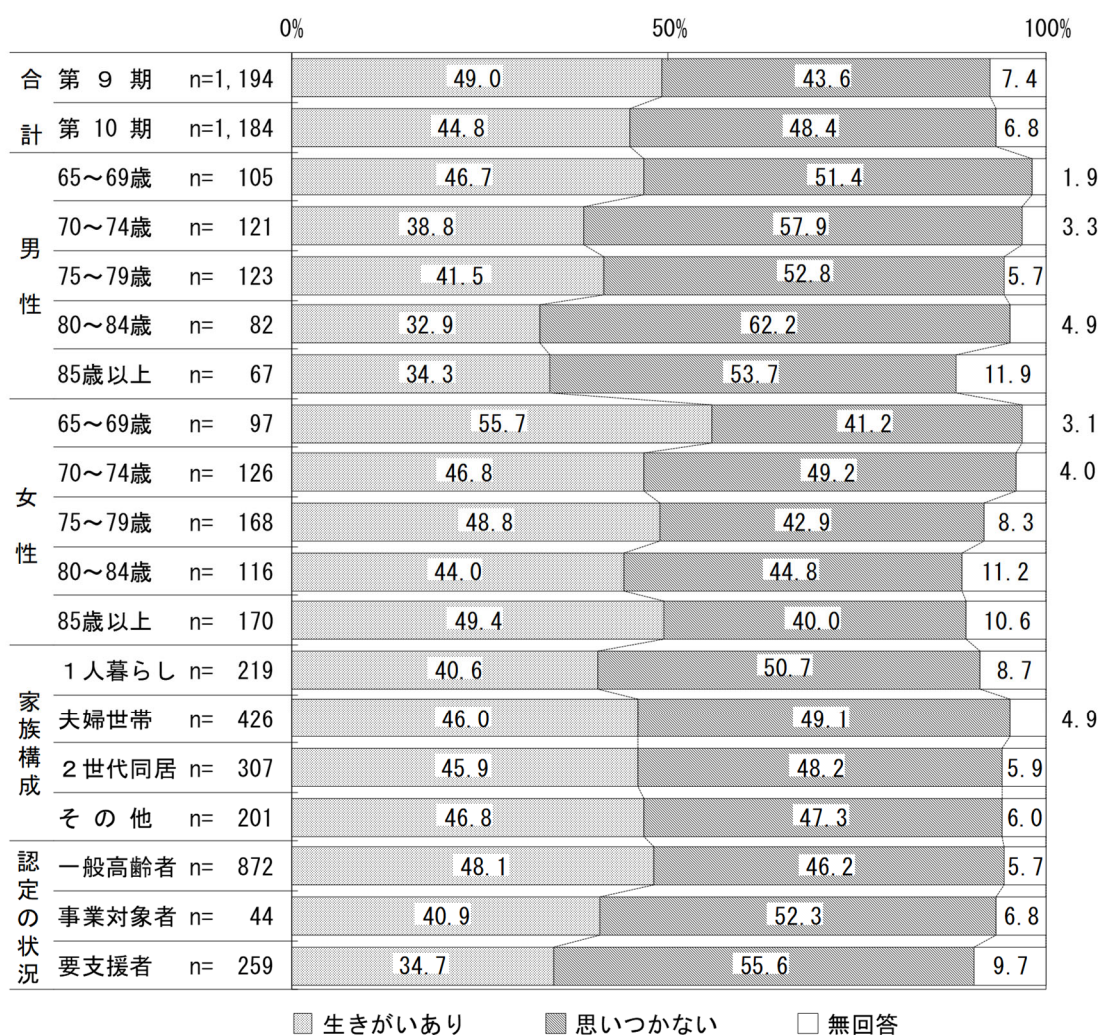
図表 2-54 趣味はあるか



(19) 生きがいはあるか

- ▶ 生きがいについては、「生きがいあり」が44.8%、「思いつかない」が48.4%です。第9期の調査結果に比べ「生きがいあり」が4ポイント以上低下しています。
- ▶ 性・年齢別にみると、「生きがいあり」は、いずれの年齢層においても男性に比べ女性が高くなっています。
- ▶ 家族構成別にみると、「生きがいあり」は1人暮らしが他の家族構成に比べ低くなっています。
- ▶ 認定等状況別にみると、状態が悪化するにしたがい「生きがいあり」が低下しています。
- ▶ 「生きがいあり」と回答した人に具体的な内容を書いていただいたところ、「子・孫・ひ孫の成長」（140件）「仕事・働くこと」（30件）「家庭菜園・畑仕事」（29件）「旅行」（27件）「家族」「園芸・花づくり・庭」（26件）「友だちとの交流」（25件）などが記載されていました。

図表 2-55 生きがいはあるか

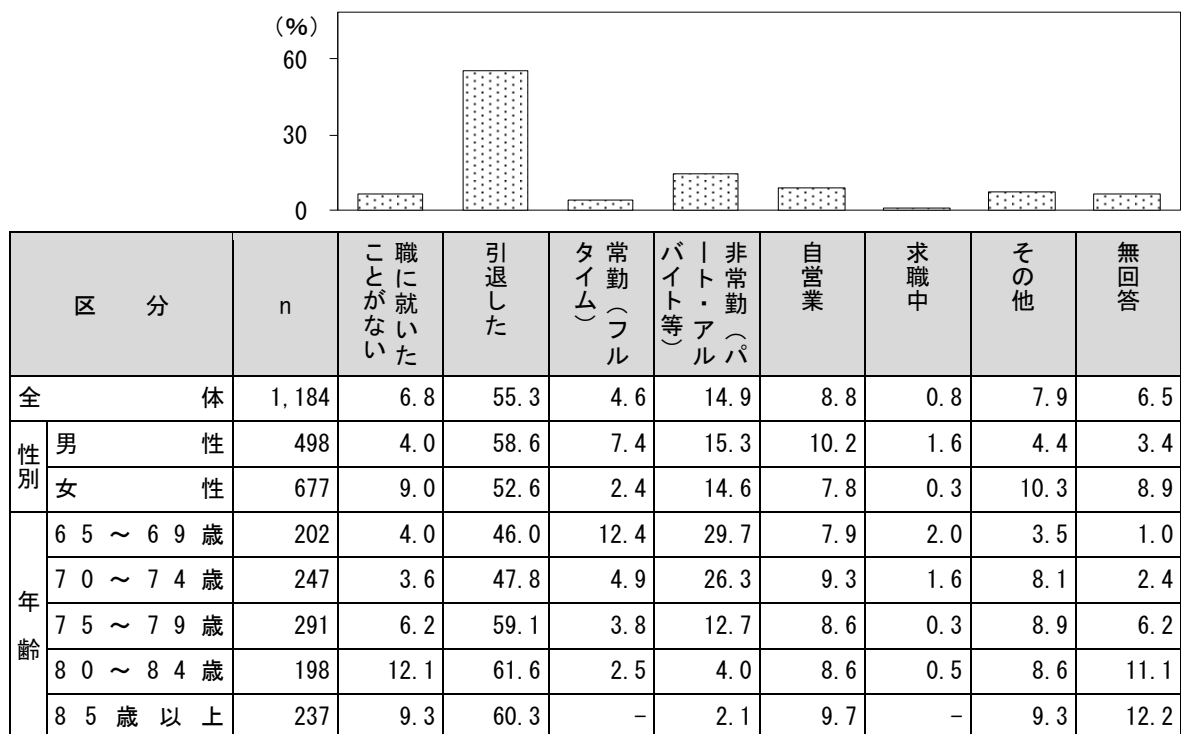


5 就労について

(1) 就労状態

▶就労状態は、「引退した」が55.3%と最も高くなっていますが、「常勤（フルタイム）」、「非常勤（パート・アルバイト等）」および「自営業」を合わせると28.3%となります。年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい就労している人の率は低下しますが、85歳以上でも「自営業」が9.7%、「非常勤（パート・アルバイト等）」が2.1%あります。

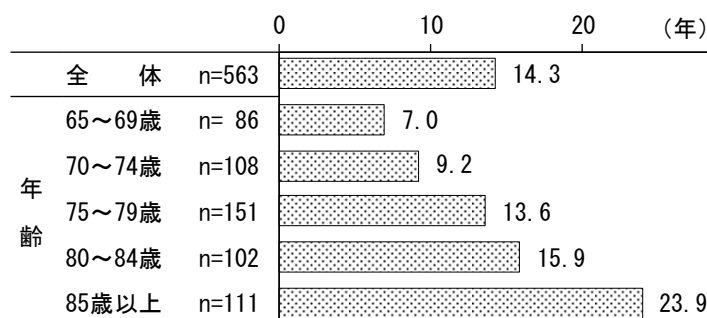
図表 2-56 就労状態（複数回答）



(2) 引退してからの年数

▶就労状態で「引退した」と回答した563人に、いつ引退したのかをお聞きしたところ、引退してから平均14.3年で、年齢別にみるとおおむね65歳前後で引退したことが見て取れます。

図表 2-57 引退してからの年数（平均）

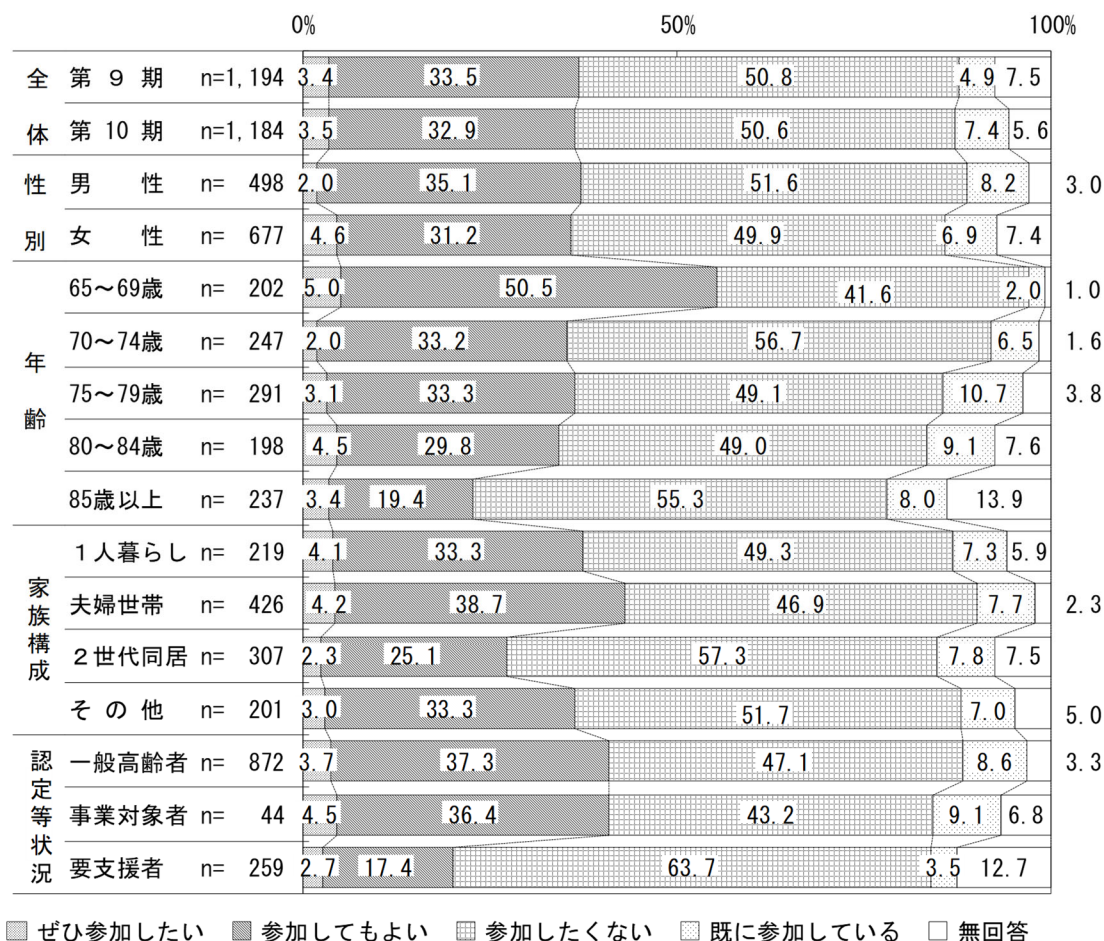


6 地域での活動について

(1) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向

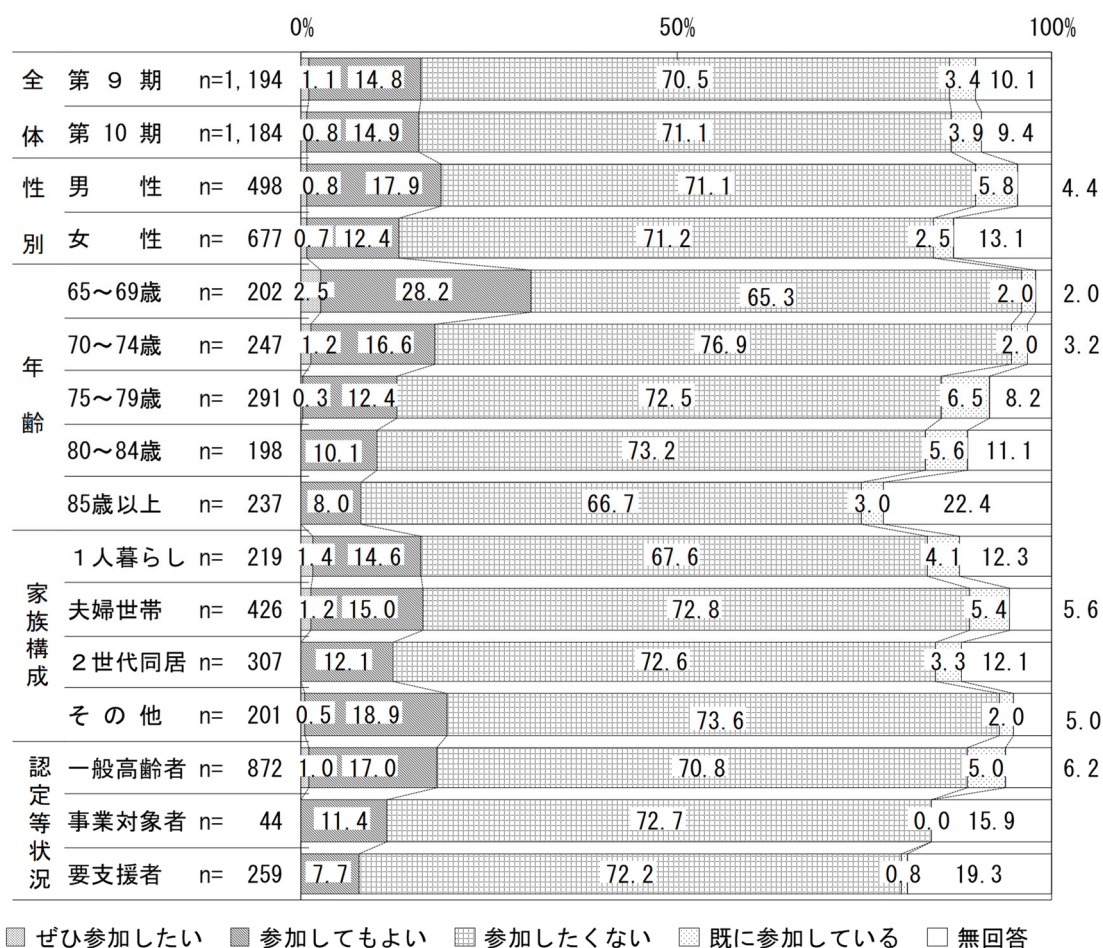
- ▶「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加してみたいと思いますか」という設問について、＜①参加者として＞の参加意向と＜②企画・運営（お世話役）として＞の参加意向をお聞きしました。
- ▶＜①参加者として＞は、「ぜひ参加したい」が3.5%、「参加してもよい」が32.9%、「既に参加している」が7.4%となっており、これらを合計した参加意向は43.8%で、第9期の調査結果に比べ2ポイント上昇しています。
- ▶年齢別にみると、参加意向は65～69歳では50%を超えていますが、70歳以上になると急速に低下します。
- ▶家族構成別にみると、夫婦世帯の参加意向が50.6%であるのに対し、2世代同居では35.2%と15.4ポイントの差があります。

図表 2-58 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向＜①参加者として＞



- ▶ <②企画・運営（お世話役）として> は、「ぜひ参加したい」が0.8%、「参加してもよい」が14.9%、「既に参加している」が3.9%となっており、これらを合計した参加意向は19.6%で、第9期の調査結果に比べ大きな変化ありません。
- ▶性別にみると、女性に比べ男性の参加意向が高くなっています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい参加意向は低くなる傾向にあります。
- ▶家族構成別にみると、<①参加者として>と同様に2世代同居の参加意向が他の家族構成に比べ低くなっています。
- ▶認定等状況別にみると、状態が悪化するにしたがい参加意向は低下しますが、要支援者であっても8.5%あります。

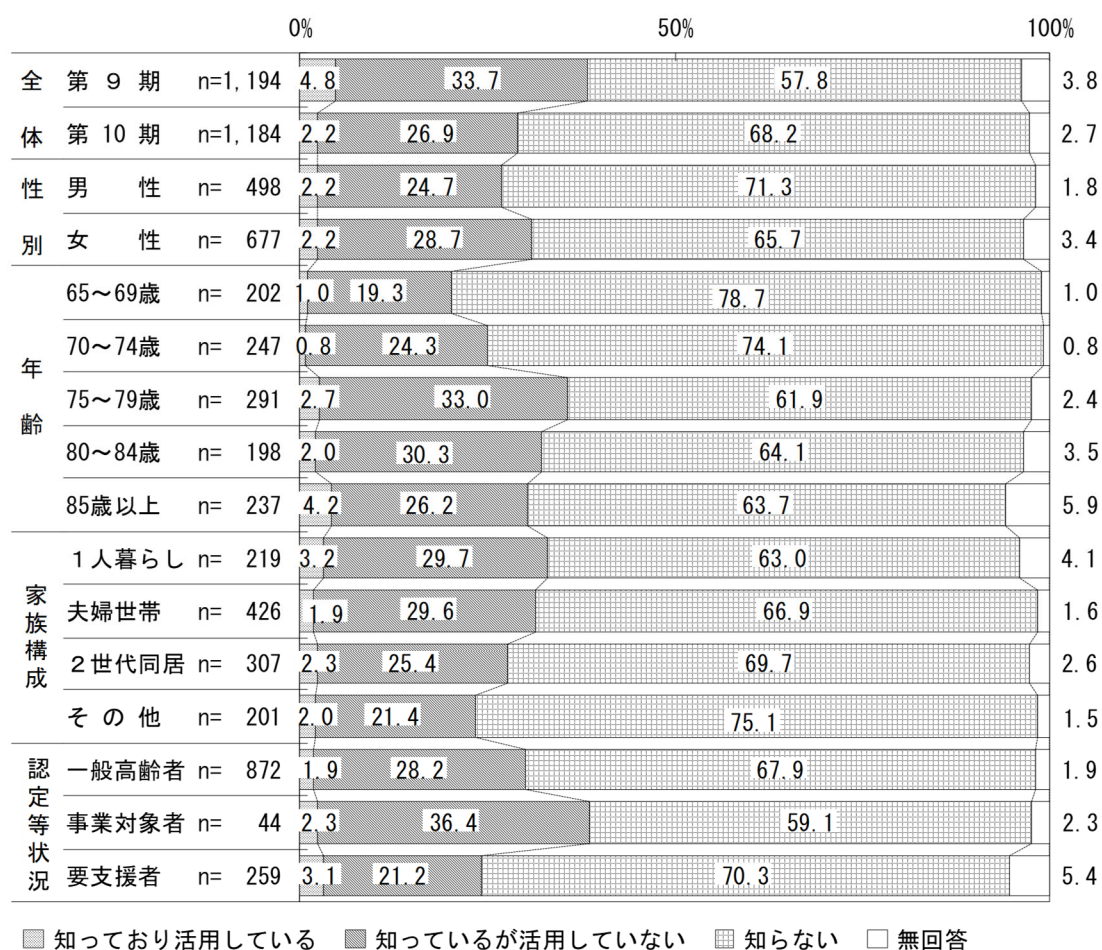
図表2-59 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向<②企画・運営（お世話役）として>



(2) 高浜市いきいき健康マイレージの認知度

- ▶高齢者が行うボランティア活動に対して、ポイントを交付し、そのポイントを商品に交換できる「高浜市いきいき健康マイレージ」の認知度は、「知っており活用している」が2.2%、「知っているが活用していない」が26.9%となっており、これらの合計《知っている》は29.1%で、第9期の調査結果に比べ9.4ポイント低下しています。
- ▶「知らない」が70%を超えているのは、性別では男性、年齢別では75歳未満、家族構成別ではその他、認定等状況別では要支援者です。

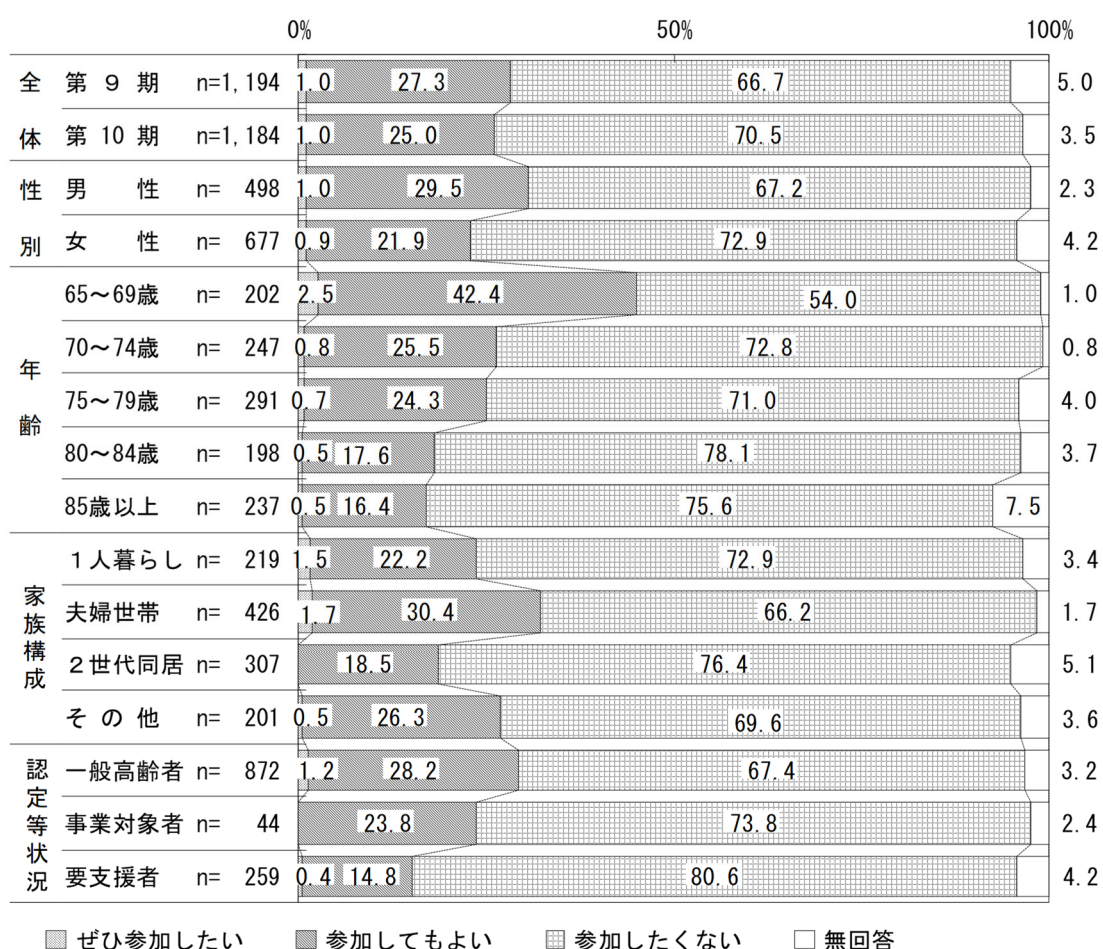
図表 2-60 高浜市いきいき健康マイレージの認知度



(3) 高浜市いきいき健康マイレージを活用したボランティア活動等への参加意向

- ▶「高浜市いきいき健康マイレージ」を活用してボランティア活動などに参加したいかお聞きしたところ、「ぜひ参加したい」が1.0%、「参加してもよい」が25.0%となっており、これらの合計《参加》は26.0%で、第9期の調査結果に比べ2.3ポイント低下しています。
- ▶性別にみると、《参加》は女性に比べ男性が高くなっています。
- ▶年齢別にみると、《参加》は65～69歳では44.9%ありますが、70歳以上になると急速に低下します。

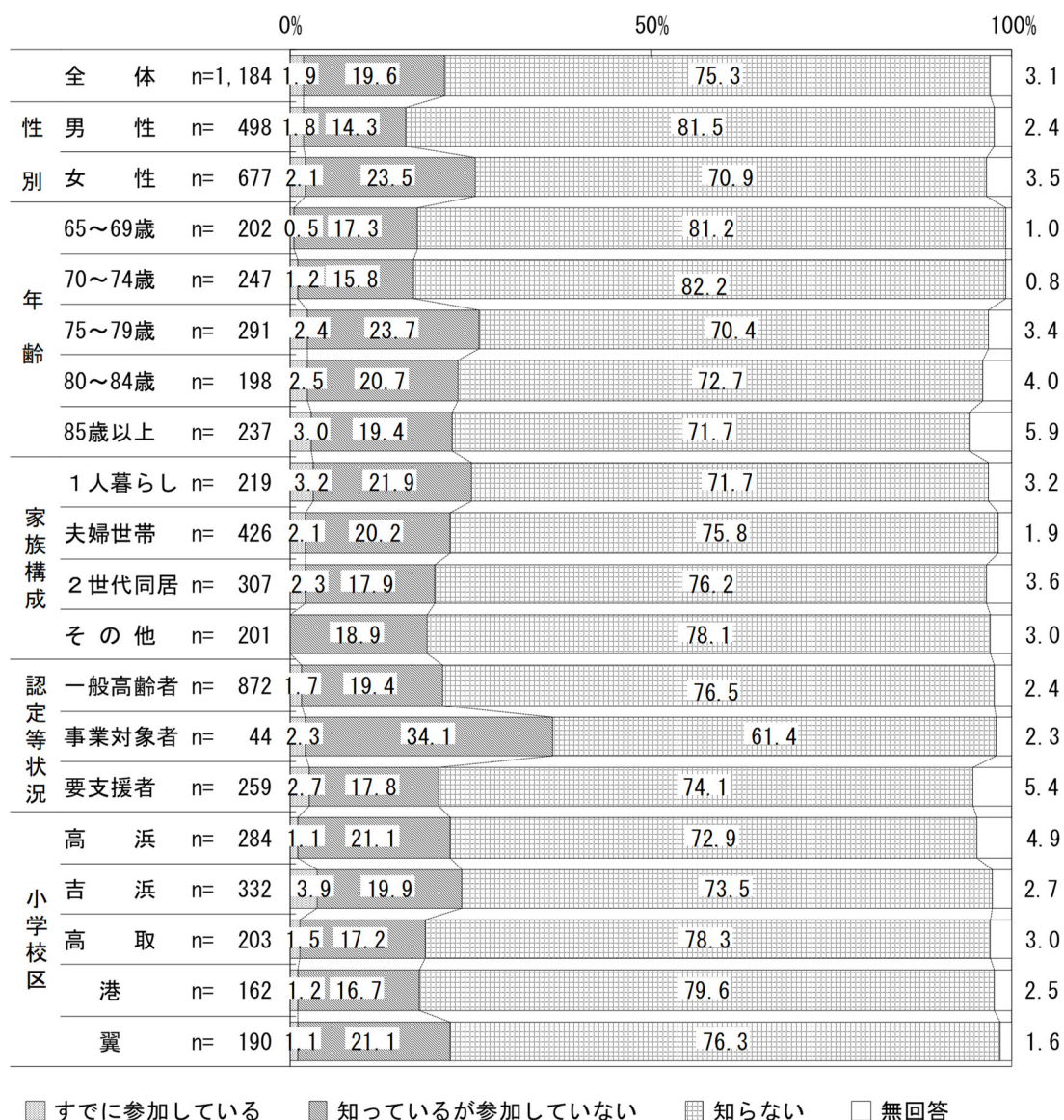
図表 2-61 高浜市いきいき健康マイレージを活用してボランティア活動に参加したいか



(4) まぜこぜの居場所の参加状況

- ▶高浜市が世代や属性を問わず、誰もが気軽に交流できる場所または活動を認定し応援している「まぜこぜの居場所」の参加状況については、「すでに参加している」は1.9%です。「知っているが参加していない」は19.6%であり、これらの合計である認知度は21.5%です。
- ▶性別にみると、認知度は男性に比べ女性が高くなっています。
- ▶年齢別にみると、認知度は75歳以上になると20%を超えます。
- ▶認定等状況別にみると、認知度は事業対象者が高くなっています。
- ▶小学校区別にみると、吉浜小学校区の「すでに参加している」が他の地区に比べ高くなっています。

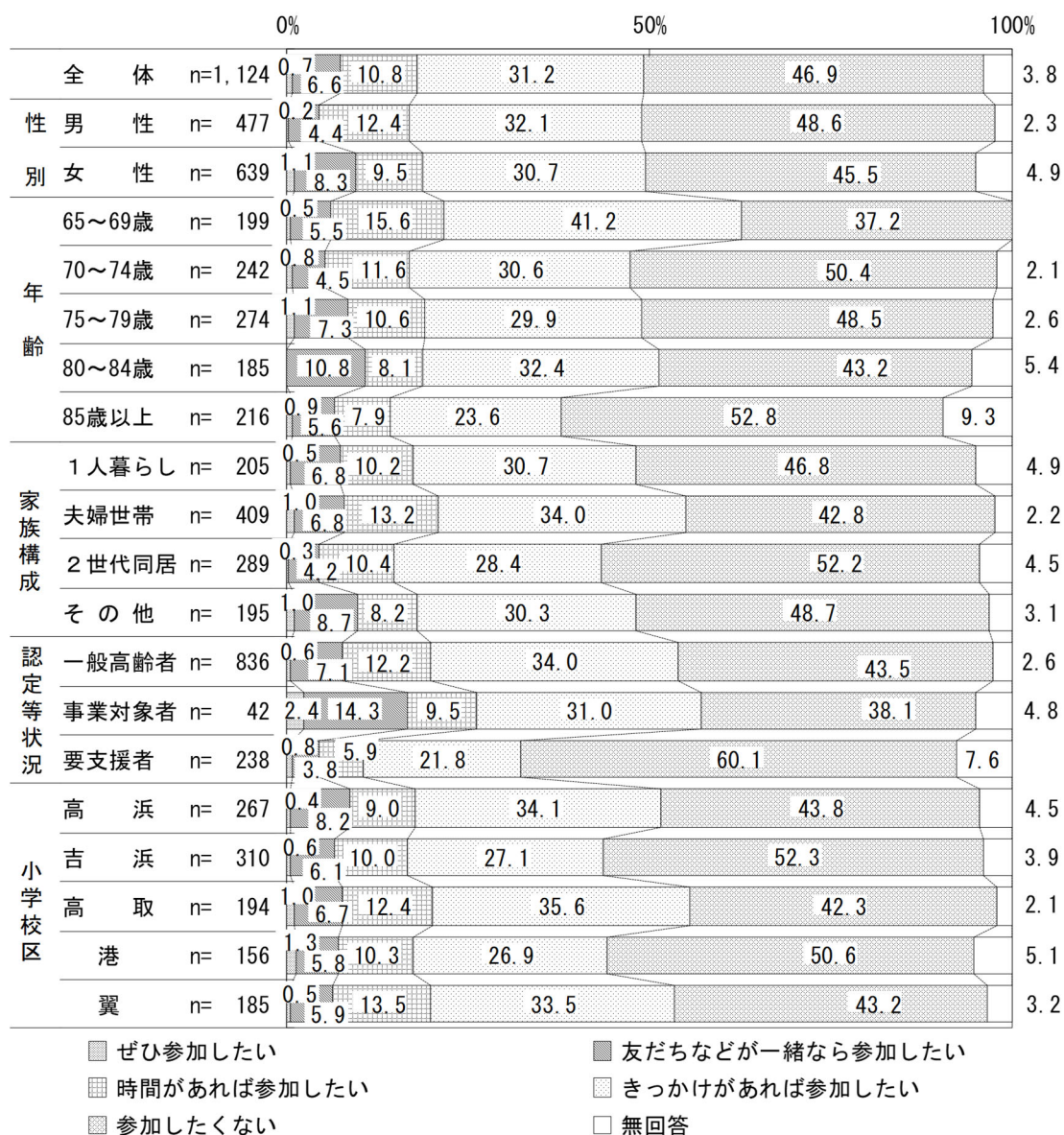
図表 2-62 まぜこぜの居場所の参加状況



(5) まぜこぜの居場所への参加意向

- ▶「まぜこぜの居場所」に参加していない1,124人の参加意向については、「参加したくない」が46.9%と最も高くなっています。次いで「きっかけがあれば参加したい」が31.2%、「時間があれば参加したい」が10.8%、「友だちなどが一緒なら参加したい」が6.6%、「ぜひ参加したい」が0.7%であり、これらを合計した参加意向は49.3%です。
- ▶性別にみると、男性に比べ女性は「友だちなどが一緒なら参加したい」が、女性に比べ男性は「時間があれば参加したい」が高くなっています。
- ▶年齢別にみると、参加意向は70歳以上になると大幅に低下します。
- ▶認定等状況別にみると、参加意向は事業対象者が高くなっています。
- ▶小学校区別にみると、高取小学校区、翼小学校区および高浜小学校区の参加意向は50%を超えています。

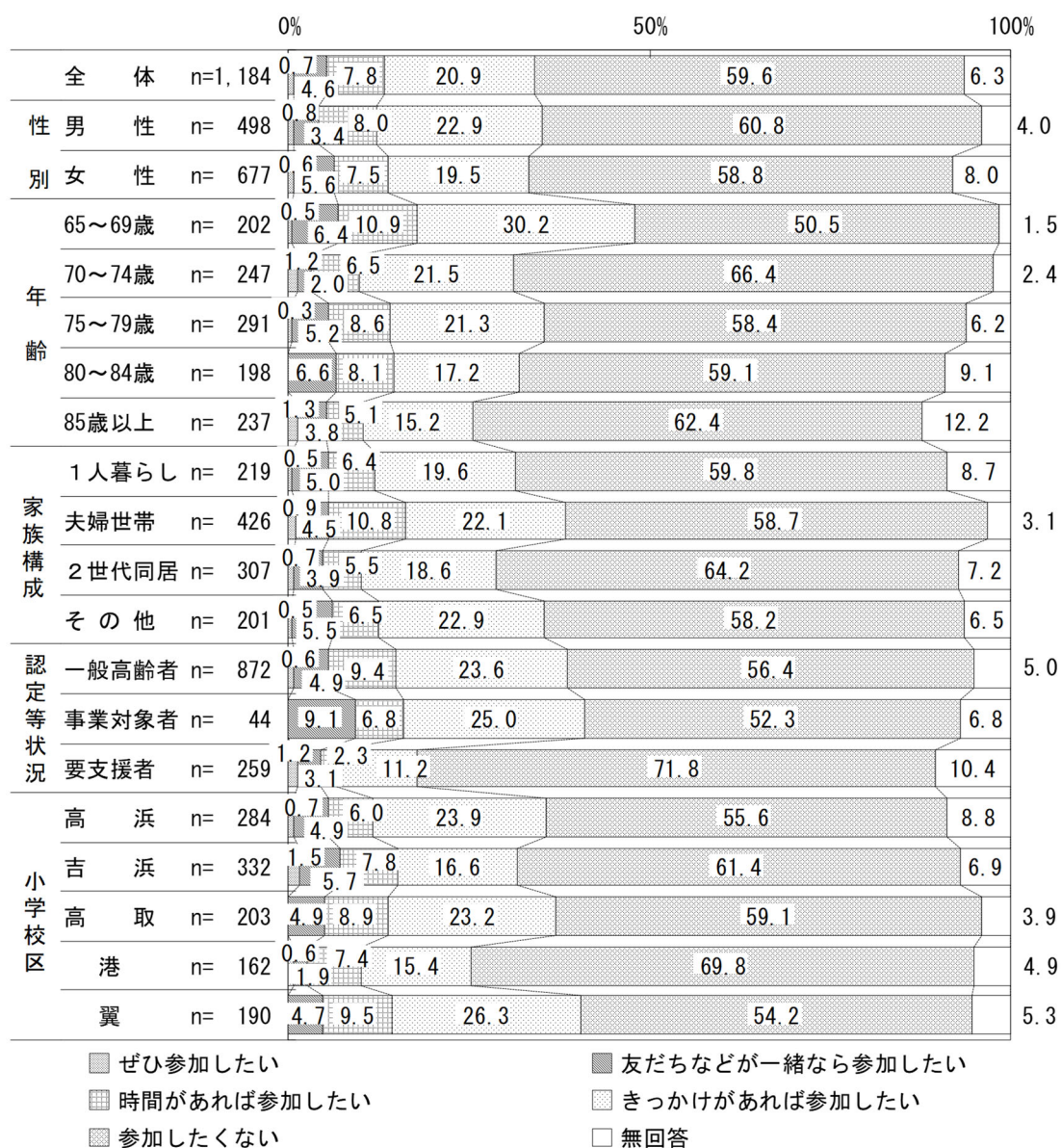
図表 2-63 まぜこぜの居場所への参加意向



(6) まぜこぜの居場所への担い手としての参加意向

- ▶「まぜこぜの居場所」への担い手としての参加意向については、「参加したくない」が59.6%と最も高くなっています。次いで「きっかけがあれば参加したい」が20.9%、「時間があれば参加したい」が7.8%、「友だちなどが一緒なら参加したい」が4.6%、「ぜひ参加したい」が0.7%であり、これらを合計した参加意向は34.0%です。
- ▶性別にみると、男性に比べ女性は「友だちなどが一緒なら参加したい」が、女性に比べ男性は「時間があれば参加したい」が高くなっています。
- ▶年齢別にみると、参加意向は70歳以上になると大幅に低下します。
- ▶認定等状況別にみると、参加意向は事業対象者が高く40%を超えています。
- ▶小学校区別にみると、翼小学校区の参加意向は40%を超えています。

図表2-64 まぜこぜの居場所への担い手としての参加意向

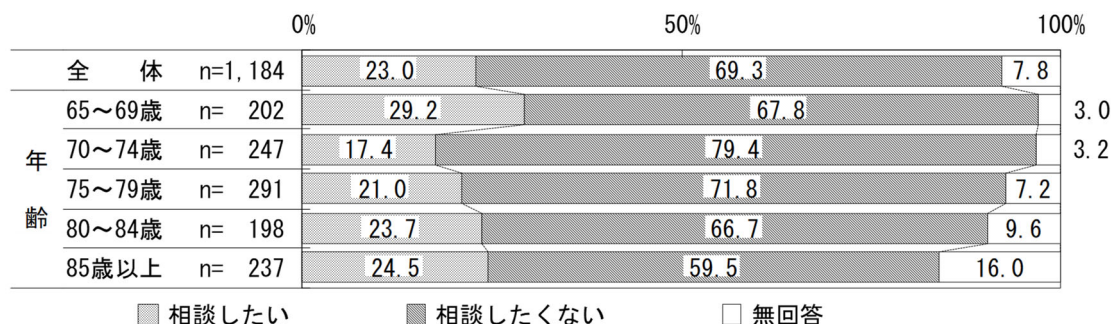


(7) まぜこぜの居場所における専門職への相談

▶「まぜこぜの居場所」で、専門職（保健師や栄養士など）に相談したいと思うかについては、「相談したい」が23.0%です。

▶年齢別にみると、「相談したい」は65～69歳では29.2%と30%近い割合を示しています。

図表 2-65 まぜこぜの居場所における専門職への相談



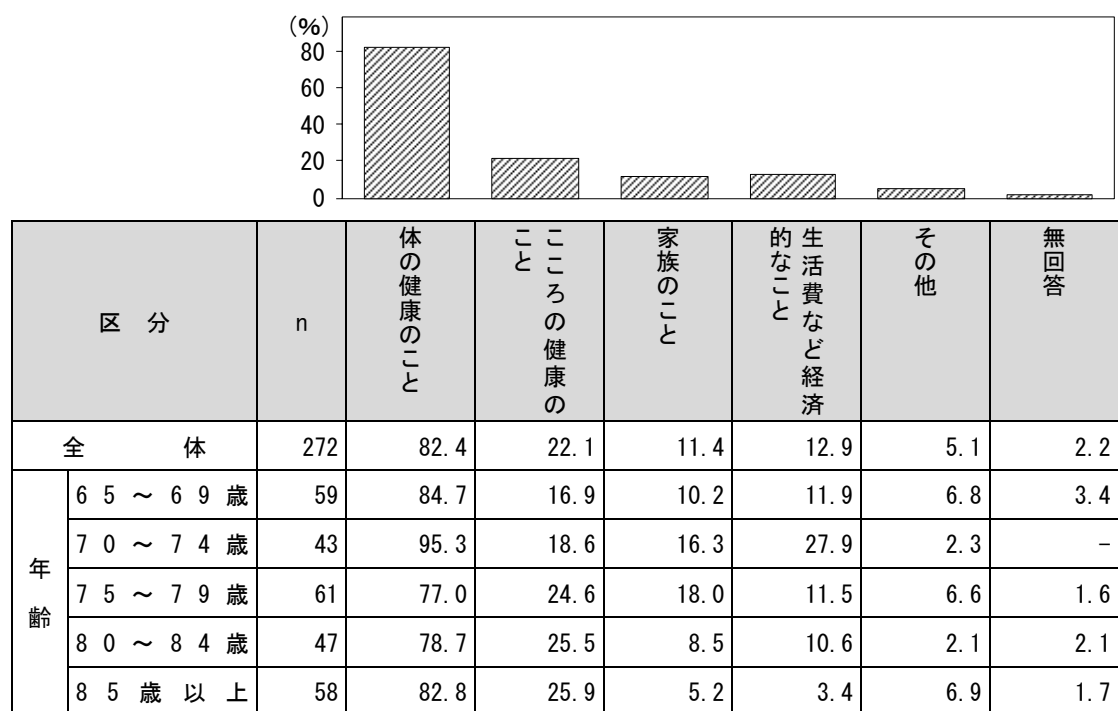
(8) まぜこぜの居場所において専門職にしたい相談内容

▶「まぜこぜの居場所」で、専門職（保健師や栄養士など）に相談したいと回答した272人が相談したい内容については、「体の健康のこと」が82.4%と突出して高くなっています。

▶年齢別にみると、いずれの年齢層においても「体の健康のこと」が最も高くなっており、特に70～74歳では90%を超えています。また、75歳以上になると「こころの健康のこと」が25%前後の高い割合を示します。

▶「その他」として「世間話」「食事」「相続」「老後の生活」などの記載がありました。

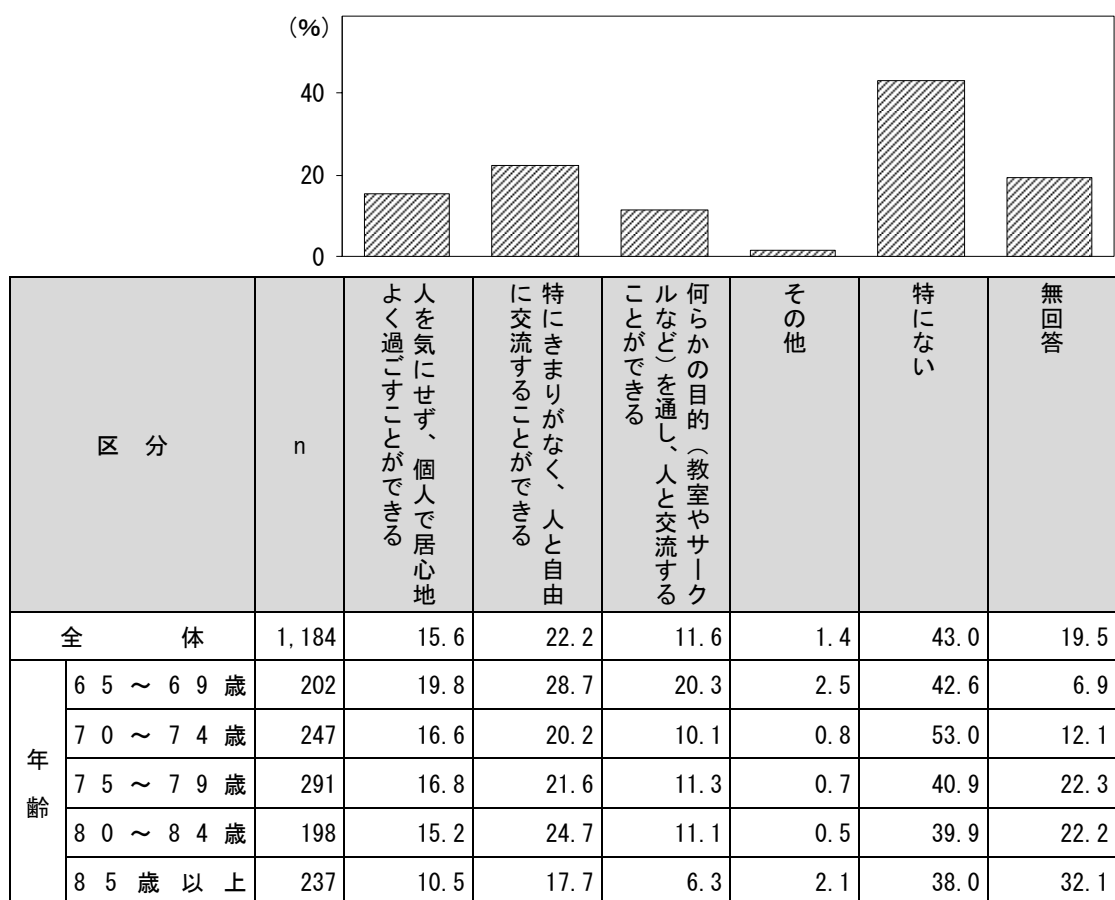
図表 2-66 まぜこぜの居場所において専門職にしたい相談内容（複数回答）



(9) まぜこぜの居場所に求めること

- ▶「まぜこぜの居場所」に求めることについては、「特にない」が43.0%と最も高くなっていますが、次いで「特にきまりがなく、人と自由に交流することができる」が22.2%、「人を気にせず、個人で居心地よく過ごすことができる」が15.6%、「何らかの目的（教室やサークルなど）を通し、人と交流することができる」が11.6%などとなっています。
- ▶年齢別にみると、いずれの年齢層においても「特にきまりがなく、人と自由に交流することができる」が最も高くなっていますが、65～69歳では「何らかの目的（教室やサークルなど）を通し、人と交流することができる」が20%を超える比較的高い割合となっています。
- ▶「その他」として「参加したことがないのでわからない」「内容を知らないのでわからない」「どうしているのかわからないので、内容を知りたい」などの記載が多数ありました。

図表 2-67 まぜこぜの居場所に求めること（複数回答）



(10) 会・グループ等への参加頻度

- ▶ 会・グループ等への参加頻度について、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合計した《参加している》人の割合は、③趣味関係のグループが13.9%と最も高く、次いで⑧収入のある仕事が13.1%、②スポーツ関係のグループやクラブが12.9%、⑦町内会・まちづくり協議会が11.0%、①ボランティアのグループが7.9%、⑤健康自生地や宅老所などフレイル予防のための通いの場がおよび⑥いきいきクラブが5.1%、④学習・教養サークルが3.7%の順となっています。
- ▶ ⑧収入のある仕事は「週4回以上」、⑦町内会・まちづくり協議会は「年に数回」、③趣味関係のグループは「月1～3回」、②スポーツ関係のグループやクラブは「週1回」が比較的高くなっています。
- ▶ 《週1回以上》が5%を超えているのは、⑧収入のある仕事、②スポーツ関係のグループやクラブおよび③趣味関係のグループです。

図表2-68 会・グループ等への参加頻度

単位：%

区 分					月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	《参加 している》	参加 してい ない	無 回 答
	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	《週 1 回 以 上》					
n=1,184									
①ボランティアのグループ	0.2	1.0	0.8	2.0	3.5	2.4	7.9	63.6	28.5
②スポーツ関係のグループやクラブ	1.7	3.9	4.1	9.7	2.5	0.7	12.9	59.5	27.5
③趣味関係のグループ	0.6	1.9	3.0	5.5	6.2	2.2	13.9	59.0	27.0
④学習・教養サークル	0.1	-	0.8	0.9	1.4	1.4	3.7	66.7	29.7
⑤健康自生地や宅老所などフレイル予防のための通いの場	0.4	1.1	1.8	3.3	1.2	0.6	5.1	65.8	29.1
⑥いきいきクラブ	0.2	0.8	0.8	1.8	1.4	1.9	5.1	65.9	29.1
⑦町内会・まちづくり協議会	0.2	0.4	1.2	1.8	2.3	6.9	11.0	60.1	29.0
⑧収入のある仕事	5.7	4.6	1.0	11.3	1.1	0.7	13.1	59.5	27.4

(注) 『参加している』 = 「週4回以上」 + 「週2～3回」 + 「週1回」 + 「月1～3回」 + 「年に数回」

7 たすけあいについて

(1) 周りの人とのたすけあいの状況

- ▶周りの人とのたすけあいの状況をみると、『該当する人がいる』は、①心配事や愚痴を聞
いてくれる人および③看病や世話をしてくれる人では92%台の高い割合を示していま
す。②心配事や愚痴を聞いてあげる人は88.2%、④看病や世話をしてあげる人は77.0%
とやや低くなっています。
- ▶①～④のいずれの項目も「配偶者」が最も高くなっていますが、①および②の心配事や愚
痴については「友人」が「同居の子ども」をはじめとする親族を上回っており、心の健康
には友人との交流やコミュニケーションが重要であることがわかります。

図表2-69 周りの人とのたすけあいの状況（複数回答）

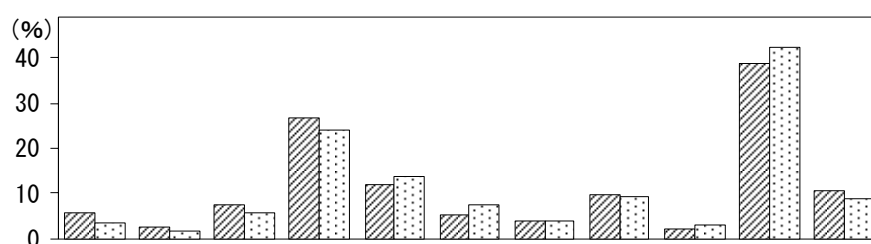
区 分 n=1,184	配 偶 者	同 居 の 子 ど も	別 居 の 子 ど も	親・ 孫 兄弟 姉妹・ 親戚・	近 隣	友 人	そ 他	な い そ の よ う な 人 は い ない	無 回 答	該 当 す る 人 が い る
①心配事や愚痴を聞いてくれる人	45.9	21.5	31.8	23.6	7.0	36.1	1.7	5.5	2.4	92.1
②心配事や愚痴を聞いてあげる人	42.9	17.8	27.9	25.1	7.3	37.0	1.9	8.6	3.2	88.2
③看病や世話をしてくれる人	52.4	28.3	31.8	11.1	0.4	3.4	1.3	4.8	2.6	92.6
④看病や世話をしてあげる人	53.3	21.3	19.4	16.0	0.7	4.1	1.9	15.9	7.1	77.0

（注）『該当する人がいる』＝100%－「そのような人はいない」－無回答

(2) 相談相手

- ▶家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」が24.0%と最も高く、次いで「ケアマネジャー」が13.9%、「市役所（いきいき広場）」が9.1%などとなっています。「そのような人はいない」が42.6%あります。第9期の調査結果に比べ「そのような人はいない」が3.7ポイント上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「民生委員」が16.4%と他の家族構成に比べ10ポイント以上高くなっています。

図表 2-70 相談相手（複数回答）



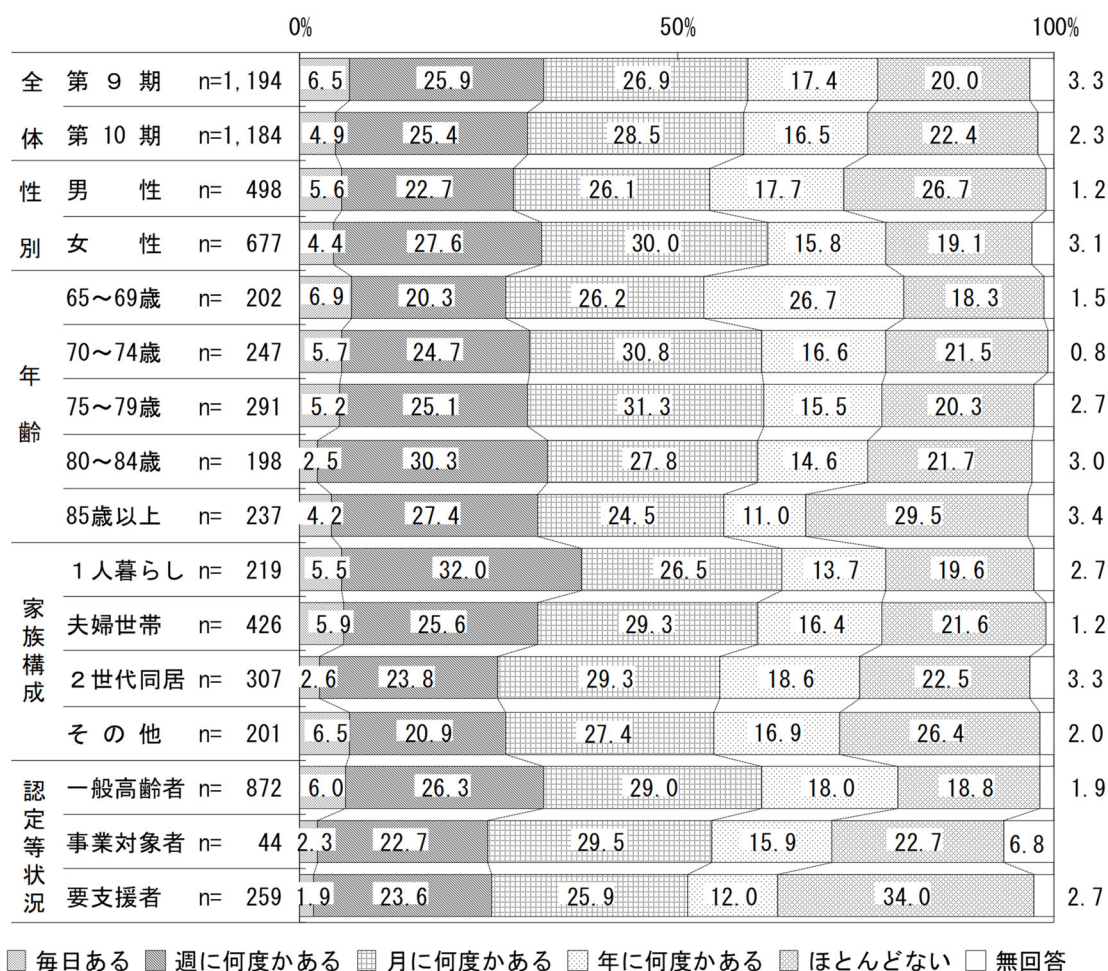
区分		n	町内会・まちづくり協議会	いきいきクラブ	民生委員	医師・歯科医師・看護師	ケアマネジャー	地域包括支援センター	社会福祉協議会	市役所（いきいき広場）	その他	そのような人はいない	無回答
全体	第9期	1,194	5.8	2.5	7.3	26.7	12.1	5.2	3.9	9.9	2.3	38.9	10.8
	第10期	1,184	3.3	1.7	5.9	24.0	13.9	7.5	4.0	9.1	3.2	42.6	9.0
性別	男性	498	5.2	2.4	5.6	23.7	8.8	6.2	3.6	9.6	3.0	48.2	6.2
	女性	677	1.9	1.2	5.9	24.1	17.7	8.3	4.1	8.6	3.2	38.7	10.9
年齢	65～69歳	202	5.4	1.5	1.0	23.8	9.4	5.4	2.5	11.4	2.5	51.5	3.5
	70～74歳	247	2.4	0.8	4.9	21.1	4.9	5.3	3.2	7.3	3.6	53.8	5.7
	75～79歳	291	2.7	2.1	6.5	22.7	10.0	8.9	4.8	10.3	2.7	44.0	9.6
	80～84歳	198	2.0	3.0	8.6	34.8	18.2	8.1	4.0	10.6	4.0	30.3	11.6
	85歳以上	237	4.2	1.3	7.6	19.4	28.7	8.9	4.6	5.9	3.0	32.5	13.9
家族構成	1人暮らし	219	1.8	1.8	16.4	18.7	17.8	6.4	4.6	6.8	3.7	42.5	7.8
	夫婦世帯	426	3.8	1.9	4.7	28.6	8.9	7.3	3.5	11.5	3.3	41.3	7.0
	2世代同居	307	2.9	1.0	1.6	22.1	15.0	7.2	3.6	9.4	2.9	44.3	11.4
	その他	201	5.0	2.5	4.0	24.4	17.4	10.0	5.5	6.5	3.5	44.8	7.0
小学校区	高浜	284	3.5	2.8	3.2	21.5	15.1	5.6	2.5	9.5	3.9	40.5	12.3
	吉浜	332	3.3	0.6	4.8	28.9	14.5	7.2	3.6	8.1	3.0	39.5	11.7
	高取	203	3.4	1.5	8.9	19.7	10.8	7.9	4.4	7.4	3.9	48.8	5.9
	港	162	4.3	1.9	7.4	23.5	14.8	7.4	3.7	9.9	1.9	46.9	7.4
	翼	190	2.1	2.1	6.3	24.2	13.7	10.0	6.3	11.1	2.1	42.1	3.7

(3) 友人関係

① 友人・知人と会う頻度

- ▶友人・知人と会う頻度をたずねたところ、「月に何度かある」が28.5%と最も高く、次いで「週に何度かある」が25.4%、「ほとんどない」が22.4%などとなっています。第9期の調査結果に比べ頻度が低下しており、「ほとんどない」が2.4ポイント上昇しています。
- ▶性別にみると、男性は「ほとんどない」が25%を超えています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい頻度は低下する傾向にあり、85歳以上では「ほとんどない」が30%近い割合となっています。

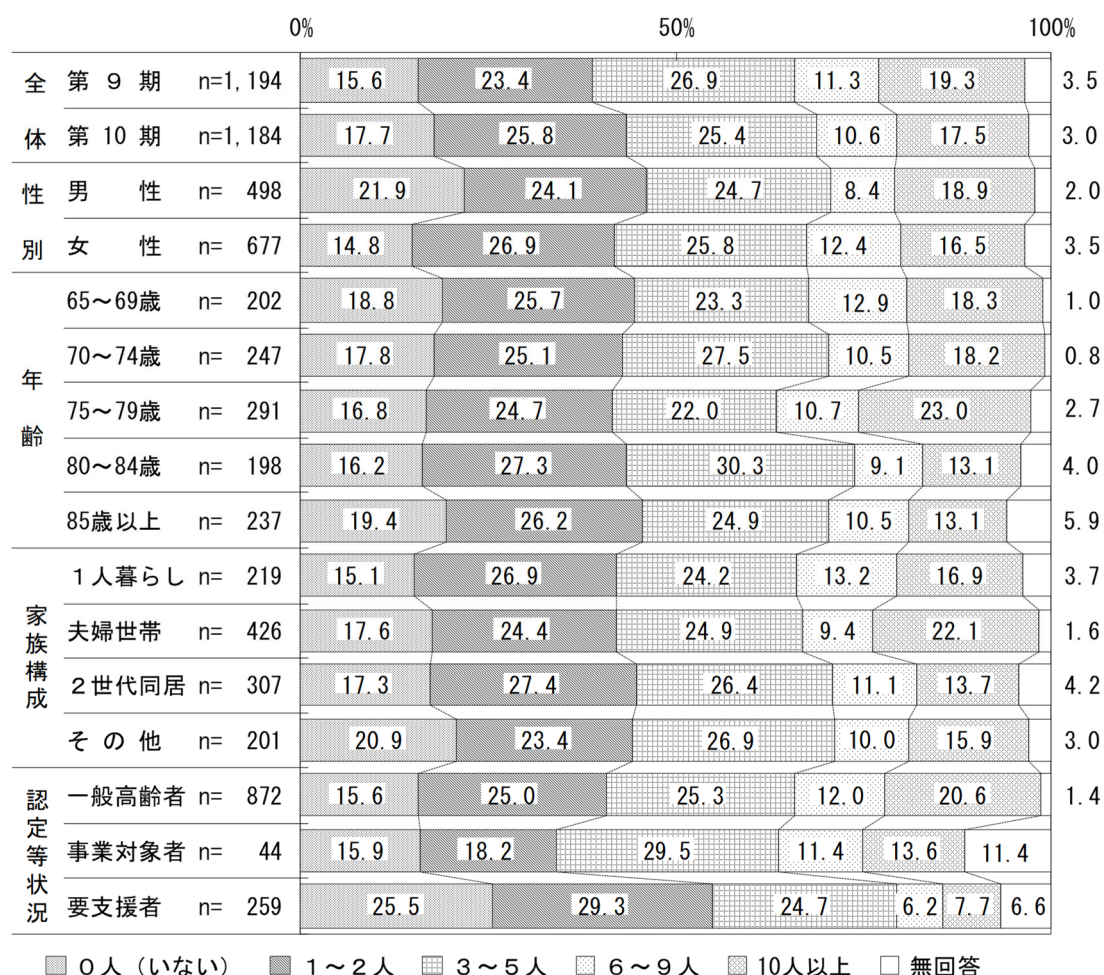
図表2-71 友人・知人と会う頻度



② 友人・知人と会った人数

- ▶この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか（同じ人には何度会っても1人と数えます）という設問に対しては、「1～2人」が25.8%と最も高く、次いで「3～5人」が25.4%、「0人（いない）」が17.7%、「10人以上」が17.5%などとなっています。第9期の調査結果に比べ人数が少なくなっており、「0人（いない）」が2ポイント以上上昇しています。
- ▶年齢別にみると、84歳までは年齢が上がるにしたがい「0人（いない）」が低下していますが、85歳以上になると上昇し20%近くとなります。
- ▶認定等状況別にみると、要支援者では「0人（いない）」が25%を超えています。

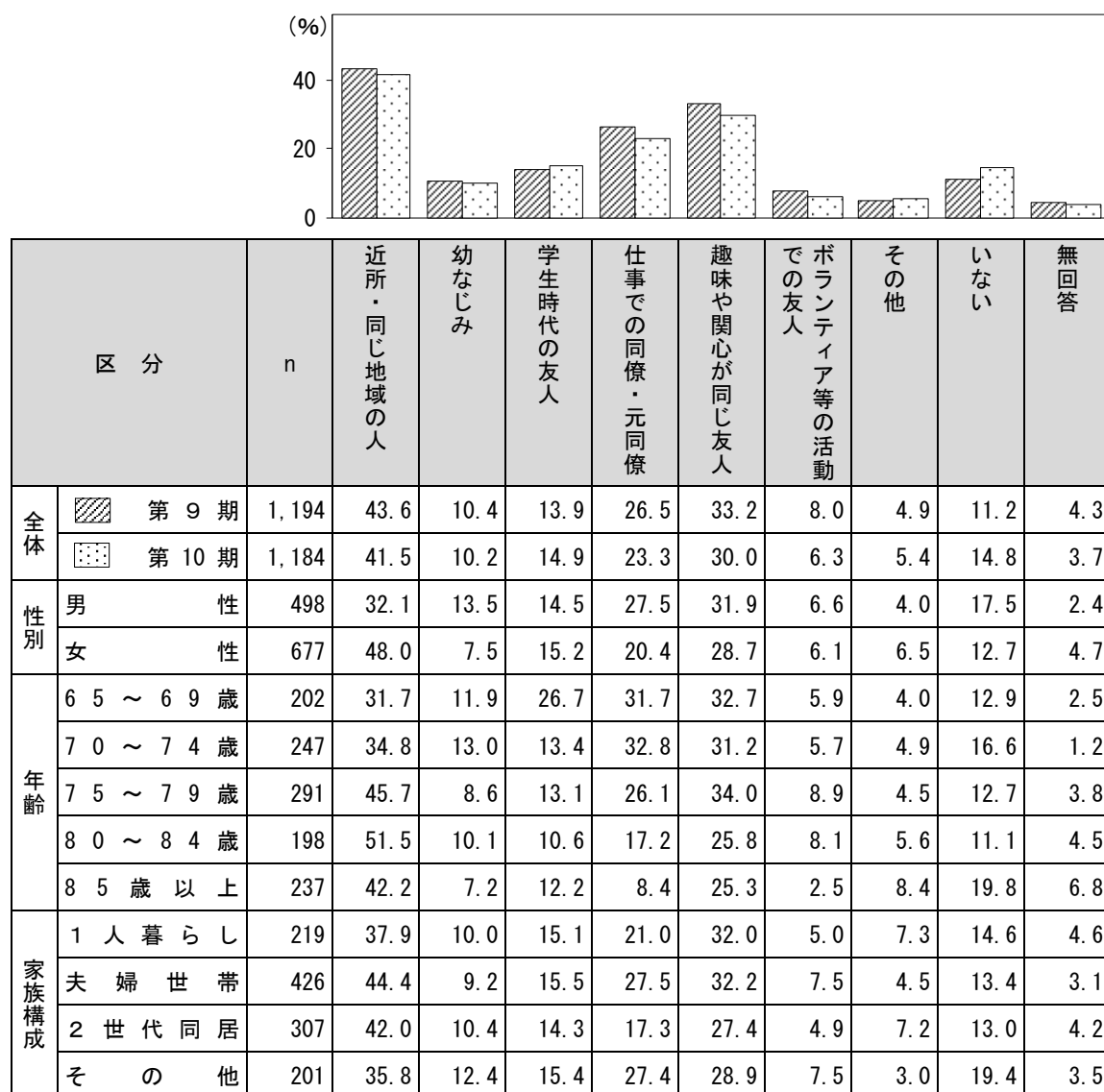
図表2-72 友人・知人と会った人数



③ よく会う友人・知人との関係

- ▶よく会う友人・知人との関係をたずねたところ、「近所・同じ地域の人」が41.5%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が30.0%、「仕事での同僚・元同僚」が23.3%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「いない」が3ポイント以上上昇しています。
- ▶性別により大きな差があるのは、女性が高い「近所・同じ地域の人」、男性が高い「仕事での同僚・元同僚」「幼なじみ」などです。また、女性に比べ男性は「いない」が4.8ポイント高くなっています。
- ▶「その他」として、「デイサービス・デイケア・宅老所の友人」（8件）「あっぽ」「リハビリの友人」（各2件）「まぜこぜの居場所の人」などの記載がありました。

図表2-73 よく会う友人・知人との関係（複数回答）



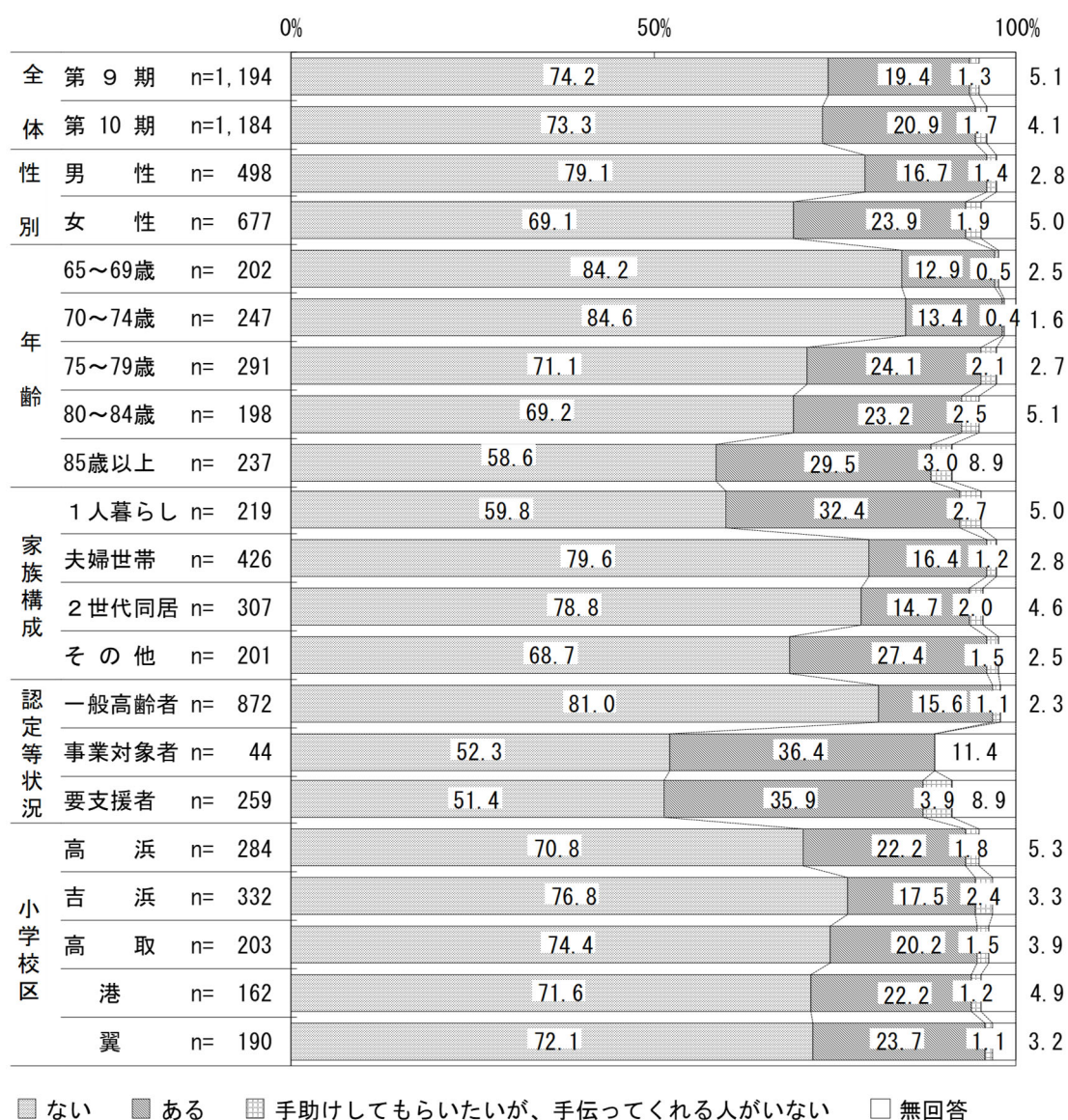
(4) 家族以外の誰かに手助けをしてもらった経験

▶「あなたは、日常生活で、家族以外の誰かに手助けをしてもらったことはありますか」という設問に対しては、「ない」が73.3%を占めています。「ある」は20.9%、「手助けしてもらいたい、手伝ってくれる人がいない」が1.7%あります。第9期の調査結果に比べ「ある」および「手助けしてもらいたい、手伝ってくれる人がいない」が上昇しています。

▶年齢別にみると、「ある」は年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあり、85歳以上では30%近くなります。

▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「ある」が32.4%あります。

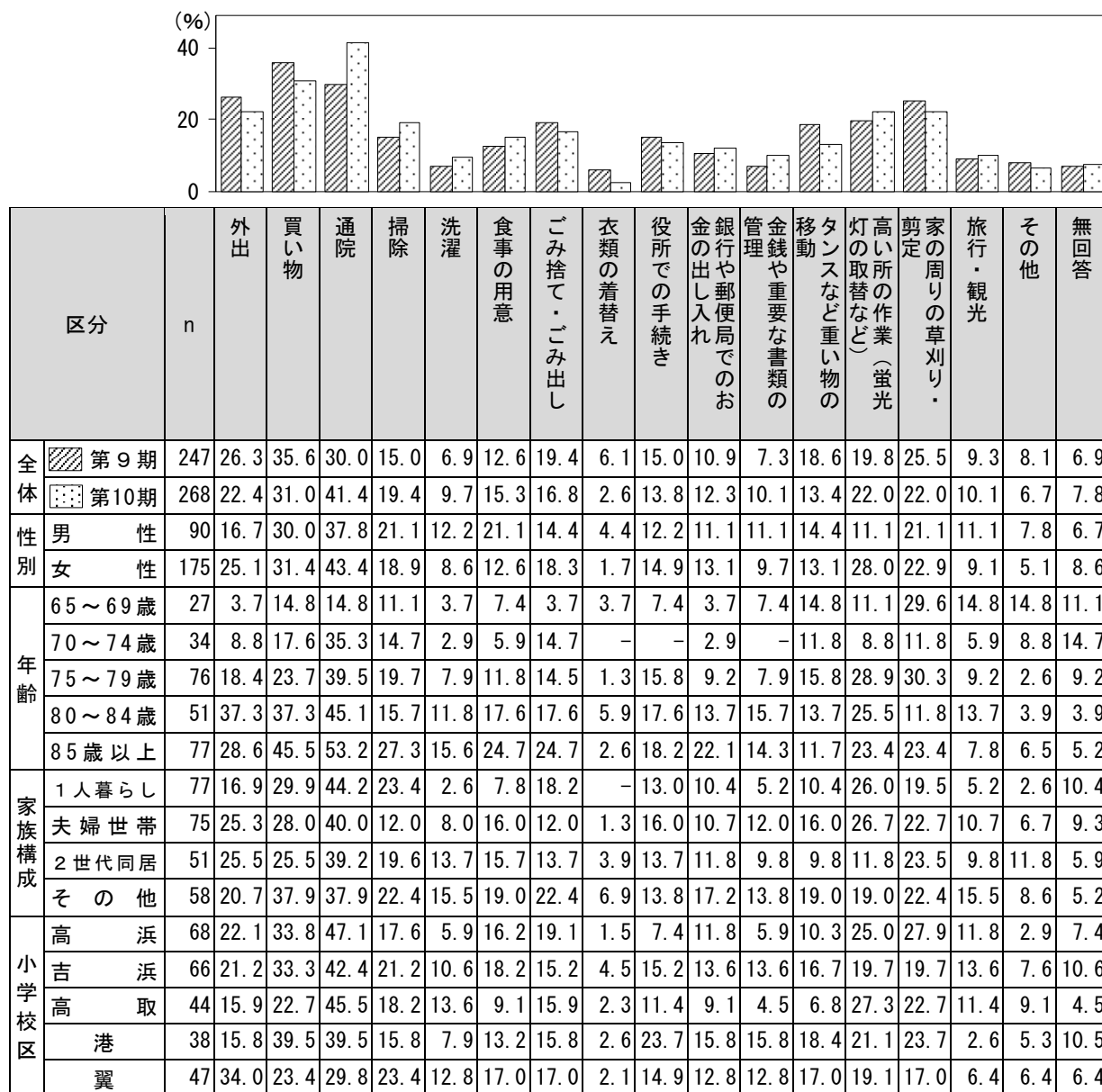
図表2-74 誰かに手助けしてもらっていることはあるか



(5) 手助けしてもらっていること・もらいたいこと

- ▶「あなたは、日常生活で、家族以外の誰かに手助けをしてもらったことはありますか」という設問で「ある」または「手助けしてもらいたいが、手伝ってくれる人がいない」と回答した268人に、具体的に手助けしてもらっていること・もらいたいことをお聞きしたところ、「通院」が41.4%と最も高く、次いで「買い物」が31.0%、「外出」が22.4%、「高い所の作業（蛍光灯の取替など）」および「家の周りの草刈り・剪定」が22.0%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「通院」が10ポイント以上上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしおよび夫婦世帯では「通院」が40%以上の高い割合となっています。
- ▶「その他」として「入浴」「仕事の手伝い」「スポーツ」などの記載がありました。

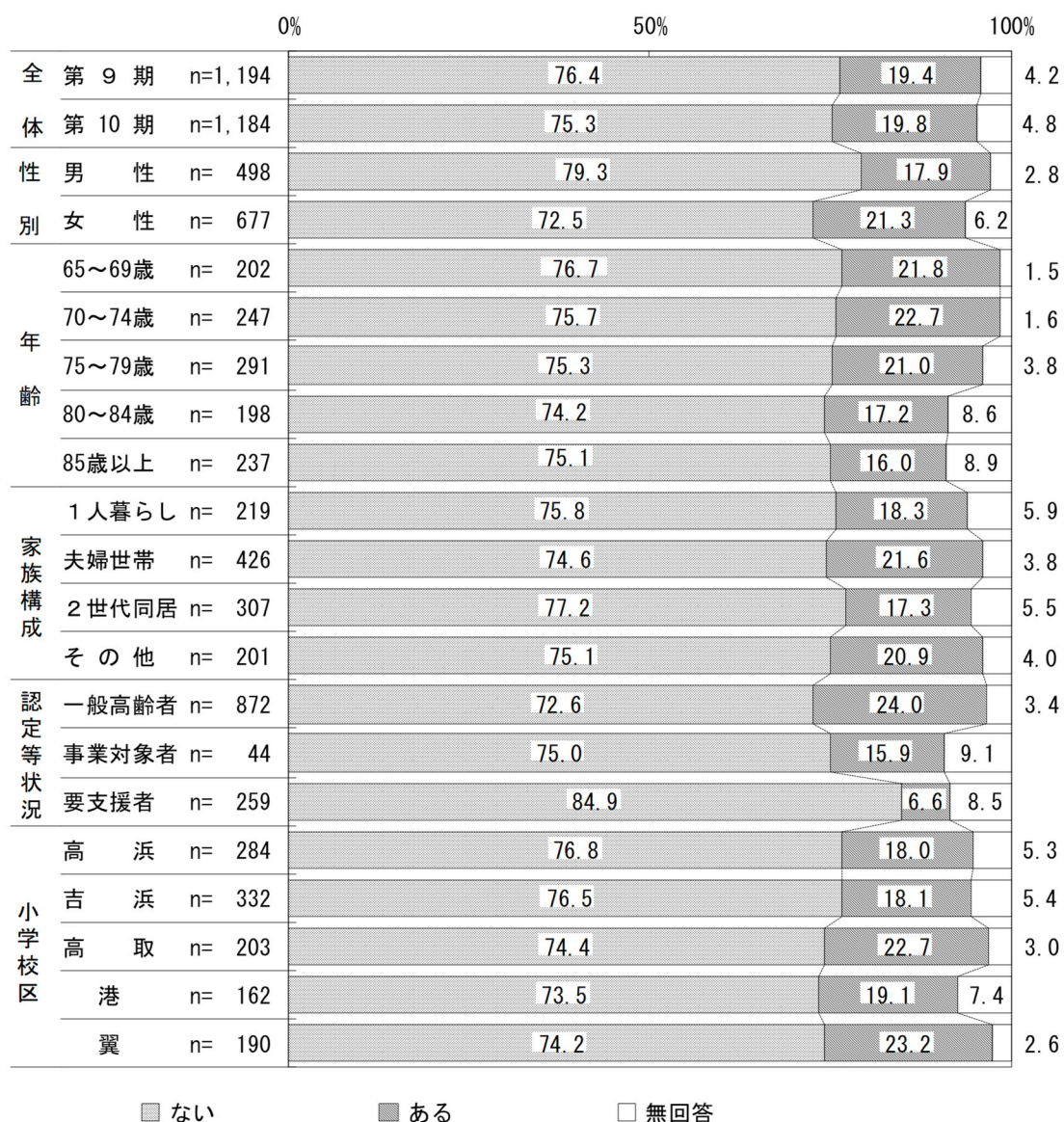
図表2-75 手助けしてもらっていること・もらいたいこと（複数回答）



(6) 家族以外の誰かを手助けした経験

- ▶「あなたは、日常生活で、家族以外の誰かに手助けしたことはありますか」という設問に対しては、「ない」が75.3%を占めています。「ある」は19.8%で、第9期の調査結果に比べ0.4ポイント上昇しています。
- ▶年齢別にみると、80歳未満では「ある」が20%を超えています。
- ▶小学校区別にみると、「ある」が最も高いのは翼小学校区の23.2%で、最も低い高浜小学校区との間に5ポイント以上の差があります。

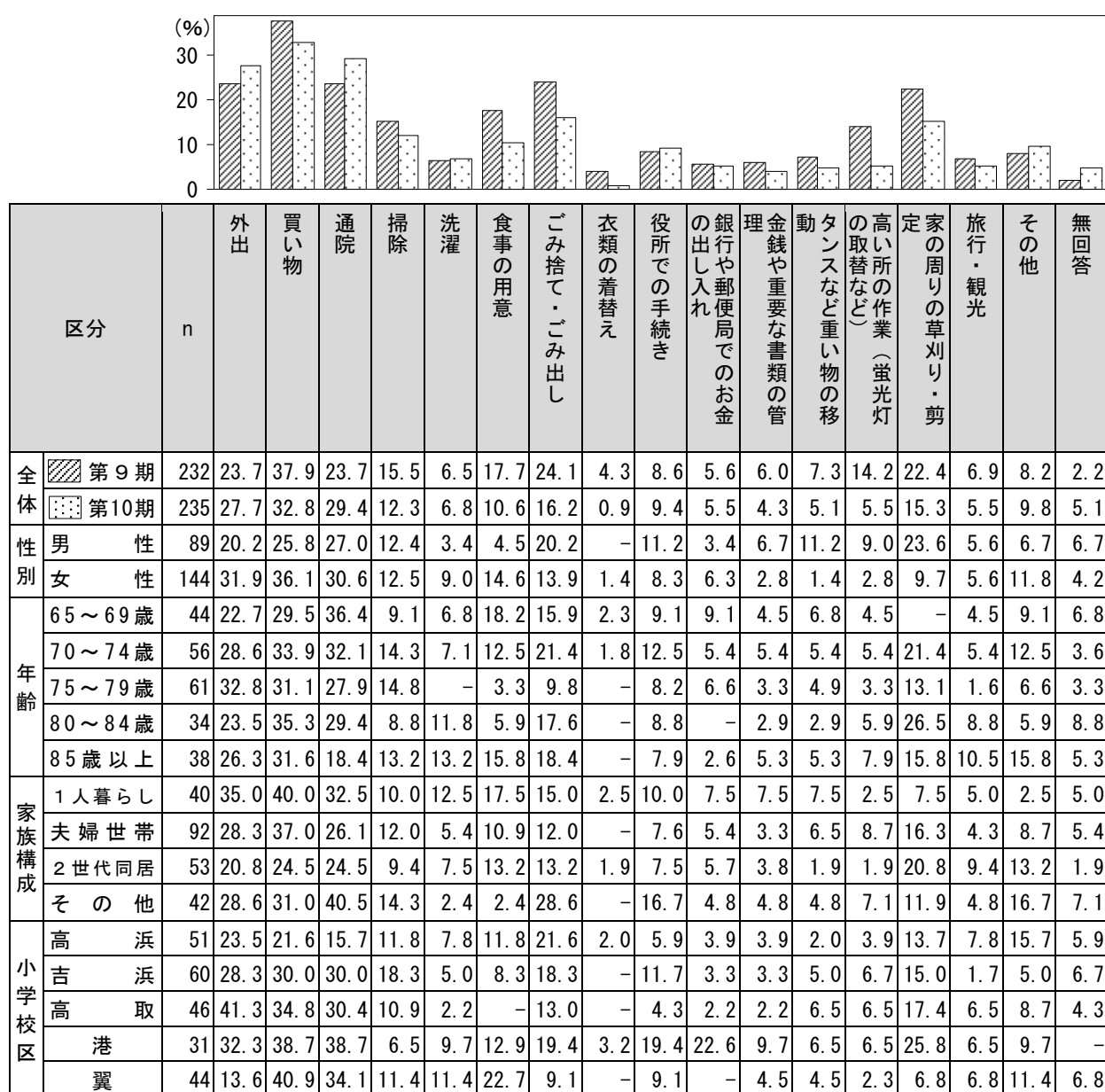
図表2-76 誰かに手助けしたことはあるか



(7) 手助けしたこと

- ▶「あなたは、日常生活で、家族以外の誰かに手助けしたことはありますか」という設問に「ある」と回答した235人に具体的に手助けしたことをお聞きしたところ、「買い物」が32.8%と最も高く、次いで「通院」が29.4%、「外出」が27.7%などとなっています。
- 第9期の調査結果に比べ「通院」が5.7ポイント上昇しています。
- ▶「その他」として「孫・ひ孫の世話」（4件）「子守」（2件）「運動のサポート」などの記載がありました。

図表 2-77 手助けしたこと（複数回答）

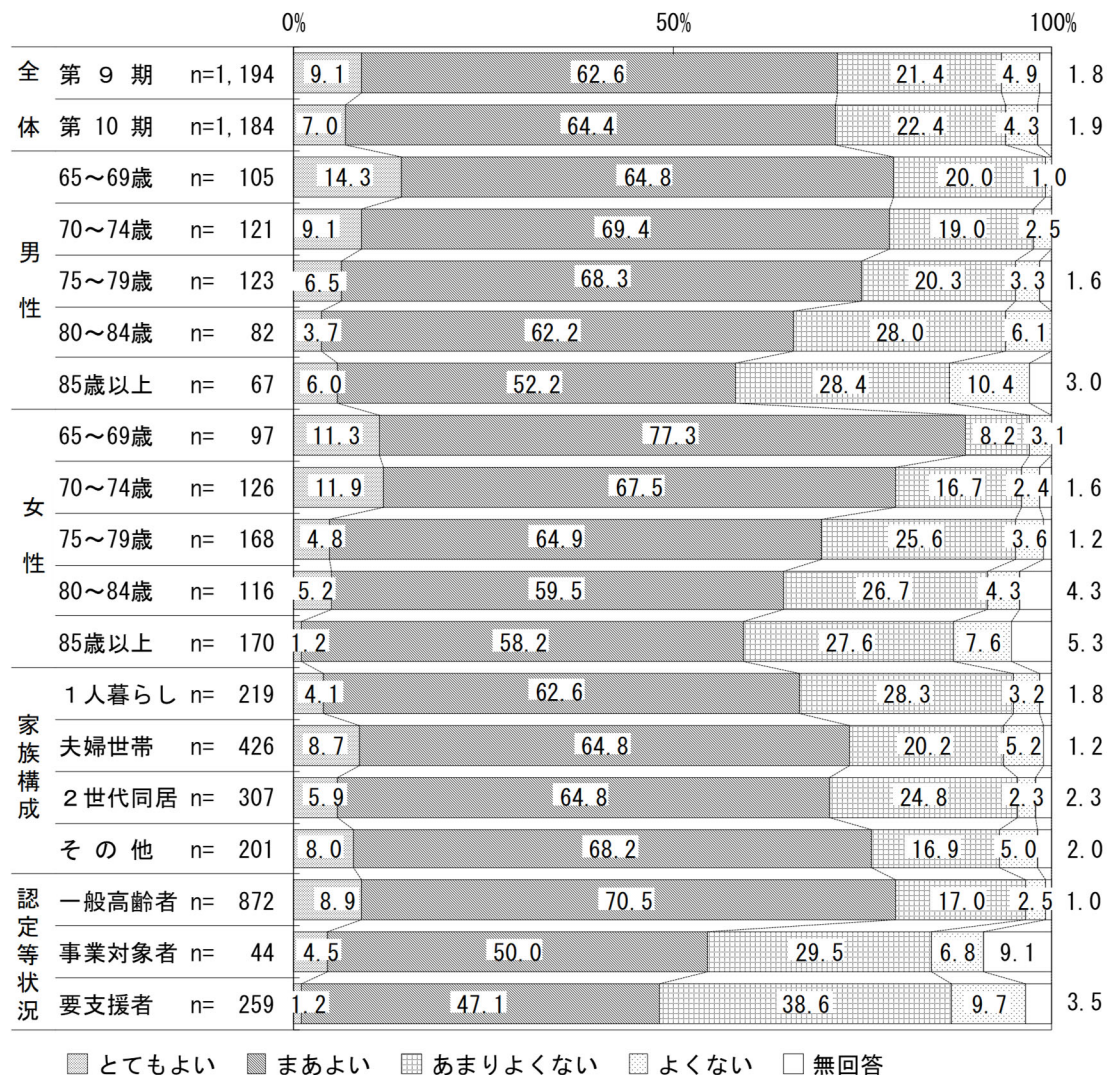


8 健康について

(1) 自分で健康だと思うか

- ▶主観的健康感をみると、「まあよい」が64.4%を占めており、「とてもよい」（7.0%）と合計した《健康》は71.4%となります。「あまりよくない」（22.4%）と「よくない」（4.3%）の合計《健康でない》は26.7%です。
- ▶年齢別にみると、男女ともに年齢が上がるにしたがい《健康》が低下し《健康でない》が上昇しており、85歳以上になると《健康でない》が35%を超えます。
- ▶家族構成別にみると、《健康でない》が最も高いのは1人暮らしであり、31.5%あります。

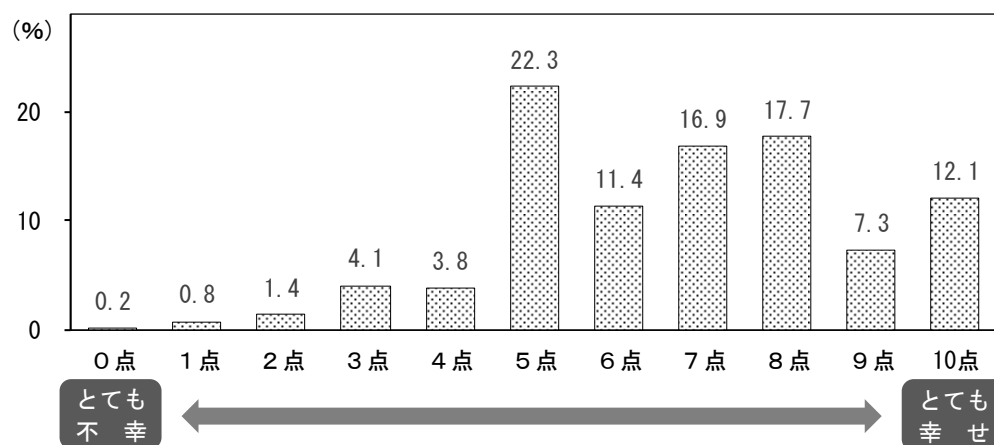
図表2-78 自分で健康だと思うか



(2) 幸福感

- ▶「あなたは、現在どの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか」という設問では、5点と回答した人が22.3%と最も高く、次いで8点が17.7%、7点が16.9%、10点が12.1%の順となっており、8点以上は37.1%となっています（図表2-79）。
- ▶平均は6.71点で、第9期の調査結果に比べ0.16点低下しています。属性別にみると、女性（6.93点）に対し男性（6.43点）が低く、同居世帯（2世代同居（6.96点）、夫婦世帯（6.79点））に対し1人暮らし（6.26点）は低くなっています（図表2-80）。

図表2-79 幸福感



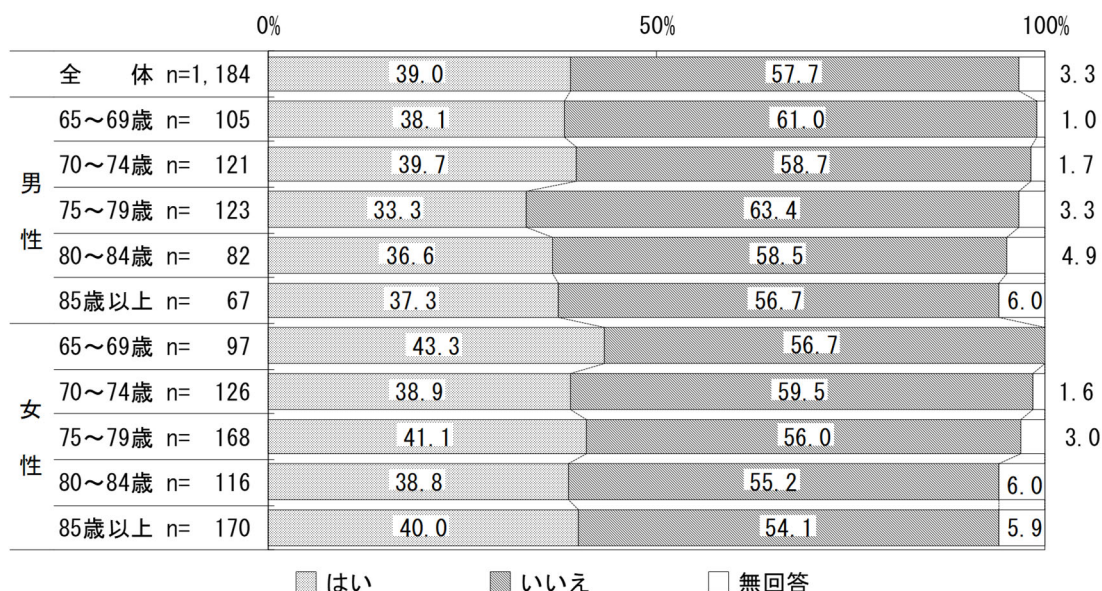
図表2-80 幸福感（平均点）

			5	6	7	(点)
全体	第9期	n=1,162				
	第10期	n=1,160				
性別	男性	n=494				
	女性	n=657				
年齢	65～69歳	n=202				
	70～74歳	n=247				
	75～79歳	n=285				
	80～84歳	n=190				
	85歳以上	n=227				
家族構成	1人暮らし	n=216				
	夫婦世帯	n=419				
	2世代同居	n=300				
	その他	n=197				
小学校区	高浜	n=277				
	吉浜	n=325				
	高取	n=199				
	港	n=158				
	翼	n=188				

(3) 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになった経験

▶この1か月の間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがある（「はい」）は39.0%です。70～74歳を除き男性に比べ女性が高くなっています。

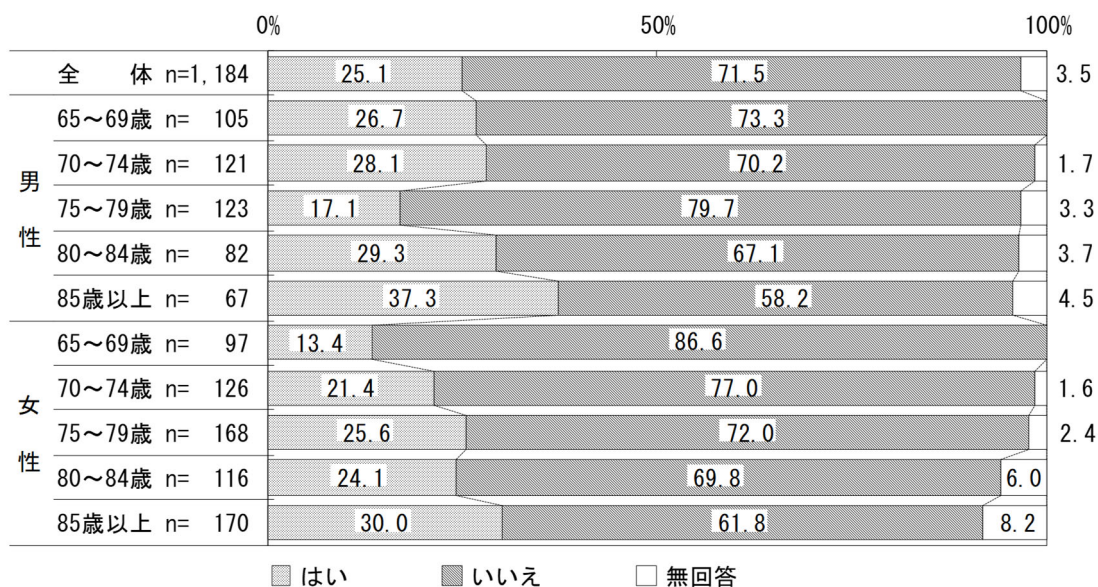
図表2-81 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになった経験



(4) 物事に興味がわかない、心から楽しめない感じ

▶この1か月の間、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった（「はい」）は25.1%です。男女ともに年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあります。

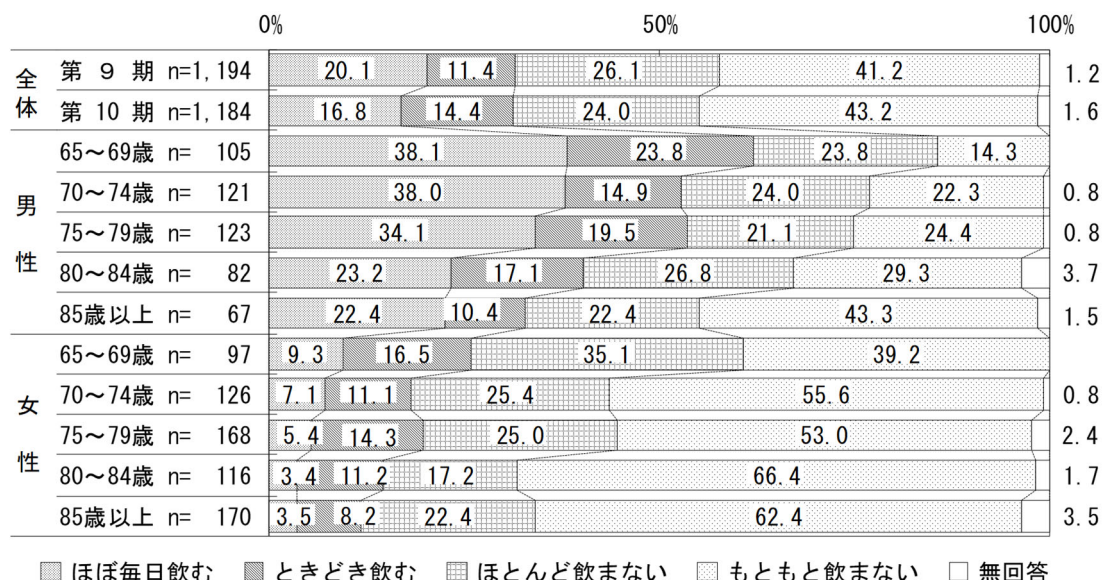
図表2-82 物事に興味がわかない、心から楽しめない感じ



(5) 飲酒

▶酒を「ほぼ毎日飲む」は16.8%、「ときどき飲む」は14.4%となっています。飲酒習慣は女性に比べ男性が圧倒的に高く、男性の80歳未満では「ほぼ毎日飲む」が30%以上となっています。

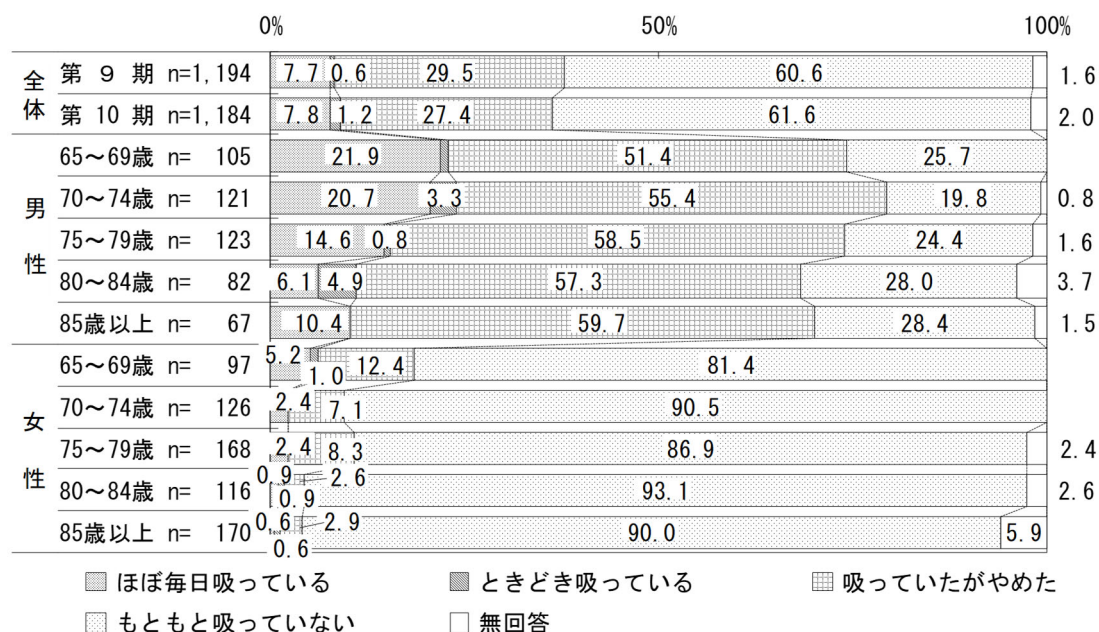
図表 2-83 飲酒



(6) 喫煙

▶タバコを「ほぼ毎日吸っている」(7.8%)と「ときどき吸っている」(1.2%)を合計した喫煙率は9%です。女性の喫煙率は非常に低くなっていますが、男性の75歳未満では20%を超えています。

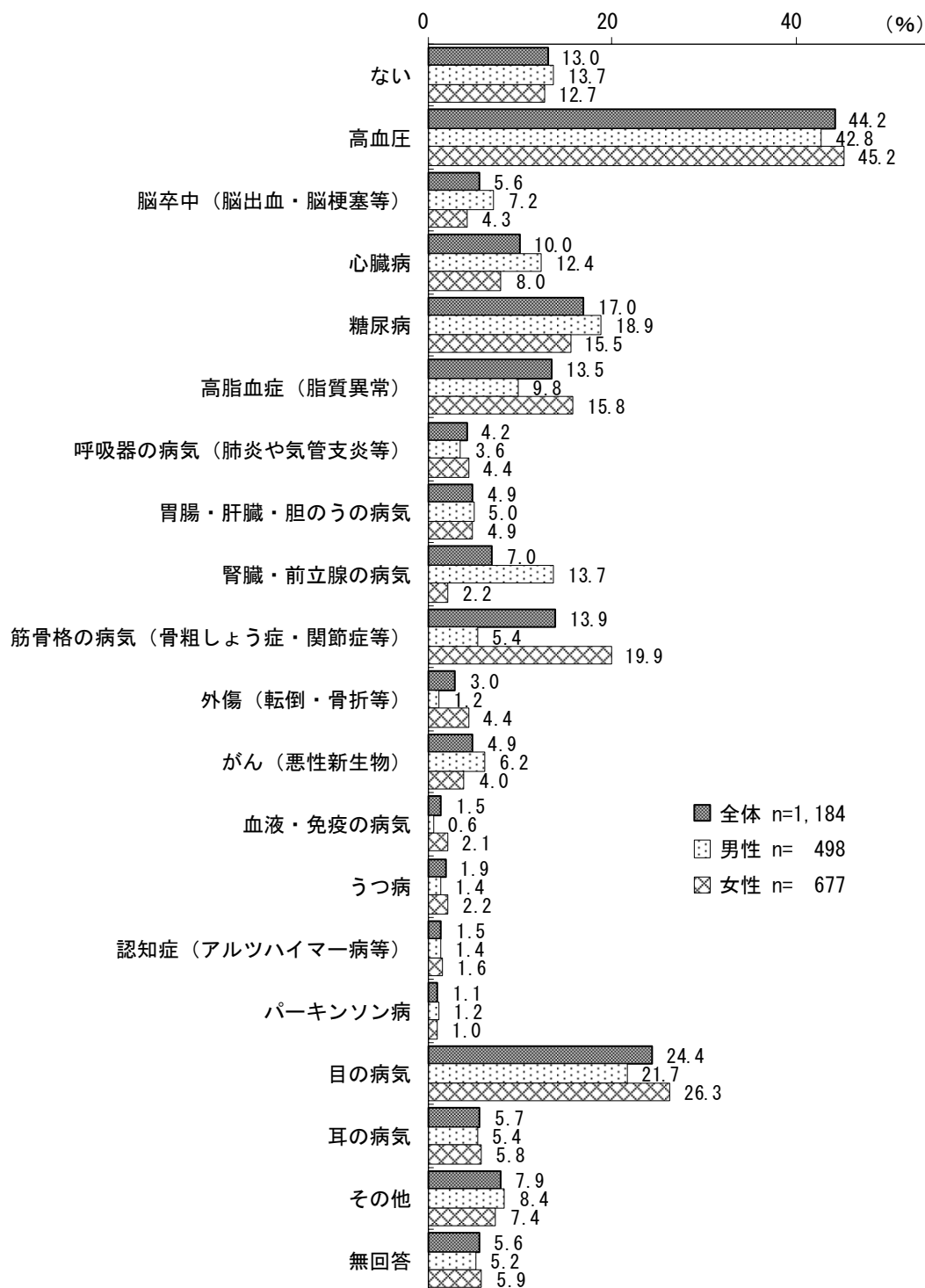
図表 2-84 喫煙



(7) 治療中または後遺症のある病気について

- ▶現在、治療中または後遺症のある病気は、「高血圧」が44.2%と突出して高く、次いで「目の病気」が24.4%、「糖尿病」が17.0%などとなっています。
- ▶性別により5ポイント以上の差がある疾病は、男性が高い「腎臓・前立腺の病気」、女性が高い「筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）」「高脂血症（脂質異常）」です。

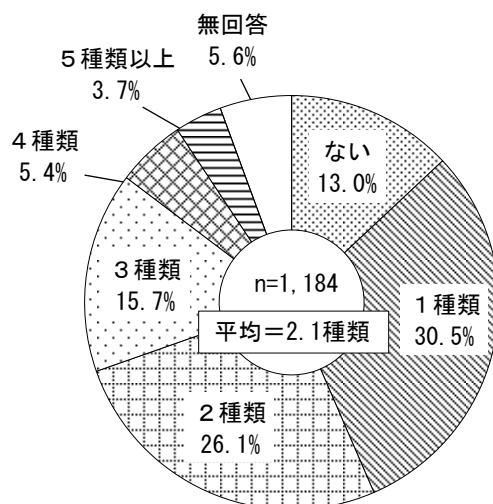
図表 2-85 現在、治療中または後遺症のある病気（複数回答）



(8) 治療中または後遺症のある病気の数

- ▶ 治療中または後遺症のある病気の数には、「1種類」が30.5%と最も高く、次いで「2種類」が26.1%、「3種類」が15.7%などとなっており、「5種類以上」が3.7%あります。「ない」は13.0%です。
- ▶ 1人当たりの病気の平均数は2.1種類です。

図表 2-86 治療中または後遺症のある病気の数



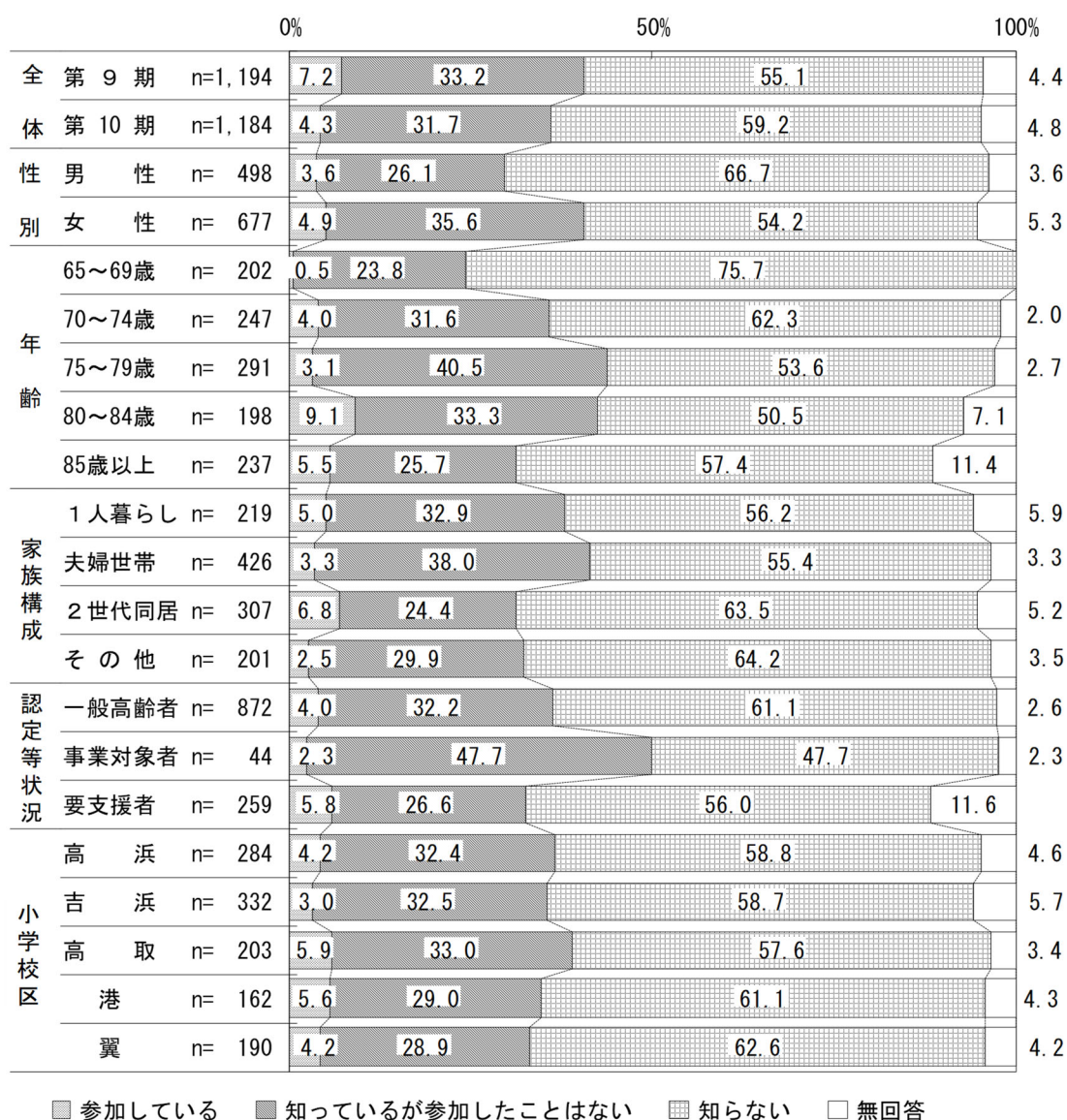
(9) 「健康自生地」を活用したフレイル予防の取り組みへの参加状況

▶高浜市が介護予防・日常生活支援総合事業の一環として進めている「健康自生地」を活用したフレイル予防の取り組みへの参加状況は、「知らない」が59.2%と最も高く、次いで「知っているが参加したことはない」が31.7%、「参加している」は4.3%となっています。第9期の調査結果に比べ「参加している」が2.9ポイント低下し、「知らない」が4.1ポイント上昇しています。

▶年齢別にみると、「参加している」は80～84歳で最も高く9.1%となっています。

▶小学校区別にみると、吉浜小学校区の「参加している」が他の小学校区より1ポイント以上低くなっています。

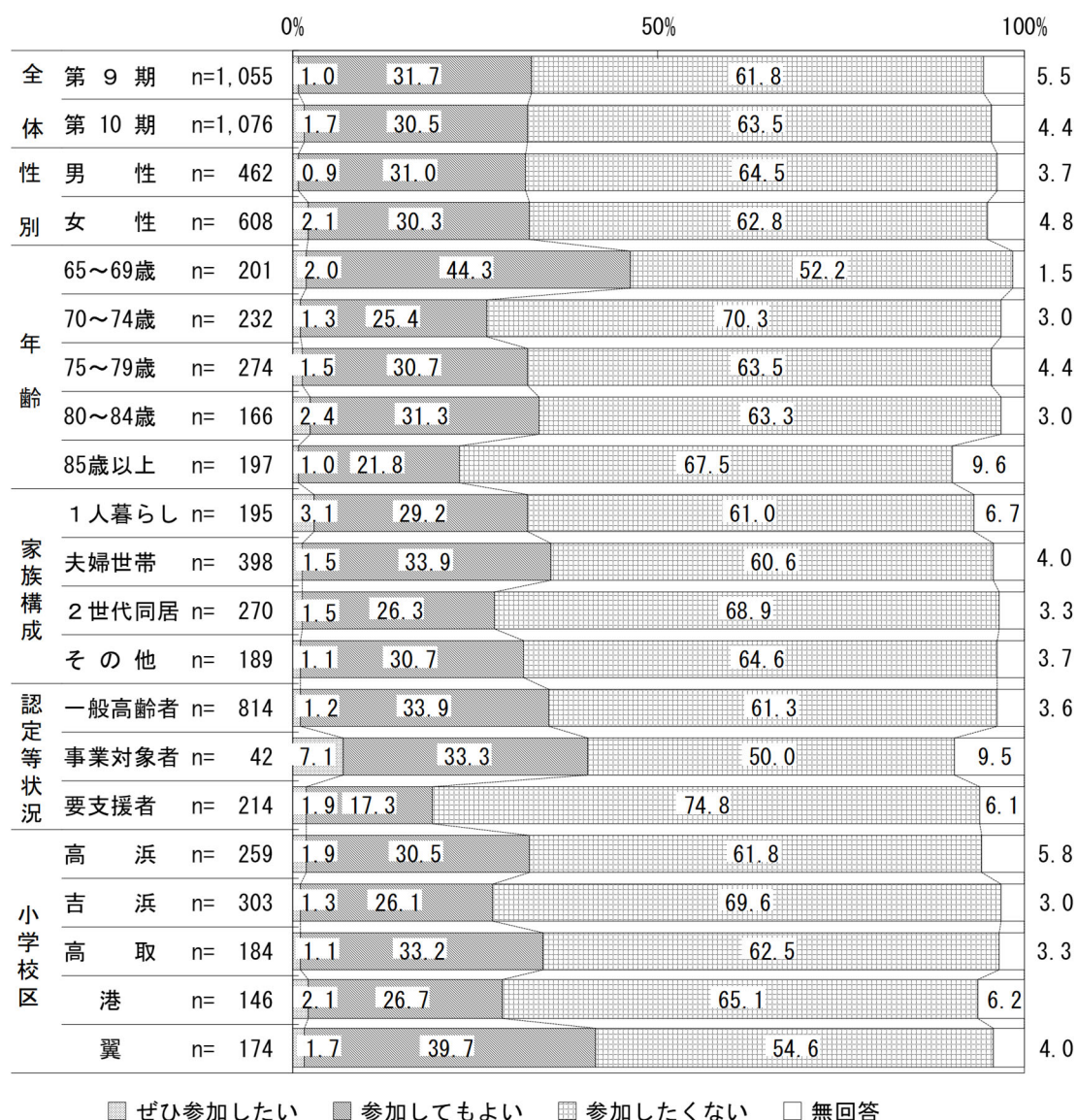
図表2-87 「健康自生地」を活用したフレイル予防の取り組みへの参加状況



(10) 「健康自生地」を活用したフレイル予防の取り組みへの参加意向

- ▶「健康自生地」を活用したフレイル予防の取り組みに参加していない1,076人に、今後参加したいかお聞きしたところ、「ぜひ参加したい」が1.7%、「参加してもよい」が30.5%となっており、これらを合計した参加意向は32.2%です。「参加したくない」が63.5%を占めています。第9期の調査結果に比べ参加意向がわずかに低下しています。
- ▶年齢別にみると、65～69歳では参加意向が40%を超えています。
- ▶小学校区別にみると、翼小学校区では参加意向が40%を超えています。

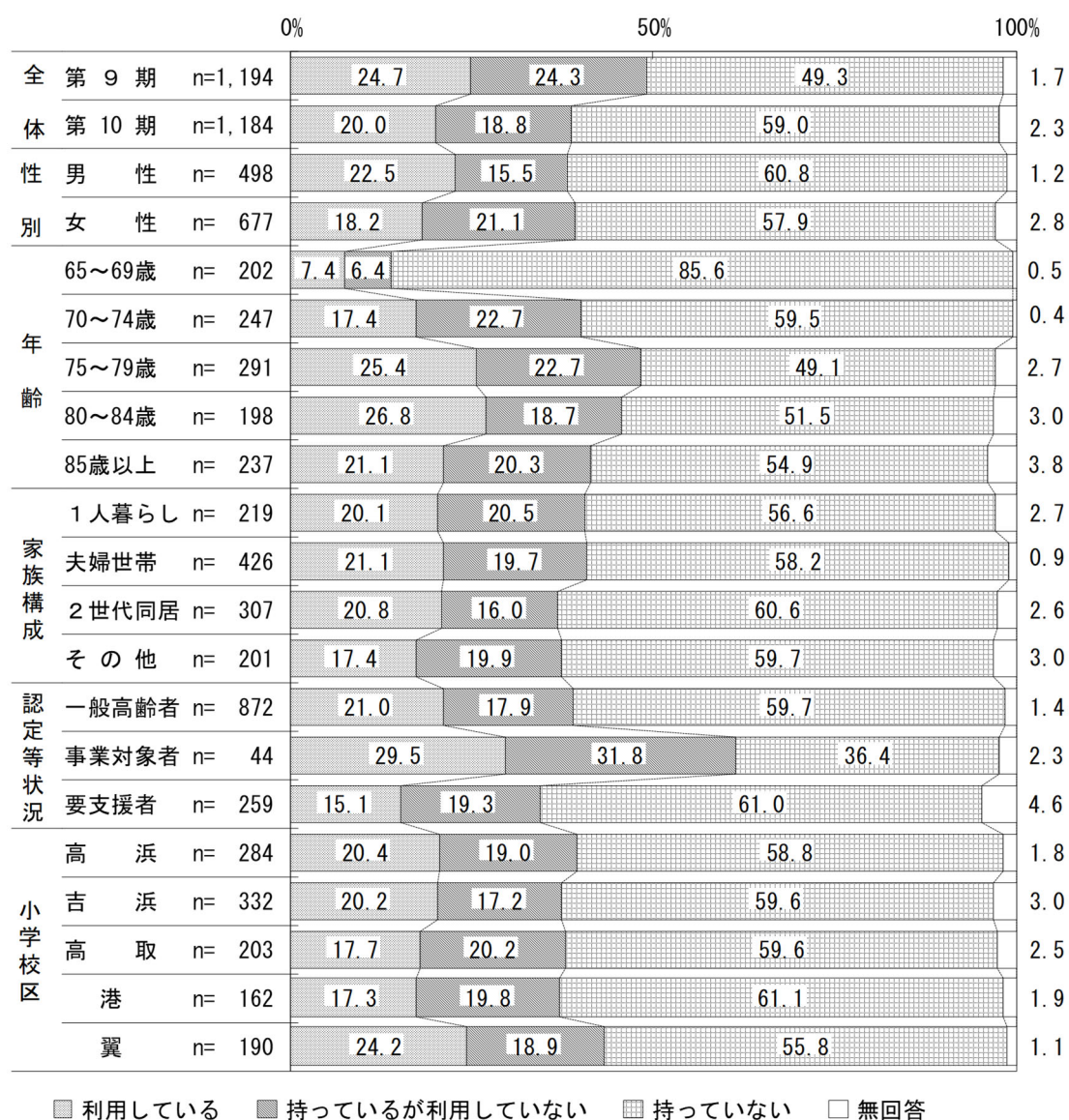
図表 2-88 「健康自生地」を活用したフレイル予防の取り組みへの参加意向



(11) ホコタッチの利用状況

- ▶日々の歩行数や健康自生地の活動への参加状況が確認できる活動量計「ホコタッチ」を持っているかという設問では、「利用している」が20.0%、「持っているが利用していない」が18.8%で、これらを合計した所持率は38.8%です。第9期の調査結果に比べ所持率が10ポイント以上低下しています。
- ▶年齢別にみると、「利用している」が最も高いのは80～84歳の26.8%です。
- ▶認定等状況別にみると、事業対象者では「利用している」が29.5%と30%近い割合になっています。
- ▶小学校区別にみると、「利用している」が最も高いのは翼小学校区の24.2%です。

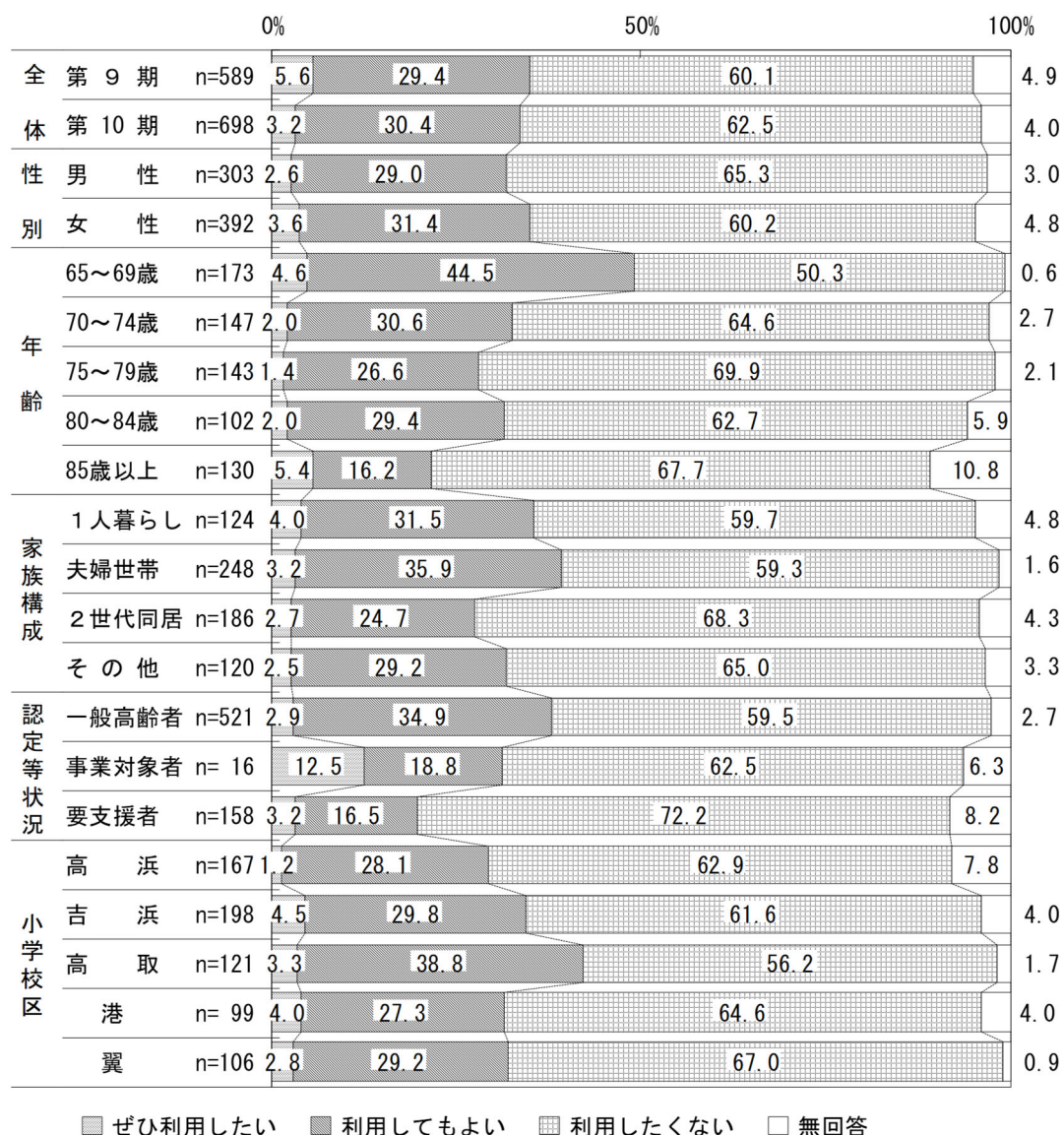
図表2-89 「ホコタッチ」の利用状況



(12) ホコタッチの利用意向

- ▶活動量計「ホコタッチ」を所持していない698人に、今後利用したいかお聞きしたところ、「ぜひ利用したい」が3.2%、「利用してもよい」が30.4%となっており、これらを合計した利用意向は33.6%です。「利用したくない」が62.5%を占めています。第9期の調査結果に比べ利用意向が1.4ポイント低下しています。
- ▶年齢別にみると、利用意向は65～69歳が最も高く49.1%となっています。
- ▶小学校区別にみると、利用意向は高取小学校区が最も高く42.1%となっています。

図表2-90 ホコタッチの利用意向

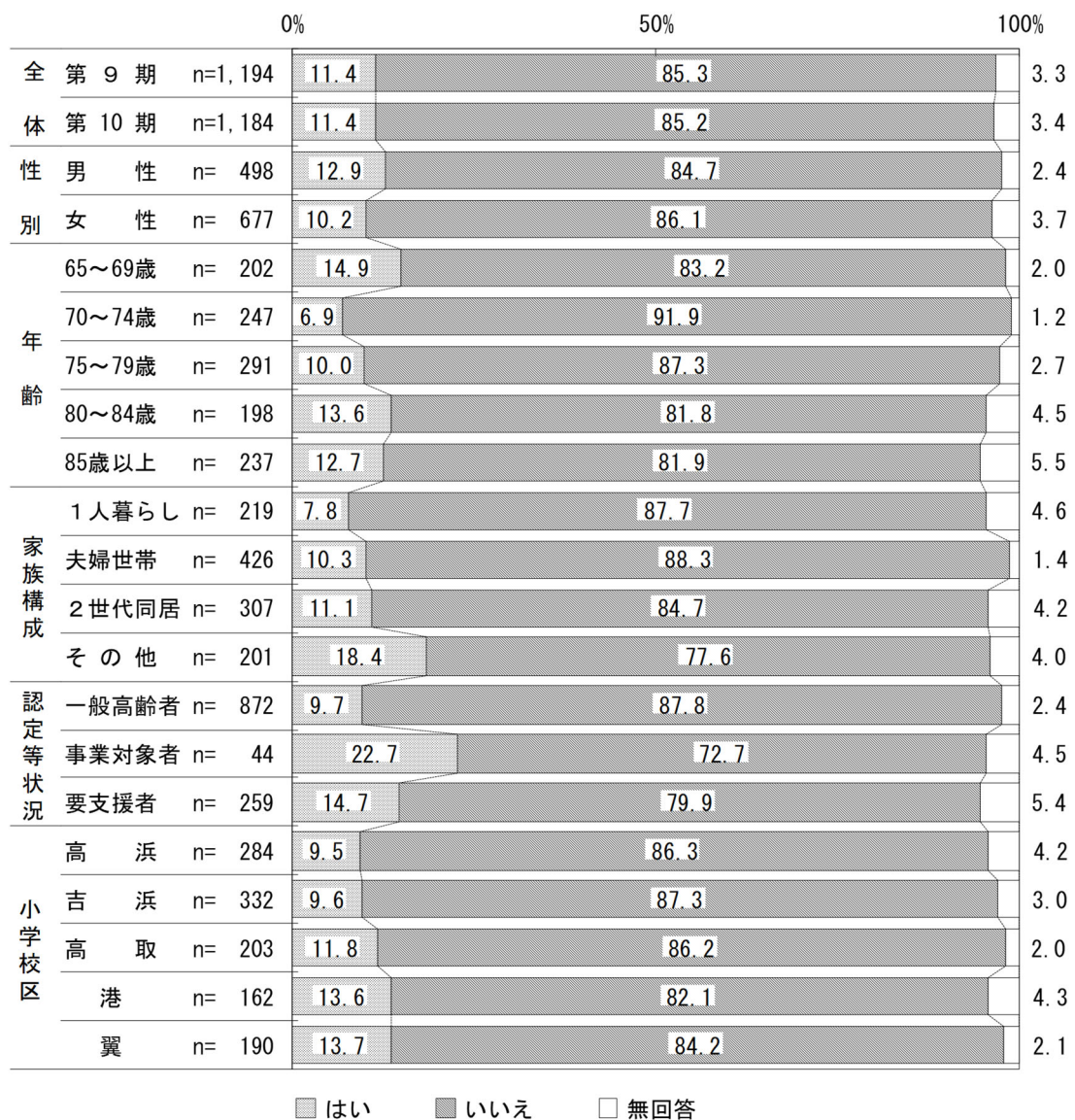


9 認知症について

(1) 認知症の症状の有無

- ▶「認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか」という設問については、「はい」が11.4%、「いいえ」が85.2%となっています。第9期の調査結果に比べほとんど変化はありません。
- ▶年齢別にみると、65～69歳の14.9%から70歳台で一旦10%以下に低下しますが、80歳以上になると再び上昇します。これは、65～69歳では本人の親が、80歳以上では本人又は配偶者が該当するものと考えられます。

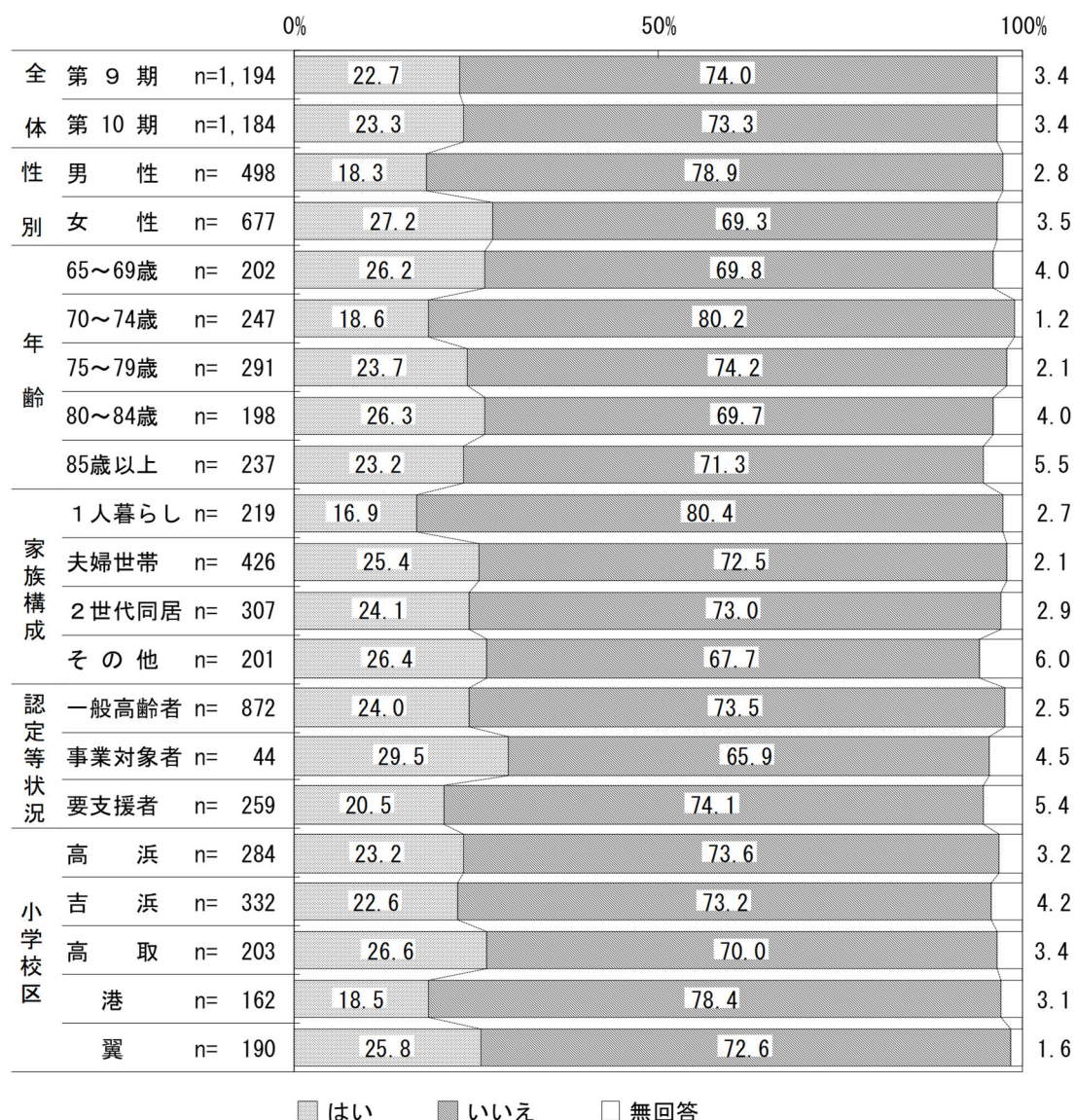
図表 2-91 認知症の症状の有無



(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

- ▶「認知症に関する相談窓口を知っていますか」という設問については、「はい」が23.3%、「いいえ」が73.3%となっています。第9期の調査結果に比べ認知度はわずかに0.6ポイントですが上昇しています。
- ▶認知度を性別にみると、男性に比べ女性が8.9ポイント上回っています。
- ▶年齢別では70～74歳、家族構成別では1人暮らし、小学校区別では港小学校区の認知度が10%台で他の区分に比べ低くなっています。

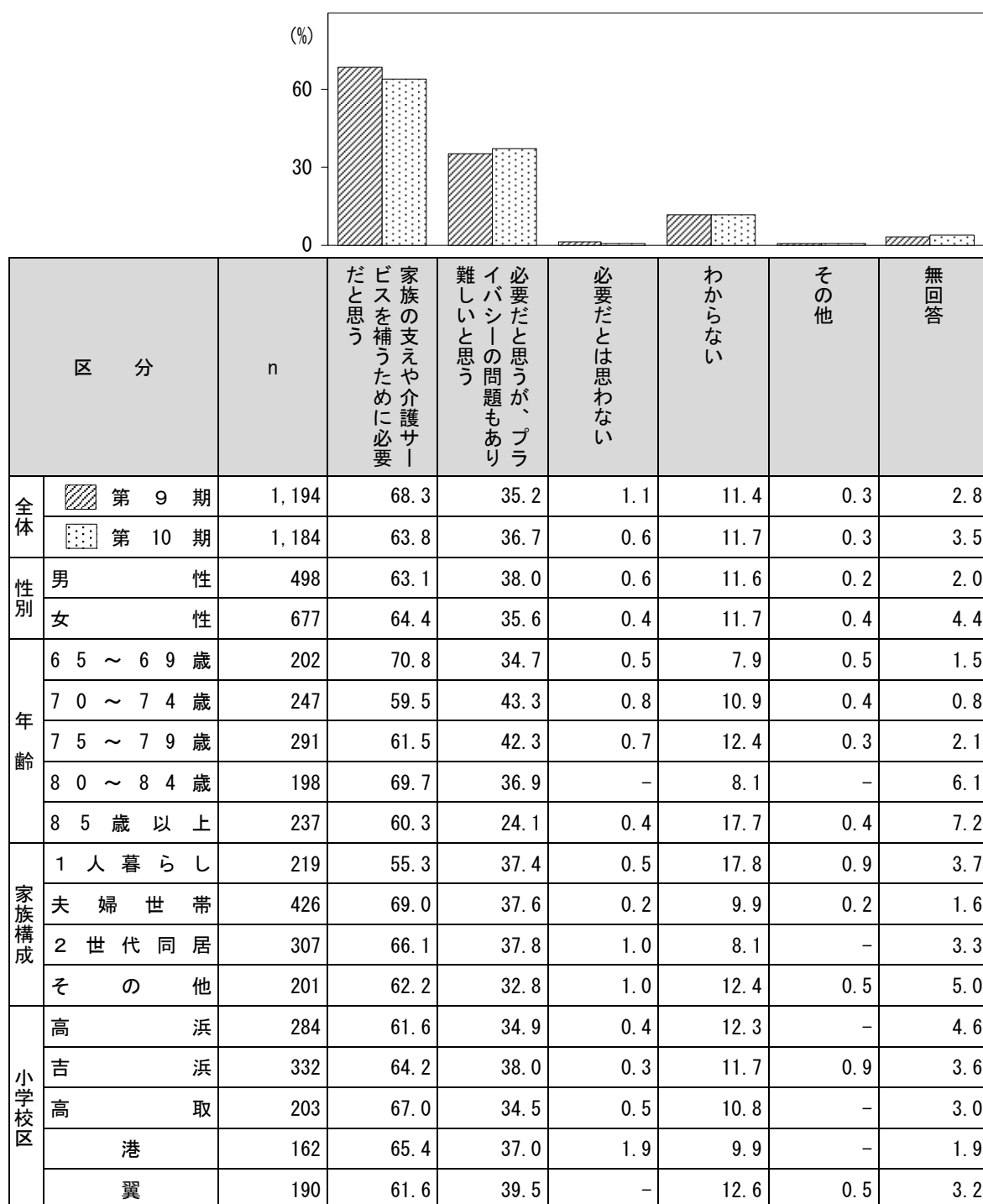
図表 2-92 認知症に関する相談窓口の認知度



(3) 認知症高齢者への地域住民の協力

▶認知症高齢者が地域で生活するためには、地域住民の協力は必要だと思いますかという設問に対しては、「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が63.8%、「必要なことだと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う」が36.7%であり、「必要だと思わない」はわずか0.6%です。ほとんどの人が認知症の人とその家族への地域の協力が必要であると考えていることがわかります。

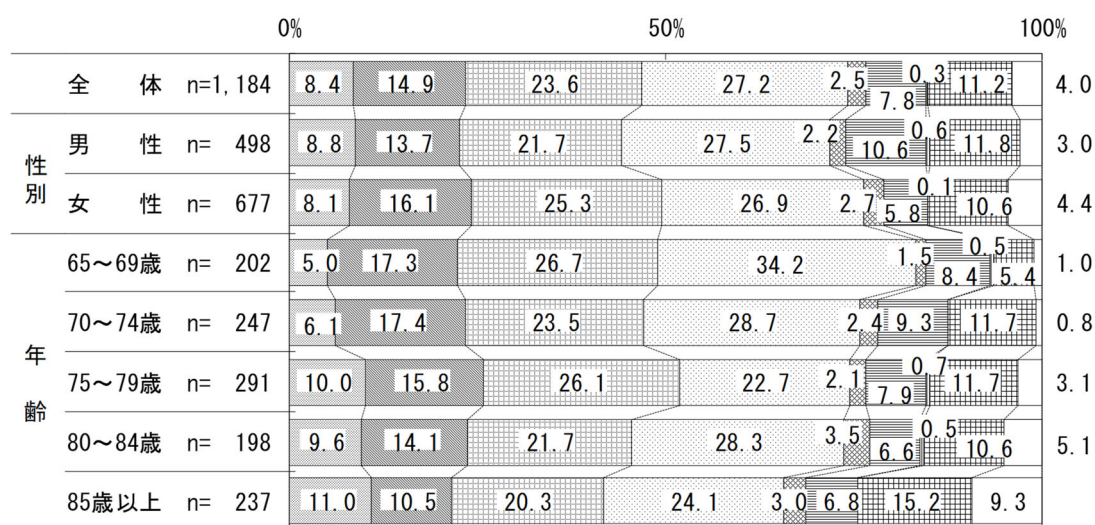
図表 2-93 認知症高齢者への地域住民の協力（複数回答）



(4) 認知症に対するイメージ

▶認知症に対するイメージは、「認知症になると、介護施設でサポートを利用することが必要となる」が27.2%と最も高くなっていますが、次いで「医療・介護などのサービスを利用しながら、住み慣れた地域で生活できる」が23.6%、「周りのサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活できる」が14.9%などとなっており、医療・介護サービスや周りのサポートがあれば住み慣れた地域で生活できると考えている人も多くいることがわかります。

図表 2-94 認知症に対するイメージ

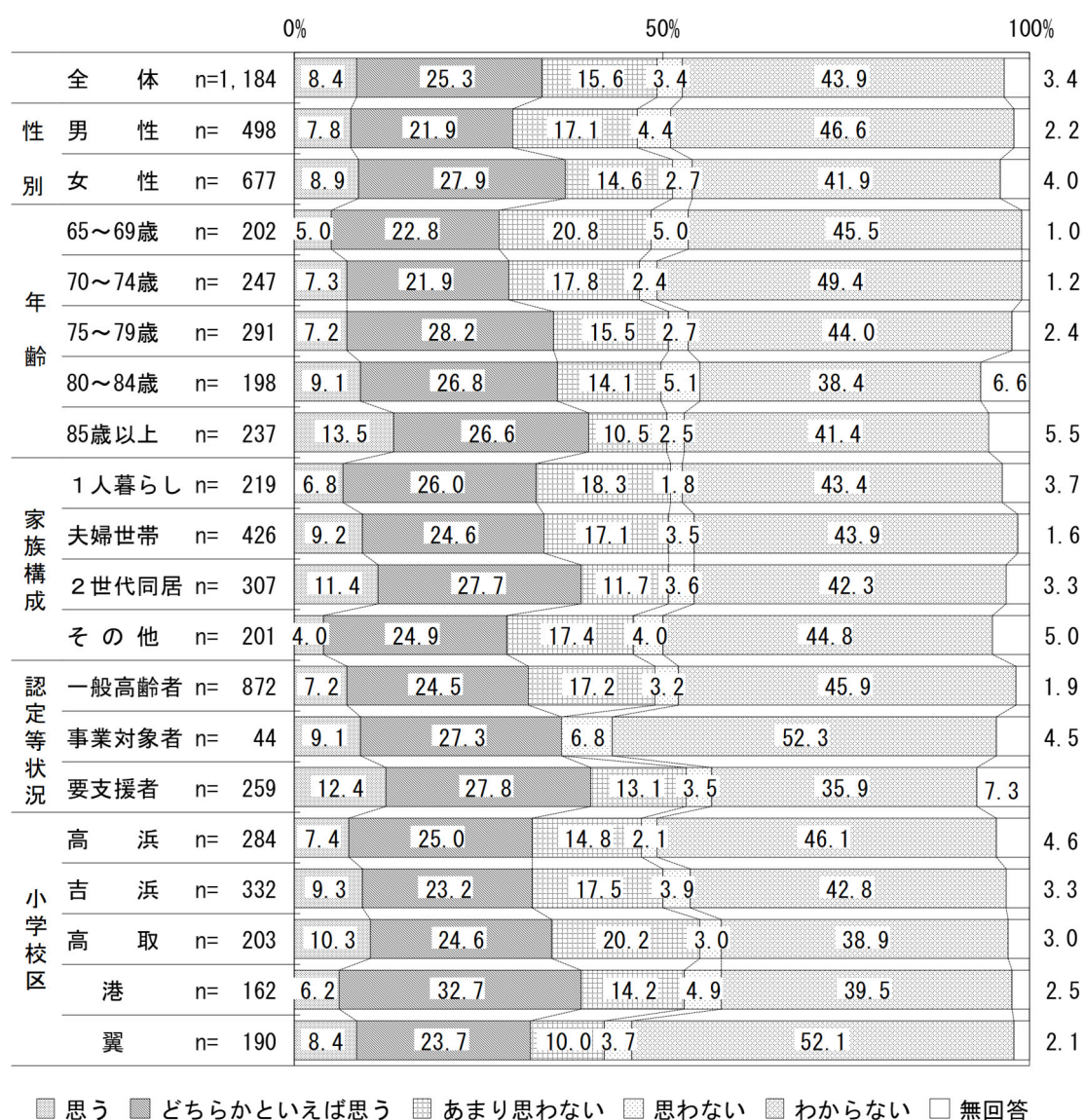


- できないことを自分で工夫しながら、今までどおり自立的に生活できる
- 周りのサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活できる
- 医療・介護などのサービスを利用しながら、住み慣れた地域で生活できる
- 認知症になると、介護施設でサポートを利用することが必要となる
- 認知症になると、周りに迷惑をかけるので住み慣れた地域で生活できなくなる
- 認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう
- その他
- わからない
- 無回答

(5) 新しい認知症感

- ▶「高浜市は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちだと思いますか」という設問に対しては、「わからない」が40%以上を占めていますが、次いで「どちらかといえば思う」が25.3%となっており、「思う」（8.4%）との合計《暮らし続けられると思う》は33.7%です。
- ▶《暮らし続けられると思う》を属性別にみると、性別では女性、年齢別では85歳以上、家族構成別では2世代同居、認定等状況別では要支援者、小学校区別では港小学校区がそれぞれ他の区分に比べ高くなっています。

図表2-95 高浜市は認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちか

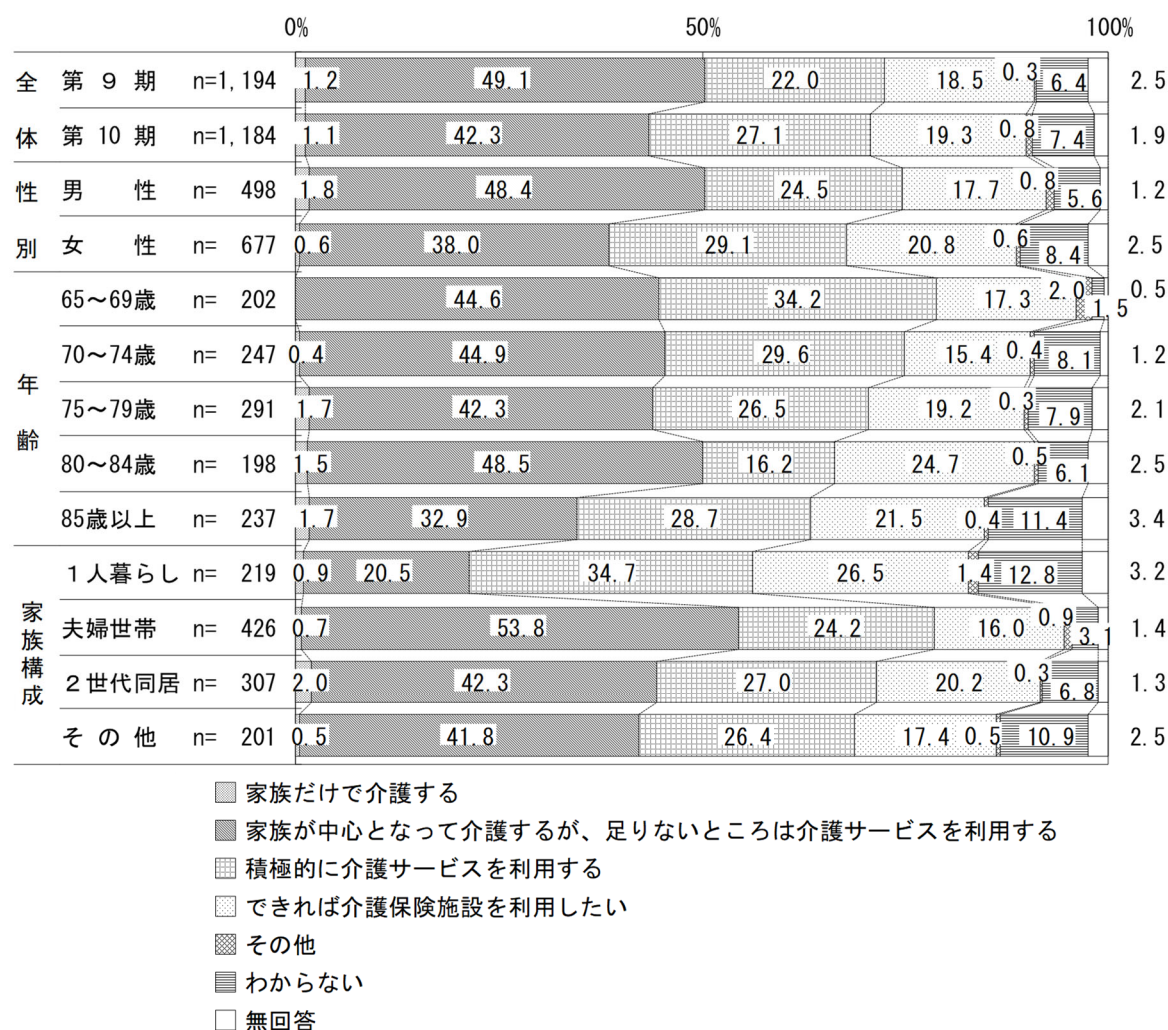


10 これからの生活について

(1) 自分や家族に介護が必要になった場合の希望

- ▶自分や家族に介護が必要になった場合の希望としては、「家族が中心となって介護するが、足りないところは介護サービスを利用する」が42.3%と最も高く、次いで「積極的に介護サービスを利用する」が27.1%、「できれば介護保険施設を利用したい」が19.3%となっています。第9期の調査結果に比べ「積極的に介護サービスを利用する」が5.1ポイント上昇しています。
- ▶性別にみると、男性は女性に比べ「家族が中心となって～」が10ポイント以上高くなっています。一方、女性は男性に比べ「積極的に介護サービスを利用する」と「できれば介護保険施設を利用したい」がそれぞれ3ポイント以上高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「積極的に介護サービスを利用する」が34.7%と最も高く、次いで「できれば介護保険施設を利用したい」が26.5%となっています。
- ▶「その他」として「要介護の状態による」などの記載がありました。

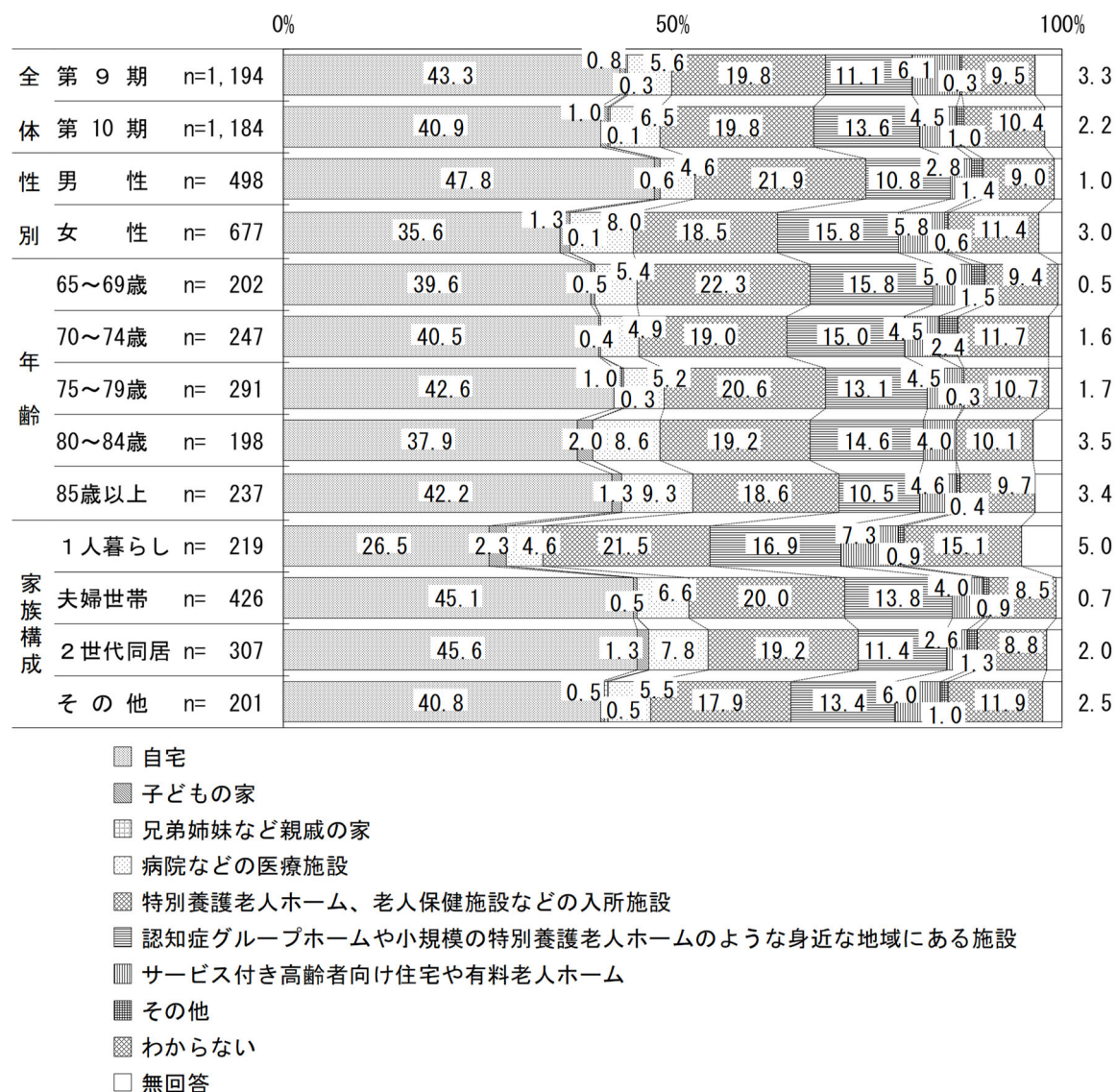
図表2-96 介護が必要となった場合



(2) 介護が必要となった場合に住みたいところ

- ▶介護が必要となった場合に住みたいところとしては、「自宅」が40.9%を占め、次いで「特別養護老人ホーム、老人保健施設などの入所施設」が19.8%、「認知症グループホームや小規模の特別養護老人ホームのような身近な地域にある施設」が13.6%、「病院などの医療施設」が6.5%、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム」が4.5%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「自宅」が低下し、「認知症グループホームや小規模の特別養護老人ホームのような身近な地域にある施設」が上昇しています。
- ▶「その他」として「要介護の状態による」などの記載がありました。

図表2-97 介護が必要となった場合に住みたいところ

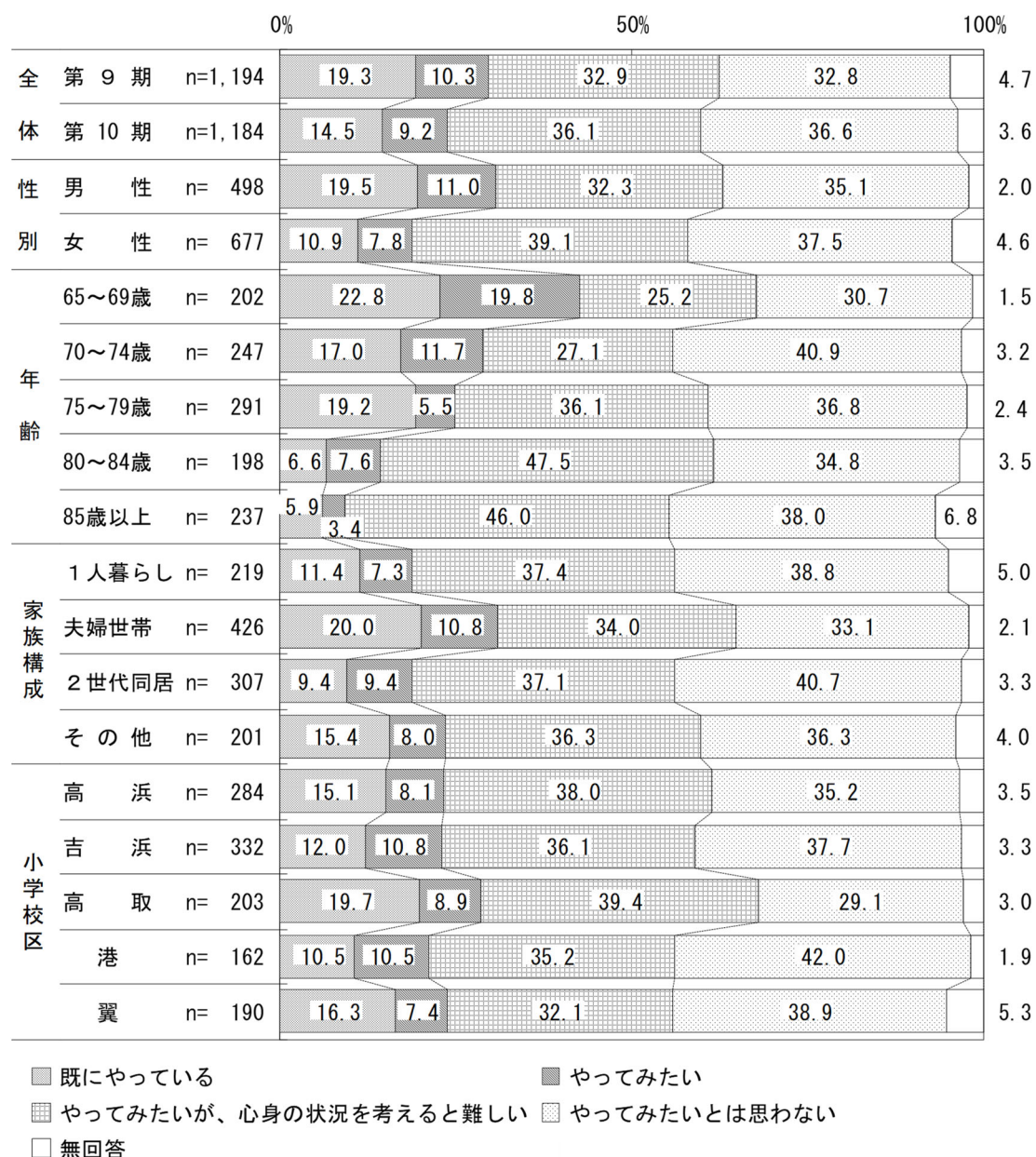


(3) 自分の能力や経験を生かした仕事や地域活動

▶「自分の能力や経験を生かして、できる範囲で仕事や地域での活動をやってみたいと思いますか」という設問については、「やってみたいとは思わない」が36.6%と最も高く、次いで「やってみたいが、心身の状況を考えると難しい」が36.1%となっています。「既にやっている」(14.5%)と「やってみたい」(9.2%)を合計した活動意向は23.7%であり、第9期の調査結果に比べ5.9ポイント低下しています。

▶年齢別にみると、若い年齢層ほど活動意向が高く65～69歳では42.6%となっています。

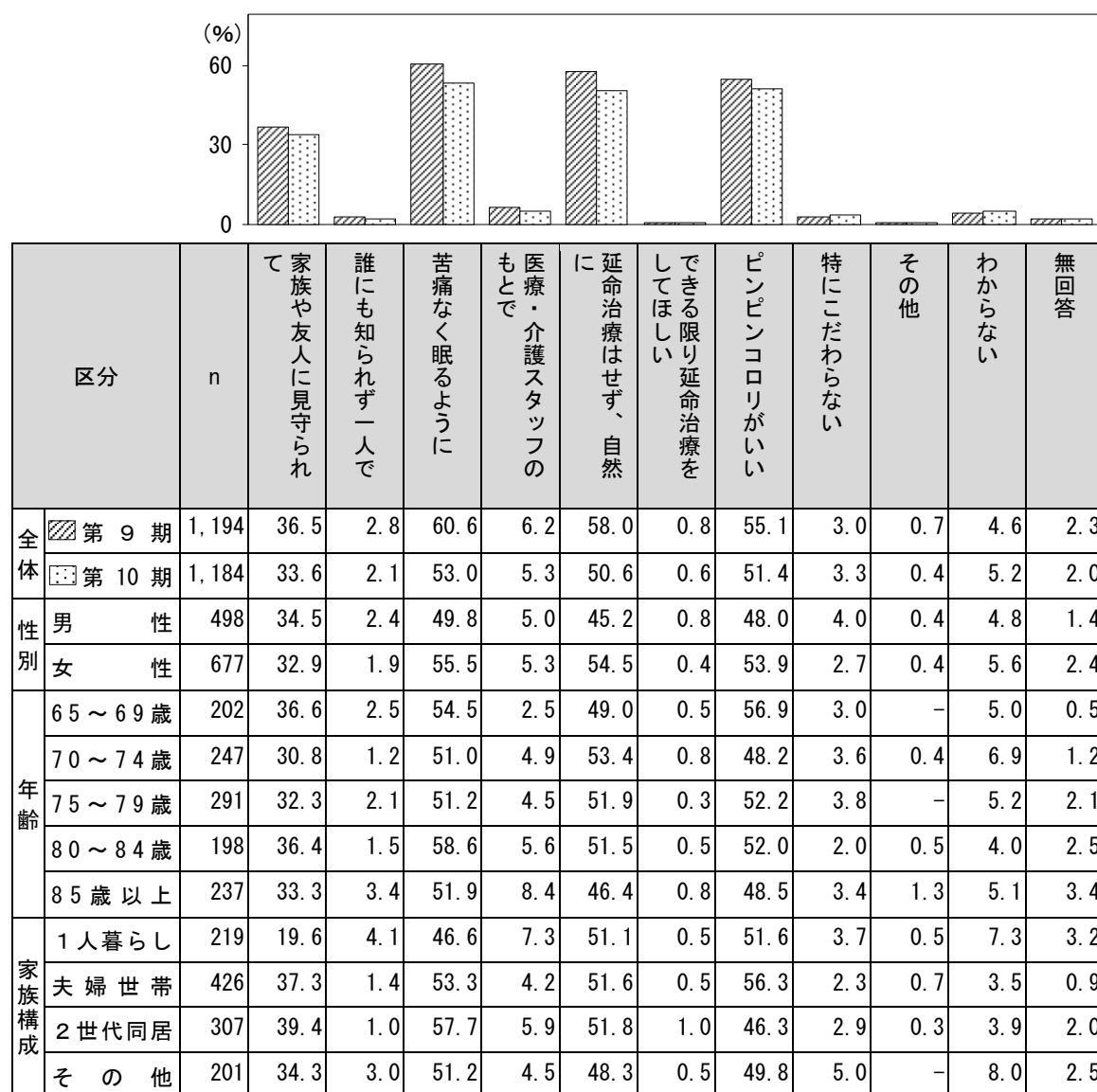
図表 2-98 自分の能力や経験を生かした仕事や地域活動をやってみたいか



(4) 人生の最期をどのように迎えたいと思うか

- ▶「人生の最期をどのように迎えたいと思いますか」という設問については、「苦痛なく眠るように」が53.0%と最も高くなっています。次いで「ピンピンコロリがいい」が51.4%、「延命に治療はせず、自然に」が50.6%と、これらも50%を超える高い割合です。
- ▶性別にみると、「延命治療はせず、自然に」「ピンピンコロリがいい」および「苦痛なく眠るように」は男性に比べ女性が5ポイント以上高くなっています。

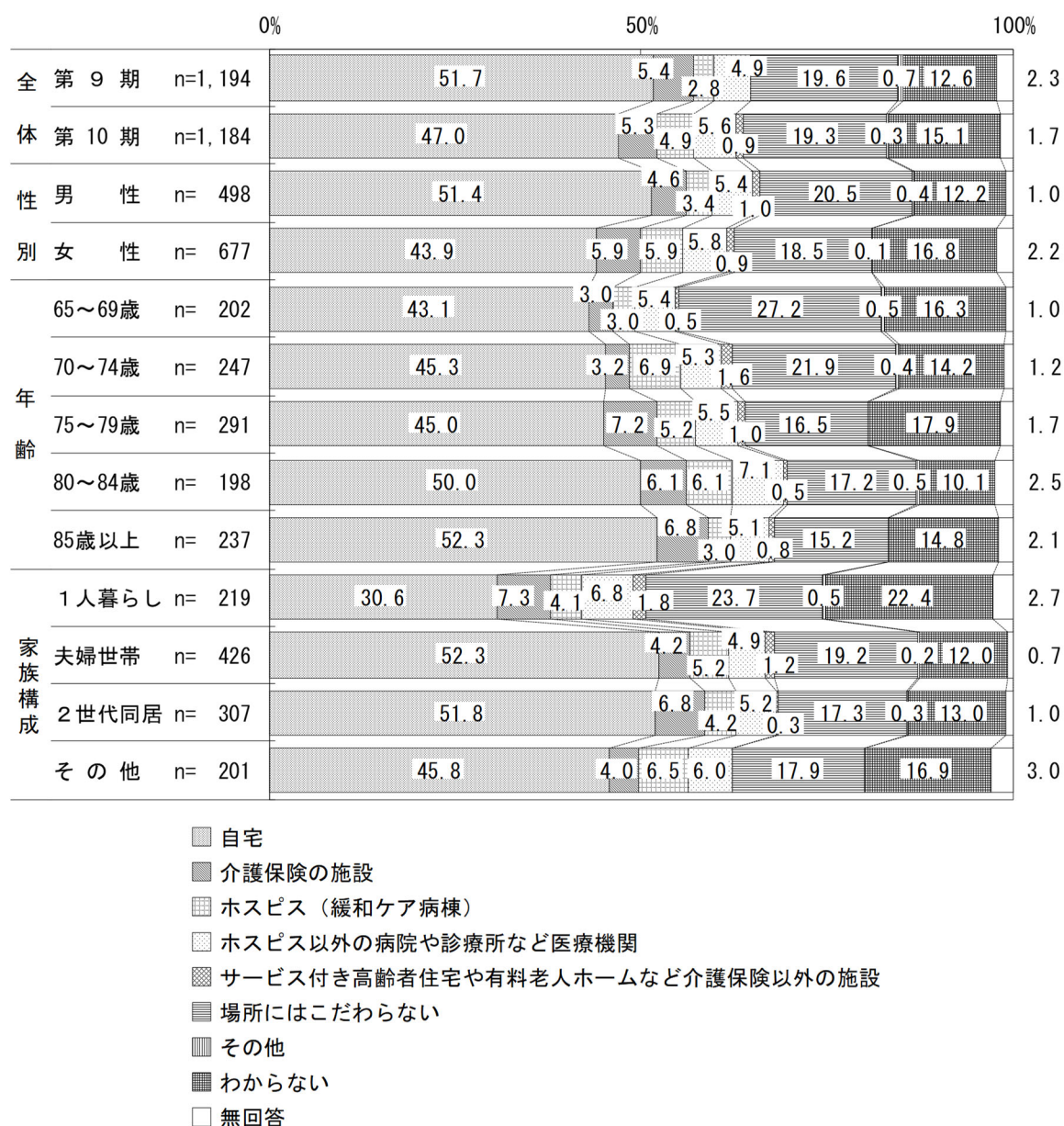
図表2-99 人生の最期をどのように迎えたいと思うか（複数回答）



(5) 人生の最期をどこで迎えたいか

- ▶「人生の最期をどこで迎えたいとお考えですか」という設問については、「自宅」が47.0%と最も高く、次いで「場所にはこだわらない」が19.3%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「自宅」が4.7ポイント低下しています。
- ▶性別にみると、女性に比べ男性は「自宅」が7.5ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは他の家族構成に比べ「自宅」が低くなっている一方で、「場所にはこだわらない」「わからない」等が高くなっています。

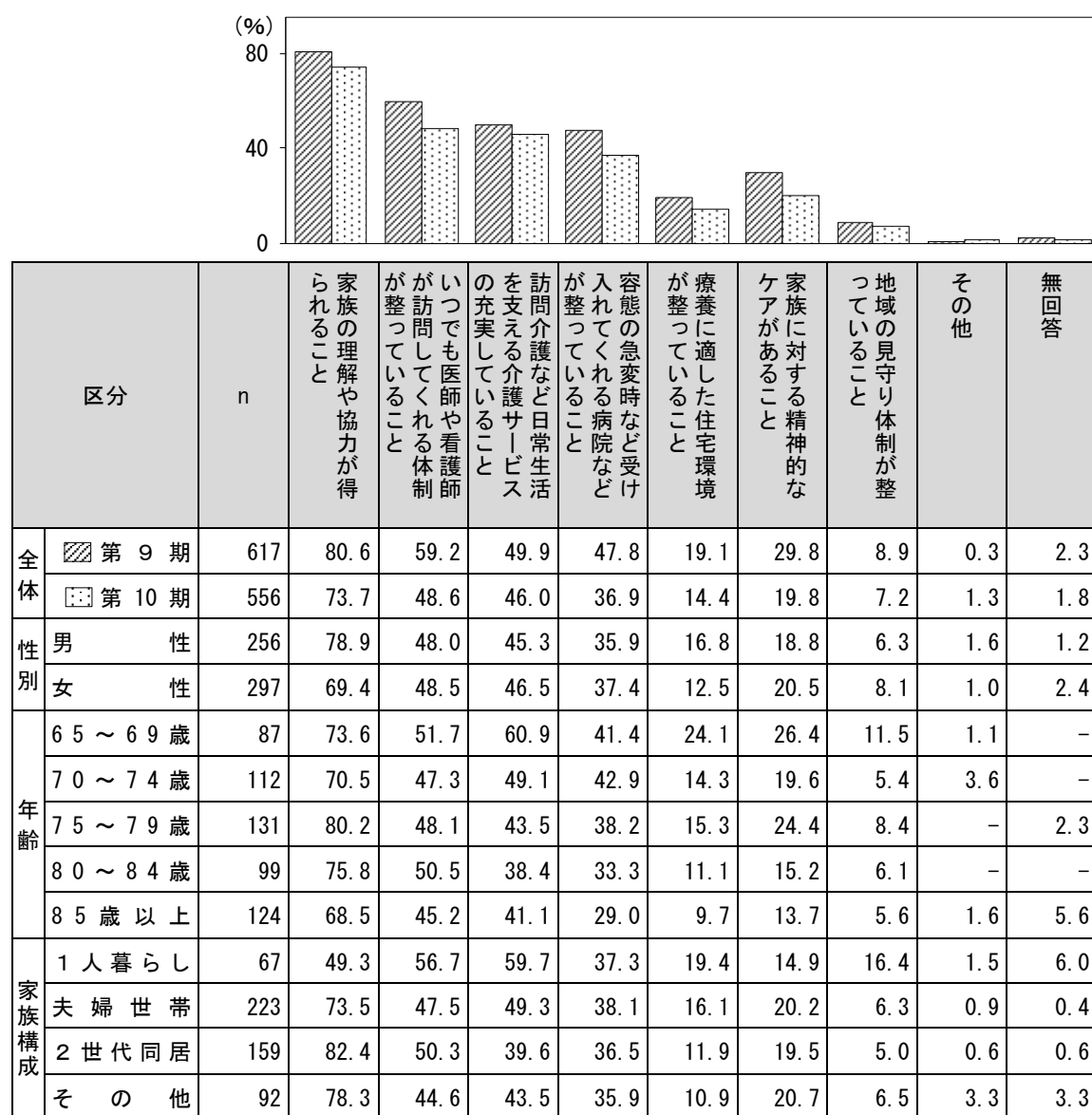
図表2-100 人生の最期をどこで迎えたいと考えるか



(6) 自宅で最後を迎えるための条件

▶自宅で人生の最期を迎えたいと回答した556人に、どのような条件がそろえば、自宅で安心して最期を迎えられると思うかをお聞きしたところ、「家族の理解や協力が得られること」が73.7%と最も高く、次いで「いつでも医師や看護師が訪問してくれる体制が整っていること」が48.6%、「訪問介護など日常生活を支える介護サービスの充実していること」が46.0%、「容態の急変時など受け入れてくれる病院などが整っていること」が36.9%などとなっています。

図表2-101 自宅で安心して人生の最期を迎えるための条件（複数回答）

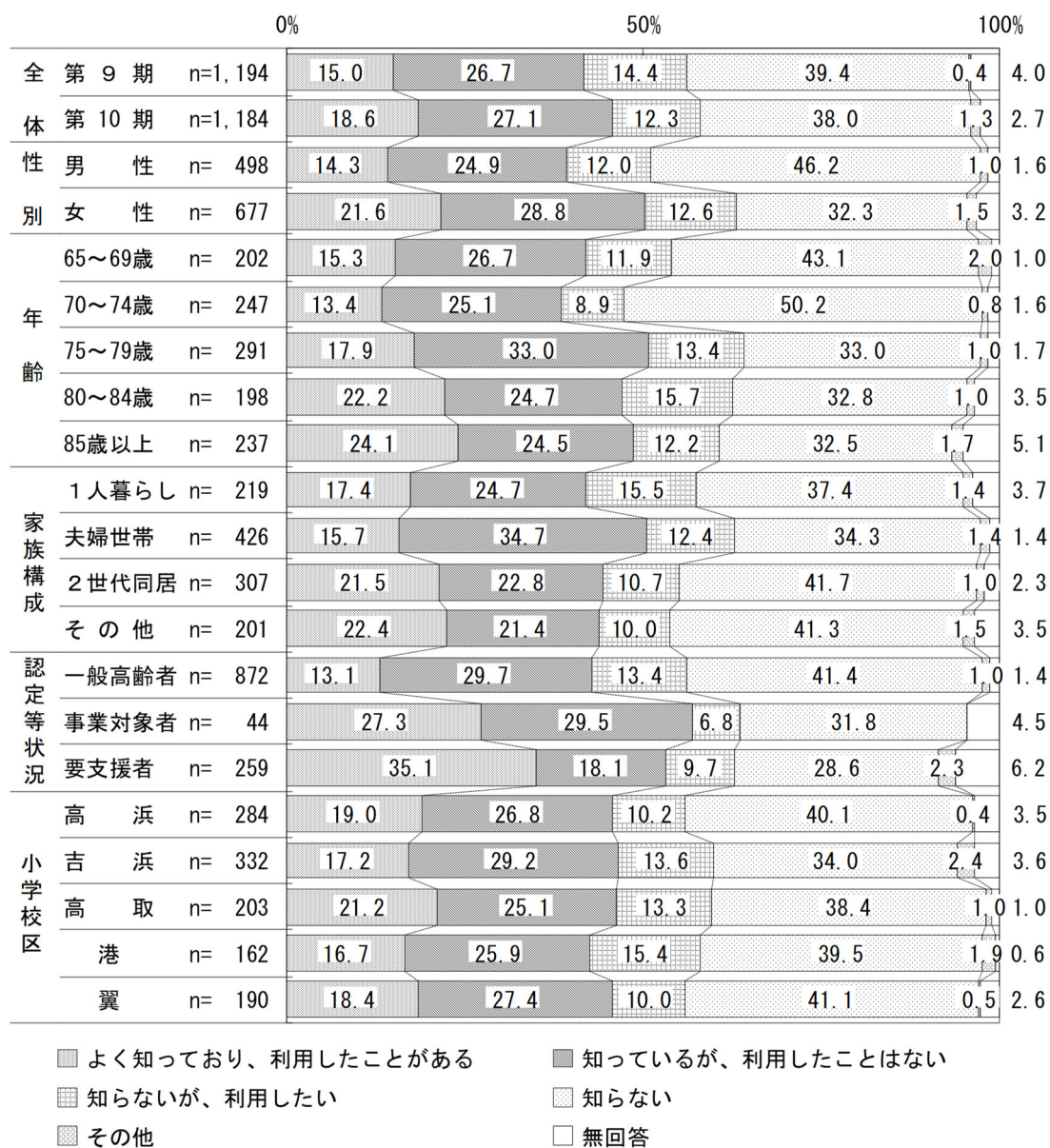


1 1 介護保険について

(1) 高浜市地域包括支援センターの認知度

▶高浜市地域包括支援センターについては、「よく知っており、利用したことがある」は18.6%、「知っているが、利用したことはない」は27.1%となっており、これらの合計《知っている》は45.7%です。第9期の調査結果に比べ《知っている》が4ポイント上昇しています。

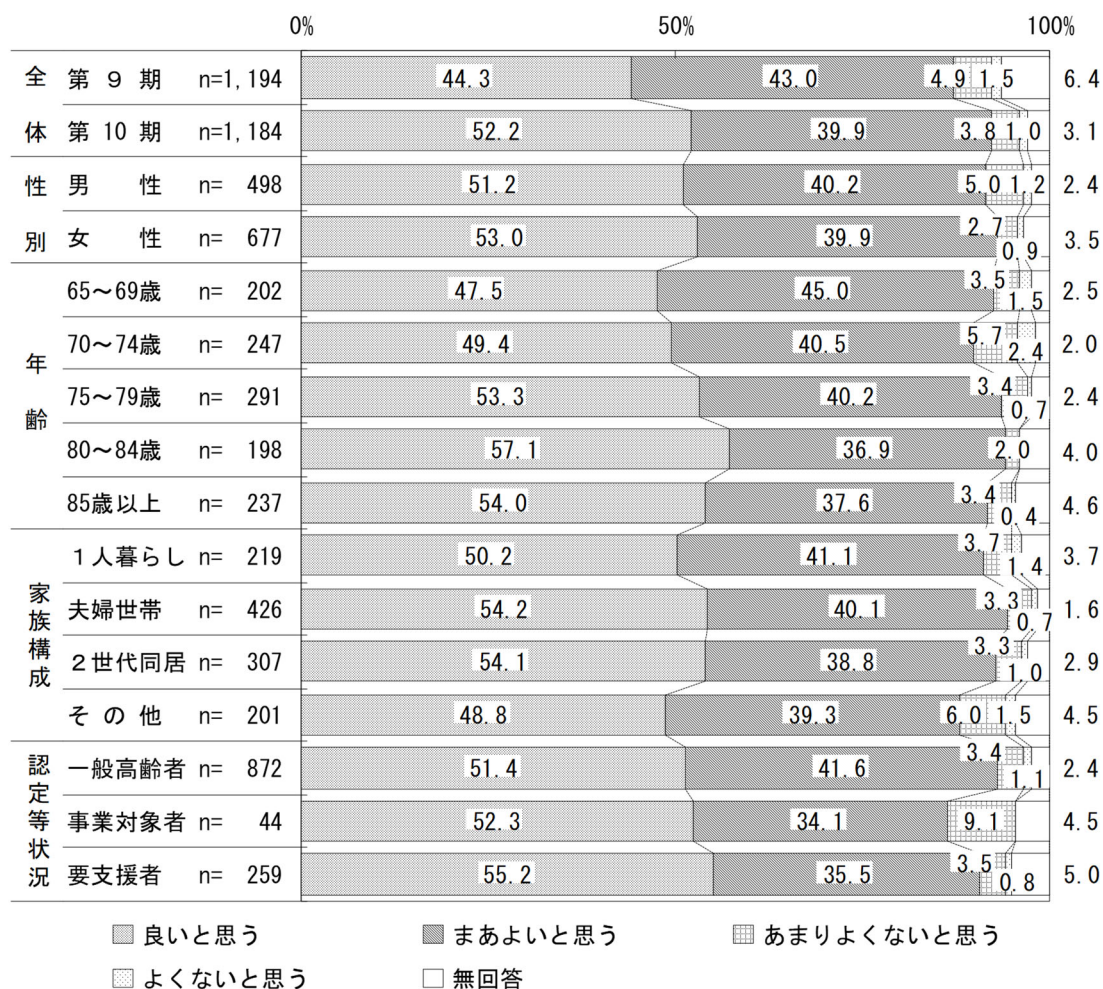
図表 2-102 高浜市地域包括支援センターの認知度



(2) 介護保険制度について

▶介護を社会全体で支える仕組みである介護保険制度については、「良いと思う」が52.2%、「まあよいと思う」が39.9%であり、これらの合計《良い》が92.1%を占めています。
第9期の調査結果に比べ《良い》が4.8ポイント上昇しています。

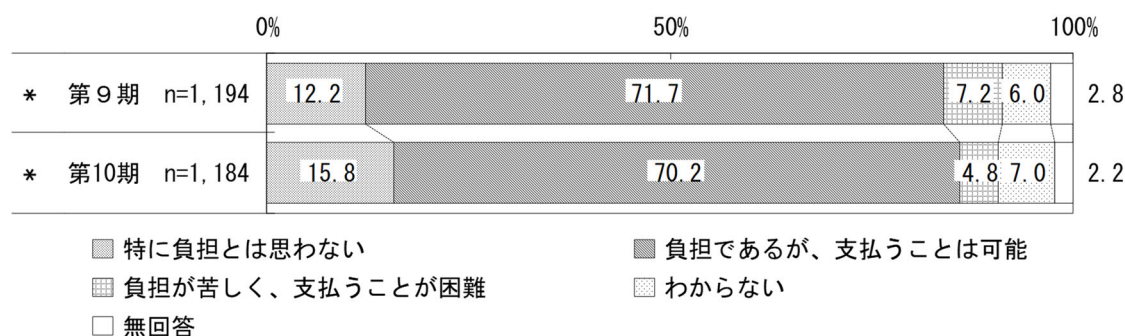
図表2-103 介護保険制度について



(3) 介護保険料の負担感

▶現在支払っている介護保険料については、「負担であるが、支払うことは可能」が70.2%を占めています。次いで「特に負担とは思わない」が15.8%、「負担が苦しく、支払うことが困難」が4.8%です。第9期の調査結果に比べ「特に負担とは思わない」が3.6ポイント上昇し「負担が苦しく、支払うことが困難」が2.4ポイント低下しています。

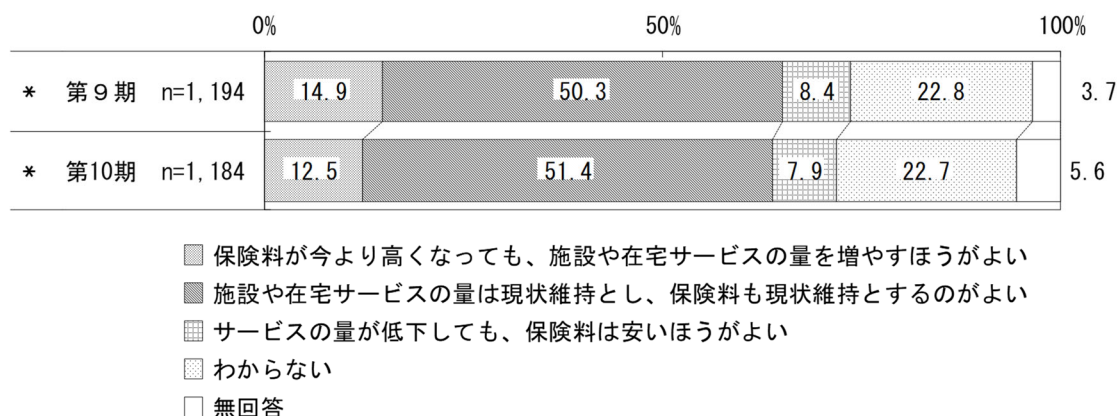
図表 2-104 介護保険料の負担感



(4) 介護保険サービスの水準と保険料

▶介護保険サービスの水準と保険料の関係については、「施設や在宅サービスの量は現状維持とし、保険料も現状維持とするのがよい」が51.4%と最も高くなっています。次いで「わからない」が22.7%、「保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの量を増やすほうがよい」が12.5%、「サービスの量が低下しても、保険料は安いほうがよい」が7.9%です。第9期の調査結果に比べ「施設や在宅サービスの量は現状維持とし、保険料も現状維持とするのがよい」が上昇した一方、「保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの量を増やすほうがよい」および「サービスの量が低下しても、保険料は安いほうがよい」が低下しています。

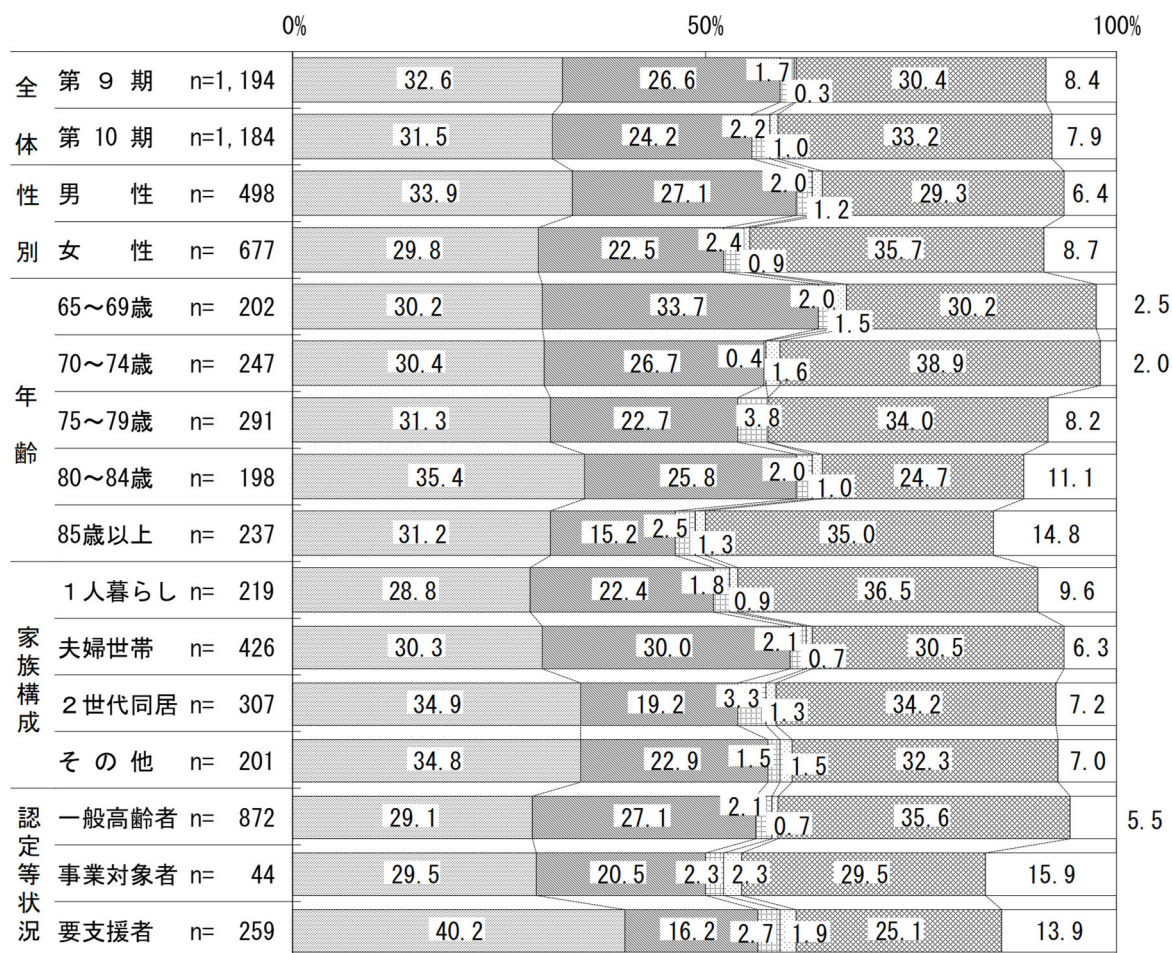
図表 2-105 介護保険サービスの水準と保険料



(5) 居宅介護支援券の給付（横だしサービス）について

▶高浜市は、介護認定を受けて自宅で介護を受けている方に、介護度に応じて居宅介護支援券の給付を行っています（横だしサービス）。このことについての考えとしては、「わからない」が33.2%と最も高くなっていますが、次いで「保険料の負担があっても、居宅介護支援券の給付を現行通り行う」が31.5%、「居宅介護支援券の給付金額や内容の見直しを行い、保険料の負担を少なくする」が24.2%、「居宅介護支援券の給付は行う必要はない」が2.2%となっています。第9期の調査結果に比べ「わからない」が2.8ポイント上昇しています。

図表ク-106 居宅介護支援券の給付（横だしサービス）について



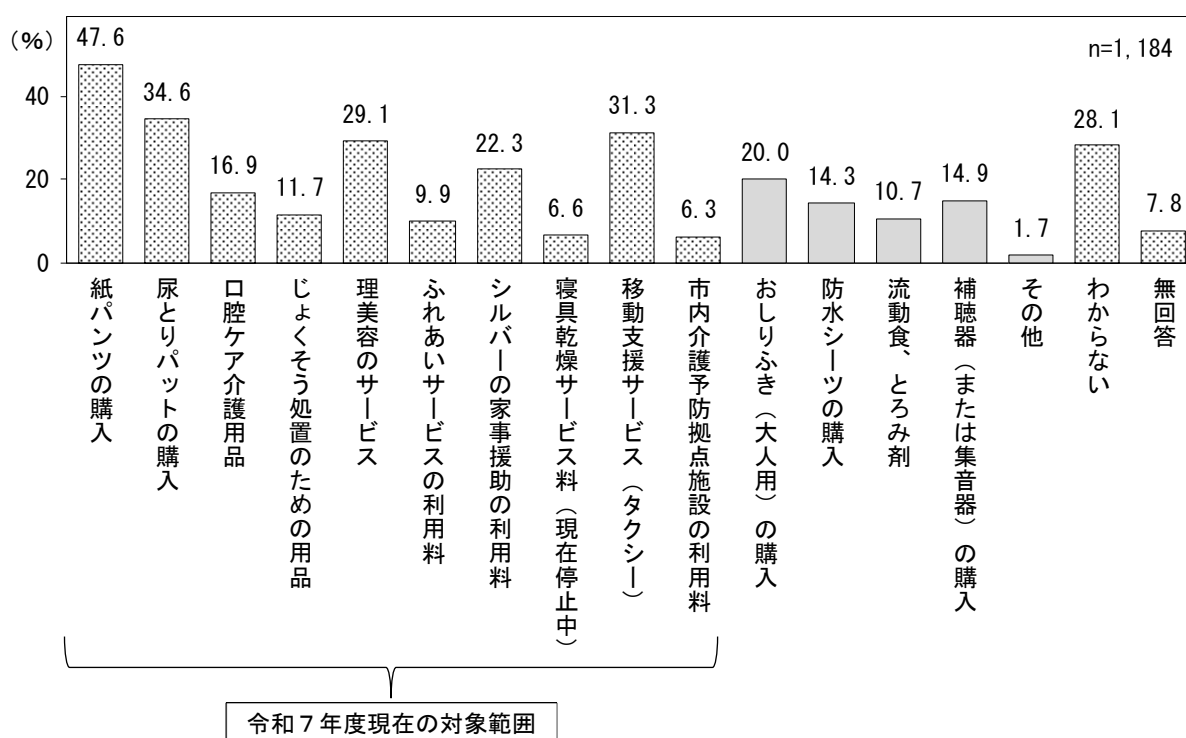
- 保険料の負担があっても、居宅介護支援券の給付を現行通り行う
- 居宅介護支援券の給付金額や内容を見直し、保険料の負担を少なくする
- 居宅介護支援券の給付は行う必要はない
- その他
- わからない
- 無回答

(6) 居宅介護支援券の給付対象サービス

▶居宅介護支援券の給付対象にすべきサービスについては、「紙パンツの購入」が47.6%と最も高く、次いで「尿とりパットの購入」が34.6%、「移動支援サービス（タクシー）」が31.3%、「理美容のサービス」が29.1%、「シルバーの家事援助利用料」が22.3%などとなっています。

▶「その他」として図表2-108の記載がありました。

図表2-107 居宅介護支援券の給付対象サービス（複数回答）



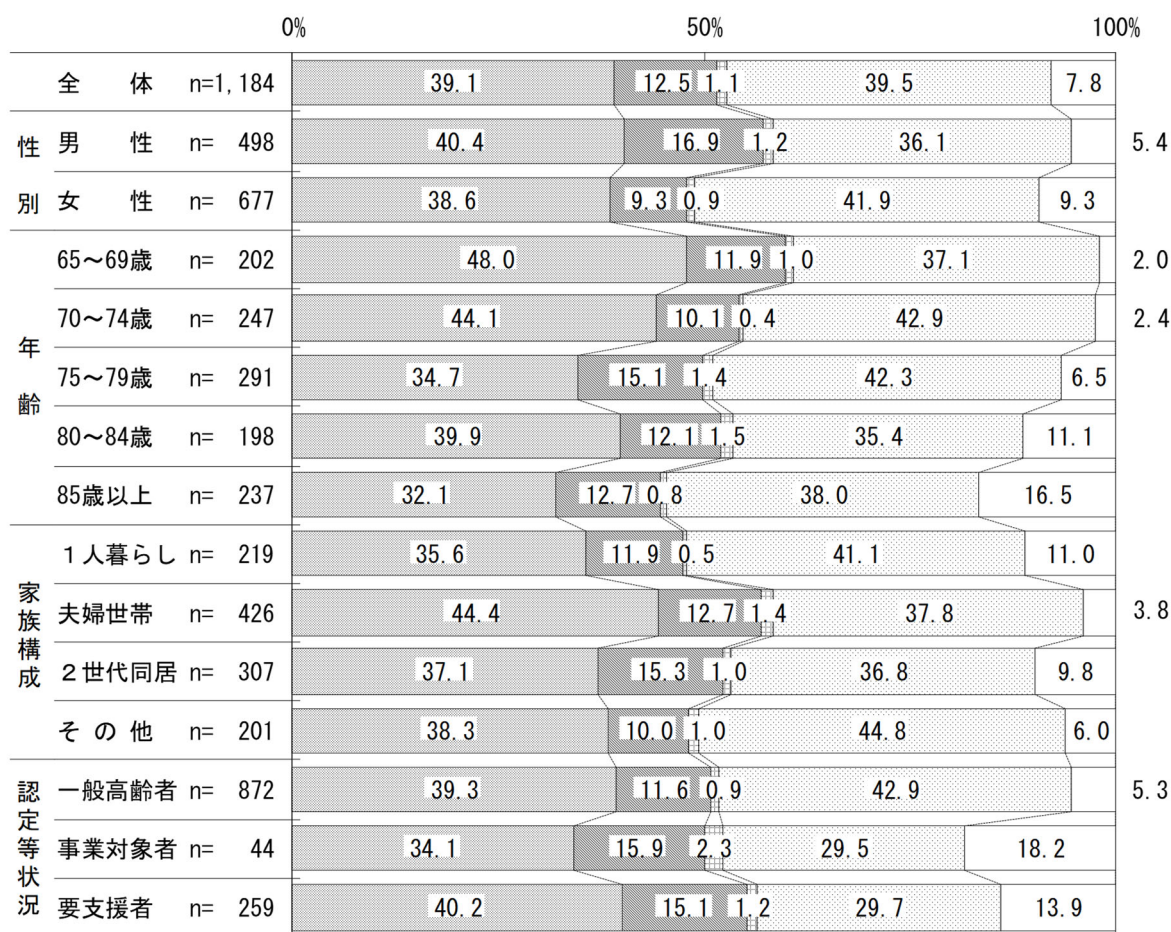
図表2-108 「その他」の記載内容

- ・日用品
- ・介護用手袋等
- ・ケア用品
- ・洗剤等
- ・食品等
- ・入浴
- ・入れ歯洗浄剤
- ・介護されている人に聞くべき
- ・利用している人の意見を聞いて必要な物はすべて使えるとよいと思う
- ・ほとんど全部に利用できるようにと思う
- ・介護される人にみあった商品サービス
- ・移動支援サービスの金額が少なく、病院まで行けない金額だから、もっと金額を上げてほしい
- ・その人に応じて

(7) 居宅介護支援券の給付対象者

- ▶居宅介護支援券の給付対象者についてどうすべきかをたずねたところ、「わからない」が39.5%と最も高く、次いで「要支援・要介護認定を受けている方のみを補助の対象とする」が39.1%、「保険料の負担が増えても現行どおり、事業対象者も補助の対象とする」が12.5%などとなっています。
- ▶「要支援・要介護認定を受けている方のみを補助の対象とする」を年齢別にみると、年齢が下がるにしたがい高くなる傾向にあります。また、家族構成別では夫婦世帯が最も高くなっています。

図表2-109 住宅改修費の補助の対象者

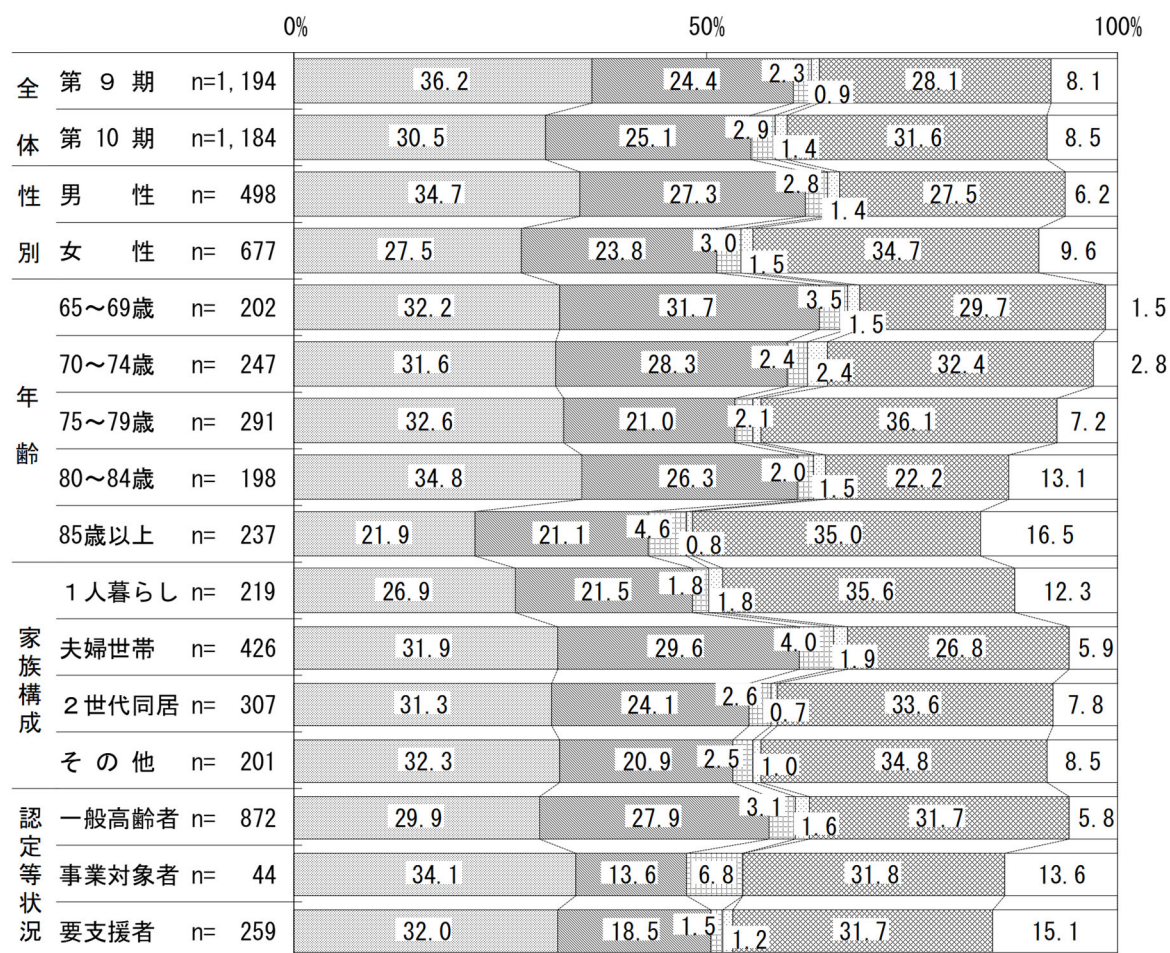


- 要支援・要介護認定を受けている方のみを補助の対象とする
- 保険料の負担が増えても現行どおり、事業対象者も補助の対象とする
- その他
- わからない
- 無回答

(8) 住宅改修費の補助について

▶高浜市は、65歳以上の人に、手すりの設置、玄関先の段差解消など転倒防止等の予防を行うために介護保険制度に上乗せをして、住宅改修費の補助を行っています（横だしサービス）。このことについての考えとしては、「わからない」が31.6%と最も高く、次いで「保険料の負担があっても、住宅改修費の補助を現行通り行う」が30.5%、「住宅改修費の補助金額の見直しを行い、保険料の負担を少なくする」が25.1%、「住宅改修費の補助は行う必要はない」が2.9%となっています。第9期の調査結果に比べ「保険料の負担があっても～現行通り行う」が5.7ポイント低下した一方、「わからない」が3.5ポイント、「～保険料の負担を少なくする」が0.7ポイント、「住宅改修費の補助は行う必要はない」が0.6ポイント上昇しています。

図表 2-110 住宅改修費の補助について

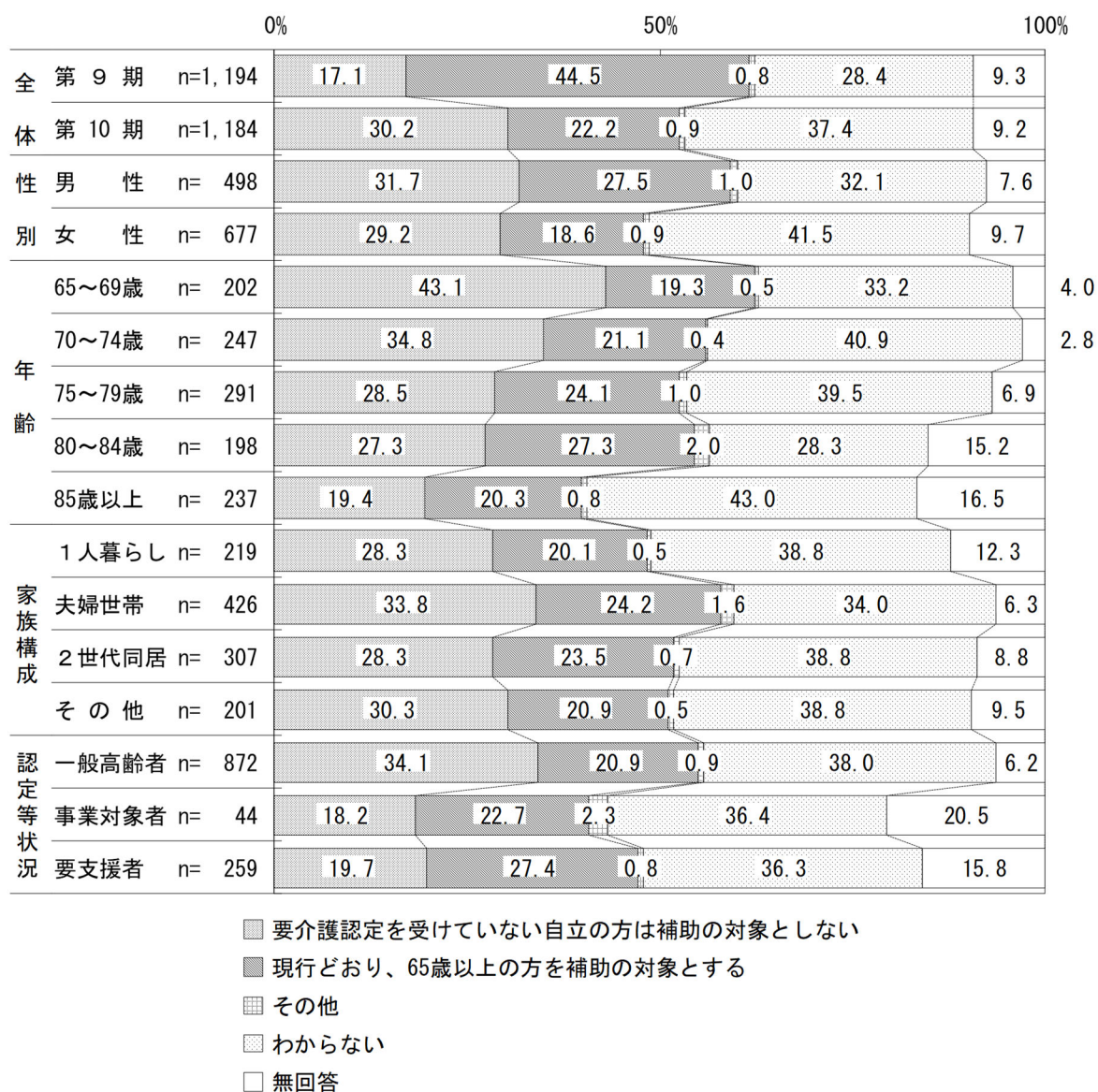


- 保険料の負担があっても、住宅改修費の補助を現行通り行う
- 住宅改修費の補助金額の見直しを行い、保険料の負担を少なくする
- 住宅改修費の補助は行う必要はない
- その他
- わからない
- 無回答

(9) 住宅改修費の補助の対象者

▶住宅改修費の補助の対象者についてどうすべきかをたずねたところ、「わからない」が37.4%と最も高く、次いで「要介護認定を受けていない自立の方は補助の対象としない」が30.2%、「現行どおり、65歳以上の方を補助の対象とする」が22.2%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「現行どおり、65歳以上の方を補助の対象とする」が20ポイント以上低下した一方、「要介護認定を受けていない自立の方は補助の対象としない」が13.1ポイント上昇しています。

図表 2-111 住宅改修費の補助の対象者



1 2 高齢者施策について

(1) 高齢者施策に関する満足度

▶高浜市の高齢者施策について、①健康づくりやフレイル予防の施策、②医療の提供体制、③介護保険サービス、④生活支援サービスや見守り体制、⑤住まいに関する施策、⑥生きがいづくりに関する施策、⑦相談支援体制の7つの項目の満足度をお聞きしたところ、いずれの項目も「ふつう」が50%以上を占めています。《満足度》が最も高かったのは③介護保険サービスで13.9%、次いで②医療の提供体制が13.8%、⑦相談支援体制が12.5%、①健康づくりやフレイル予防の施策で12.2%などとなっています。第9期の調査結果に比べ、いずれの項目も《満足度》が低下しており、特に③介護保険サービスは4.6ポイント低下しています。

図表 2-112 高齢者施策の満足度

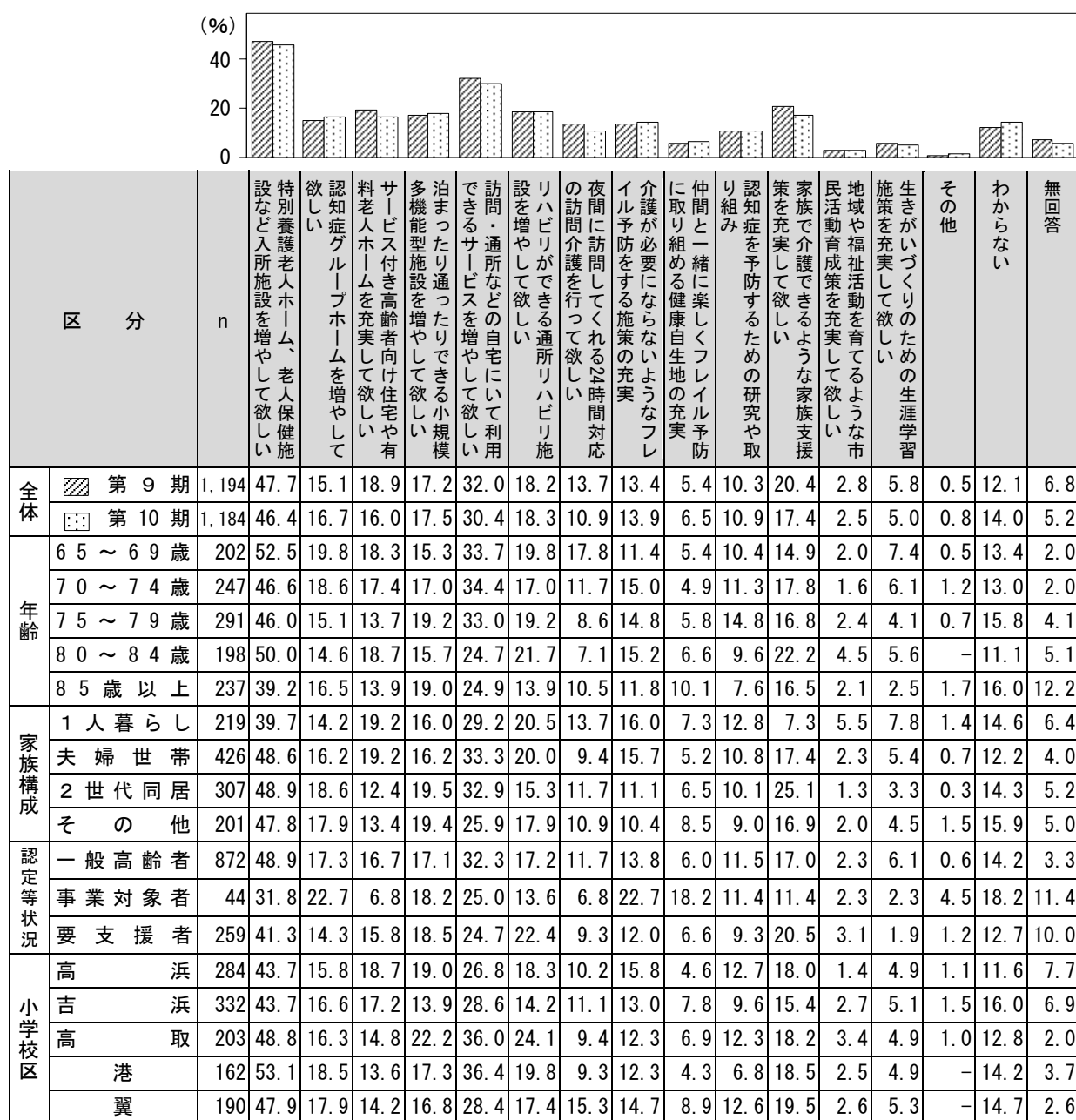
単位：％

区 分	第9期 n=1,194 第10期 n=1,184	満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	《満足度》 (満足+まあ満足)
①健康づくりやフレイル予防の施策	第9期	2.4	12.9	55.0	3.9	2.1	23.7	15.3
	第10期	1.9	10.3	58.7	4.1	1.1	23.9	12.2
②医療の提供体制	第9期	3.8	12.2	54.4	4.8	1.9	22.9	16.0
	第10期	2.4	11.4	55.9	4.7	1.9	23.6	13.8
③介護保険サービス	第9期	3.2	15.3	52.2	4.7	2.2	22.4	18.5
	第10期	2.6	11.3	56.8	4.7	1.7	22.9	13.9
④生活支援サービスや見守り体制	第9期	2.5	11.9	55.1	5.1	1.9	23.5	14.4
	第10期	1.6	10.2	57.9	5.3	1.4	23.5	11.8
⑤住まいに関する施策	第9期	1.8	11.1	56.3	5.2	1.8	23.8	12.9
	第10期	1.4	7.3	60.5	5.1	1.7	24.1	8.7
⑥生きがいづくりに関する施策	第9期	1.9	11.6	55.2	4.9	2.4	24.0	13.5
	第10期	1.2	8.3	60.0	5.0	1.6	24.0	9.5
⑦相談支援体制	第9期	2.8	12.4	53.6	3.3	2.4	25.6	15.2
	第10期	2.0	10.5	57.7	4.9	1.4	23.5	12.5

(2) 介護保険サービス及び高齢者施策の充実のため市に希望すること

▶介護保険サービスおよび高齢者施策の充実のため、市に希望することとしては、「特別養護老人ホーム、老人保健施設などの入所施設を増やして欲しい」が46.4%と最も高く、次いで「訪問・通所などの自宅にいて利用できるサービスを増やして欲しい」が30.4%、「リハビリができる通所リハビリ施設を増やして欲しい」が18.3%、「泊まったり通ったりできる小規模多機能型施設を増やして欲しい」が17.5%、「家族で介護できるような家族支援策を充実して欲しい」が17.4%、「認知症グループホームを増やして欲しい」が16.7%、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームを充実して欲しい」が16.0%などとなっています。

図表2-113 市に希望すること（複数回答・3つまで）



1 3 活動能力の指標について

(1) 手段的自立度（IADL）

- ▶高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標[※]のうち、手段的自立度（IADL）^{※※}をみると、低下者の割合は25.2%です。年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあり、女性は85歳以上になると50%を超えます。
- ▶小学校区別にみると、高浜小学校区の低下者の割合が高くなっています。

※老研式活動能力指標とは、1986年に東京都老人総合研究所（現東京都健康長寿医療センター研究所）において開発された指標。評価の基礎となる13の設問の回答を点数化し、その点数に応じて「高い」「やや低い」「低い」などと評価します。本項では、「やや低い」と「低い」を「低下者」として評価しました。

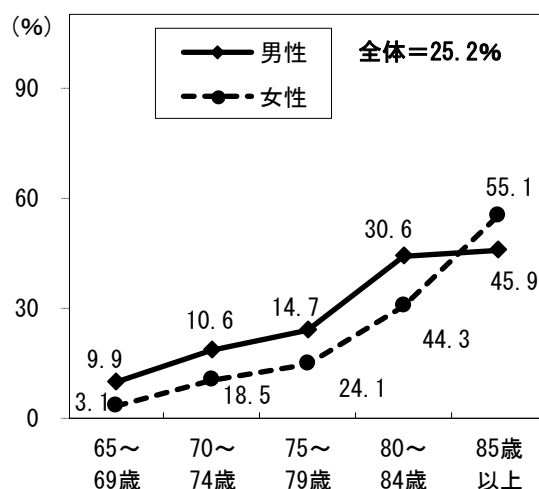
※※手段的自立度とは、交通機関の利用や電話の応対、買物、食事の支度、家事、洗濯、服薬管理、金銭管理など、活動的な日常生活をおくるための動作の能力をいいます。

【評価基準】 下記5項目について、5点満点で、4点以下を「低下者」として評価しました。

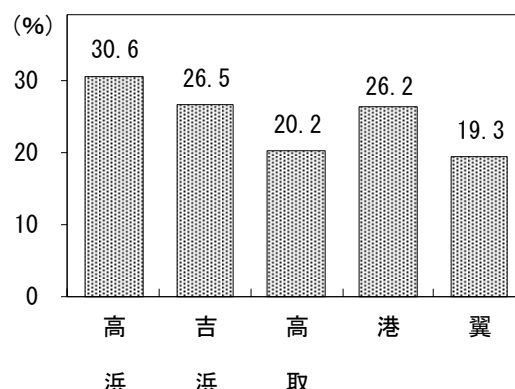
区 分	できるし、している	できるけどしていない	できない
問33 バスや電車で一人で外出していますか	1点	1点	0点
問34 自分で食品・日用品の買い物をしていますか	1点	1点	0点
問36 自分で食事の用意をしていますか	1点	1点	0点
問38 自分で請求書の支払いをしていますか	1点	1点	0点
問39 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1点	1点	0点

図表2-114 手段的自立度（IADL）低下者の割合

①性・年齢別



②小学校区別



(2) 知的能動性

▶老研式活動能力指標のうち、知的能動性※の低下者の割合は57.9%です。年齢別にみると、男性は70～74歳、女性は85歳以上がピークです。男女とも75～79歳で一旦低下しますが、再び上昇に転じます。

▶小学校区別にみると、高浜小学校区の低下者の割合が高くなっています。

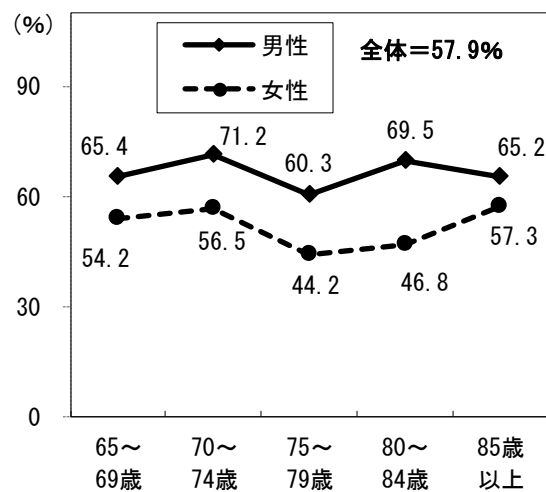
※知的能動性とは、役所の書類を書く、新聞や本などの読書、健康情報への関心など、余暇や創作など生活を楽しむ能力をいいます。

【評価基準】 下記4項目について、4点満点で、3点以下を「低下者」として評価しました。

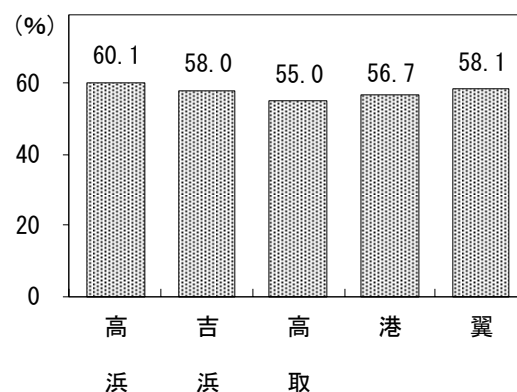
区 分	は い	いいえ
問40 年金などの書類を書くことができますか	1点	0点
問41 新聞を読んでいますか	1点	0点
問42 本や雑誌を読んでいますか	1点	0点
問43 健康についての記事や番組に関心がありますか	1点	0点

図表2-115 知的能動性低下者の割合

①性・年齢別



②小学校区別



(3) 社会的役割

▶老研式活動能力指標のうち、社会的役割※の低下者の割合は68.0%です。男性は年齢による差がみられませんが、女性は年齢が上がるにしたがい上昇する傾向にあります。

▶小学校区別にみると、高浜小学校区の低下者の割合が高くなっています。

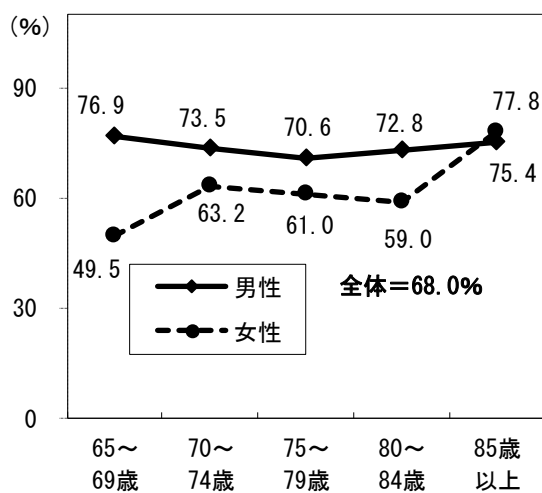
※社会的役割とは、主に友人宅への訪問、他人の相談、見舞いなど、地域で社会的な役割をはたす能力をいいます。

【評価基準】 下記4項目について、4点満点で、3点以下を「低下者」として評価しました。

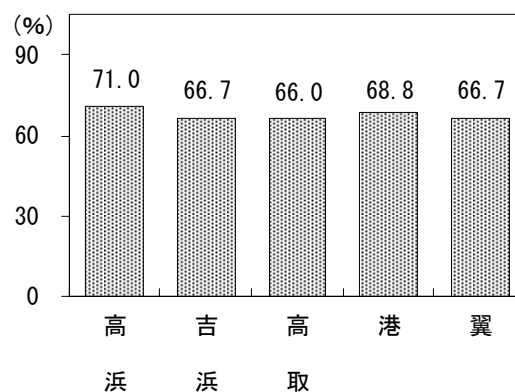
区 分	は い	いいえ
問45 友人の家を訪ねていますか	1 点	0 点
問46 家族や友人の相談にのっていますか	1 点	0 点
問47 病人を見舞うことができますか	1 点	0 点
問48 若い人に自分から話しかけることがありますか	1 点	0 点

図表 2-116 社会的役割低下者の割合

①性・年齢別



②小学校区別



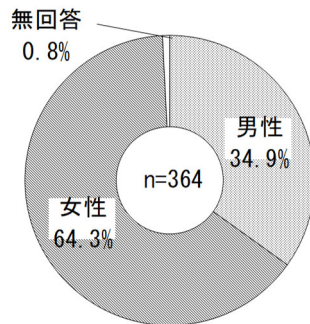
第3章 在宅介護実態調査

1 調査対象者の家族や生活の状況

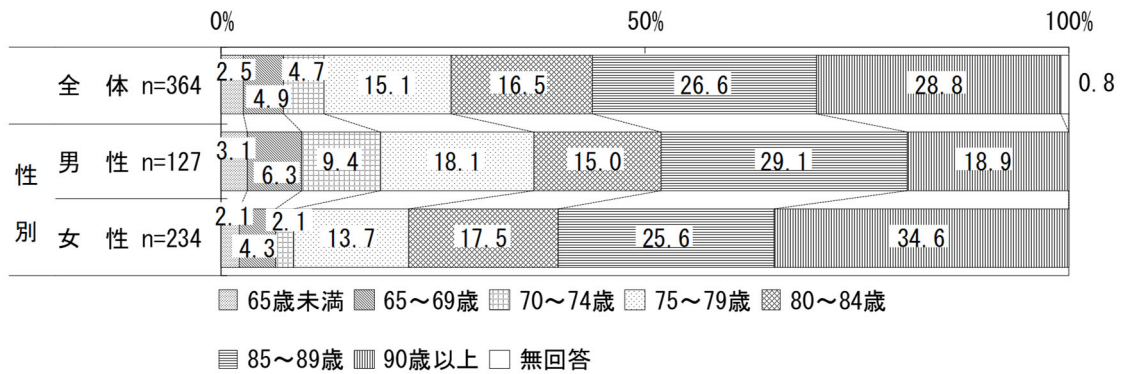
(1) 性別・年齢別

- ▶調査対象者の性別は、男性が34.9%、女性が64.3%、無回答が0.8%です（図表3－1）。
- ▶年齢は、第2号被保険者である65歳未満が2.5%、65～74歳が9.6%であり、75歳以上が87.0%を占めています（図表3－2）。

図表3－1 性別



図表3－2 年齢別



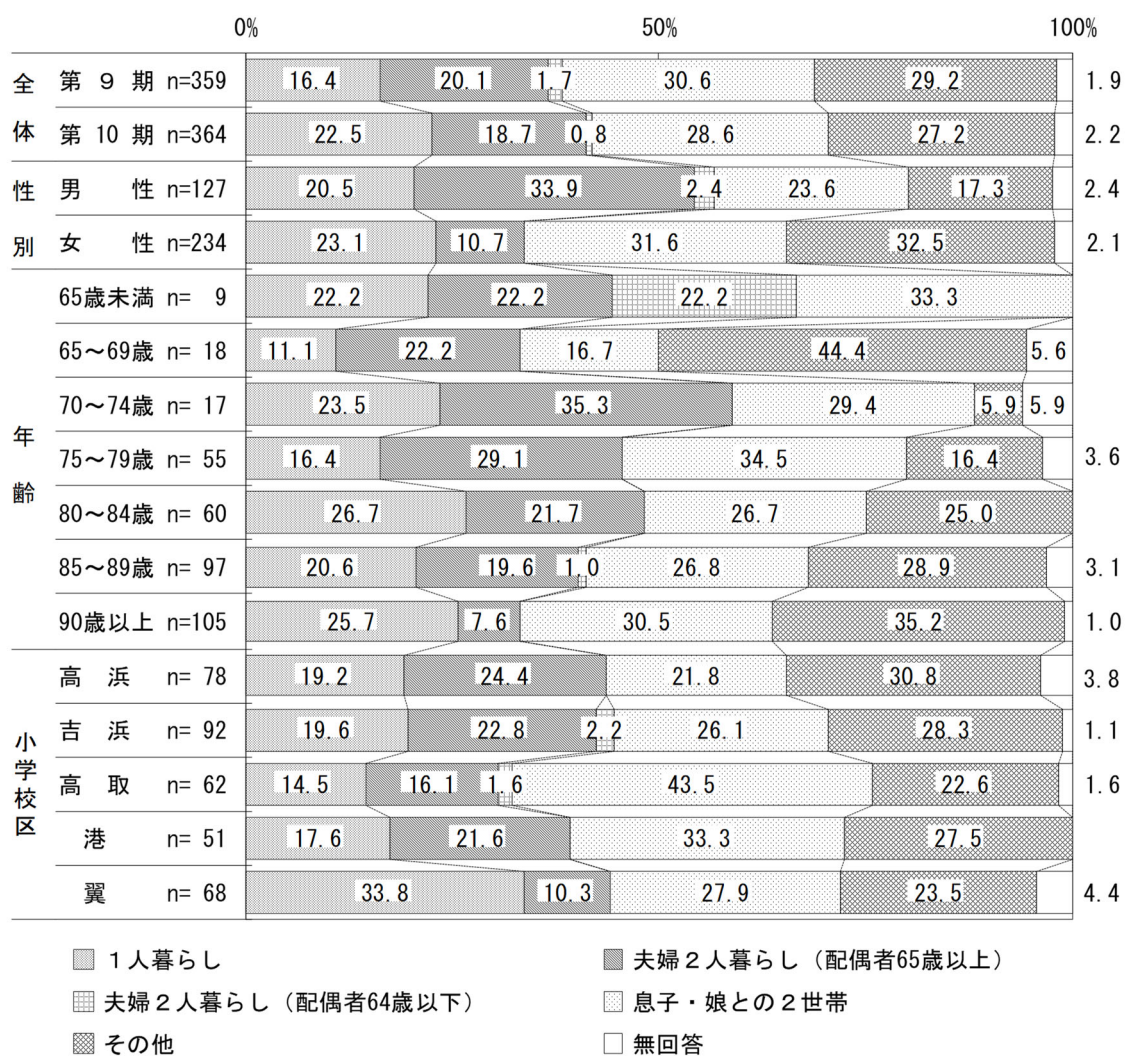
(2) 家族構成

① 家族構成

▶家族構成は、「息子・娘との2世帯」が28.6%と最も高くなっています。「1人暮らし」と「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の合計は41.2%です。第9期の調査結果に比べ「1人暮らし」が6.1ポイント上昇しています。

▶小学校区別にみると、「1人暮らし」が翼小学校区において30%を超えています。

図表 3-3 家族構成

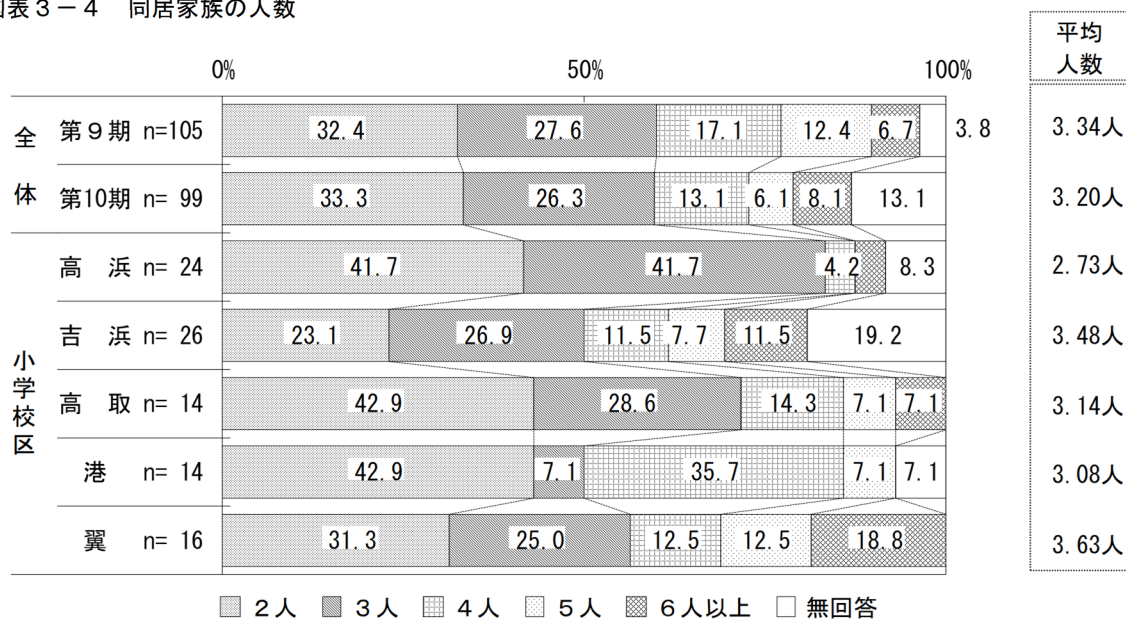


② 同居家族の人数

▶家族構成について「その他」と回答した99人の同居家族の人数は、「2人」が33.3%と最も高く、次いで「3人」が26.3%となっています。同居家族の平均人数は3.20人で、第9期の調査結果に比べ約0.14人減少しています。

▶平均人数を小学校区別にみると、高浜小学校区が2.73人で最も少なくなっています。

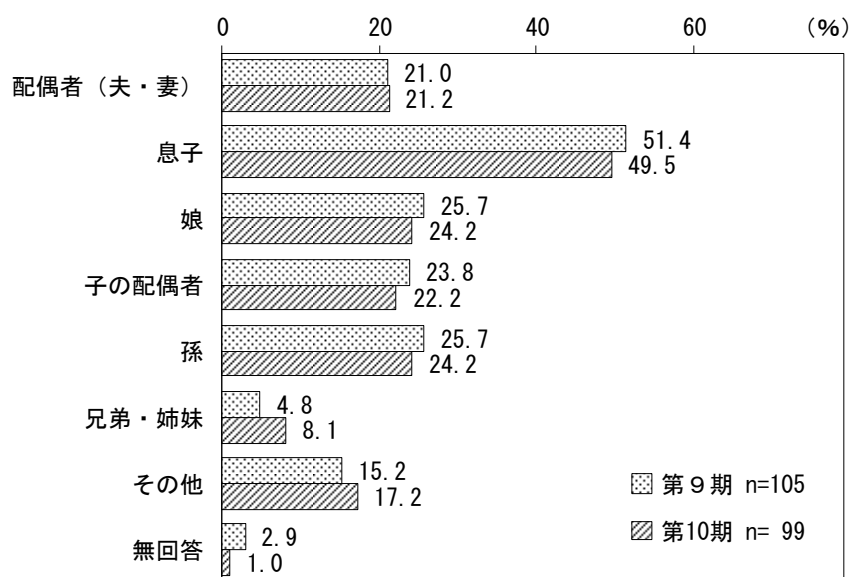
図表 3-4 同居家族の人数



③ 同居家族

▶家族構成について、「その他」と回答した99人の同居家族の状況をみると、「息子」が49.5%と最も高く、次いで「娘」および「孫」が24.2%、「子の配偶者」が22.2%などとなっています。

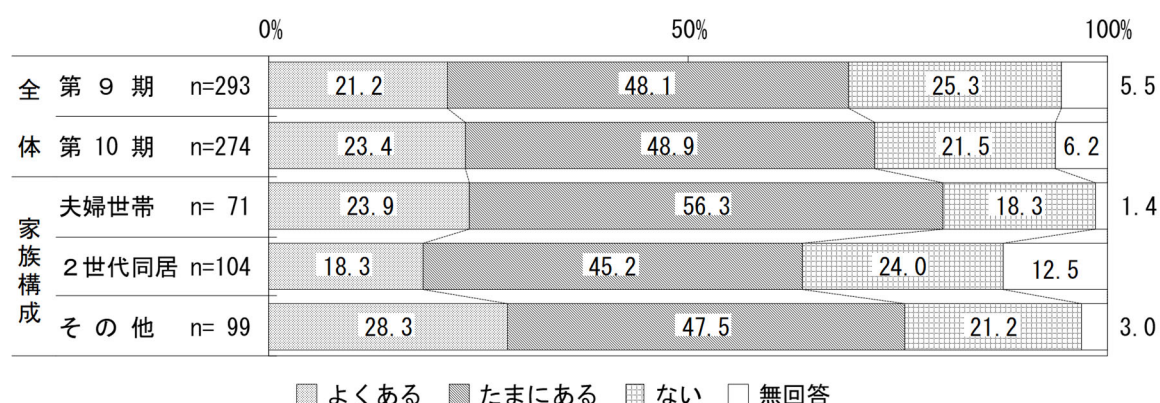
図表 3-5 同居家族（複数回答）



④ 日中独居

▶ 1人暮らし以外を対象とした「日中、ひとりになることがありますか」という設問については、「よくある」が、夫婦世帯では23.9%、2世代同居では18.3%、その他では28.3%あります。

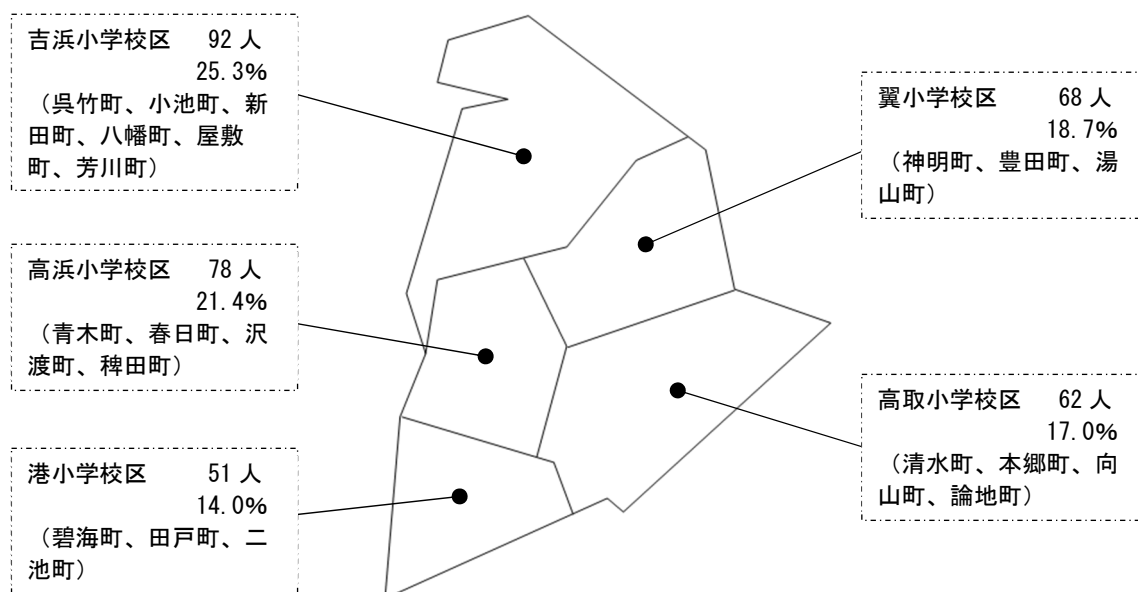
図表 3-6 日中ひとりになることがあるか



(3) 小学校区

▶ 調査対象者の居住する小学校区は、吉浜小学校区が25.3%、高浜小学校区が21.4%、翼小学校区が18.7%、高取小学校区が17.0%、港小学校区が14.0%です。

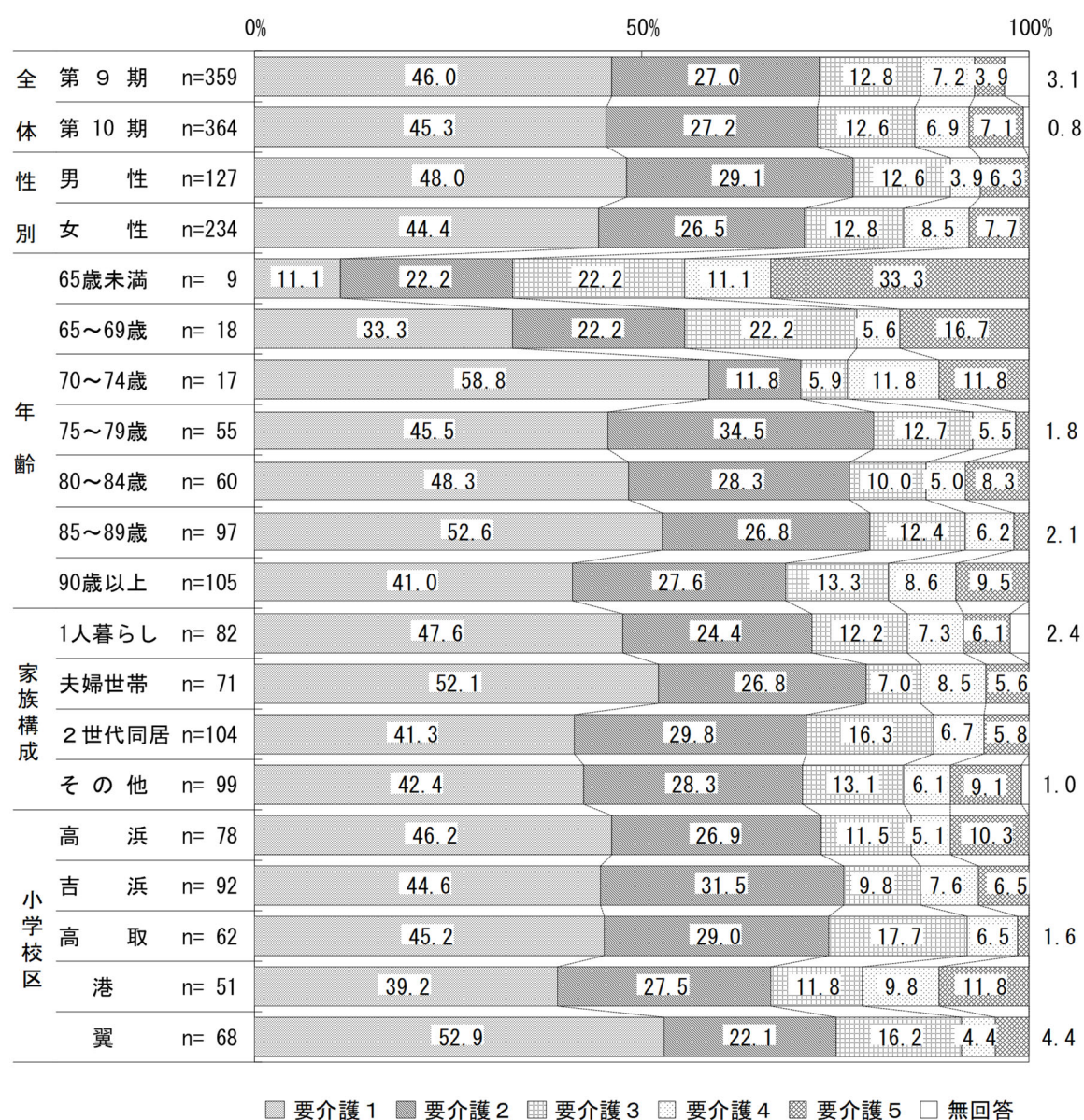
図表 3-7 居住地区



(4) 要介護度

- ▶要介護度は、「要介護1」が45.3%と最も高く、次いで「要介護2」が27.2%、「要介護3」が12.6%、「要介護4」が6.9%、「要介護5」が7.1%と、要介護1・2で72.5%を占めています。
- ▶性別にみると、「要介護1」および「要介護2」は男性、「要介護3」～「要介護5」は女性が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでも最重度の「要介護5」が6.1%（5人）あります。

図表3-8 要介護度

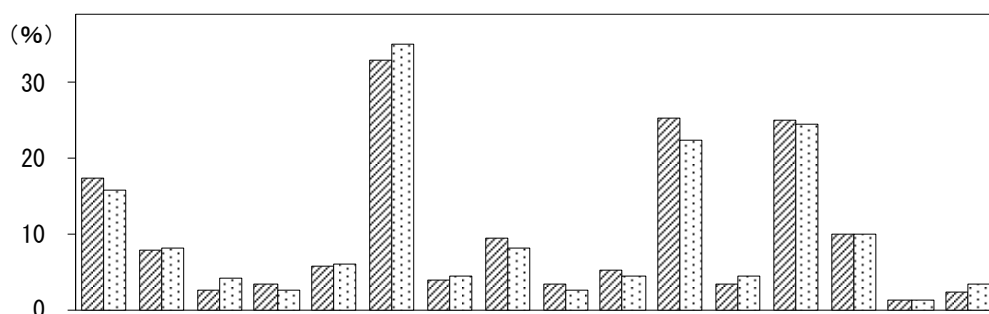


(5) 介護・介助が必要になった原因

▶介護が必要となった主な原因としては、「認知症（アルツハイマー病等）」が35.2%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」が24.5%、「骨折・転倒」が22.3%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が15.9%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「認知症（アルツハイマー病等）」が2ポイント以上上昇しています。

▶性別により10ポイント以上の大きな差があるのは、男性が高い「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、女性が高い「認知症（アルツハイマー病等）」および「骨折・転倒」です。

図表3-9 介護・介助が必要になった原因（複数回答）

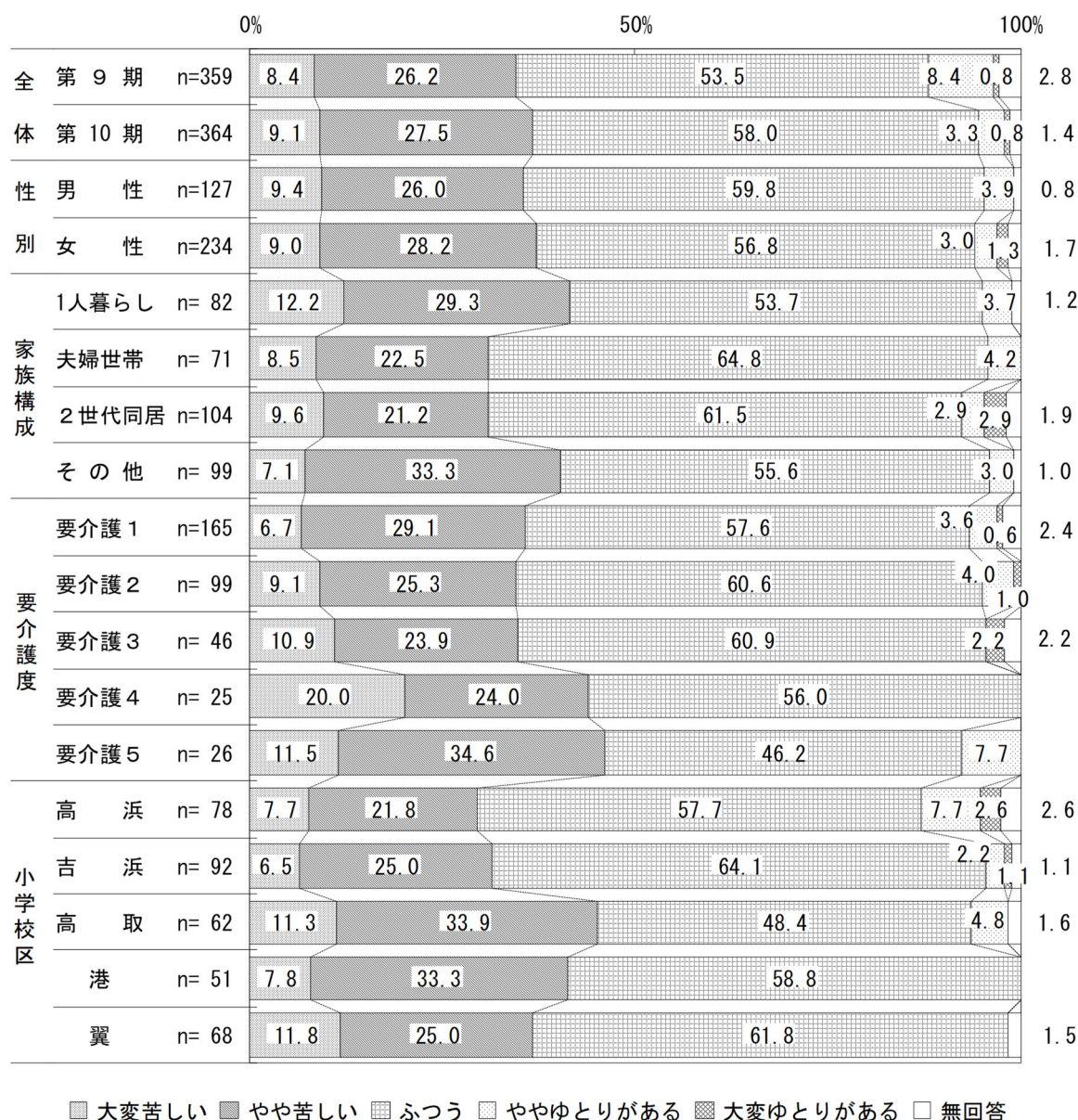


区 分		n	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	がん（悪性新生物）	呼吸器の病気（肺炎腫・肺炎等）	関節の病気（リウマチ等）	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患（透析）	視覚・聴覚障がい	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
全体	第9期	359	17.5	7.8	2.5	3.3	5.6	33.1	3.9	9.5	3.3	5.3	25.3	3.3	25.1	10.0	1.1	2.2
	第10期	364	15.9	8.2	4.1	2.5	6.0	35.2	4.4	8.0	2.5	4.4	22.3	4.4	24.5	9.9	1.1	3.3
性別	男 性	127	26.8	11.0	7.1	4.7	2.4	23.6	4.7	10.2	4.7	4.7	14.2	7.1	19.7	9.4	0.8	3.1
	女 性	234	10.3	6.4	2.1	1.3	8.1	41.5	4.3	6.4	1.3	4.3	26.9	3.0	26.9	10.3	1.3	3.4
要介護度	要介護1	165	14.5	6.1	3.6	1.8	6.1	41.2	3.0	7.3	1.2	3.6	19.4	4.8	21.8	9.7	1.8	4.8
	要介護2	99	17.2	12.1	3.0	4.0	7.1	32.3	6.1	6.1	3.0	6.1	23.2	2.0	30.3	10.1	1.0	1.0
	要介護3	46	15.2	8.7	4.3	2.2	6.5	32.6	-	8.7	4.3	4.3	32.6	4.3	23.9	10.9	-	4.3
	要介護4	25	8.0	12.0	8.0	4.0	8.0	32.0	12.0	12.0	4.0	4.0	24.0	-	16.0	12.0	-	4.0
	要介護5	26	30.8	-	3.8	-	-	15.4	7.7	11.5	3.8	3.8	19.2	15.4	26.9	7.7	-	-
要 支 援		173	16.2	16.8	4.0	1.7	14.5	6.9	1.7	13.3	1.2	6.9	25.4	12.7	30.1	8.7	1.2	2.9

(6) 経済的な状況

- ▶現在の暮らしの状況は、「ふつう」が58.0%と最も高く、次いで「やや苦しい」が27.5%などとなっています。「大変苦しい」(9.1%)と「やや苦しい」の合計《苦しい》は36.6%、「大変ゆとりがある」(0.8%)と「ややゆとりがある」(3.3%)の合計《ゆとりがある》は4.1%です。第9期の調査結果に比べ《苦しい》が2ポイント上昇し、《ゆとりがある》は5.1ポイント低下しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは《苦しい》が40%を超えています。
- ▶要介護度別にみると、重度化にしたがい《苦しい》が高くなる傾向にあります。
- ▶小学校区別にみると、高取小学校区および港小学校区では《苦しい》が40%を超えています。

図表 3-10 経済的な状況



(7) 住まいの状況

- ▶住まいは、「持家（一戸建て）」が74.5%を占め、次いで「サービス付き高齢者向け住宅」が6.0%、「公営賃貸住宅」が4.9%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が3.6%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「サービス付き高齢者向け住宅」および「住宅型有料老人ホーム」が上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「持家（一戸建て）」が低くなっている一方、「サービス付き高齢者向け住宅」や「公営賃貸住宅」が高くなっています。
- ▶小学校区別にみると、翼小学校区では「公営賃貸住宅」が16.2%と比較的高い割合となっています。
- ▶「その他」として「養護老人ホーム」「ケアハウス」「病院」等の記載がありました。

図表3-11 住まいの状況



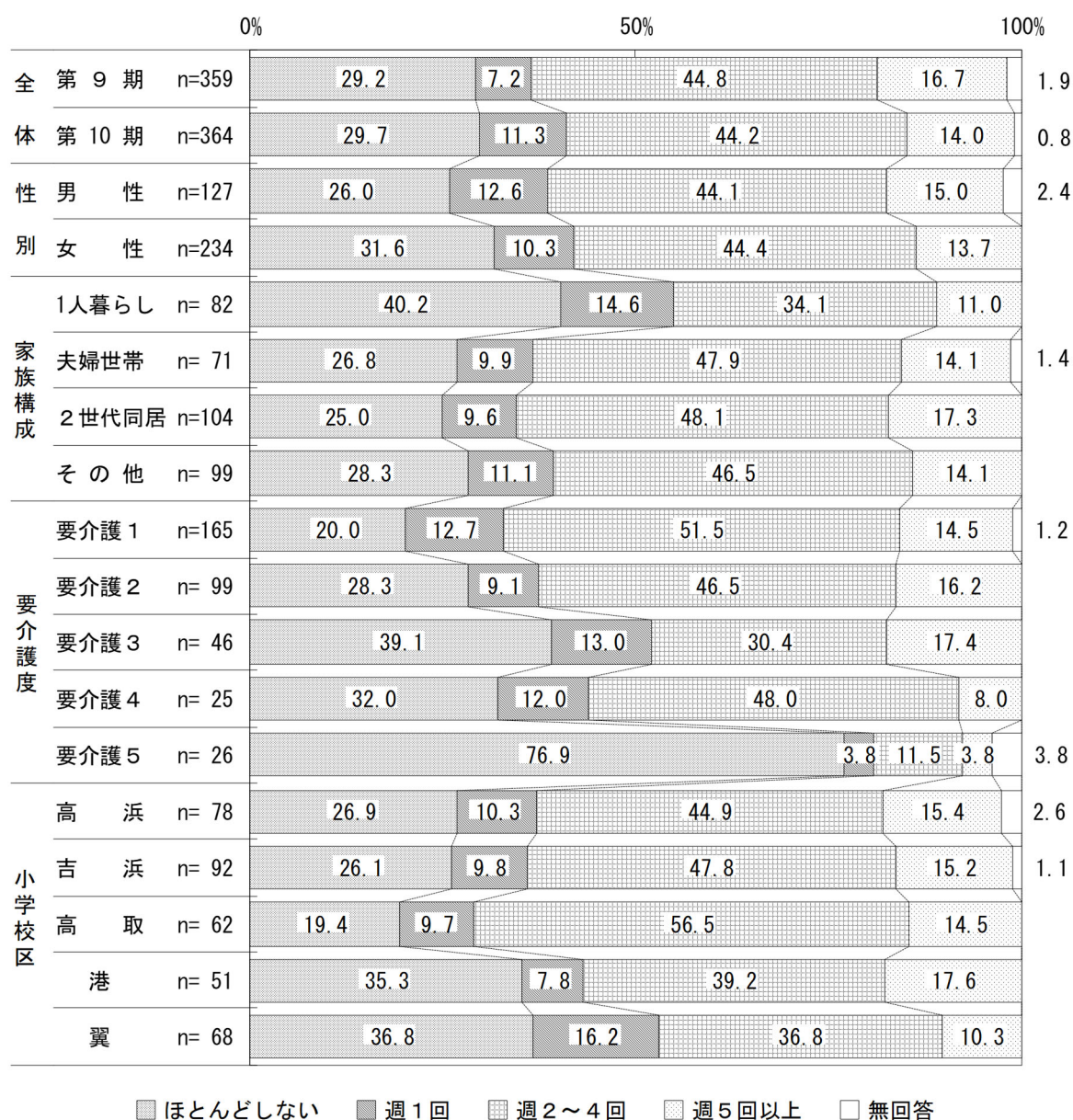
※第9期の選択肢「サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム」

2 外出について

(1) 外出頻度

- ▶「週1回以上は外出していますか」という設問については、「週2～4回」が44.2%と最も高く、次いで「ほとんどしない」が29.7%などとなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護5では「ほとんどしない」が75%以上を占めています。
- ▶小学校区別にみると、「ほとんどしない」が最も高い翼小学校区と最も低い高取小学校区の間に17.4ポイントの差があります。

図表3-12 外出頻度

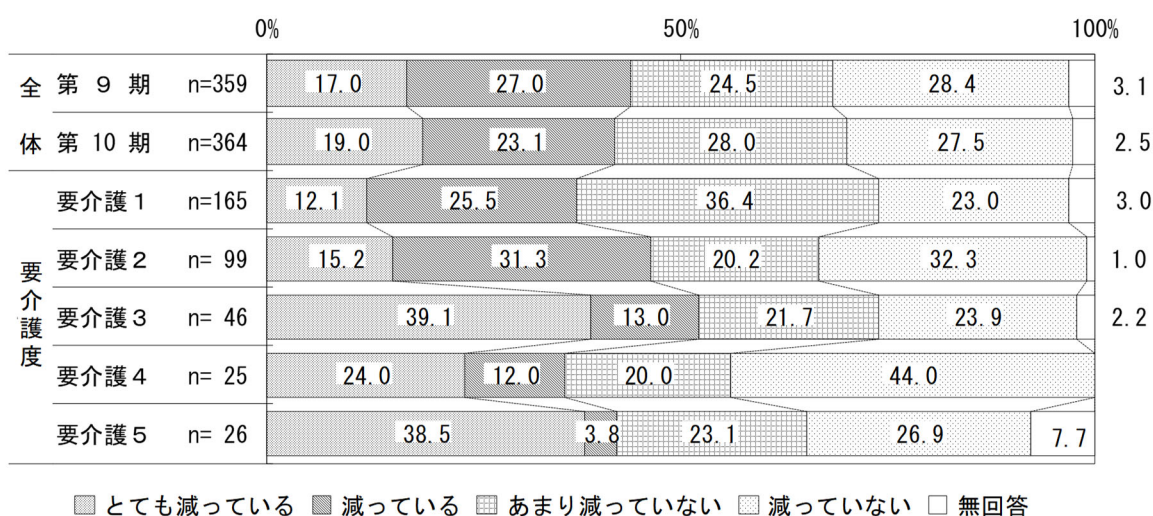


(2) 外出の回数が減っているか

▶「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」という設問については、「あまり減っていない」は28.0%と最も高くなっていますが、「とても減っている」(19.0%)と「減っている」(23.1%)の合計《減っている》は42.1%です。第9期の調査結果に比べ《減っている》は1.9ポイント低下しています。

▶要介護度別にみると、「とても減っている」は要介護3で39.1%と高くなっています。

図表3-13 外出の回数が減っているか

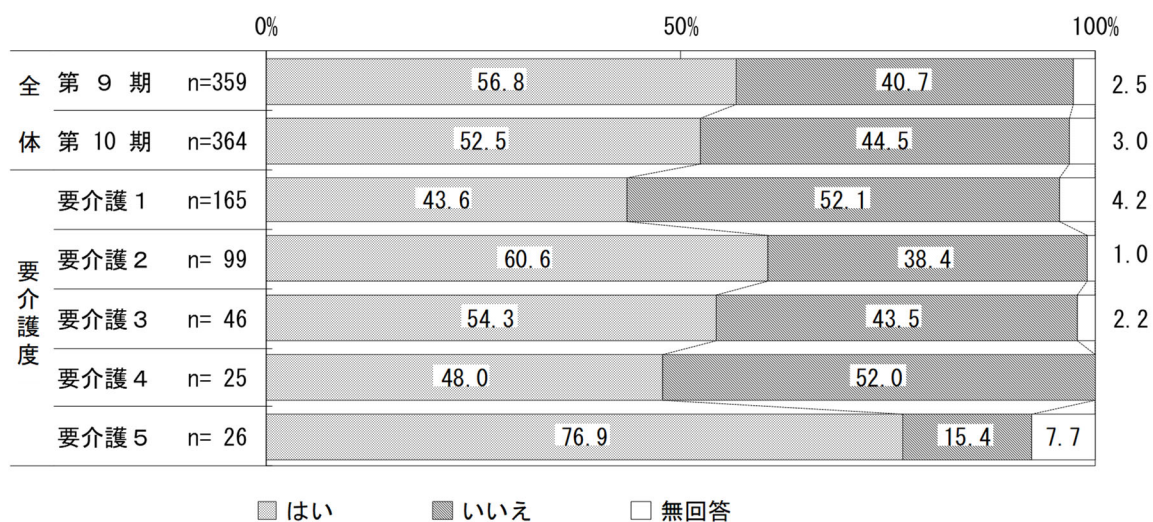


(3) 外出を控えているか

▶外出を控えていると答えた人は52.5%です。第9期の調査結果に比べ4.3ポイント低下しています。

▶要介護度別にみると、最重度の要介護5では76.9%となっています。

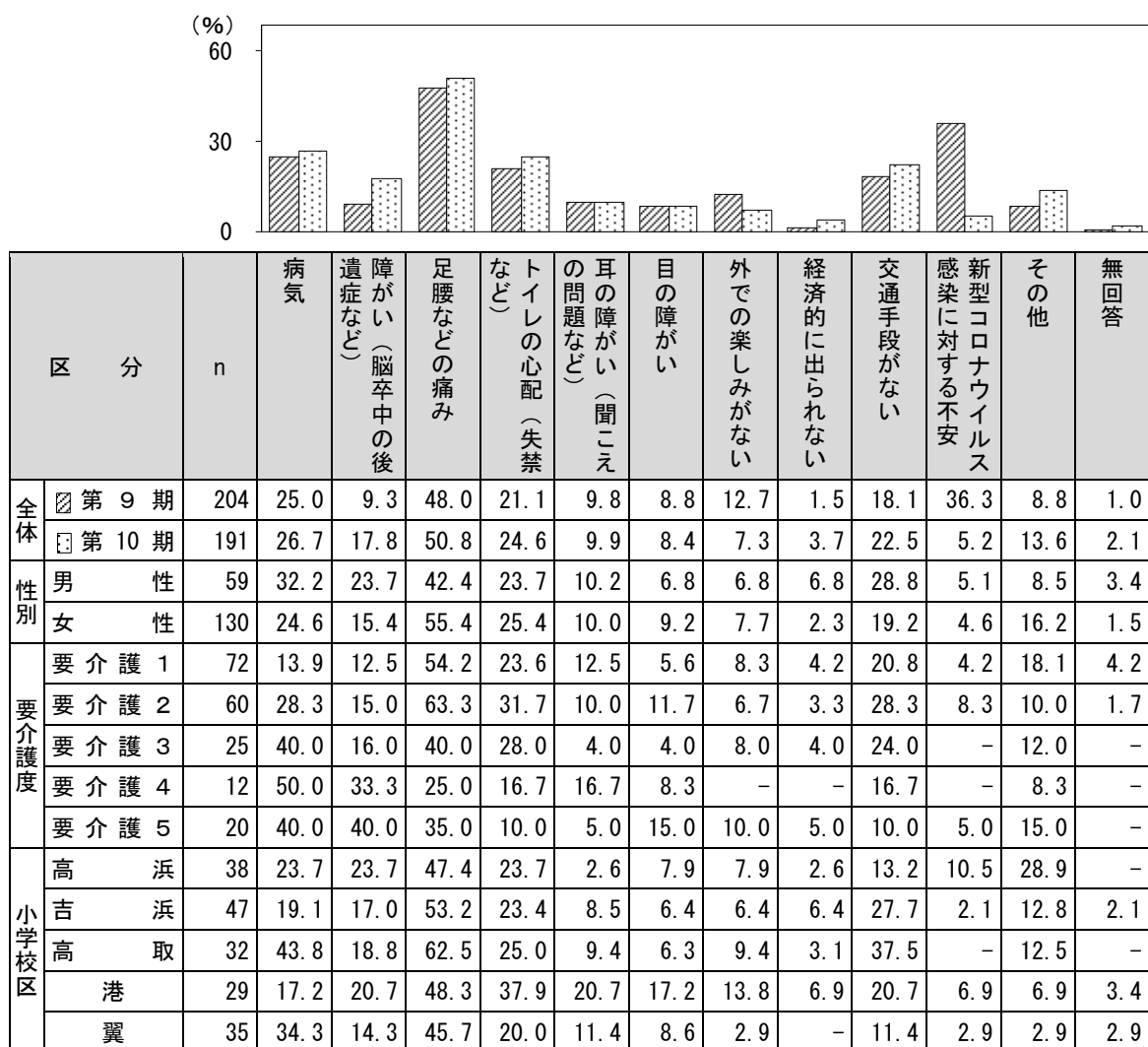
図表3-14 外出を控えているか



(4) 外出を控えている理由

- ▶外出を控えていると答えた191人の外出を控えている理由としては、「足腰などの痛み」が50.8%と最も高く、次いで「病気」が26.7%、「トイレの心配（失禁など）」が24.6%、「交通手段がない」が22.5%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「新型コロナウイルス感染に対する不安」が大幅に低下しています。
- ▶性別にみると、5ポイント以上の大きな差があるのは、男性が高い「交通手段がない」「障がい（脳卒中の後遺症など）」「病気」、女性が高い「足腰などの痛み」です。
- ▶「その他」として、「認知症のため」（5件）「1人で外出できない」（4件）「外出する理由がない」「外出に自信がない」「意欲の低下」などの記載がありました。

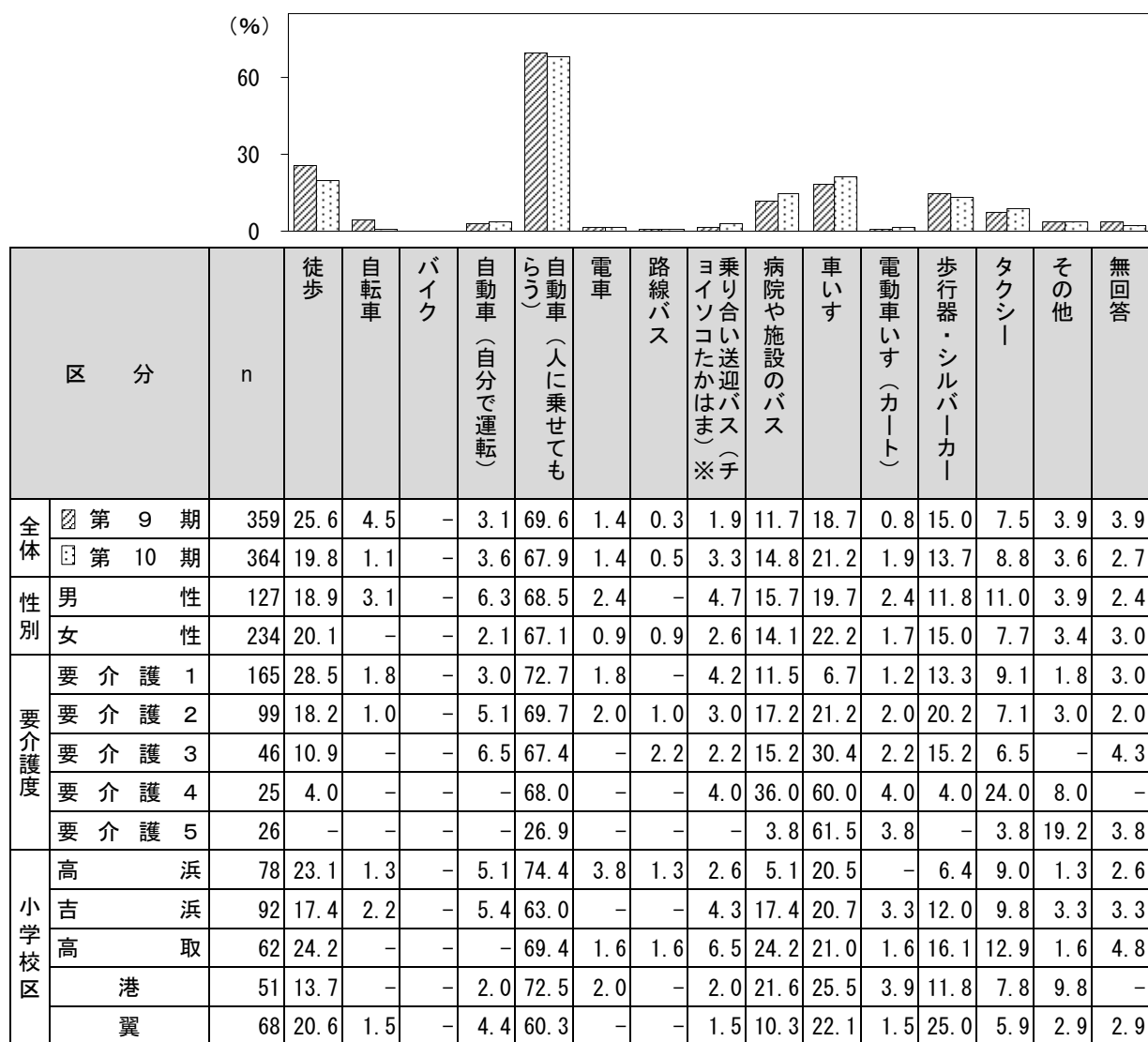
図表3-15 外出を控えている理由（複数回答）



(5) 外出する際の移動手段

- ▶外出する際の移動手段としては、「自動車（人に乗せてもらう）」が67.9%と圧倒的に高く、次いで「車いす」が21.2%、「徒歩」が19.8%などとなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護4・5では「車いす」が60%以上となっています。
- ▶「その他」として、「介護タクシー」（5件）「外出できない」（2件）「ケアマネに頼む」「ヘルパーの付き添い」などの記載がありました。

図表3-16 外出する際の移動手段（複数回答）



※第9期の選択肢「市内循環バス（いきいき号）」

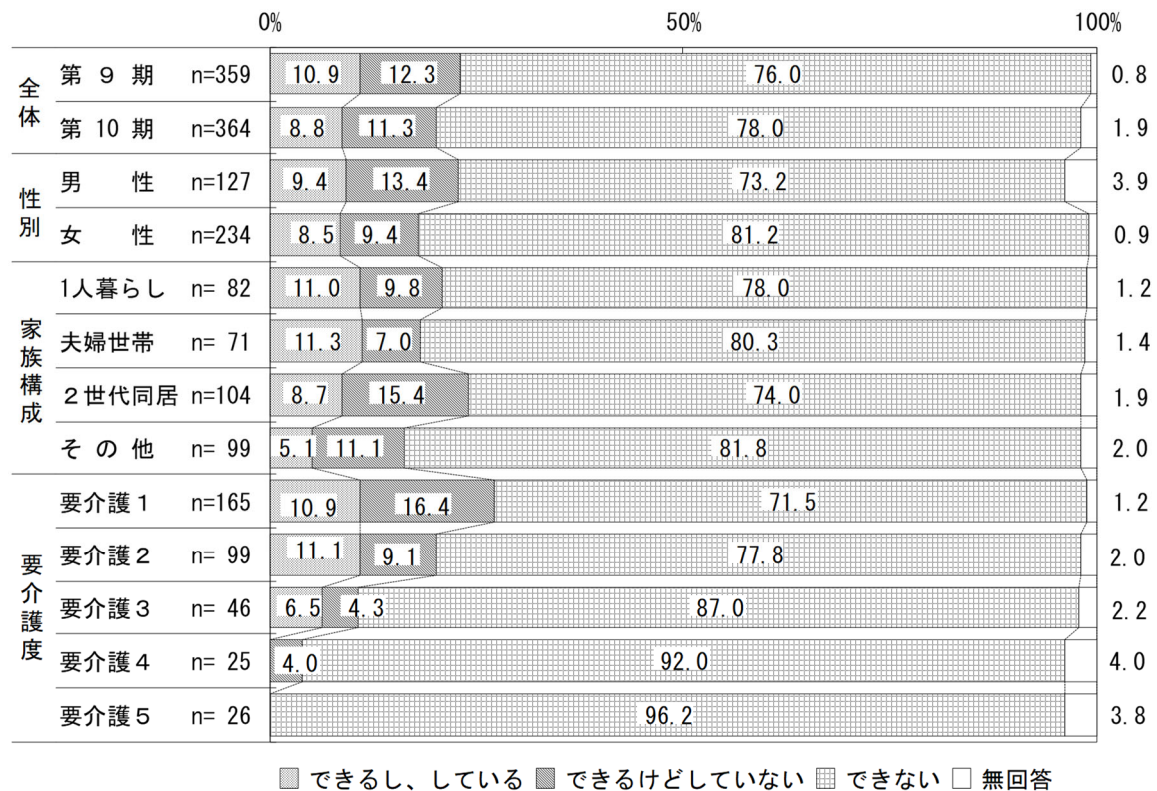
3 日常生活について

(1) 買い物をしているか

▶自分で食品・日用品の買い物をしているかをたずねたところ、「できない」が78.0%を占めています。

▶家族構成別にみると、1人暮らしでも「できない」が70%以上あります。

図表3-17 買い物をしているか



▶「できるけどしていない」または「できない」と答えた325人に、誰が買い物をしているかをたずねたところ、「同居の家族」が63.7%と最も高くなっています。1人暮らしでは「別居の家族」が55.6%、「ヘルパー」が11.1%などとなっています。

▶「その他」として「施設の人」（5件）「入院中」（3件）「キッチンカー」「子の元配偶者」などの記載がありました。

図表3-18 買い物は誰がしているか

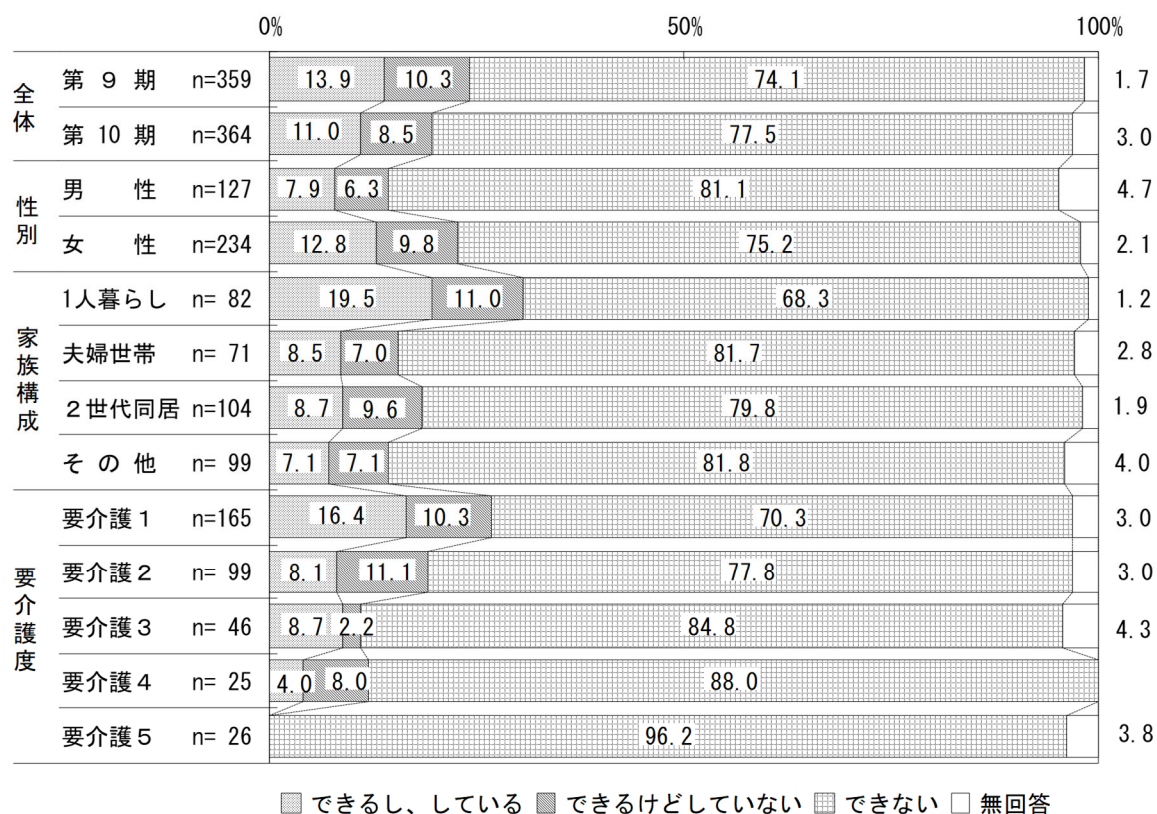
単位：%

区分	n	同居の家族	別居の家族	ヘルパー	配達を依頼	その他	無回答
全体							
第9期	317	76.3	12.6	2.8	0.9	3.5	3.8
第10期	325	63.7	20.0	4.3	0.3	8.0	3.7
家族構成							
1人暮らし	72	6.9	55.6	11.1	1.4	18.1	6.9
夫婦世帯	62	75.8	17.7	1.6	-	-	4.8
2世代同居	93	88.2	3.2	1.1	-	6.5	1.1
その他	92	78.3	10.9	2.2	-	6.5	2.2

(2) 食事の用意をしているか

- ▶自分で食事の用意をしているかをたずねたところ、「できない」が77.5%を占めています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでも「できない」が68.3%あります。

図表3-19 食事の用意をしているか



- ▶「できるけどしていない」または「できない」と答えた313人に、誰が食事の用意をしているかをたずねたところ、「同居の家族」が64.9%と最も高くなっています。1人暮らしでは「別居の家族」が30.8%、「配食サービス」が18.5%などとなっています。
- ▶「その他」として「施設で提供」（13件）「病院で提供」（5件）「老人ホームで提供」（4件）「サービス付き高齢者向け住宅で提供」（2件）「胃ろう」などの記載がありました。

図表3-20 食事の用意は誰がしているか

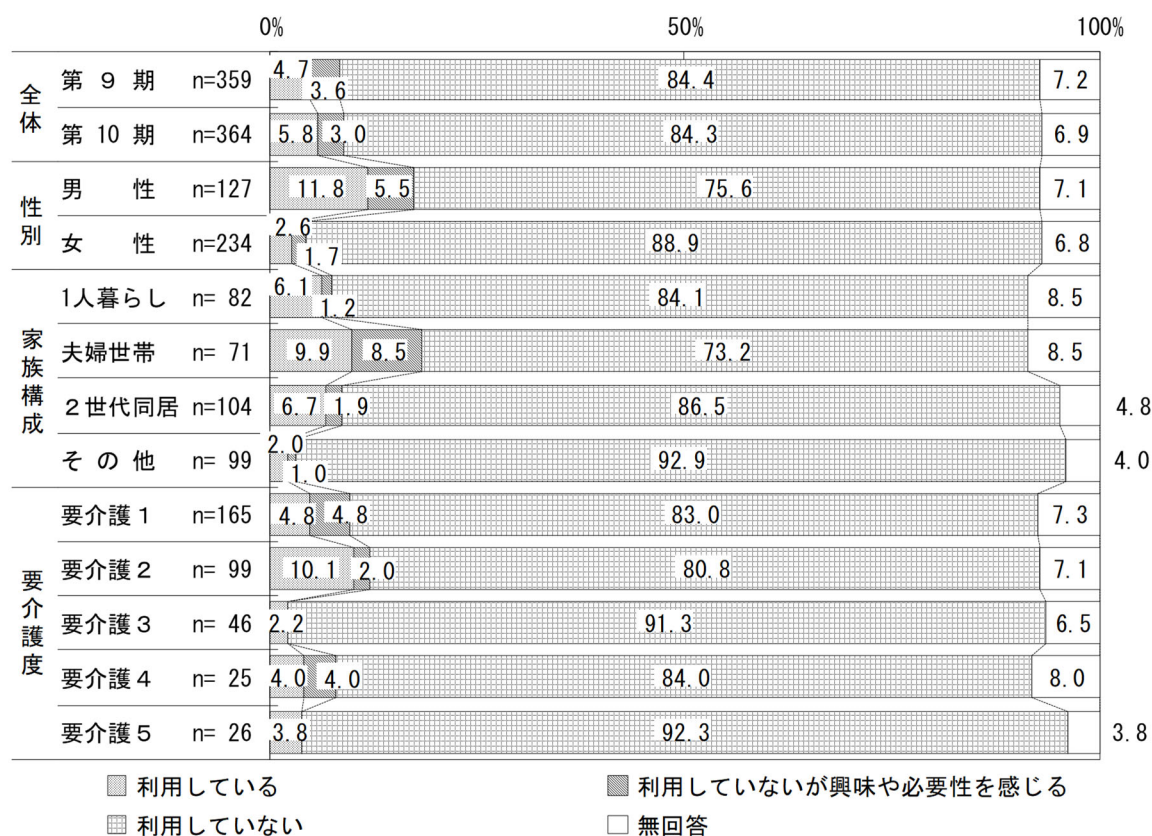
単位：%

区分		n	同居の家族	別居の家族	ヘルパー	配食サービス	その他	無回答
全体	第9期	303	74.9	7.6	3.6	5.3	4.3	4.3
	第10期	313	64.9	9.9	3.8	5.1	13.4	2.9
家族構成	1人暮らし	65	4.6	30.8	9.2	18.5	33.8	3.1
	夫婦世帯	63	82.5	9.5	1.6	3.2	-	3.2
	2世代同居	93	83.9	2.2	1.1	1.1	8.6	3.2
	その他	88	78.4	3.4	3.4	1.1	11.4	2.3

(3) インターネットを利用しているか

- ▶パソコンやスマートフォン（スマホ）などインターネットの利用状況は、「利用している」（利用率）は5.8%、「利用していないが興味や必要性を感じる」は3.0%、「利用していない」は84.3%です。
- ▶性別にみると、利用率は、男性が11.8%、女性が2.6%と男性が女性を9.2ポイント上回っています。
- ▶家族構成別にみると、利用率は夫婦世帯が9.9%と最も高くなっています。

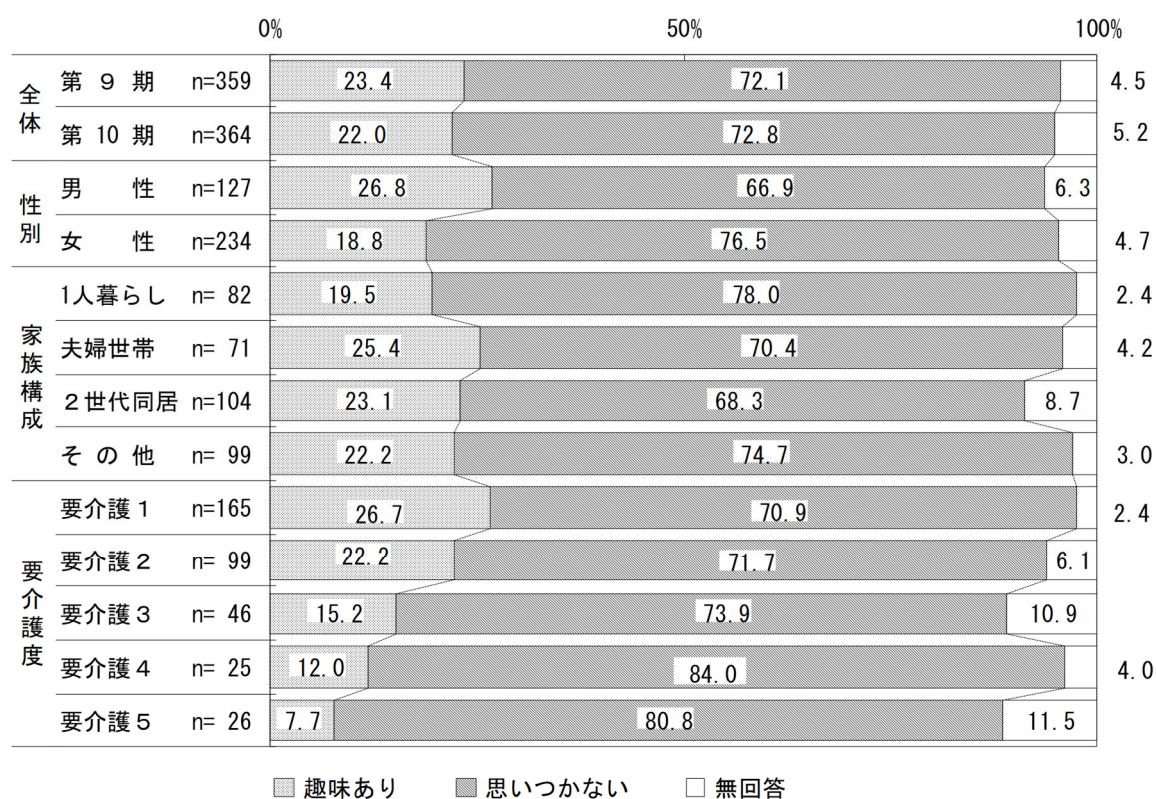
図表 3-21 インターネットを利用しているか



(4) 趣味はあるか

- ▶趣味については、「趣味あり」が22.0%、「思いつかない」が72.8%です。
- ▶性別にみると、「趣味あり」は男性が女性を8ポイント上回っています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「趣味あり」が他の家族構成に比べ低くなっています。
- ▶要介護度別にみると、重度化にしたがい「趣味あり」は低下します。
- ▶「趣味あり」と回答した人に具体的な内容を書いていたところ、「テレビ」（10件）「手芸」（8件）「ぬりえ」（6件）「カラオケ」（5件）「囲碁・将棋」「園芸」「読書」（各4件）「散歩」「社交ダンス」（各3件）などが記載されていました。

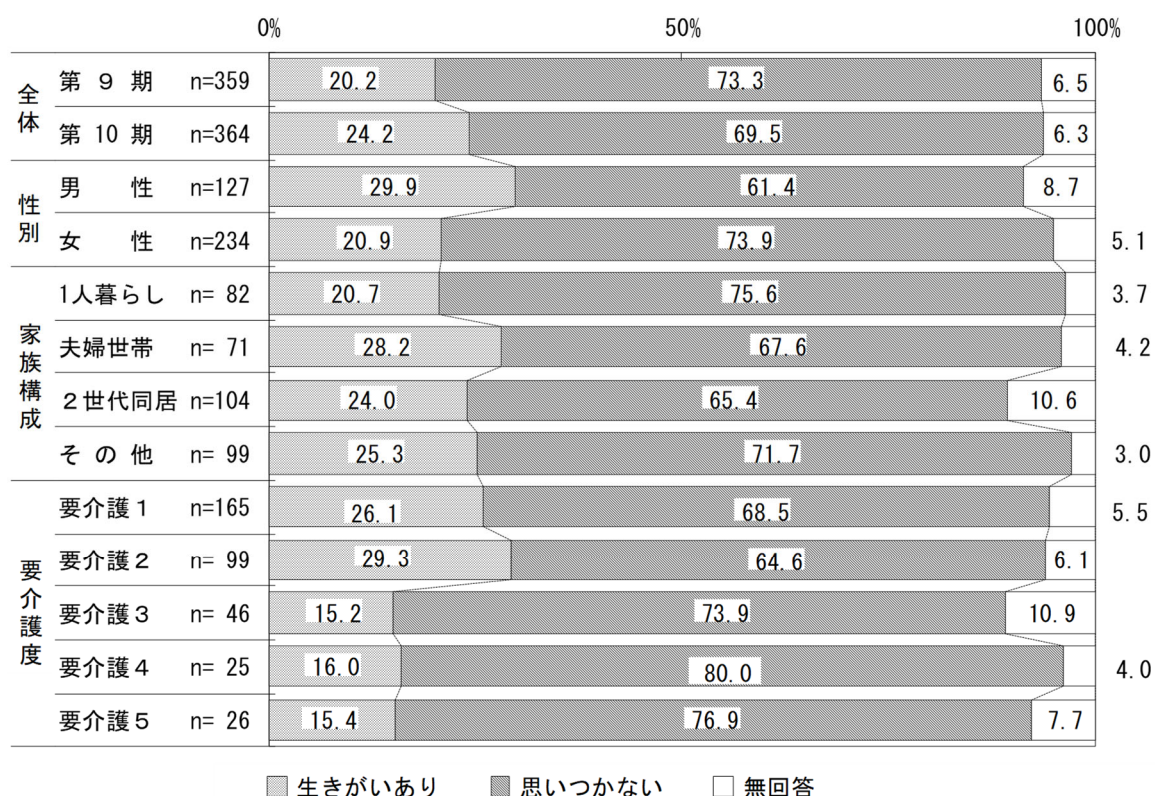
図表3-22 趣味はあるか



(5) 生きがいはあるか

- ▶生きがいについては、「生きがいあり」が24.2%、「思いつかない」が69.5%です。
- ▶性別にみると、「生きがいあり」は男性が女性を9ポイント上回っています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「生きがいあり」が他の家族構成に比べ低くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護1・2では「生きがいあり」は25%を超えていますが、要介護3～5では15%前後まで低下します。
- ▶「生きがいあり」と回答した人に具体的な内容を書いていたところ、「孫・ひ孫の成長」（13件）「デイサービス」（8件）「子どもの成長」（7件）「家族とのふれあい」（6件）「食べること」（5件）「ペット」（3件）「旅行」「散歩」「カラオケ」（各2件）などが記載されていました。

図表3-23 生きがいはあるか



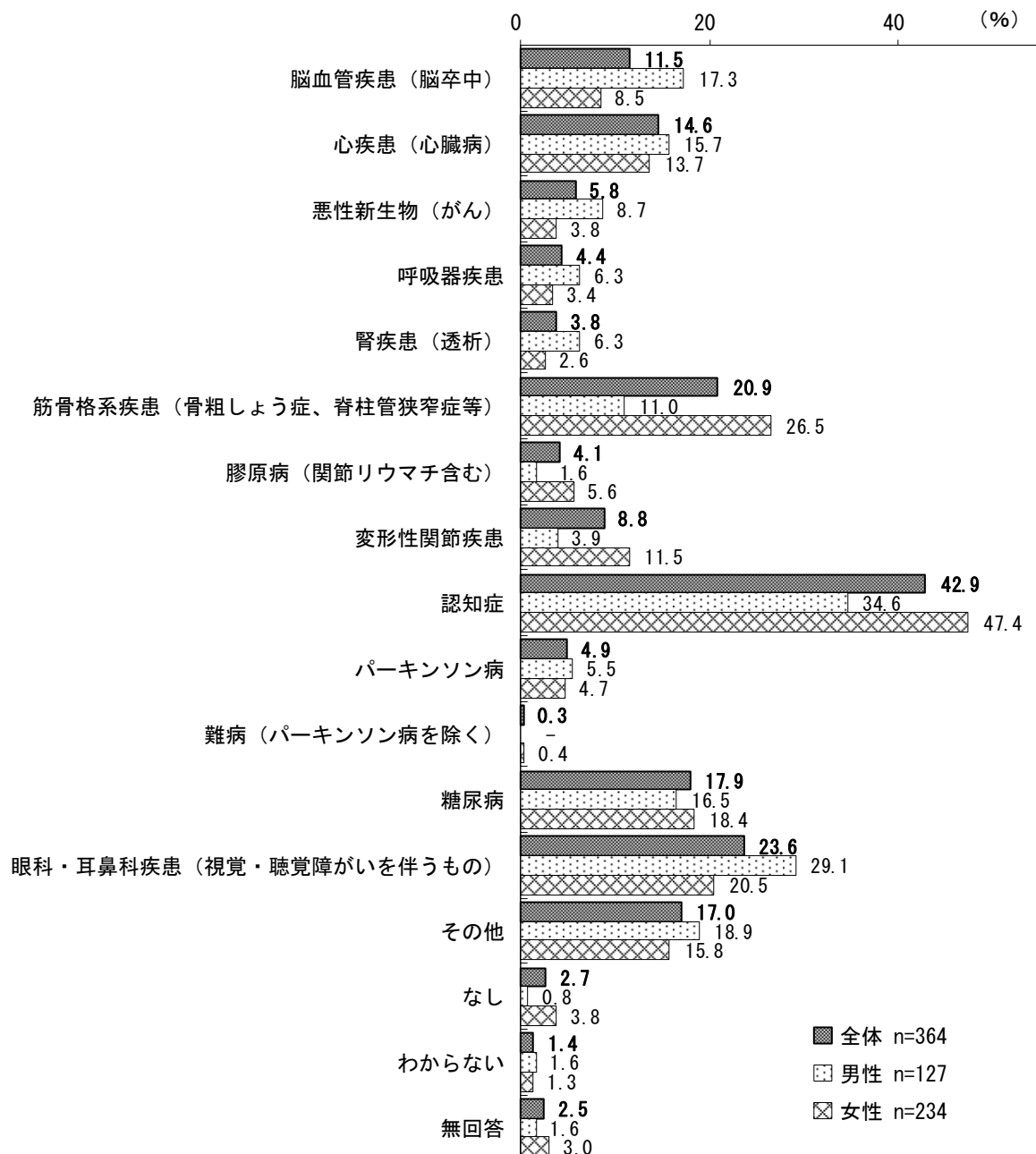
4 健康について

(1) 現在抱えている傷病について

▶現在抱えている傷病については、「認知症」が42.9%と最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障がいを伴うもの）」が23.6%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が20.9%、「糖尿病」が17.9%、「心疾患（心臓病）」が14.6%、「脳血管疾患（脳卒中）」が11.5%などとなっています。

▶性別により大きな差がみられる疾病は、男性が高い「脳血管疾患」「眼科・耳鼻科疾患」、女性が高い「筋骨格系疾患」「認知症」「変形性関節疾患」などです。

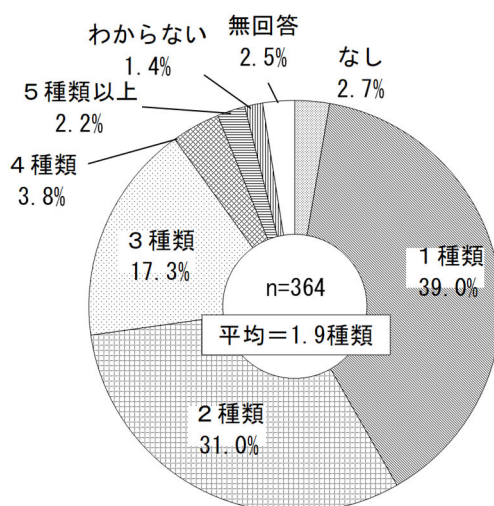
図表3-24 現在抱えている傷病（複数回答）



(2) 現在抱えている疾病の数

▶現在抱えている疾病の数は、「1種類」が39.0%と最も高く、次いで「2種類」が31.0%、「3種類」が17.3%などとなっています。「なし」は2.7%です。1人当たりの病気の平均数は1.9種類です。

図表3-25 現在抱えている傷病の数

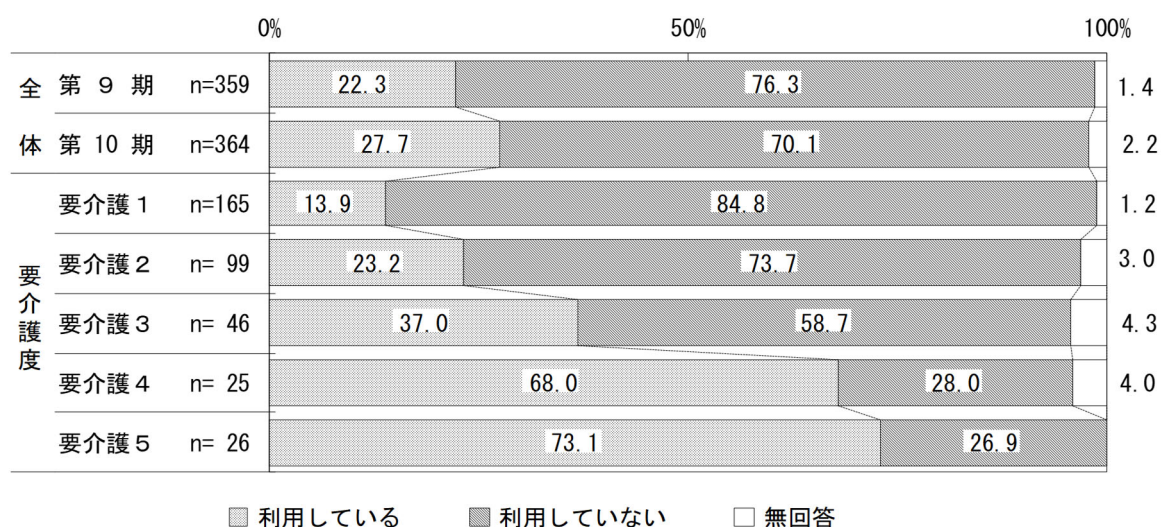


(3) 訪問診療の利用状況

▶現在の訪問診療の利用状況は、「利用している」が27.7%です。第9期の調査結果に比べ5.4ポイント上昇しています。

▶要介護度別にみると、重度化にしたがい利用率が高くなっており、要介護4では60%台、要介護5では70%を超える高い割合となります。

図表3-26 訪問診療の利用状況

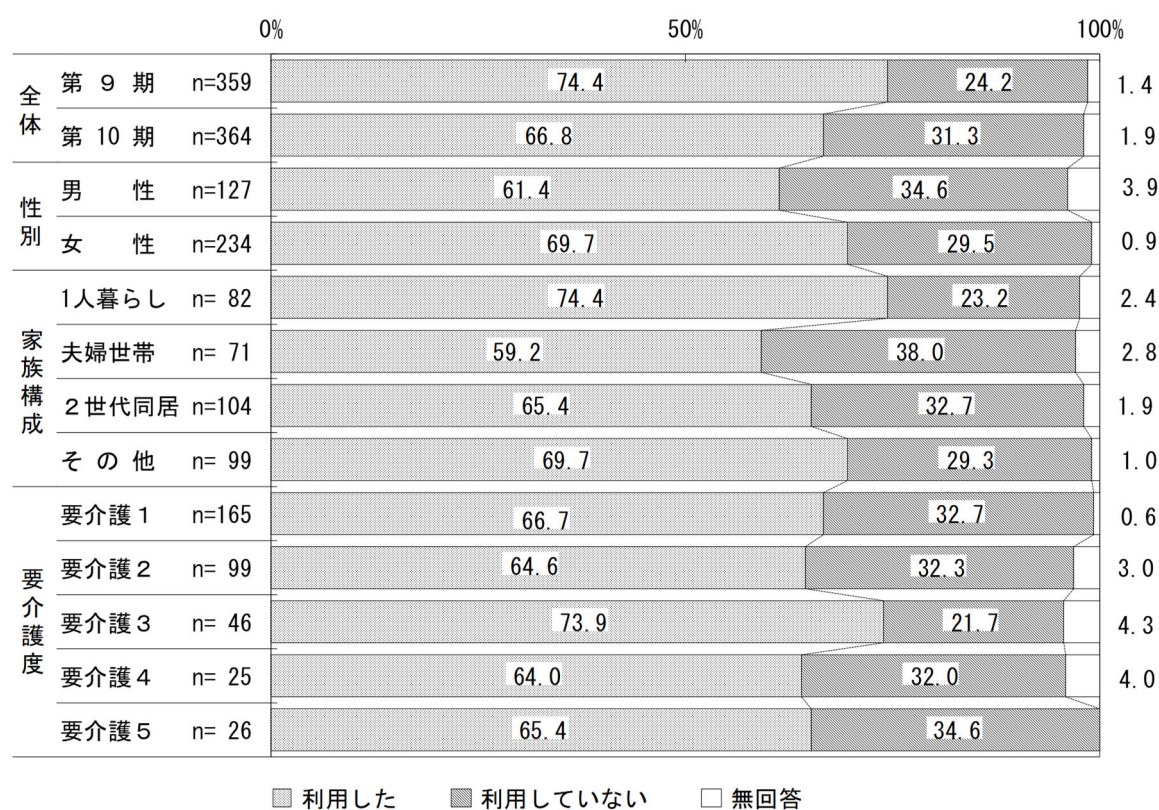


5 介護保険サービスについて

(1) 居宅サービスの利用状況

- ▶令和7年9月の1か月間に、介護保険の居宅サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）を「利用した」のは66.8%、「利用していない」は31.3%です。第9期の調査結果に比べ「利用した」は7.6ポイント低下しています。
- ▶家族構成別にみると、「利用した」は1人暮らしが74.4%と他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶要介護度別にみると、「利用した」は要介護3が73.9%と最も高くなっています。

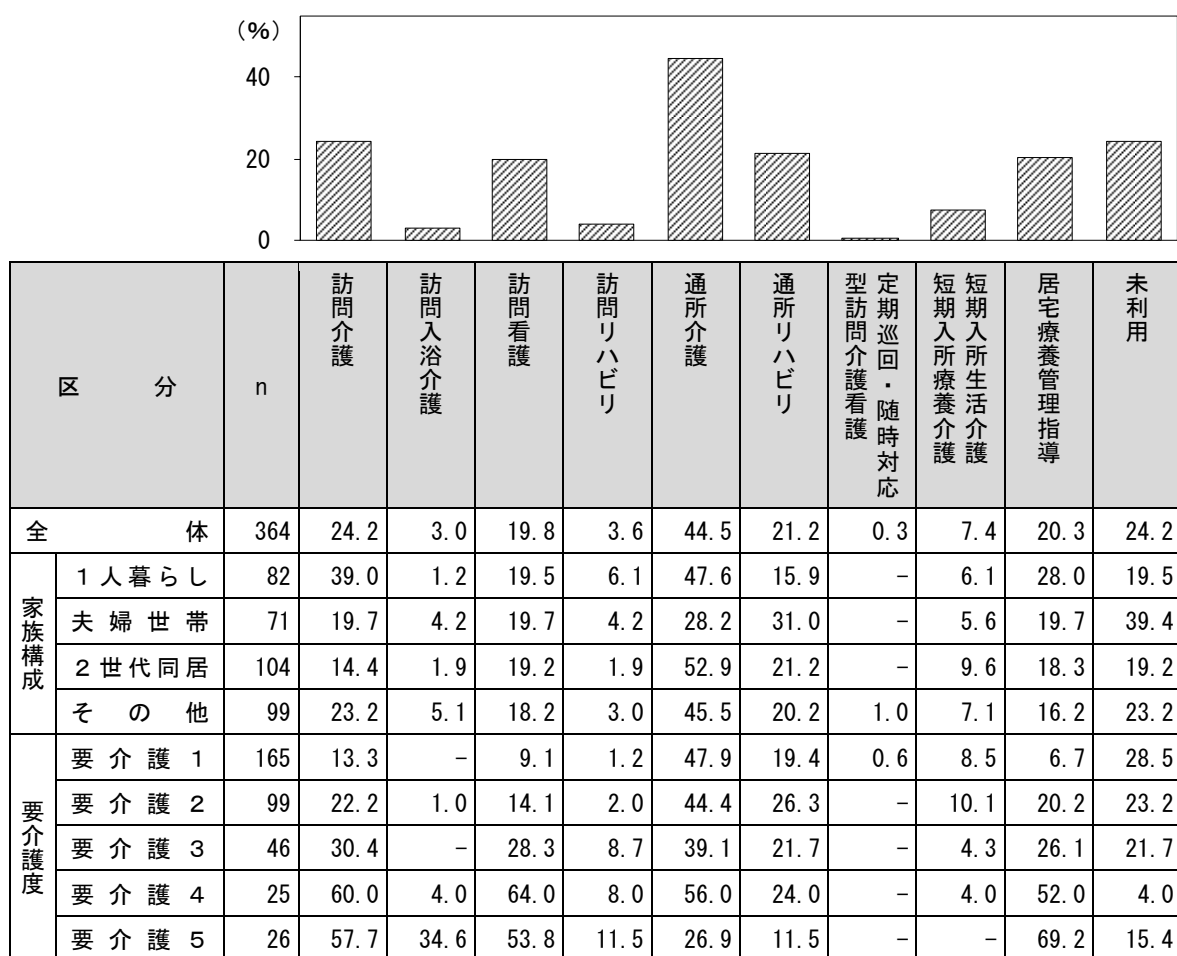
図表3-27 介護保険の居宅サービスの利用状況



(2) 種類別のサービス利用状況

- ▶介護保険の居宅サービスの利用状況は、「通所介護」が44.5%と最も高く、次いで「訪問介護」が24.2%、「通所リハビリ」が21.2%、「居宅療養管理指導」が20.3%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしの「訪問介護」および夫婦世帯の「未利用」が他の世帯構成に比べ10ポイント以上高くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護4の「訪問看護」および「訪問介護」並びに要介護5の「居宅療養管理指導」が60%以上の高い割合となっています。

図表3-28 介護保険サービス（居宅）の種類別利用状況（令和8年1月審査分の利用状況データ）

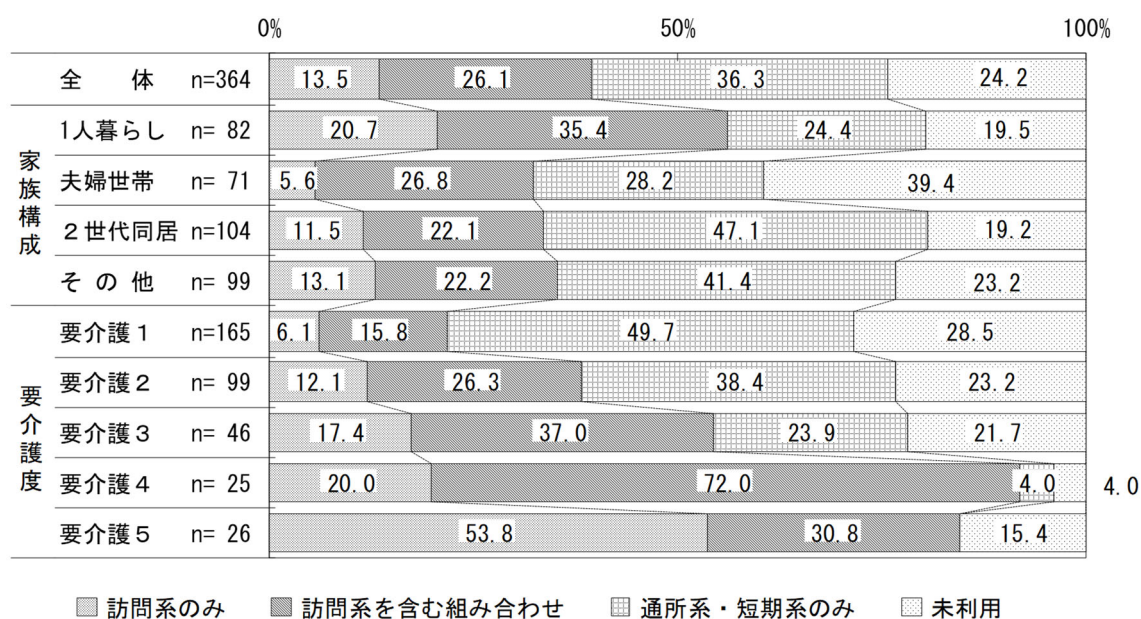


※「通所介護」には地域密着型通所介護を含む

(3) 利用しているサービスの組み合わせ

- ▶利用しているサービスの組み合わせをみると、「通所系・短期系のみ」が36.3%を占め、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.1%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「訪問系を含む組み合わせ」が最も高く35.4%あります。一方、夫婦世帯では「未利用」が39.4%を占めています。
- ▶要介護度別では、重度化にしたがい「訪問系のみ」および「訪問系を含む組み合わせ」が高く、「通所系・短期系のみ」が低くなる傾向にあります。

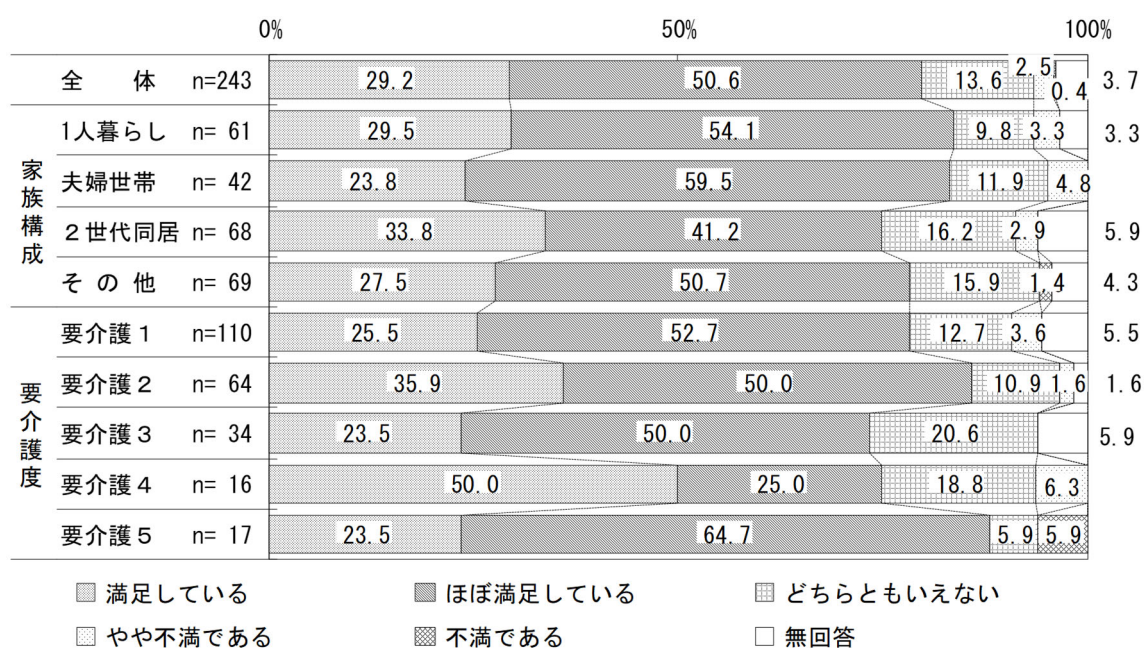
図表3-29 利用しているサービスの組み合わせ（令和8年1月審査分の利用状況データ）



(4) サービスの満足度

- ▶介護保険の居宅サービスを利用している243人のサービスに関する満足度については、
「ほぼ満足している」が50.6%を占め、「満足している」(29.2%)との合計《満足》は
79.8%です。一方、「不満である」(0.4%) および「やや不満である」(2.5%) の合計《不
満》は2.9%です。
- ▶「不満である」の理由について、図表3-31の記載がありました。

図表3-30 サービスの満足度



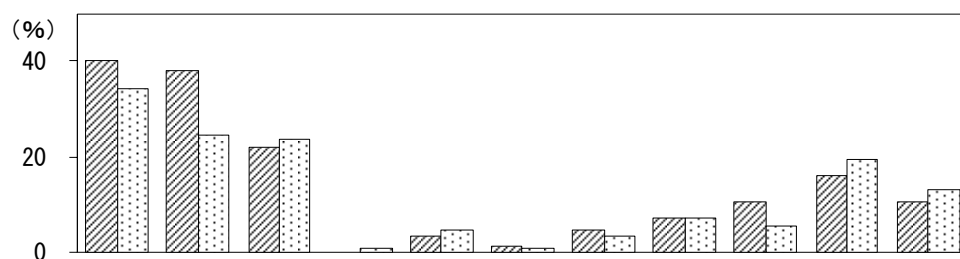
図表3-31 「不満である」サービス名と理由

サービス名	理由
訪問介護	・ 買い物同行の時間が短くて少し離れたスーパーへ行けない
訪問入浴介護	・ 週2回なので3回だと嬉しい
通所介護	・ 利用時間が短い ・ 退屈 ・ 送迎
通所リハビリテーション	・ 9時から16時半の間、椅子に座っている時間が多い
短期入所	・ 知人がいなく会話がなかった ・ 居場所がなくくつろげない

(5) 介護サービスを利用しない理由

- ▶介護保険サービスを1つも利用していない114人に、利用していない理由をお聞きしたところ、「現状では、介護保険サービスを利用するほどの状態ではない」が34.2%と最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が24.6%、「家族が介護するため必要ない」が23.7%などとなっています。
- ▶「その他」として、「入院・入所中」（15件）「どんなサービスがあるかわからないため」「サービスの内容がわからないため」などの記載がありました。

図表3-32 サービスを利用しない理由（複数回答）



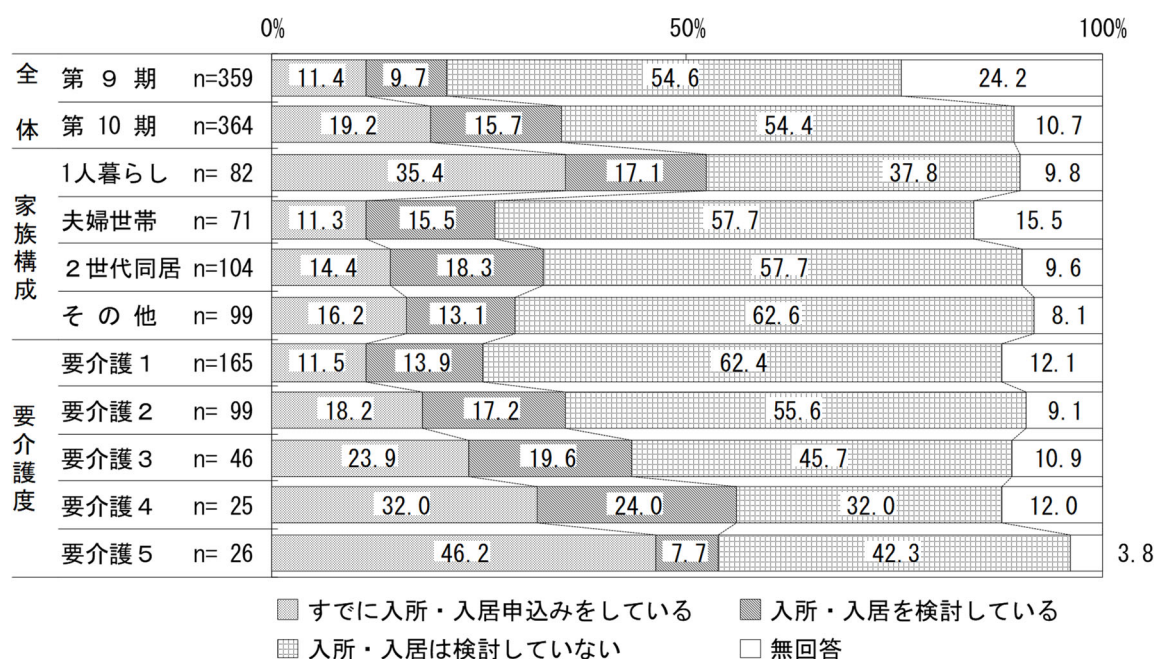
区 分		n	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	居宅介護支援券のみを利用するため	サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	その他	無回答
全体	第9期	87	40.2	37.9	21.8	-	3.4	1.1	4.6	6.9	10.3	16.1	10.3
	第10期	114	34.2	24.6	23.7	0.9	4.4	0.9	3.5	7.0	5.3	19.3	13.2
家族構成	1人暮らし	19	21.1	21.1	15.8	-	-	-	5.3	10.5	-	31.6	15.8
	夫婦世帯	27	44.4	29.6	29.6	-	-	3.7	3.7	7.4	3.7	-	14.8
	2世代同居	34	41.2	14.7	35.3	2.9	8.8	-	2.9	8.8	2.9	23.5	8.8
	その他	29	27.6	37.9	13.8	-	3.4	-	3.4	3.4	10.3	24.1	10.3
要介護度	要介護1	54	51.9	35.2	24.1	-	1.9	1.9	1.9	1.9	5.6	11.1	5.6
	要介護2	32	25.0	28.1	34.4	-	6.3	-	6.3	9.4	9.4	9.4	15.6
	要介護3	10	10.0	-	30.0	10.0	20.0	-	10.0	10.0	-	50.0	20.0
	要介護4	8	12.5	-	-	-	-	-	-	25.0	-	37.5	25.0
	要介護5	9	-	-	-	-	-	-	-	11.1	-	55.6	33.3

(6) 施設等への入所・入居意向

① 施設等への入所・入居の検討状況

- ▶施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が54.4%を占めています。「すでに入所・入居申込みをしている」が19.2%、「入所・入居を検討している」が15.7%です。第9期の調査結果に比べ「すでに入所・入居申込みをしている」が7.8ポイント、「入所・入居を検討している」が6ポイント上昇しています。
- ▶要介護度別にみると、「すでに入所・入居申込みをしている」は重度化にしたがい高くなっています。

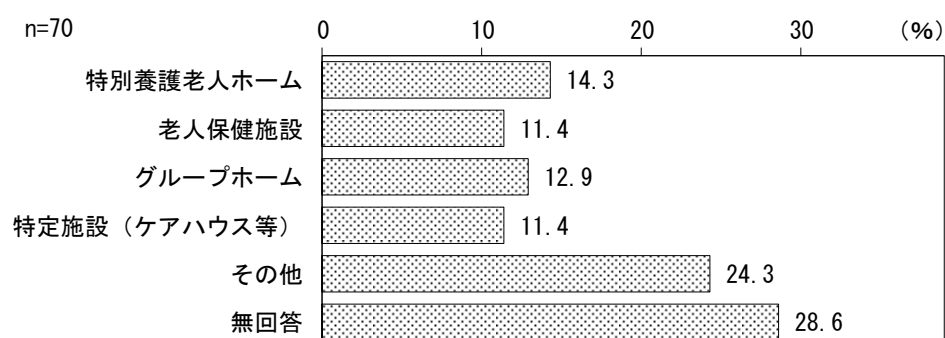
図表 3-33 施設等への入所・入居の検討状況



② 入所・入居待機施設

- ▶「すでに入所・入居申込みをしている」と回答した70人の申請している施設は、「特別養護老人ホーム」が14.3%と最も高くなっています。「その他」として「サービス付き高齢者向け住宅」(5件)「住宅型有料老人ホーム」(3件)等が記載されていました。

図表 3-34 入所・入居待機施設 (複数回答)



③ 申込みか所数

▶入所・入居の申込みをしている施設等の数は図表3-35のとおりです。

図表3-35 申込みか所数

単位：人

区 分	n	1 か所	2 か所	3 か所以上	無回答
特別養護老人ホーム	10	7	-	-	3
老人保健施設	8	8	-	-	-
グループホーム	9	3	2	-	4
特定施設（ケアハウス等）	8	6	-	-	2
その他	17	1	-	-	16

④ 待機期間

▶入所・入居申込みをしている施設等の待機期間は、図表3-36のとおりです。

図表3-36 待機期間

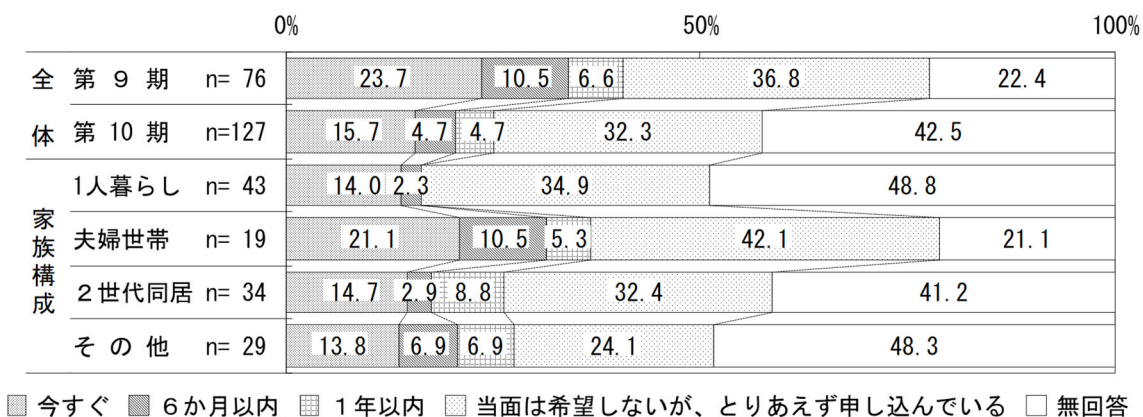
単位：人

区 分	n	6 か月未満	6 か月～1 年未満	1 年～2 年未満	2 年～3 年未満	3 年以上	無回答
特別養護老人ホーム	10	3	-	-	-	2	5
老人保健施設	8	3	-	-	-	1	4
グループホーム	9	2	2	-	-	-	5
特定施設（ケアハウス等）	8	2	2	-	-	1	3
その他	17	-	-	-	-	-	17

⑤ 介護保険施設への入所・入居希望時期

▶「すでに入所・入居申込みをしている」または「入所・入居を検討している」と回答した127人に、入所・入居希望時期をお聞きしたところ、「今すぐ」は15.7%であり、「当面は希望しないが、とりあえず申し込んでおく（検討している）」が32.3%を占めています。第9期の調査結果に比べ「今すぐ」が8ポイント低下しています。

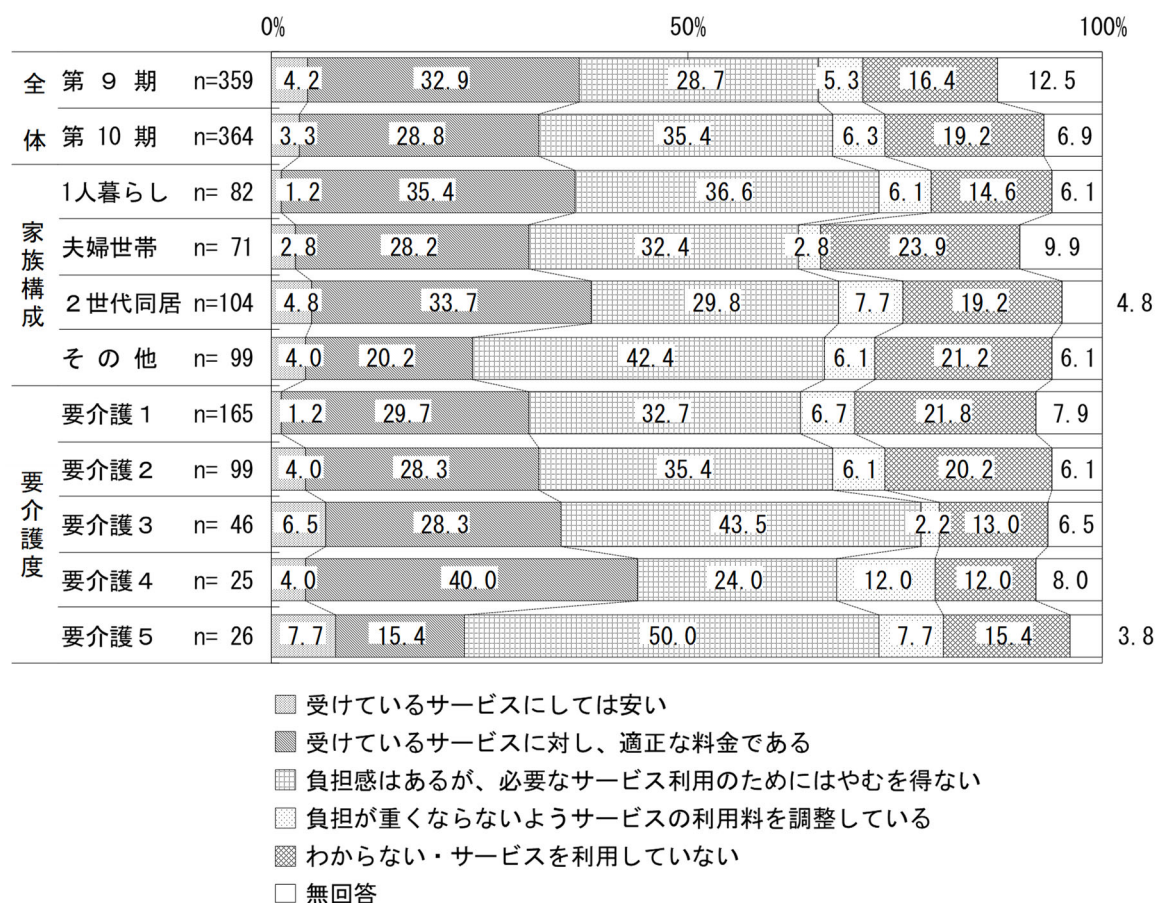
図表3-37 介護保険施設への入所・入居希望時期



(7) 在宅サービスの利用に要する費用について

- ▶在宅サービス利用に要する費用（１～３割の自己負担）については、「負担感はあるが、必要なサービス利用のためにはやむを得ない」が35.4%と最も高く、次いで「受けているサービスに対し、適正な料金である」が28.8%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「負担感はあるが、必要なサービス利用のためにはやむを得ない」が上昇し、「受けているサービスに対し、適正な料金である」が低下しています。
- ▶要介護度別にみると、要介護4では「受けているサービスに対し、適正な料金である」が40.0%と最も高くなっていますが、他の要介護度では「負担感はあるが、必要なサービス利用のためにはやむを得ない」が最も高く、特に要介護5では50%を占めています。

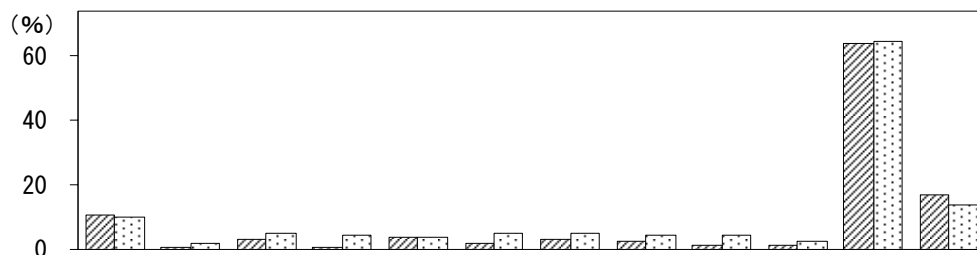
図表3-38 在宅サービスの利用に要する費用について



(8) 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用

- ▶現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについては、「利用していない」が64.6%を占めています。それ以外では、「配食」が9.6%と最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」および「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が4.9%、「掃除・洗濯」が4.7%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは、選択肢として掲げた9項目すべてが他の家族構成に比べ高くなっており、特に「配食」および「買い物（宅配は含まない）」は15%を超えています。
- ▶「その他」として、「入浴サービス」（2件）「住宅型有料老人ホームのサービス」などの記載がありました。

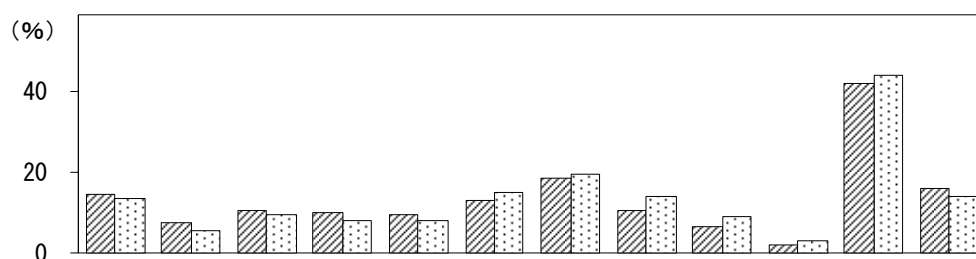
図表3-39 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用（複数回答）



(9) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

- ▶要介護認定者の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスとしては「移送サービス」が19.2%と最も高く、次いで「外出同行」が14.8%、「見守り・声かけ」が14.0%、「配食」が13.5%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「見守り、声かけ」、「在宅所や健康自生地などの定期的な通いの場」、「外出同行」、「移送サービス」など地域との関わり、社会参加に関わる項目が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、全般的に1人暮らしが高くなっています。
- ▶「その他」として、「入浴」（2件）「排泄サポート」「福祉車両（社会福祉協議会）の増車」などの記載がありました。

図表3-40 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



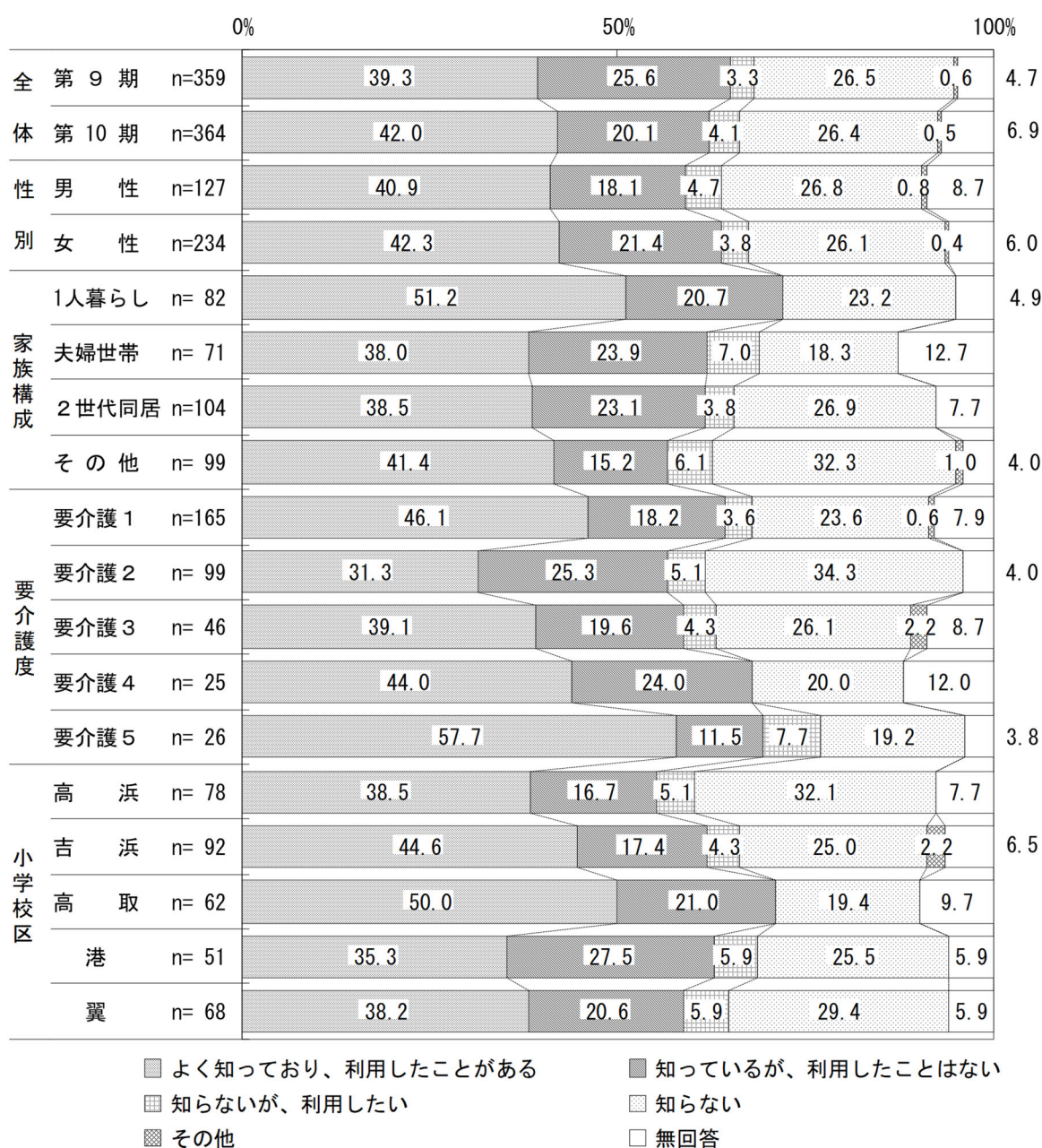
区 分		n	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	在宅所や健康自生地などの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
全体	第9期	359	14.2	7.5	10.3	9.7	9.2	12.8	18.4	10.3	6.4	1.9	42.1	15.9
	第10期	364	13.5	5.5	9.6	7.7	7.7	14.8	19.2	14.0	9.1	3.0	44.0	14.0
家族構成	1人暮らし	82	22.0	8.5	14.6	14.6	11.0	15.9	15.9	20.7	12.2	2.4	42.7	8.5
	夫婦世帯	71	14.1	8.5	15.5	8.5	8.5	21.1	23.9	14.1	9.9	1.4	36.6	16.9
	2世代同居	104	13.5	3.8	6.7	4.8	7.7	11.5	23.1	15.4	8.7	3.8	45.2	14.4
	その他	99	6.1	3.0	4.0	5.1	4.0	12.1	14.1	8.1	7.1	4.0	51.5	14.1
要介護度	要介護1	165	11.5	4.2	7.3	8.5	6.7	13.3	18.8	15.2	12.1	1.2	44.8	16.4
	要介護2	99	16.2	4.0	14.1	9.1	8.1	14.1	17.2	13.1	7.1	6.1	48.5	7.1
	要介護3	46	13.0	2.2	13.0	4.3	4.3	15.2	23.9	10.9	4.3	2.2	41.3	17.4
	要介護4	25	20.0	20.0	8.0	8.0	20.0	20.0	28.0	20.0	8.0	4.0	28.0	16.0
	要介護5	26	11.5	11.5	3.8	3.8	7.7	23.1	15.4	11.5	7.7	3.8	34.6	19.2
小学校区	高 浜	78	9.0	1.3	6.4	5.1	3.8	7.7	16.7	9.0	9.0	2.6	50.0	14.1
	吉 浜	92	16.3	10.9	15.2	14.1	12.0	18.5	19.6	19.6	6.5	3.3	39.1	14.1
	高 取	62	16.1	4.8	14.5	6.5	6.5	17.7	17.7	9.7	11.3	3.2	45.2	12.9
	港	51	7.8	3.9	5.9	2.0	5.9	15.7	27.5	17.6	11.8	2.0	39.2	15.7
	翼	68	16.2	4.4	4.4	7.4	8.8	16.2	16.2	14.7	8.8	4.4	44.1	13.2

6 介護保険制度等について

(1) 高浜市地域包括支援センターの認知度

- ▶高浜市地域包括支援センターについては、「よく知っており、利用したことがある」は42.0%、「知っているが、利用したことはない」は20.1%となっており、これらの合計《知っている》は62.1%となっています。第9期の調査結果に比べ「よく知っており、利用したことがある」が2.7ポイント上昇しています。
- ▶要介護度別にみると、要介護5では「よく知っており、利用したことがある」が50%を超えています。

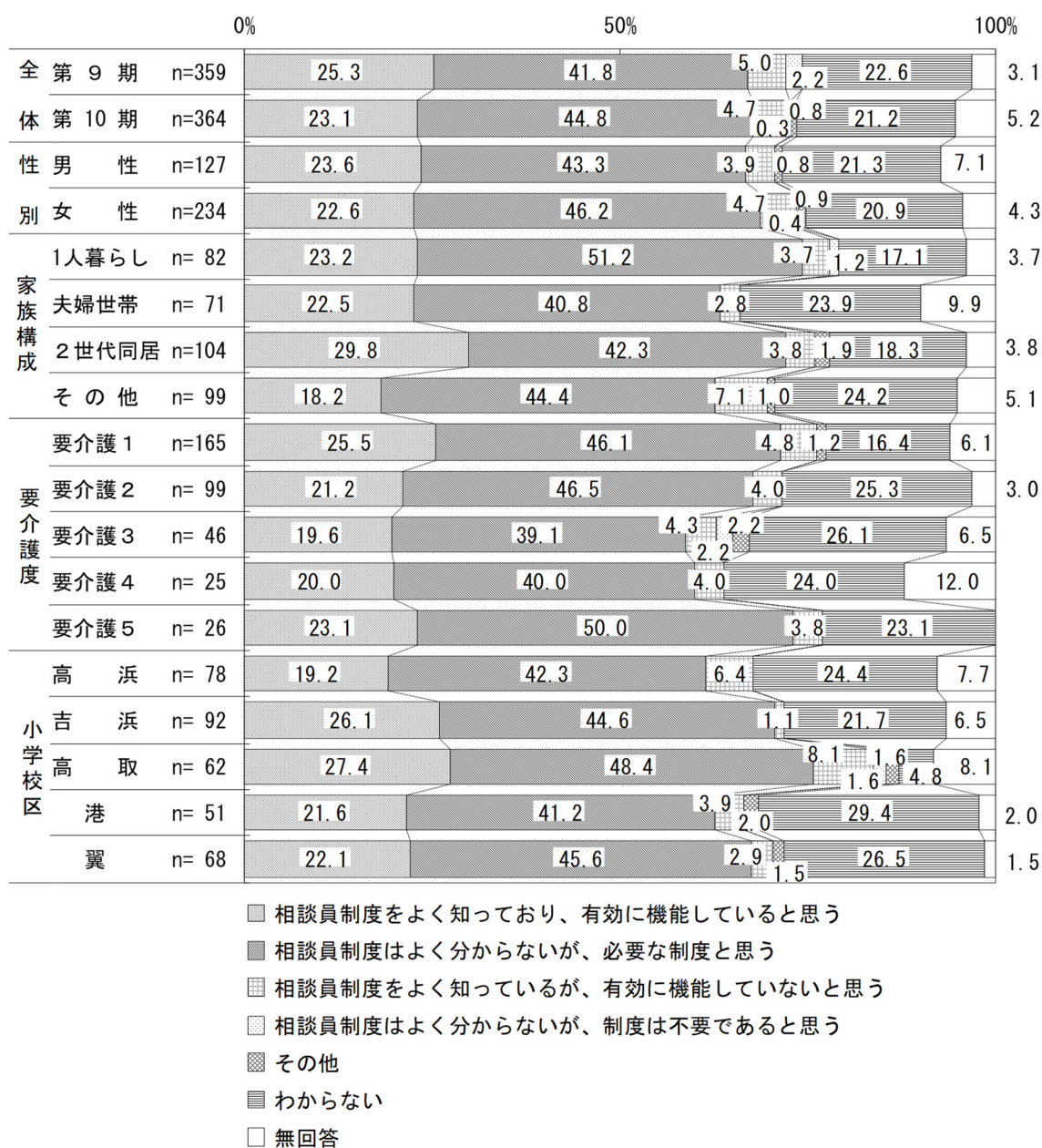
図表3-41 高浜市地域包括支援センターの認知度



(2) 介護サービス相談員制度について

▶本市の介護サービス相談員制度については、「相談員制度はよく分からないが、必要な制度と思う」が44.8%と最も高くなっています。「相談員制度をよく知っており、有効に機能していると思う」（23.1%）と「相談員制度をよく知っているが、有効に機能していないと思う」（4.7%）を合計した《制度の認知度》は27.8%であり、第9期の調査結果との比較では2.5ポイント低下しています。「相談員制度はよく分からないが、制度は不要であると思う」は0.3%です。

図表3-42 介護サービス相談員制度について

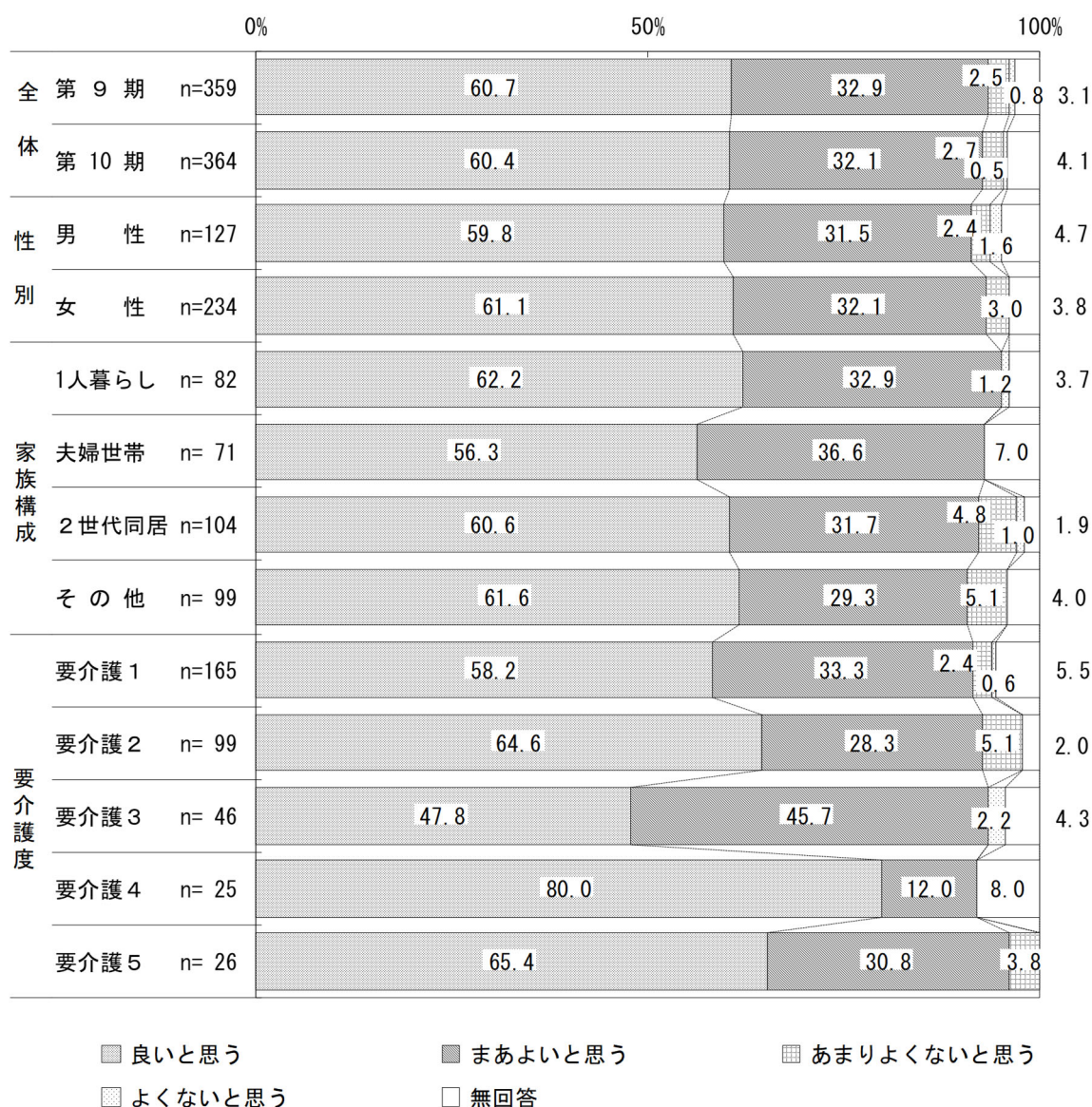


(3) 介護保険制度について

▶介護を社会全体で支える仕組みである介護保険制度については、「良いと思う」が60.4%と過半数を占めており、「まあよいと思う」（32.1%）との合計《良い》が92.5%となっています。

▶要介護度別にみると、「良いと思う」は最も高い要介護4では80.0%ですが、最も低い要介護3では47.8%と30ポイント以上の差があります。

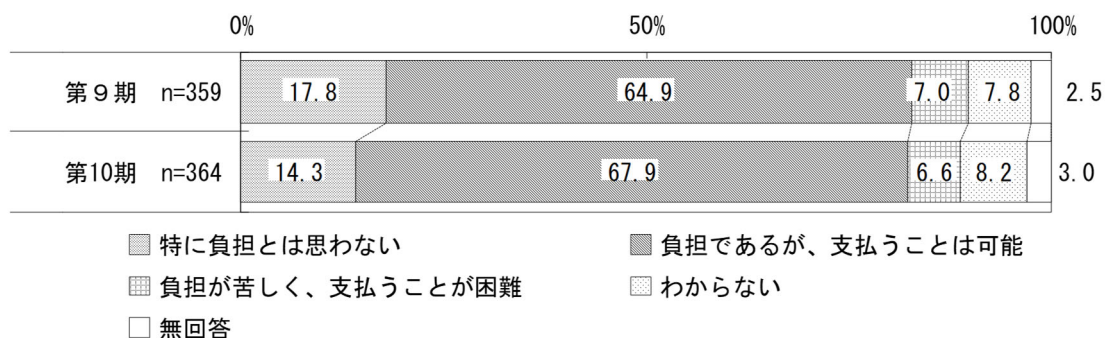
図表3-43 介護保険制度について



(4) 介護保険料の負担感

▶現在支払っている介護保険料については、「負担であるが、支払うことは可能」が67.9%を占めています。次いで「特に負担とは思わない」が14.3%、「負担が苦しく、支払うことが困難」が6.6%です。第9期の調査結果に比べ「負担であるが、支払うことは可能」が3ポイント上昇し「特に負担とは思わない」が3.5ポイント低下しています。

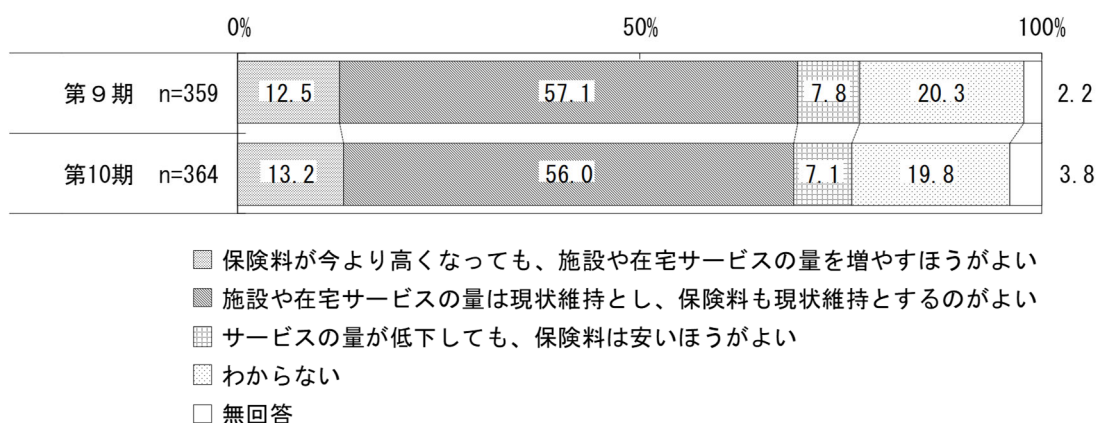
図表3-44 介護保険料の負担感



(5) 介護保険サービスの水準と保険料

▶介護保険サービスの水準と保険料の関係については、「施設や在宅サービスの量は現状維持とし、保険料も現状維持とするのがよい」が56.0%を占めています。次いで「わからない」が19.8%、「保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの量を増やすほうがよい」が13.2%、「サービスの量が低下しても、保険料は安いほうがよい」が7.1%です。第9期の調査結果に比べ、わずか0.7ポイントですが、「保険料が今より高くなっても、サービスの量を増やすほうがよい」が上昇し、「サービスの量が低下しても、保険料は安いほうがよい」が低下しています。

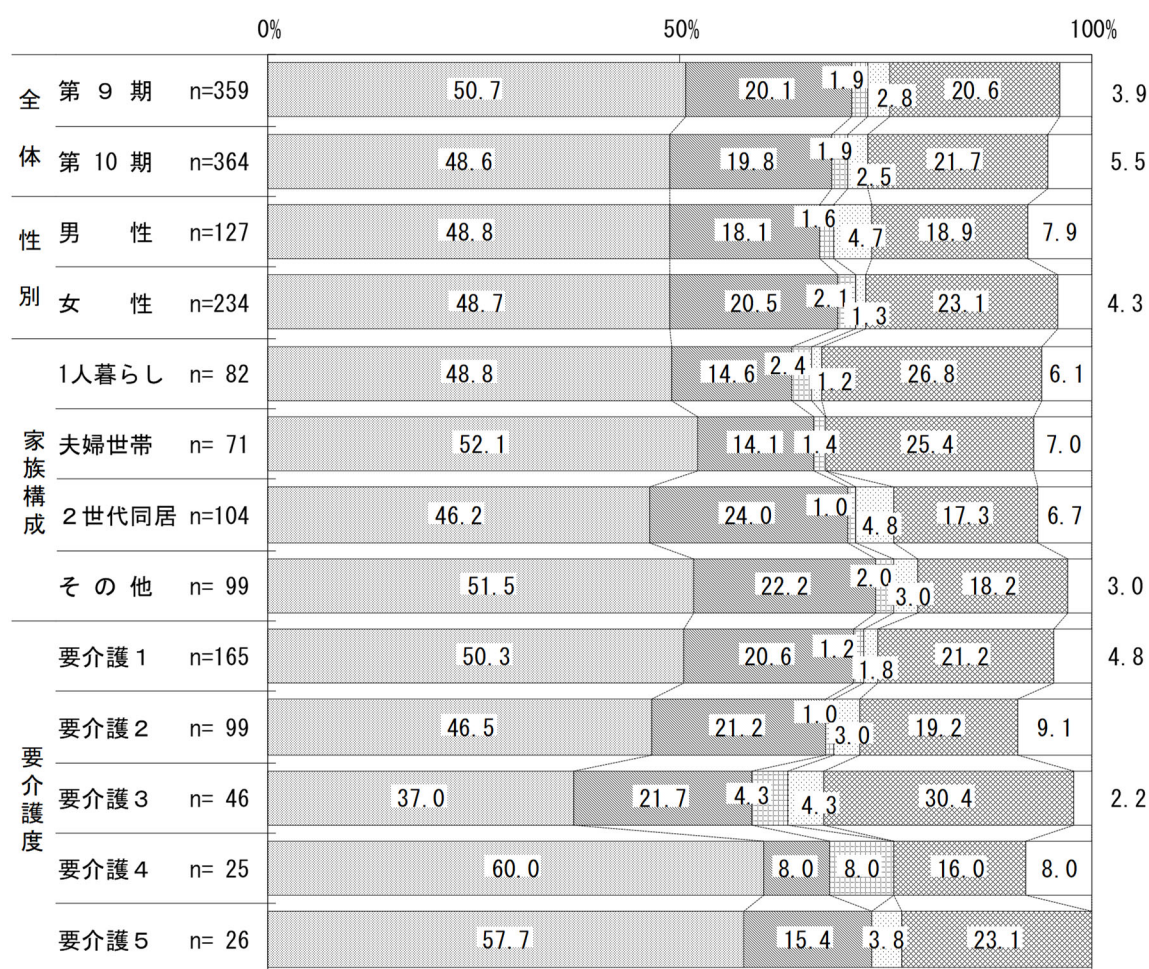
図表3-45 介護保険サービスの水準と保険料



(6) 居宅介護支援券の給付（横出しサービス）について

- ▶高浜市は、介護認定を受けて自宅で介護を受けている方に、介護度に応じて居宅介護支援券の給付を行っています（横出しサービス）。このことについての考えとしては、「保険料の負担があっても、居宅介護支援券の給付を現行通り行う」が48.6%を占めています。次いで「わからない」が21.7%、「居宅介護支援券の給付金額や内容の見直しを行い、保険料の負担を少なくする」が19.8%などとなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護4・5では「保険料の負担があっても、居宅介護支援券の給付を現行通り行う」が60%前後の高い割合となっています。
- ▶「その他」として、「利用可能範囲を拡大してほしい」（2件）などの記載がありました。

図表3-46 居宅介護支援券の給付（横出しサービス）について

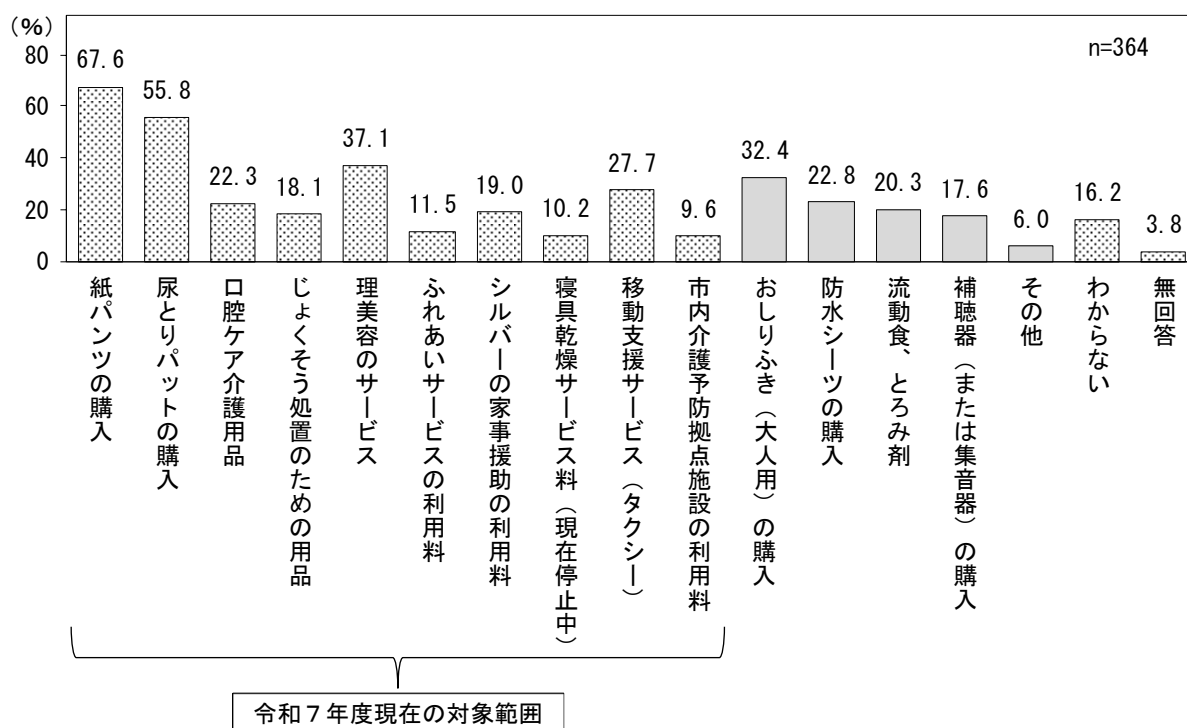


- 保険料の負担があっても、居宅介護支援券の給付を現行通り行う
- 居宅介護支援券の給付金額や内容の見直しを行い、保険料の負担を少なくする
- 居宅介護支援券の給付は行う必要はない
- その他
- わからない
- 無回答

(7) 居宅介護支援券の利用品目等

- ▶居宅介護支援券の給付対象にすべきサービスについては、「紙パンツの購入」が67.6%と最も高く、次いで「尿とりパットの購入」が55.8%、「理美容のサービス」が37.1%、「おしりふき（大人用）の購入」が32.4%、「移動支援サービス（タクシー）」が27.7%などとなっています。
- ▶「その他」として図表3-48の記載がありました。

図表3-47 居宅介護支援券の利用品目等（複数回答）



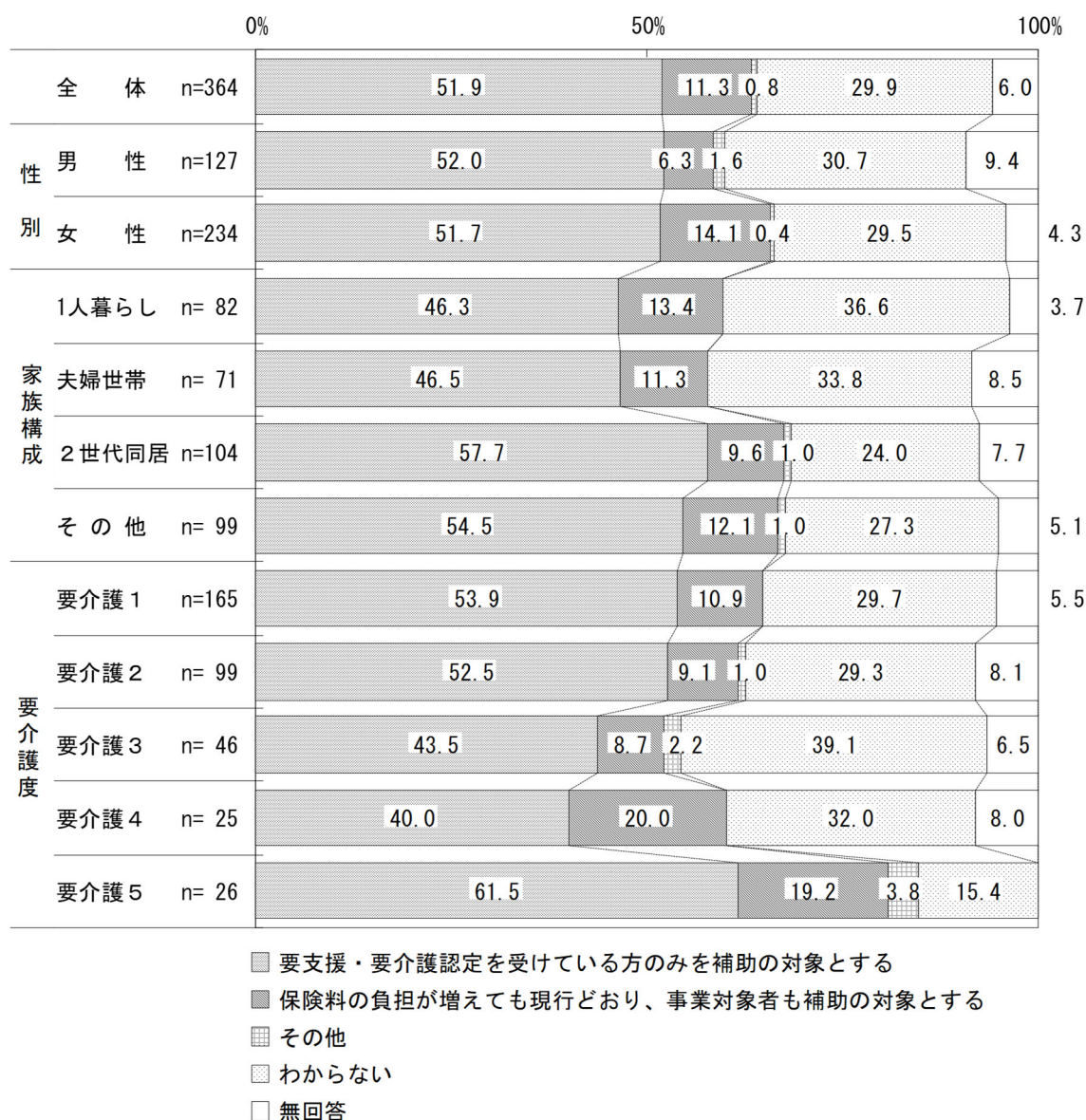
図表3-48 「その他」の記載内容

- ・ポータブルトイレの消臭剤（4件）
- ・洗濯用洗剤（3件）
- ・介護用手袋（2件）
- ・介護用の靴（2件）
- ・使い捨て介護用エプロン
- ・杖
- ・手押し車
- ・じょくそう予防のための座布団や座位姿勢保持のためのクッションなど
- ・漂白剤
- ・シャンプー、ボディケア用品
- ・尿漏れパッド
- ・利用できる期間が短い。4～8月の利用ができない。年間利用にしてほしい
- ・「流動食、とろみ剤」にアイソカルゼリーを含めてほしい

(8) 居宅介護支援券の給付対象者

- ▶居宅介護支援券の給付対象者についてどうすべきかをたずねたところ、「要支援・要介護認定を受けている方のみを補助の対象とする」が51.9%と最も高く、次いで、「わからない」が29.9%、「保険料の負担が増えても現行どおり、事業対象者も補助の対象とする」が11.3%などとなっています。
- ▶「その他」として「要支援の人を対象とすべきか悩む」「保険料は安く補助は受けたい」等の記載がありました。

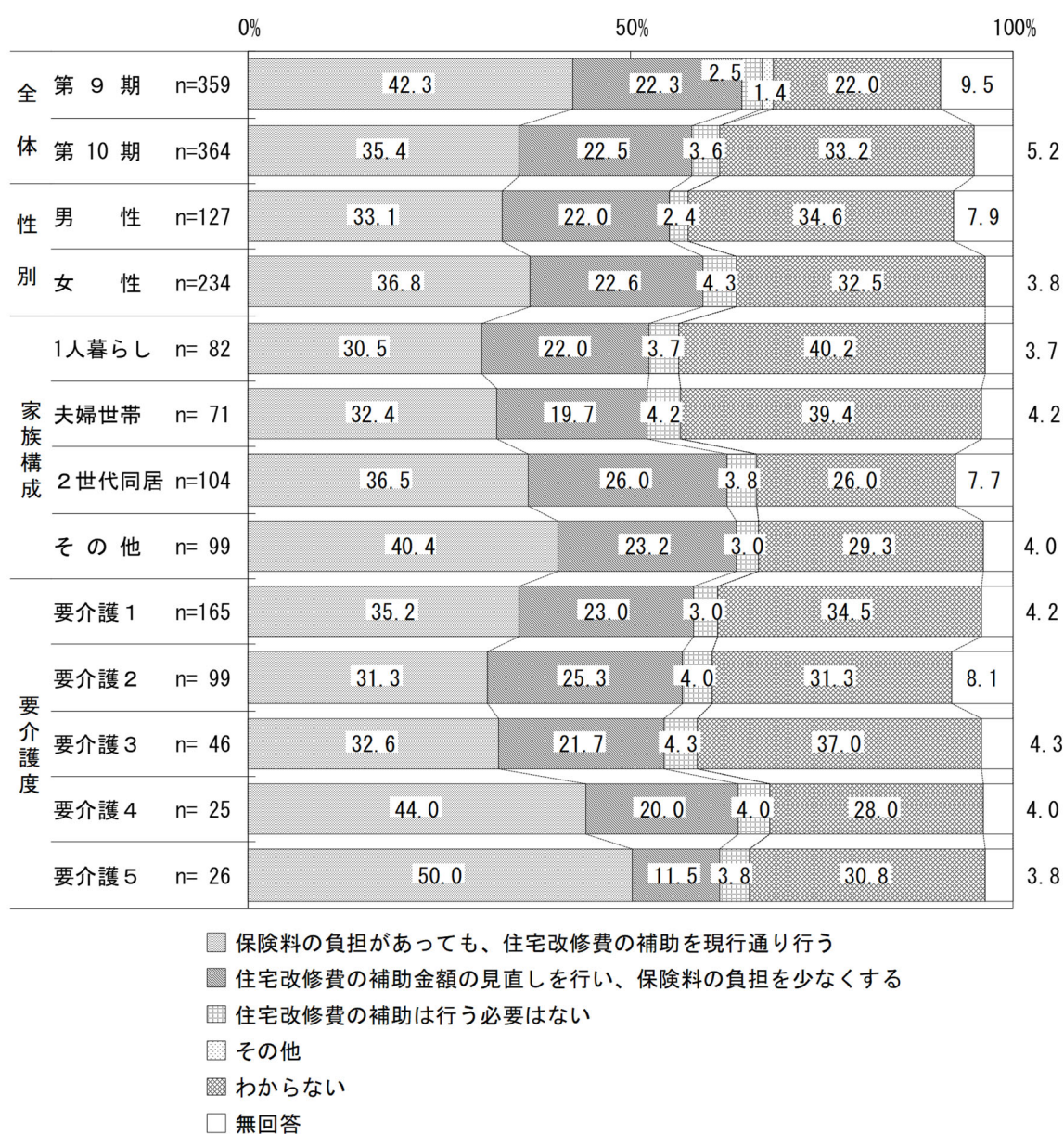
図表 3-49 居宅介護支援券の給付対象者



(9) 住宅改修費の補助について

▶高浜市は、65歳以上の人に、手すりの設置、玄関先の段差解消など転倒防止等の予防を行うために介護保険制度に上乗せをして、住宅改修費の補助を行っています（横出しサービス）。このことについての考えとしては、「保険料の負担があっても、住宅改修費の補助を現行通り行う」が35.4%と最も高く、次いで「わからない」が33.2%、「住宅改修費の補助金額の見直しを行い、保険料の負担を少なくする」が22.5%、「住宅改修費の補助は行う必要はない」が3.6%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「保険料の負担があっても、住宅改修費の補助を現行通り行う」が6.9ポイント低下しています。

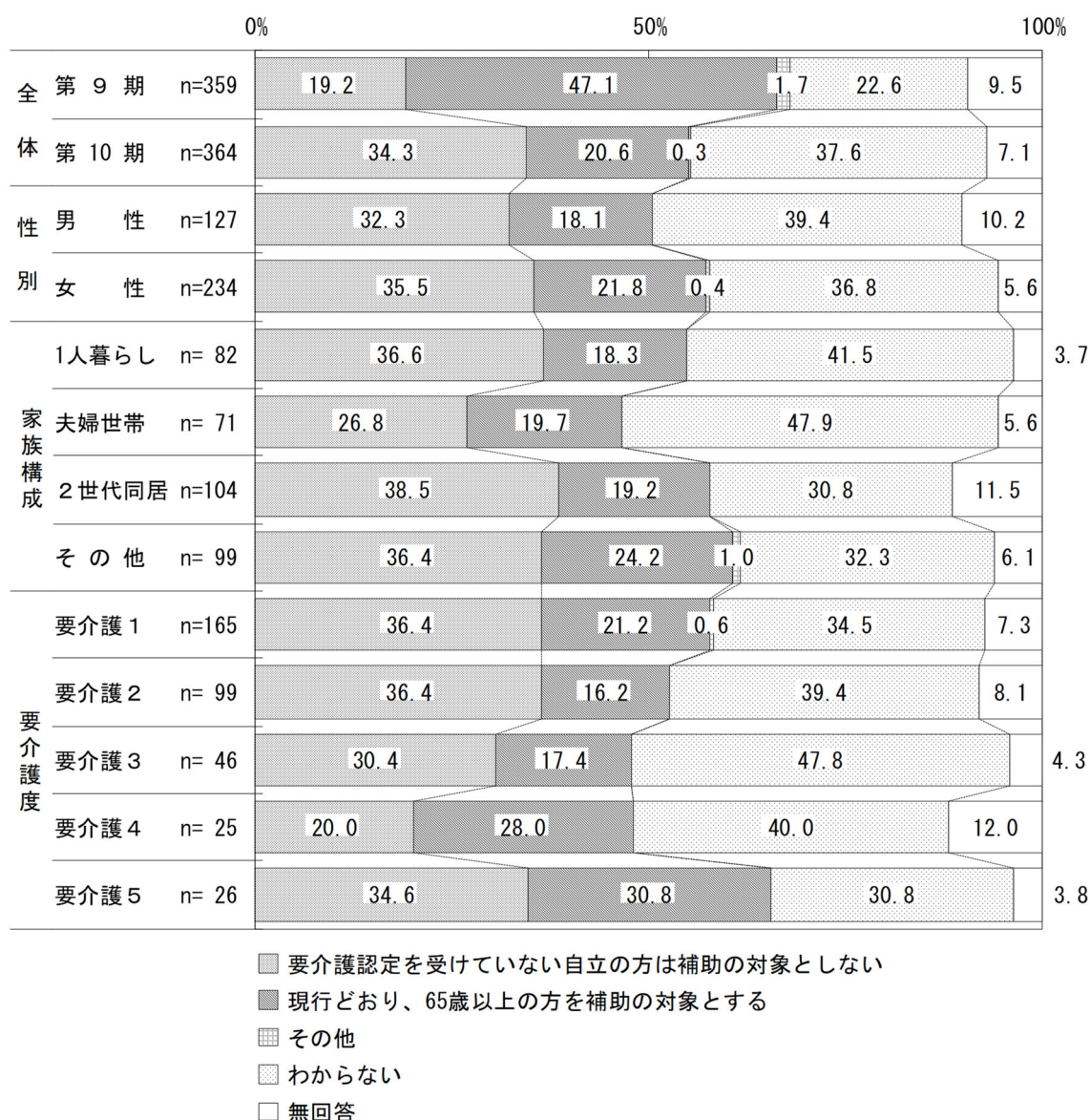
図表3-50 住宅改修費の補助について



(10) 住宅改修費の補助の対象者

- ▶住宅改修費の補助の対象者についてどうすべきかをたずねたところ、「わからない」が37.6%と最も高く、次いで「要介護認定を受けていない自立の方は補助の対象としない」が34.3%、「現行どおり、65歳以上の方を補助の対象とする」が20.6%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「要介護認定を受けていない自立の方は補助の対象としない」が15ポイント以上上昇し、「現行どおり、65歳以上の方を補助の対象とする」が25ポイント以上低下しています。
- ▶「その他」として「低所得者」の記載がありました。

図表 3-51 住宅改修費の補助の対象者

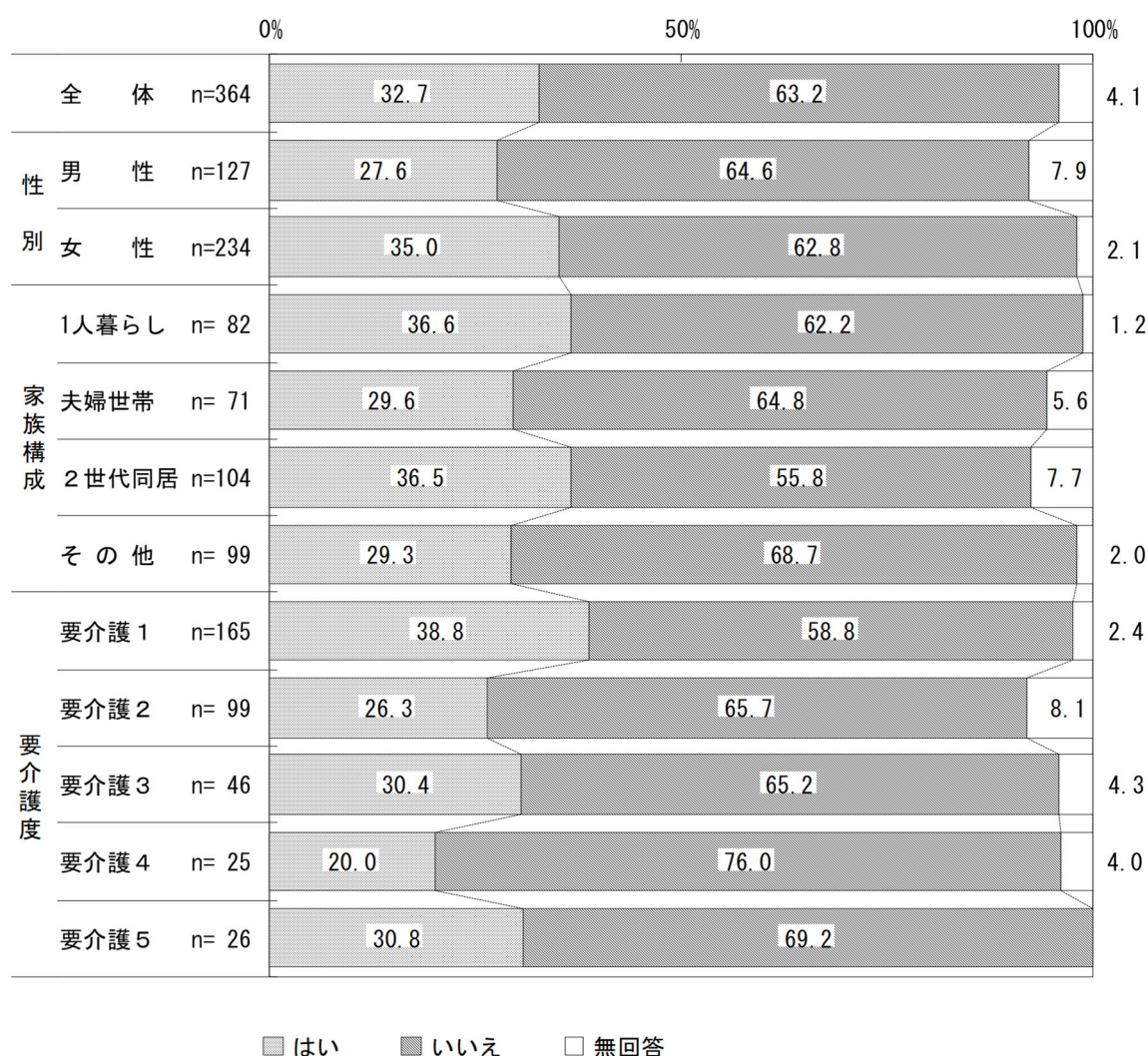


7 認知症について

(1) 認知症に関する相談窓口の認知度

- ▶「認知症に関する相談窓口を知っていますか」という設問については、「はい」が32.7%、「いいえ」が63.2%となっています。
- ▶認知度を性別にみると、男性に比べ女性が7.4ポイント上回っています。
- ▶認知度を要介護度別にみると、要介護1が38.8%と他の要介護度に比べ高くなっています。

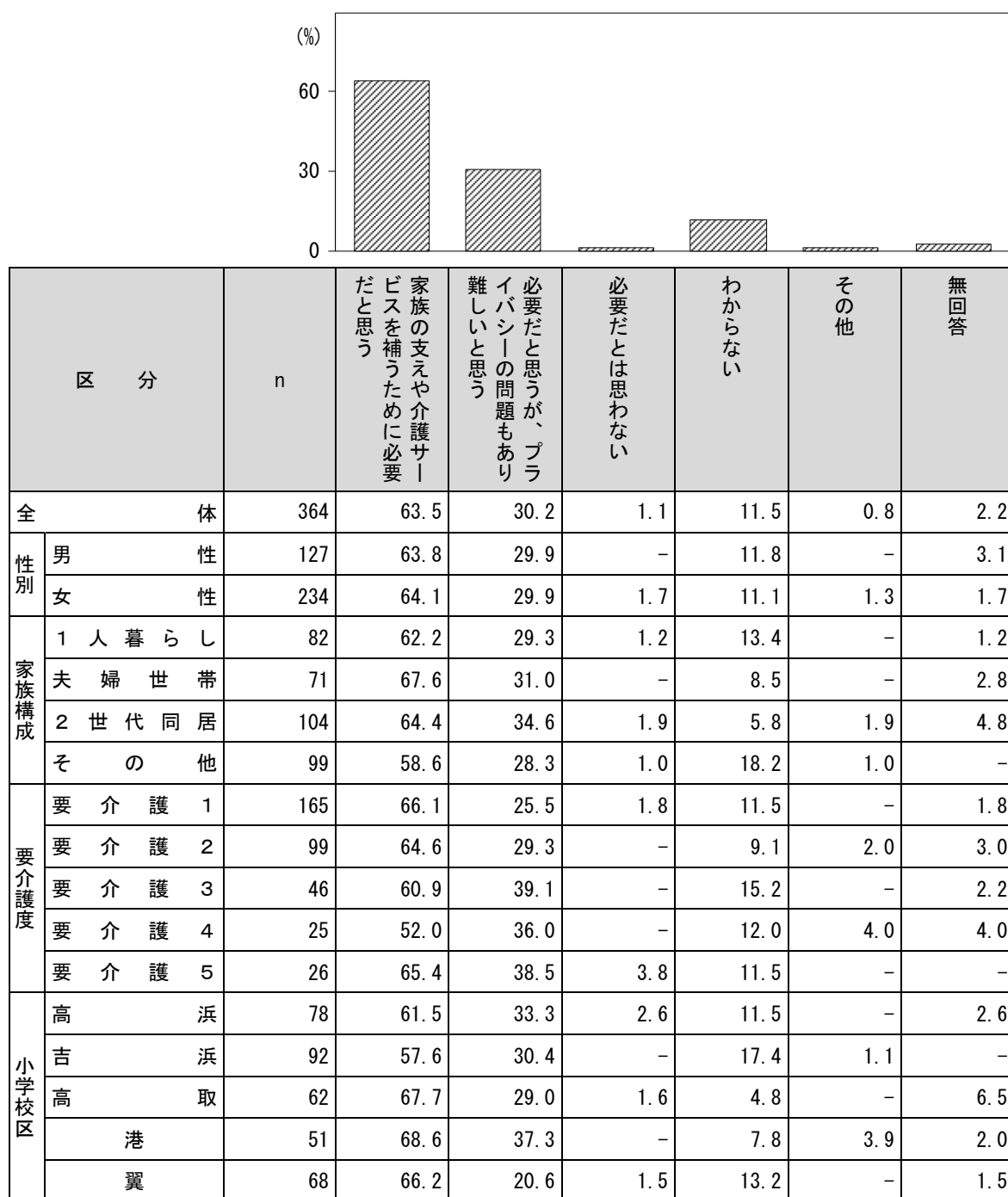
図表3-52 認知症に関する相談窓口の認知度



(2) 認知症高齢者への地域住民の協力

▶認知症高齢者が地域で生活するためには、地域住民の協力は必要だと思いますかという設問に対しては、「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が63.5%、「必要なことだと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う」が30.2%であり、「必要だと思わない」はわずか1.1%です。ほとんどの人が認知症の人とその家族への地域の協力が必要であると考えていることがわかります。

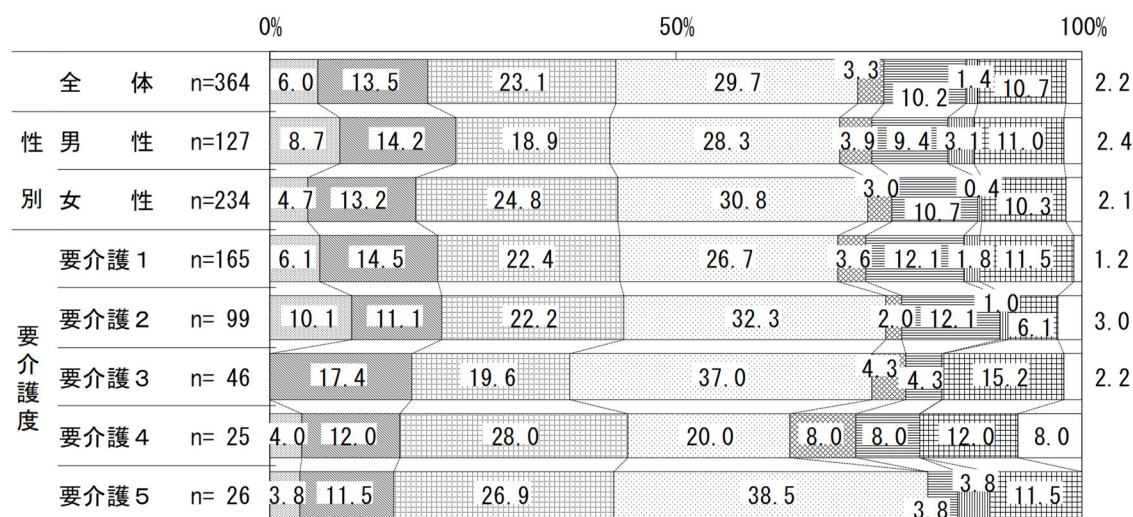
図表 3-53 認知症高齢者への地域住民の協力（複数回答）



(3) 認知症に対するイメージ

- ▶ 認知症に対するイメージは、「認知症になると、介護施設でサポートを利用することが必要となる」が29.7%と最も高くなっていますが、次いで「医療・介護などのサービスを利用しながら、住み慣れた地域で生活できる」が23.1%、「周りのサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活できる」が13.5%などとなっており、医療・介護サービスや周りのサポートがあれば住み慣れた地域で生活できると考えている人も多くいることがわかります。
- ▶ 「その他」として「認知症のレベルによるので1つだけの選択はできない」（2件）などの記載がありました。

図表3-54 認知症に対するイメージ

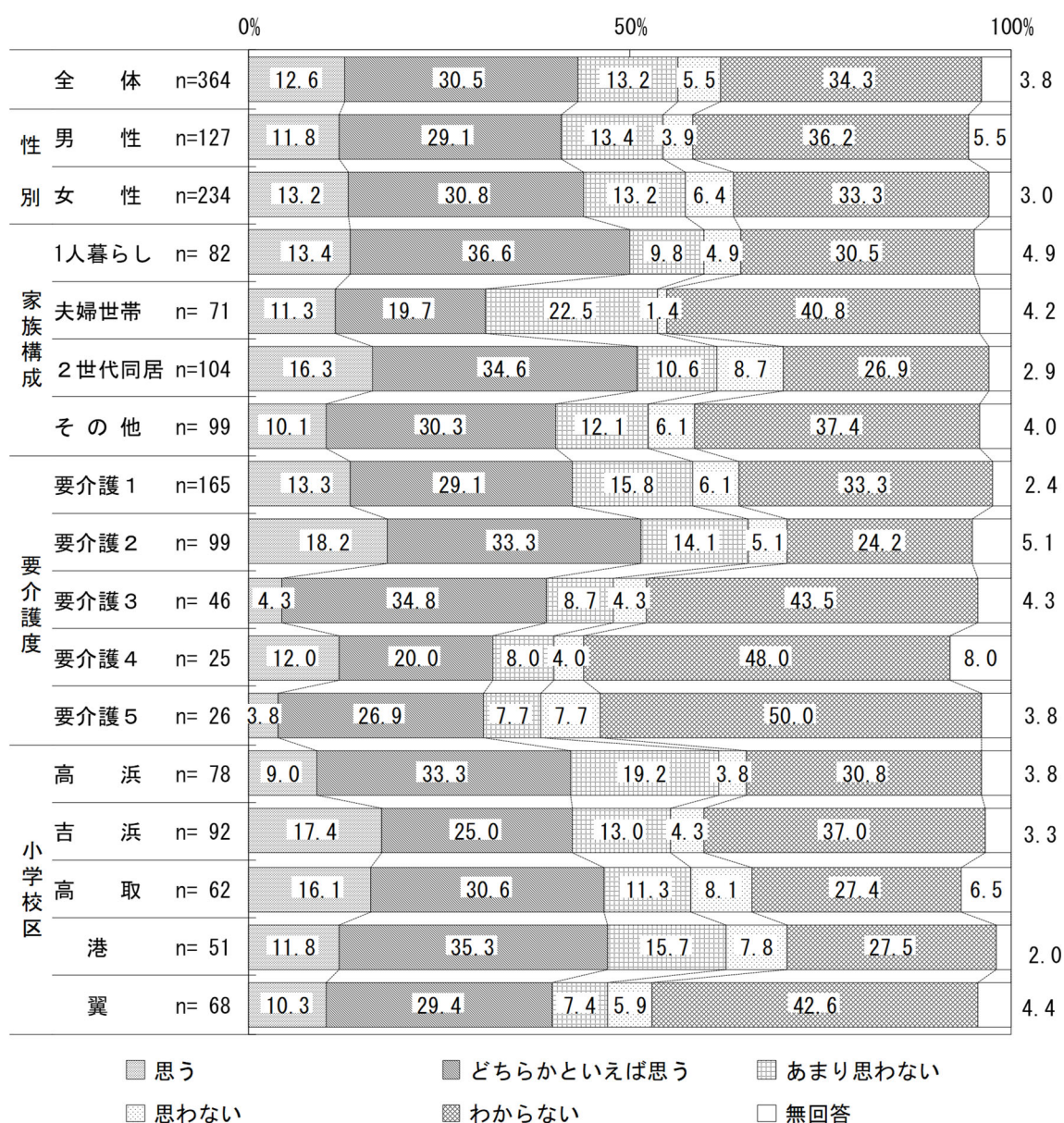


- できないことを自分で工夫しながら、今までどおり自立的に生活できる
- 周りのサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活できる
- 医療・介護などのサービスを利用しながら、住み慣れた地域で生活できる
- 認知症になると、介護施設でサポートを利用することが必要となる
- 認知症になると、周りに迷惑をかけるので住み慣れた地域で生活できなくなる
- 認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう
- その他
- わからない
- 無回答

(4) 新しい認知症感

- ▶「高浜市は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちだと思いますか」という設問に対しては、「わからない」が34.3%を占めていますが、次いで「どちらかといえば思う」が30.5%となっており、「思う」(12.6%)との合計《暮らし続けられると思う》は43.1%です。
- ▶《暮らし続けられると思う》を家族構成別にみると、夫婦世帯が他の家族構成に比べ低くなっています。
- ▶《暮らし続けられると思う》を要介護度別にみると、要介護2では50%を超えていますが、重度化にしたがい低下し、要介護5では30.7%となります。

図表3-55 高浜市は認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちか



8 高齢者施策について

(1) 高齢者施策に関する満足度

- ▶高浜市の高齢者施策について、①健康づくりやフレイル予防の施策、②医療の提供体制、③介護保険サービス、④生活支援サービスや見守り体制、⑤住まいに関する施策、⑥生きがいづくりに関する施策、⑦相談支援体制の7つの項目の満足度をお聞きしたところ、いずれの項目も「ふつう」が最も高くなっています。
- ▶《満足度》が最も高かったのは③介護保険サービスで34.0%、次いで②医療の提供体制が26.9%、⑦相談支援体制が25.5%、④生活支援サービスや見守り体制が24.7%、⑤住まいに関する施策が19.7%、①健康づくりやフレイル予防の施策が18.4%となっています。
- 第9期の調査結果に比べ《満足度》が1ポイント以上変化しているのは、上昇した⑦相談支援体制と、低下した③介護保険サービスです。

図表3-56 高齢者施策の満足度

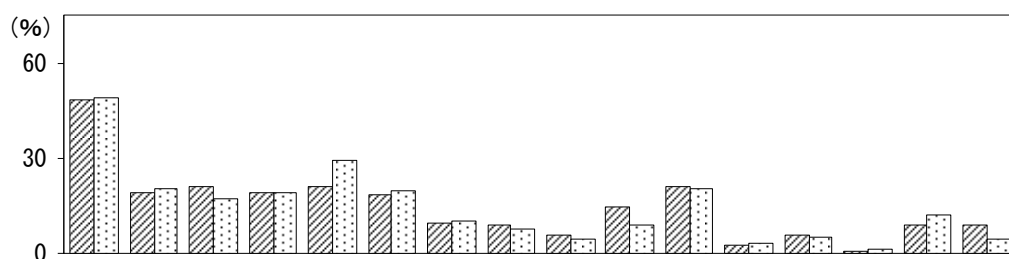
単位：％

区 分		満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	《満足度》 (満足+まあ満足)
	第9期 n=359 第10期 n=364							
①健康づくりやフレイル予防の施策	第9期	5.3	13.1	56.8	4.5	1.4	18.9	18.4
	第10期	4.7	13.7	61.0	6.3	1.9	12.4	18.4
②医療の提供体制	第9期	7.5	18.7	49.0	4.7	1.7	18.4	26.2
	第10期	6.0	20.9	52.2	7.4	1.9	11.5	26.9
③介護保険サービス	第9期	11.1	25.1	41.5	5.0	1.1	16.2	36.2
	第10期	7.4	26.6	45.9	6.3	1.9	11.8	34.0
④生活支援サービスや見守り体制	第9期	7.2	17.3	49.0	5.3	2.2	18.9	24.5
	第10期	4.9	19.8	53.8	7.4	1.9	12.1	24.7
⑤住まいに関する施策	第9期	5.8	13.9	53.8	5.8	0.8	19.8	19.7
	第10期	3.8	15.9	58.0	7.1	2.7	12.4	19.7
⑥生きがいづくりに関する施策	第9期	3.9	11.7	56.5	6.4	1.1	20.3	15.6
	第10期	3.3	11.8	61.5	8.5	2.7	12.1	15.1
⑦相談支援体制	第9期	8.4	15.0	49.0	5.3	2.5	19.8	23.4
	第10期	6.3	19.2	53.3	7.4	1.6	12.1	25.5

(2) 介護保険サービスおよび高齢者施策の充実のため市に希望すること

▶介護保険サービスおよび高齢者施策の充実のため、市に希望することとしては、「特別養護老人ホーム、老人保健施設など入所施設を増やして欲しい」が49.2%と最も高く、次いで「訪問・通所などの自宅にいて利用できるサービスを増やして欲しい」が29.1%、「認知症グループホームを増やして欲しい」および「家族で介護できるような家族支援策を充実して欲しい」が20.1%、「リハビリができる通所リハビリ施設を増やして欲しい」が19.5%、「泊まったり通ったりできる小規模多機能型施設を増やして欲しい」が18.7%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「訪問・通所などの自宅にいて利用できるサービスを増やして欲しい」が8.2ポイント上昇しています。

図表 3-57 市に希望すること（複数回答・3つまで）



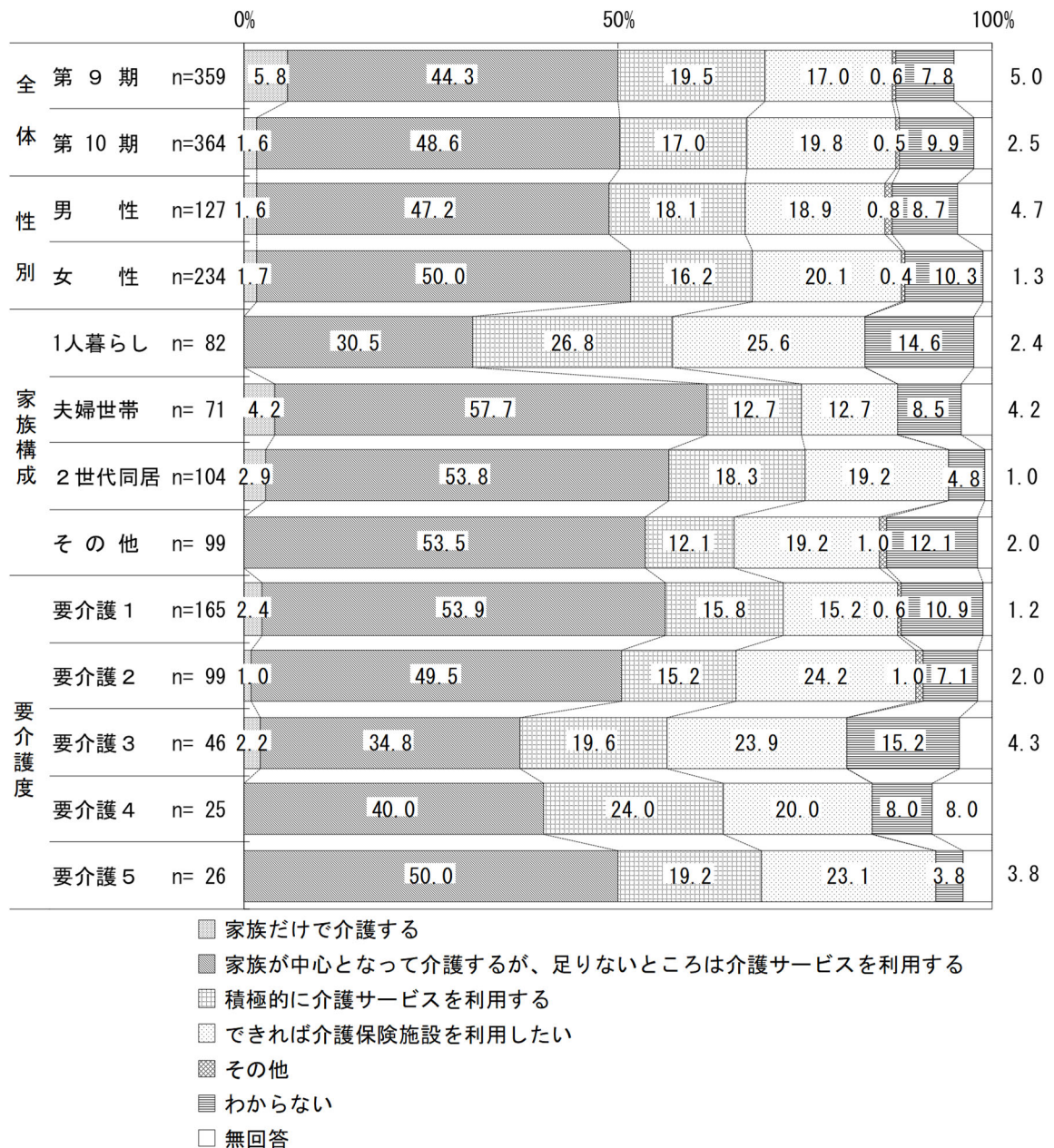
区 分		n	無回答	わからない	その他	生きがいづくりのための生涯学習施策を充実して欲しい	地域や福祉活動を育てるような市民活動育成策を充実して欲しい	家族で介護できるような家族支援策を充実して欲しい	認知症を予防するための研究や取り組み	仲間と一緒に楽しくフレイル予防に取り組める健康自生地の充実	介護が必要にならないようなフレイル予防をする施策の充実	夜間に訪問してくれる24時間対応の訪問介護を行って欲しい	リハビリができる通所リハビリ施設を増やして欲しい	訪問・通所などの自宅にいて利用できるサービスを増やして欲しい	泊まったり通ったりできる小規模多機能型施設を増やして欲しい	サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームを充実して欲しい	認知症グループホームを増やして欲しい	特別養護老人ホーム、老人保健施設など入所施設を増やして欲しい
全体	第 9 期	359	8.6	8.9	0.6	5.8	2.2	20.9	14.5	5.6	8.9	9.2	18.4	20.9	18.7	20.6	18.9	48.2
	第 10 期	364	4.1	12.1	1.4	5.2	3.0	20.1	8.5	4.4	7.4	9.9	19.5	29.1	18.7	16.8	20.1	49.2
家族構成	1 人 暮 ら し	82	4.9	17.1	1.2	13.4	1.2	12.2	8.5	6.1	11.0	6.1	13.4	24.4	12.2	23.2	25.6	42.7
	夫 婦 世 帯	71	4.2	15.5	-	-	5.6	19.7	7.0	1.4	4.2	15.5	21.1	29.6	19.7	12.7	49.3	71
	2 世 代 同 居	104	3.8	6.7	1.0	3.8	2.9	23.1	9.6	5.8	7.7	7.7	26.9	31.7	17.3	15.4	22.1	54.8
	そ の 他	99	4.0	10.1	1.0	3.0	3.0	24.2	8.1	4.0	7.1	10.1	17.2	31.3	26.3	16.2	20.2	49.5
要介護度	要 介 護 1	165	2.4	15.8	1.8	7.3	4.2	19.4	9.1	4.2	9.7	9.7	20.0	23.0	21.2	15.8	20.0	48.5
	要 介 護 2	99	4.0	11.1	1.0	3.0	2.0	18.2	8.1	2.0	4.0	13.1	23.2	33.3	17.2	15.2	20.2	49.5
	要 介 護 3	46	8.7	4.3	-	6.5	-	23.9	6.5	4.3	10.9	4.3	17.4	32.6	17.4	19.6	21.7	47.8
	要 介 護 4	25	8.0	4.0	-	-	4.0	16.0	16.0	4.0	-	12.0	16.0	32.0	12.0	28.0	24.0	64.0
	要 介 護 5	26	3.8	11.5	-	3.8	3.8	30.8	3.8	15.4	7.7	7.7	11.5	42.3	19.2	11.5	11.5	42.3

9 これからの生活について

(1) 今後の介護の希望

- ▶今後の介護の希望としては、「家族が中心となって介護するが、足りないところは介護サービスを利用する」が48.6%と最も高く、次いで「できれば介護保険施設を利用したい」が19.8%、「積極的に介護サービスを利用する」が17.0%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「家族だけで介護する」が4.2ポイント低下しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「できれば介護保険施設を利用したい」が25.6%と比較的高くなっています。

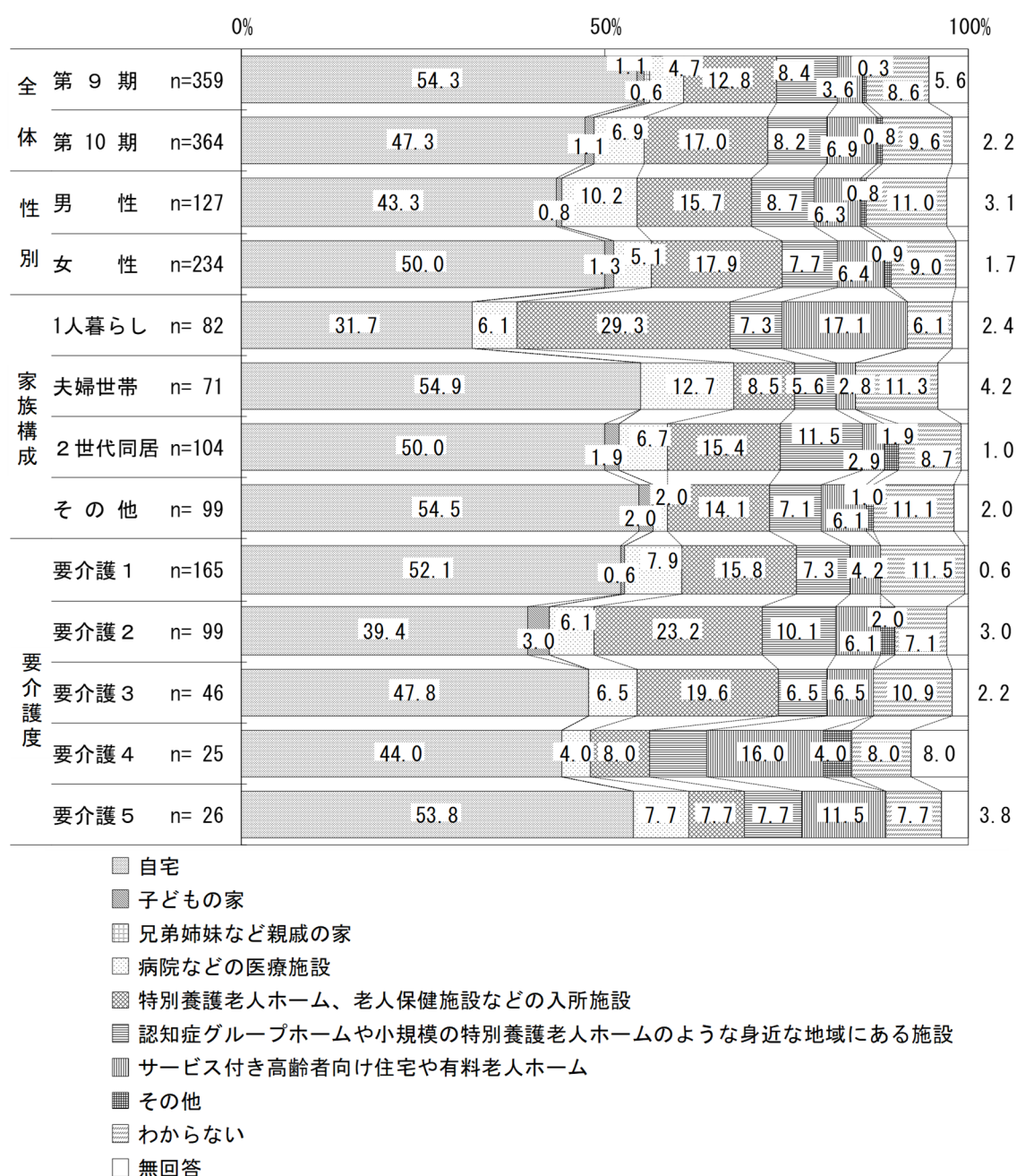
図表 3-58 今後の介護の希望



(2) 今後、介護を受けたい場所

- ▶今後、介護を受けたい場所としては、「自宅」が47.3%を占め、次いで「特別養護老人ホーム、老人保健施設などの入所施設」が17.0%、「わからない」が9.6%、「認知症グループホームや小規模の特別養護老人ホームのような身近な地域にある施設」が8.2%、「病院などの医療施設」および「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム」が6.9%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「自宅」が5ポイント以上低下しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしは「特別養護老人ホーム、老人保健施設などの入所施設」が29.3%と比較的高くなっています。

図表3-59 今後、介護を受けたい場所

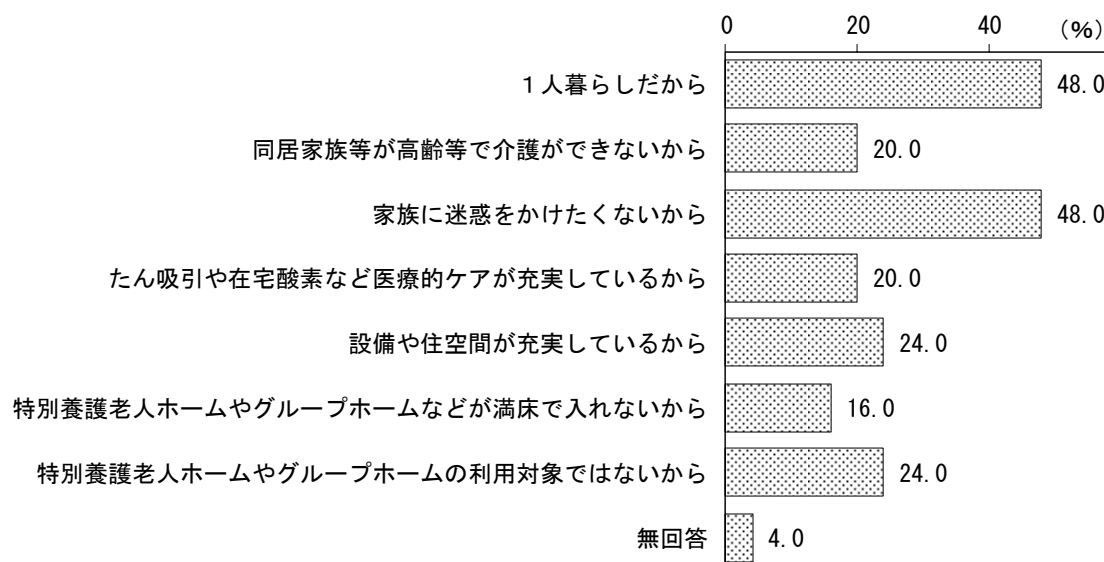


(3) サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームを希望する理由

▶今後、介護を受けたい場所として「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム」と回答した25人に希望した理由をたずねたところ、「1人暮らしだから」および「家族に迷惑をかけたくないから」が48.0%と最も高く、次いで「設備や住空間が充実しているから」および「特別養護老人ホームやグループホームの利用対象ではないから」が24.0%、「同居家族等が高齢等で介護ができないから」および「たん吸引や在宅酸素など医療的ケアが充実しているから」が20.0%、「特別養護老人ホームやグループホームなどが満床で入れないから」が16.0%となっています。

図表3-60 サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームを希望する理由

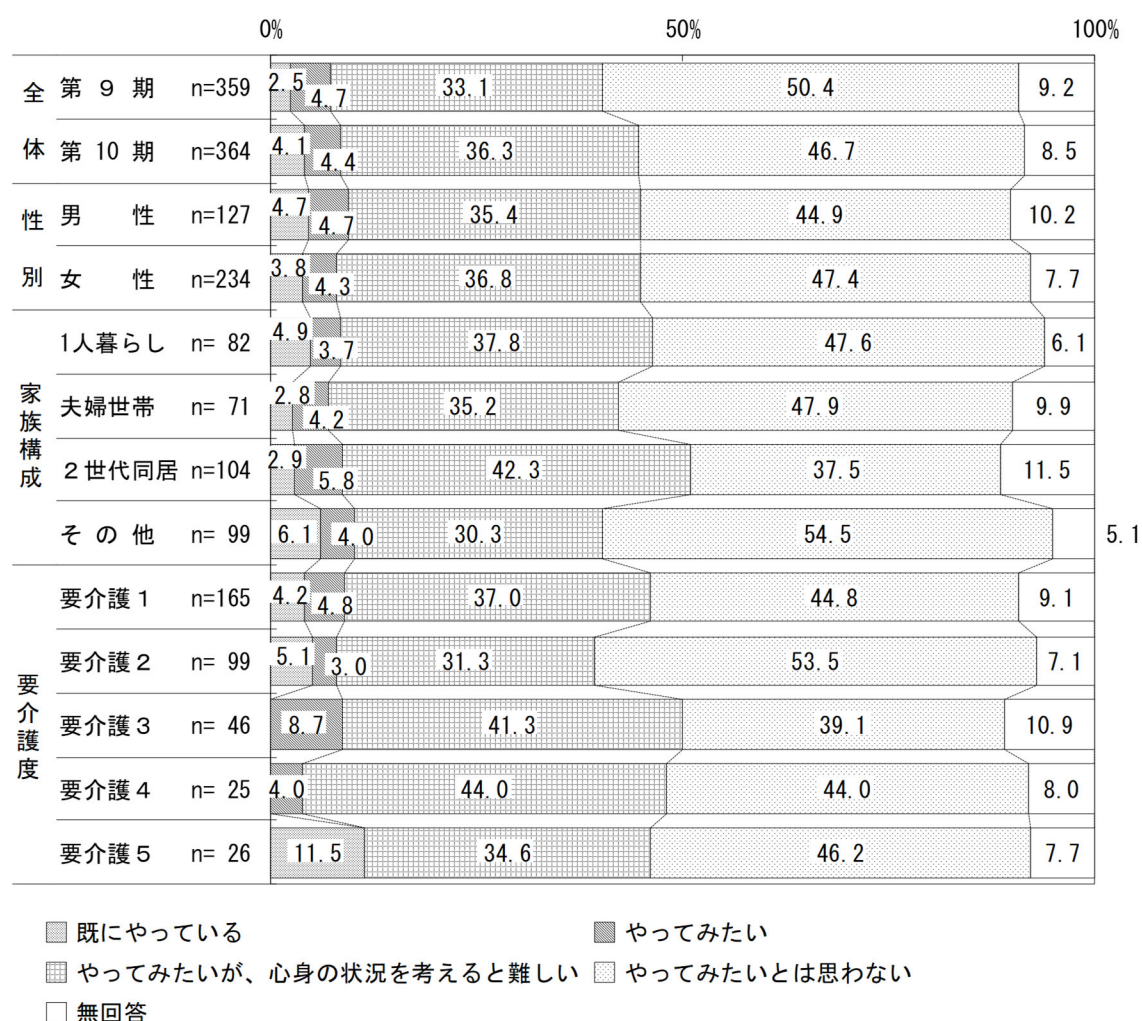
n=25



(4) 自分の能力や経験を生かした仕事や地域活動

- ▶「自分の能力や経験を生かして、できる範囲で仕事や地域での活動をやってみたいと思いますか」という設問については、「やってみたいと思わない」が46.7%と最も高くなっています。「やってみたいが、心身の状況を考えると難しい」(36.3%)、「やってみたい」(4.4%)、「既にやっている」(4.1%)を合計した《活動意向》は44.8%で、第9期の調査結果に比べ4.5ポイント上昇しています。
- ▶「やってみたいが、心身の状況を考えると難しい」は、家族構成別では2世代同居、要介護度では要介護3および4で40%を超える高い割合となっています。

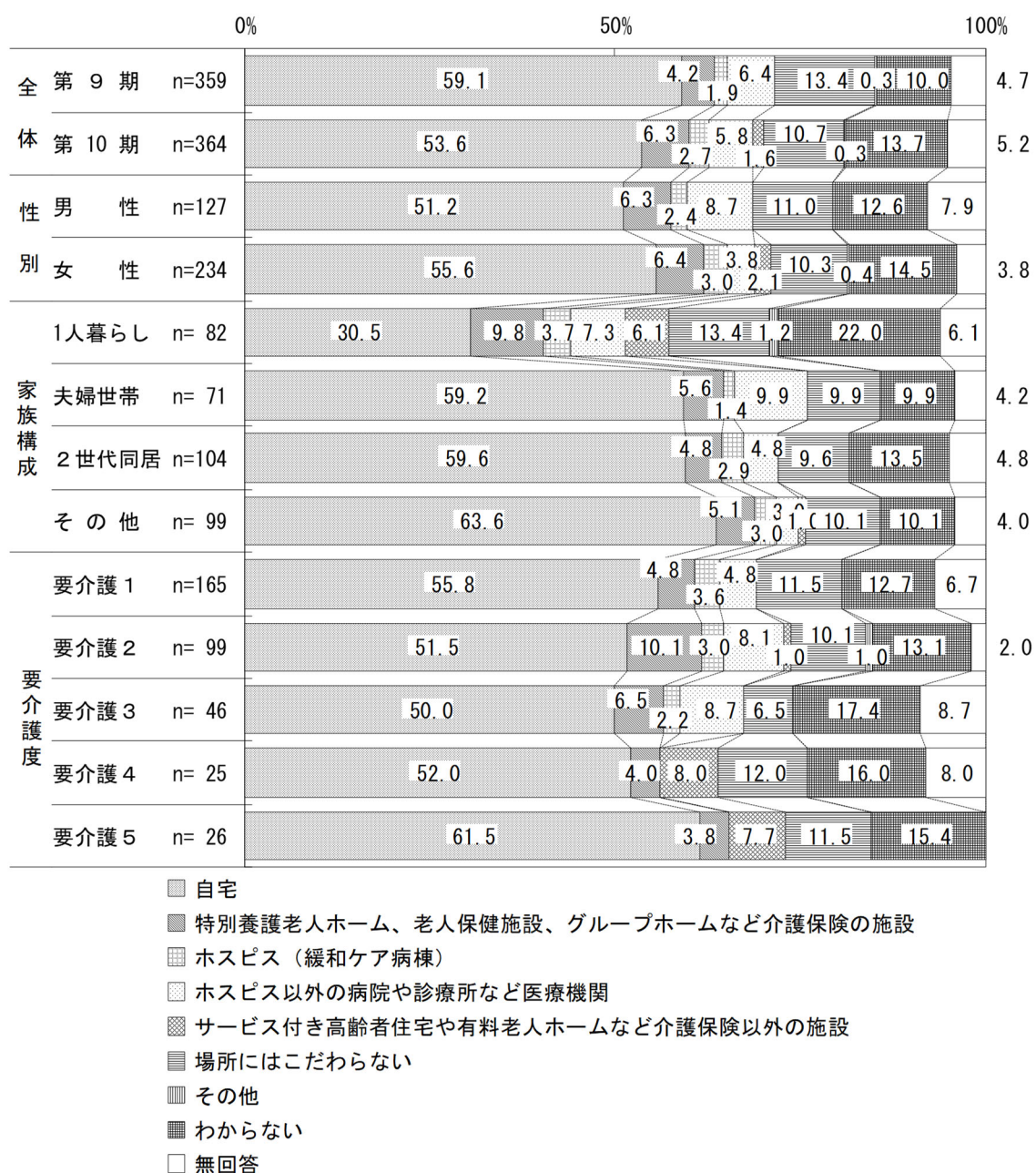
図表3-61 自分の能力や経験を生かした仕事や地域活動をやってみたいか



(5) 人生の最期をどこで迎えたいか

- ▶「人生の最期をどこで迎えたいとお考えですか」という設問については、「自宅」が53.6%と最も高く、次いで「わからない」が13.7%、「場所にはこだわらない」が10.7%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「自宅」が5ポイント以上低下しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしは「自宅」が30%台と大幅に低くなっている一方、「わからない」が22%あります。

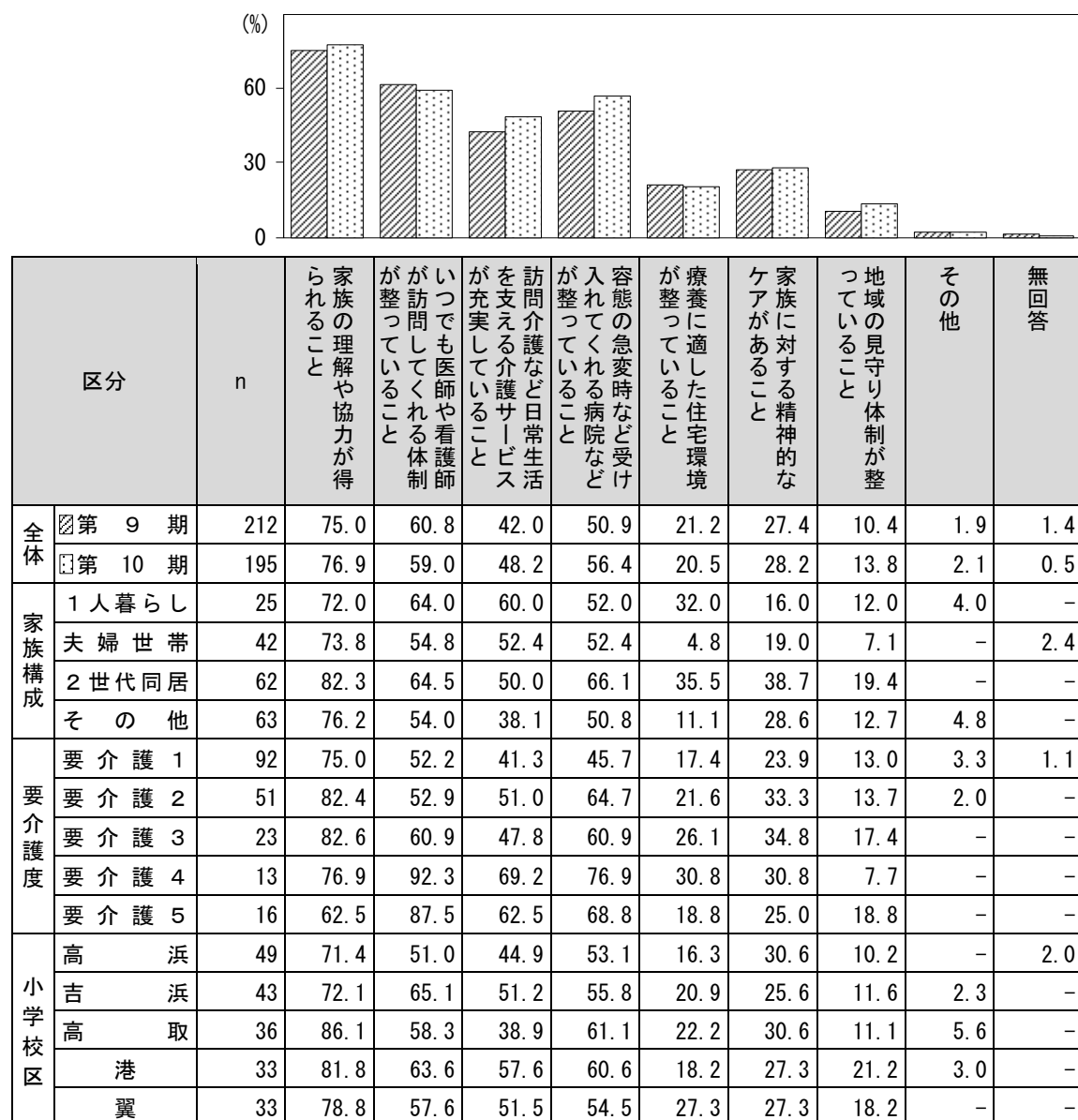
図表3-62 人生の最期をどこで迎えたいと考えるか



(6) 自宅で最後を迎えるための条件

- ▶自宅で人生の最期を迎えたいと回答した195人に、どのような条件がそろえば、自宅で安心して最期を迎えられると思うかをお聞きしたところ、「家族の理解や協力が得られること」が76.9%と最も高く、次いで「いつでも医師や看護師が訪問してくれる体制が整っていること」が59.0%、「容態の急変時など受け入れてくれる病院などが整っていること」が56.4%、「訪問介護など日常生活を支える介護サービスが充実していること」が48.2%などとなっています。第9期の調査結果に比べ多くの項目が上昇しています。
- ▶「その他」として「金銭的な負担が増えない上でサービスが充実すること」などの記載がありました。

図表3-63 自宅で安心して人生の最期を迎えるための条件（複数回答）

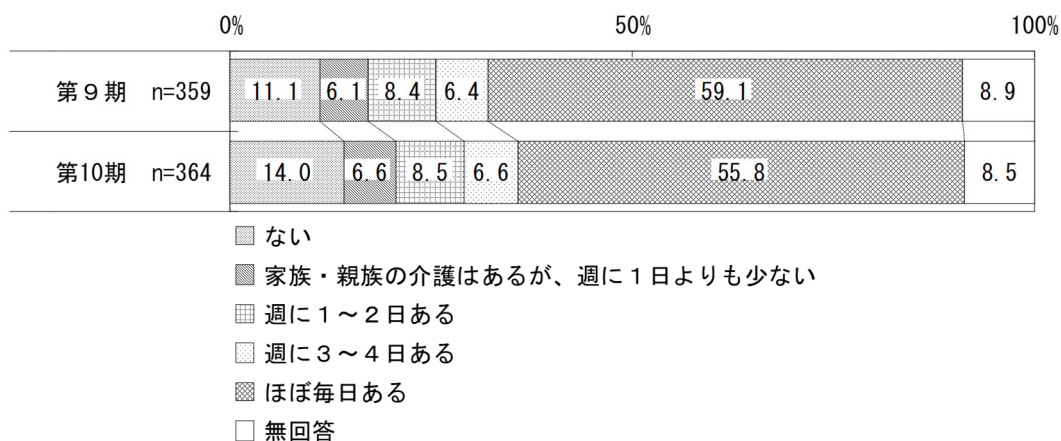


10 介護者について

(1) 家族や親族からの介護が週にどのくらいあるか

▶家族や親族からの介護が週にどのくらいあるかについては、「ほぼ毎日ある」が55.8%を占めています。

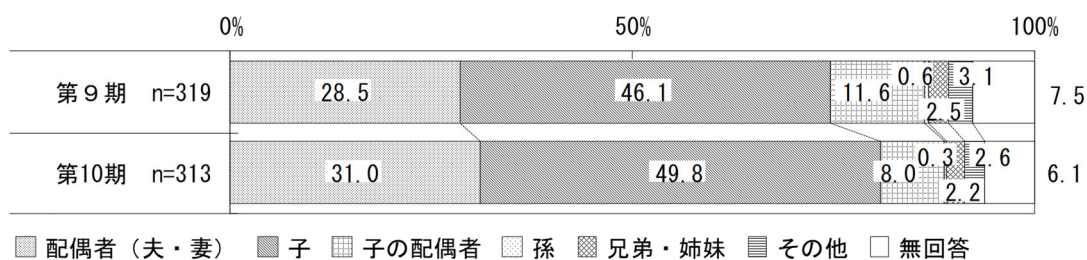
図表3-64 家族や親族からの介護が週にどのくらいあるか



(2) 家族の中の主な介護者

▶家族の中の主な介護者としては、「子」が49.8%と最も高く、次いで「配偶者(夫・妻)」が31.0%、「子の配偶者」が8.0%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「子」および「配偶者(夫・妻)」が上昇し、「子の配偶者」が低下しています。

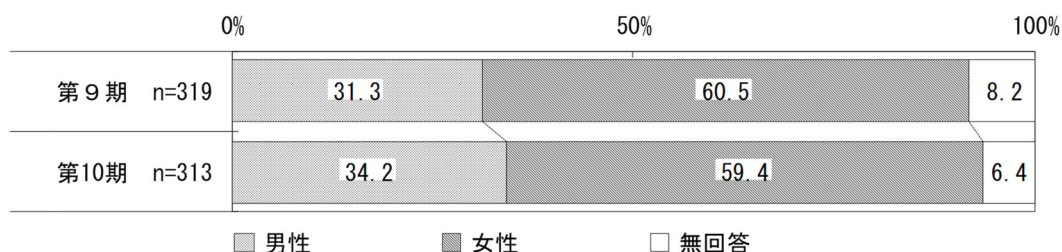
図表3-65 家族の中の主な介護者



(3) 主な介護者の性別

▶家族の中の主な介護者の性別は、「女性」が59.4%を占めていますが、第9期の調査結果に比べ1.1ポイント低下し、「男性」が2.9ポイント上昇しています。

図表3-66 家族の中の主な介護者の性別

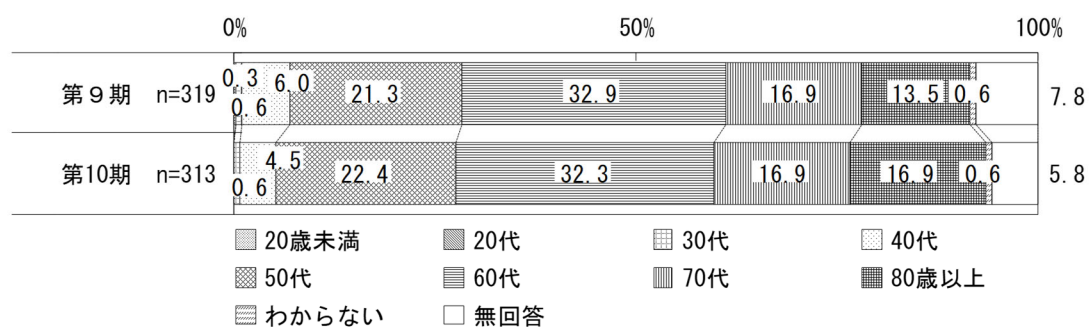


(4) 主な介護者の年齢

▶主な介護者の年齢は、「60代」が32.3%と最も高く、次いで「50代」が22.4%、「70代」および「80歳以上」が16.9%などとなっています。主な介護者の3人に1人以上が70歳以上です。また、「20歳未満」および「20代」という回答はありませんでした。

▶第9期の調査結果に比べ「80歳以上」が3.4ポイント上昇しています。

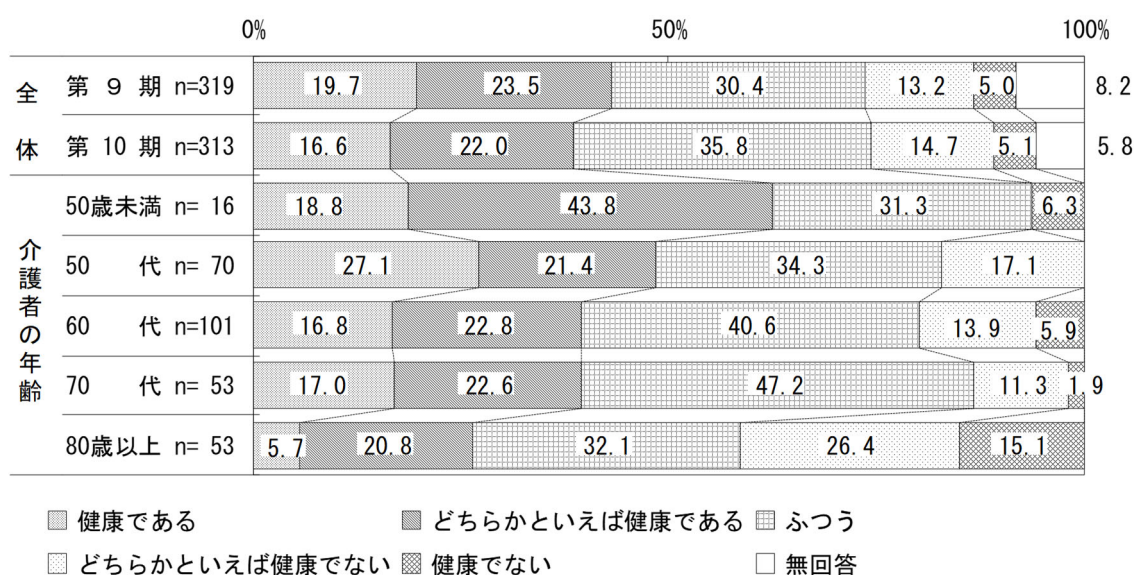
図表3-67 主な介護者の年齢



(5) 主な介護者の健康状態

- ▶主な介護者の健康状態は、「ふつう」が35.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば健康である」が22.0%となっていますが、「どちらかといえば健康でない」が14.7%、「健康でない」が5.1%あり、これらを合計した《健康に問題がある》が19.8%あります。第9期の調査結果に比べ《健康に問題がある》が1.6ポイント上昇しています。
- ▶主な介護者の年齢別にみると、80歳以上では《健康に問題がある》が40%以上を占めています。

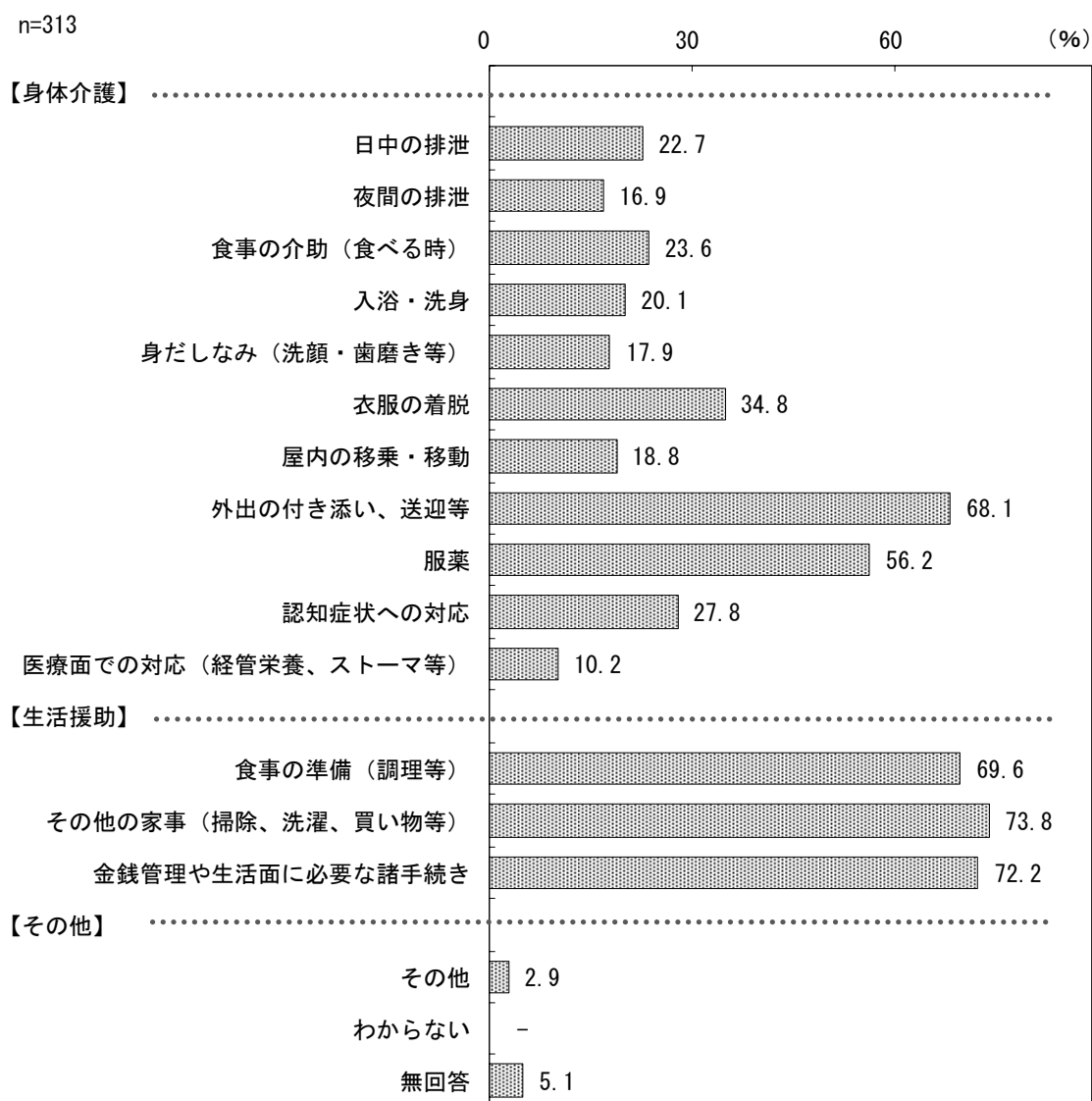
図表3-68 主な介護者の健康状態



(6) 主な介護者が行っている介護等

- ▶現在、主な介護者が行っている介護等については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が73.8%と最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が72.2%と生活援助にかかる2項目が70%を超える高い割合となっています。また、「食事の準備（調理等）」（69.6%）や身体介護の「外出の付き添い、送迎等」（68.1%）も70%近くとなっています。
- ▶「その他」として「生活のすべて」（2件）「ほとんど自分でできるので見守る程度」などの記載がありました。

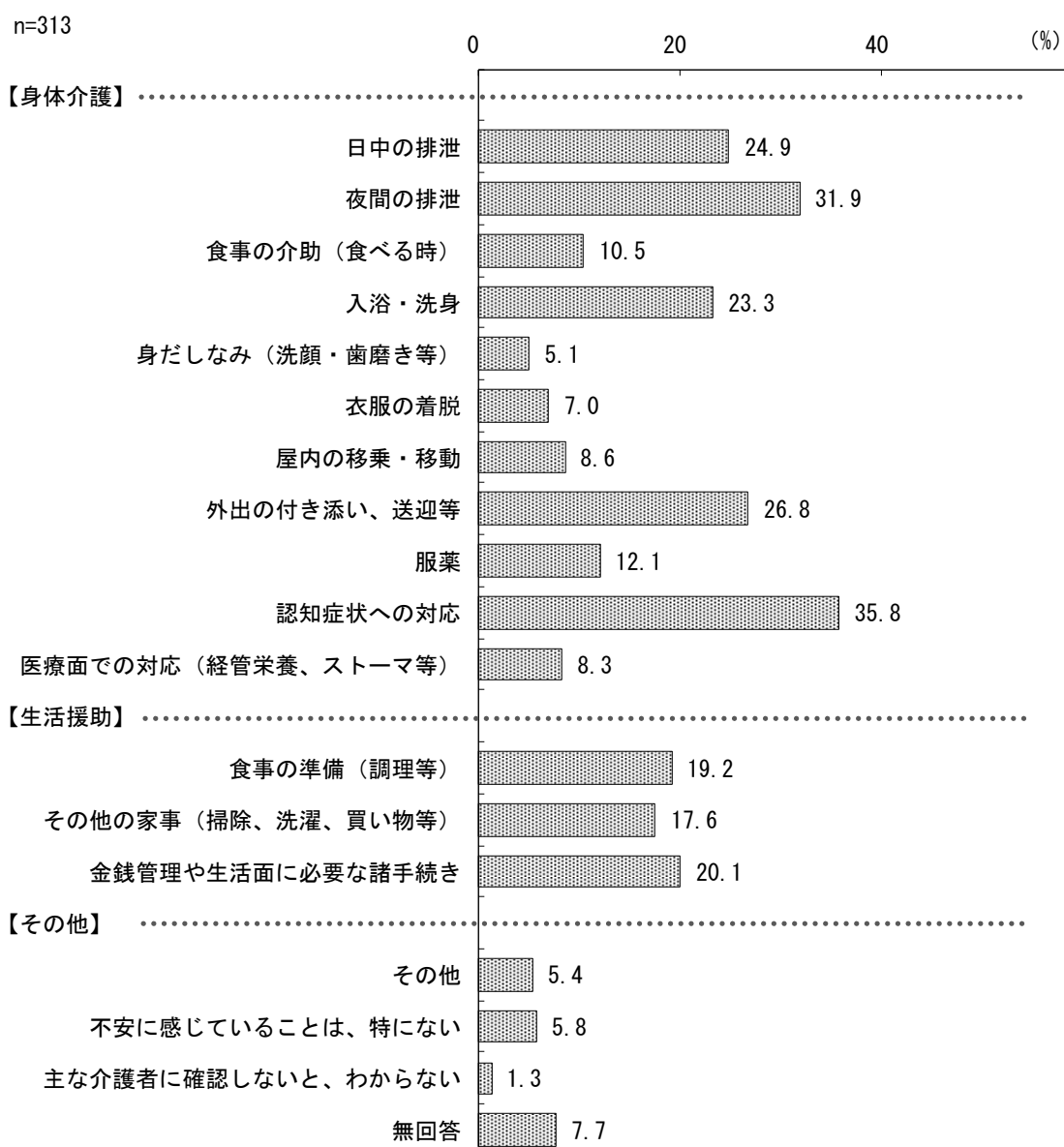
図表3-69 主な介護者が行っている介護等（複数回答）



(7) 主な介護者が不安に感じる介護等

- ▶現在の生活を継続するにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等については、「認知症への対応」が35.8%と最も高く、次いで「夜間の排泄」が31.9%、「外出の付き添い、送迎等」が26.8%、「日中の排泄」が24.9%など身体介護にかかる項目が高くなっています。
- ▶「その他」として、「介護者の健康」（4件）「経済的な面」（2件）「生活のすべて」「突然の体調不良」などの記載がありました。

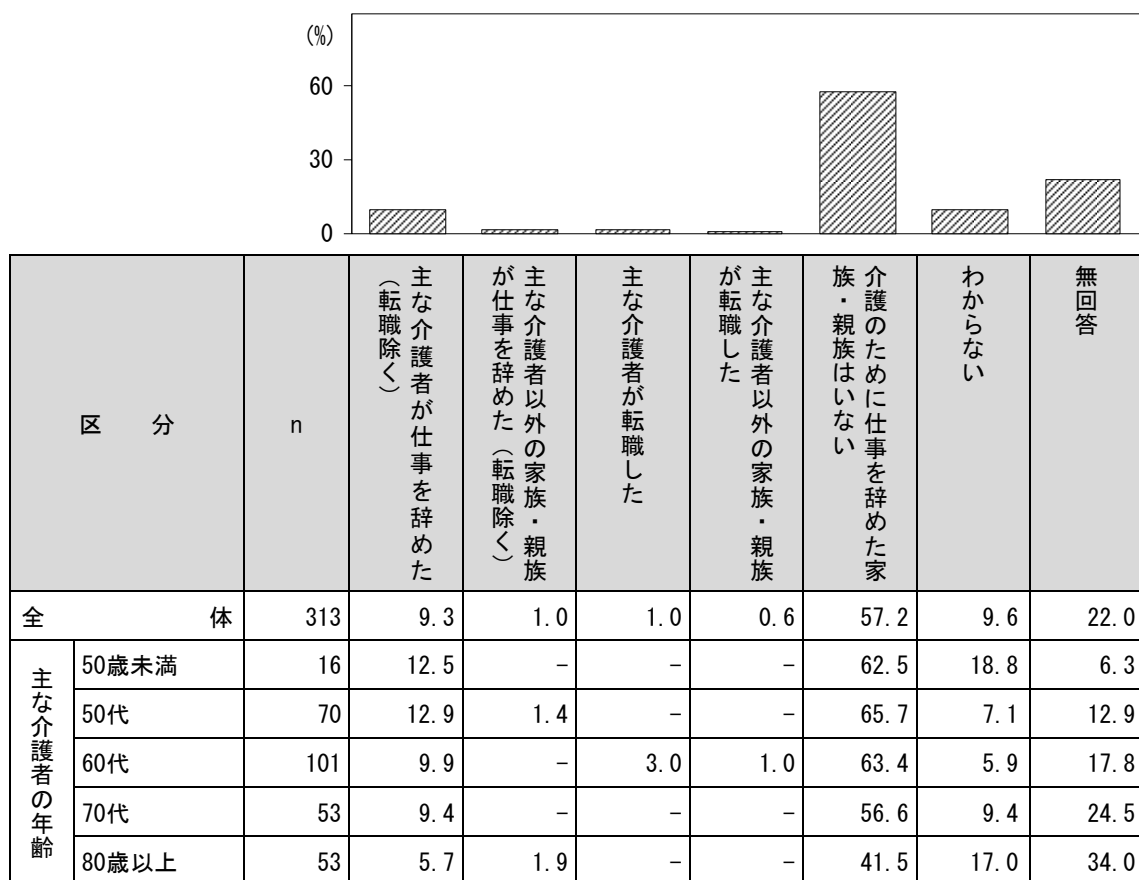
図表3-70 主な介護者が不安に感じる介護等(複数回答)



(8) 介護を主な理由とした離職

- ▶家族や親族で、介護を主な理由として、過去１年間に仕事を辞めた人がいるかをたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が57.2%を占めており、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が9.3%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」および「主な介護者が転職した」が1.0%などとなっています。
- ▶主な介護者の年齢別にみると、50代および50歳未満では「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が12%台となっています。

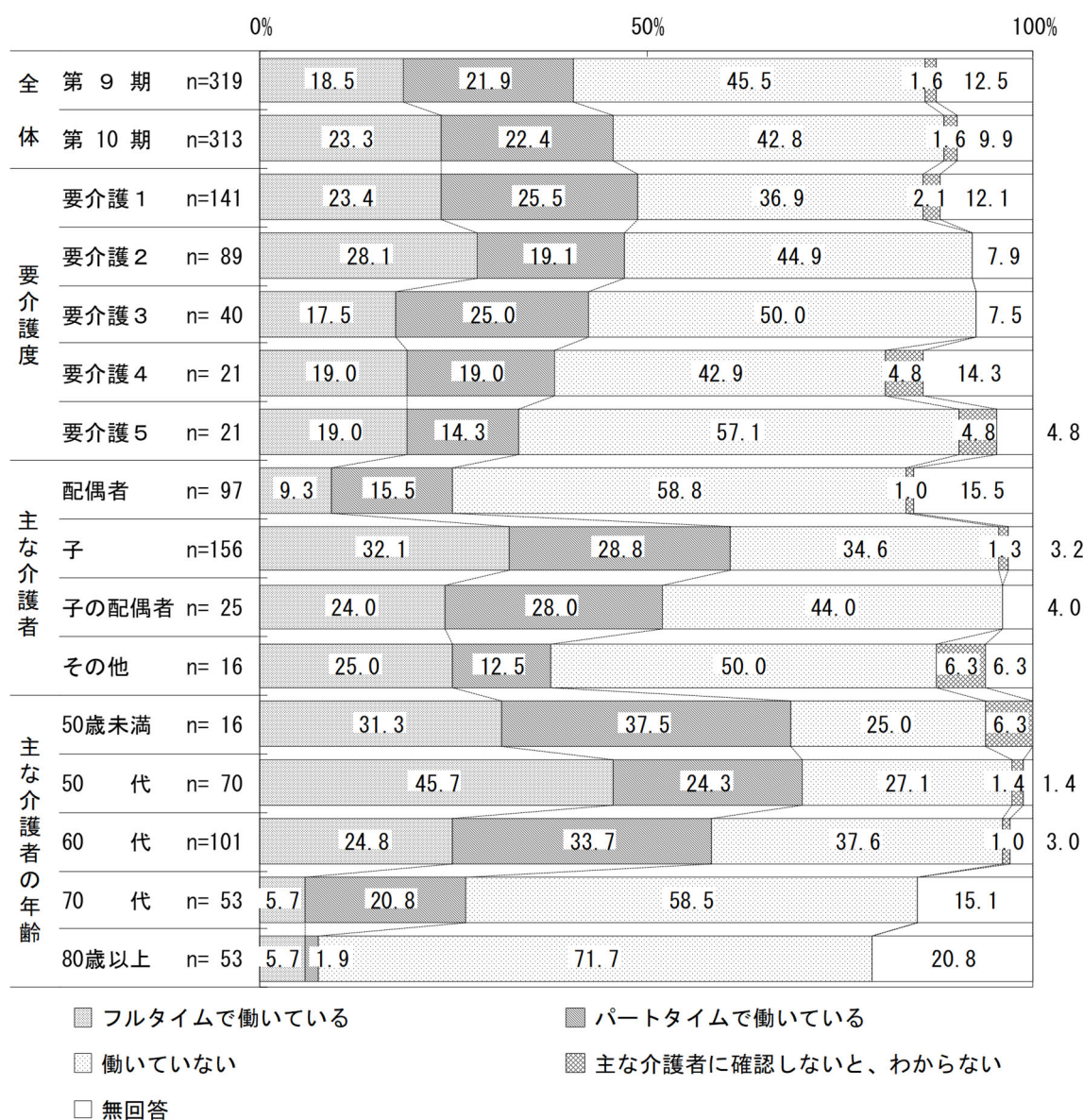
図表３－71 介護を主な理由とした離職（複数回答）



(9) 主な介護者の勤務形態

- ▶主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が42.8%を占めますが、「フルタイムで働いている」が23.3%、「パートタイムで働いている」が22.4%あり、これらの合計《働いている》は45.7%で、第9期の調査結果に比べ5ポイント以上上昇しています。
- ▶主な介護者が子の場合、「フルタイムで働いている」が32.1%あります。
- ▶主な介護者の年齢別にみると、《働いている》は若い年齢層ほど高い傾向にあり、50代では70%、50歳未満では68.8%を占めています。

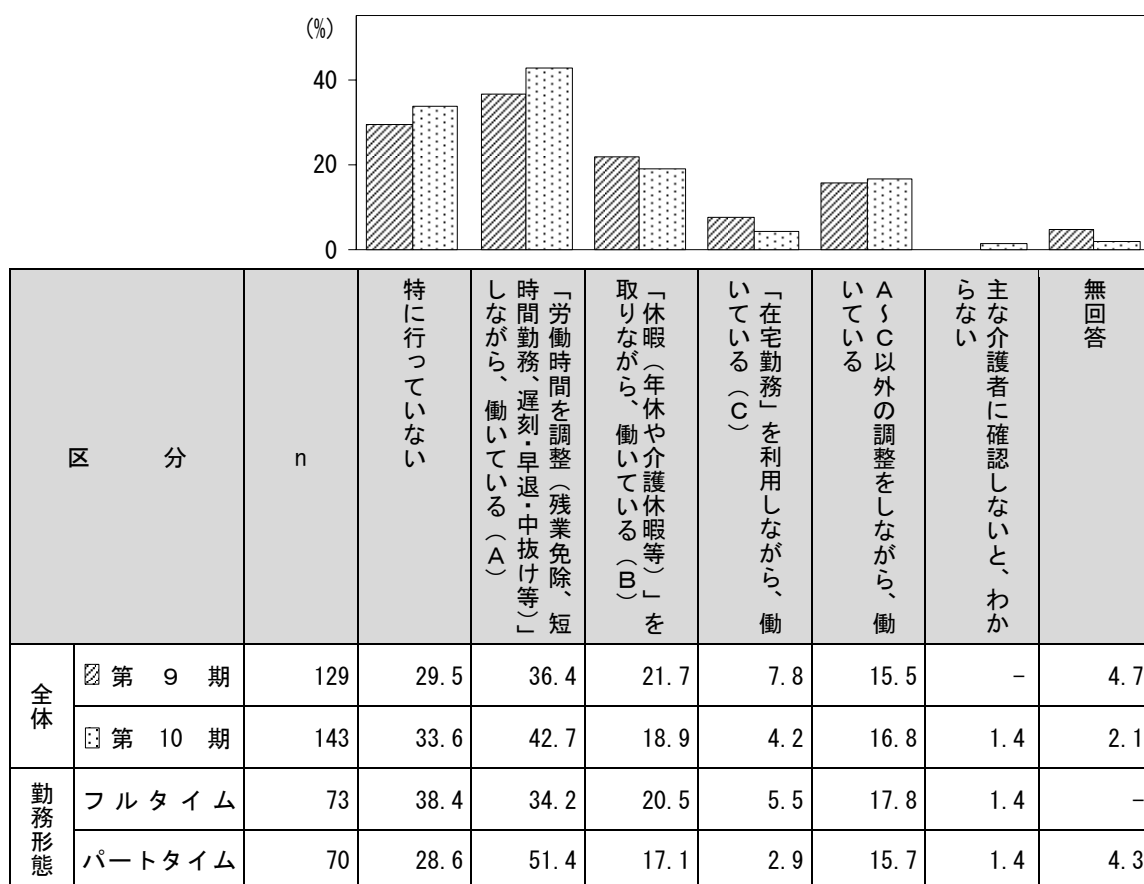
図表3-72 主な介護者の勤務形態



(10) 主な介護者が介護のためにしている働き方の調整

- ▶《働いている》主な介護者が介護のためにしている働き方の調整については、「「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている（A）」が42.7%と最も高くなっています。次いで「特に行っていない」が33.6%、「「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら働いている（B）」が18.9%、「A～C以外の調整をしながら、働いている」が16.8%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている（A）」が6.3ポイント上昇しています。
- ▶勤務形態別にみると、パートタイムに比べフルタイムは「特に行っていない」が9.8ポイント、フルタイムに比べパートタイムは「「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている（A）」が17.2ポイント上回っています。

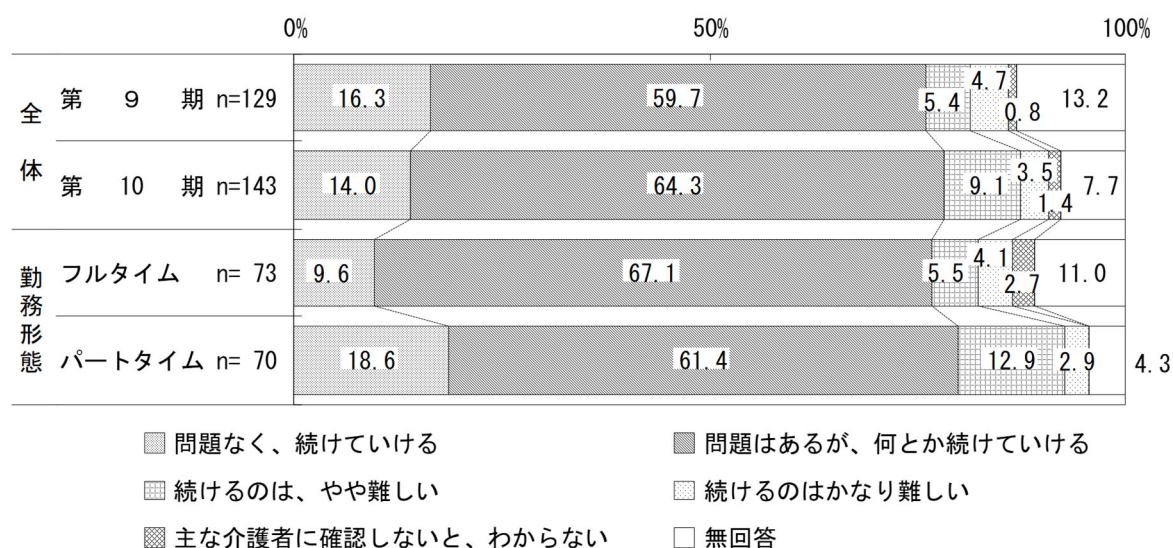
図表3-73 主な介護者は、介護のために働き方を調整しているか（複数回答）



(11) 仕事と介護の両立

- ▶《働いている》主な介護者に対する「今後も働きながら介護を続けていけそうですか」という設問については、「問題はあるが、何とか続けていける」が64.3%を占めています。次いで「問題なく、続けていける」が14.0%となっていますが、「続けるのは、やや難しい」が9.1%、「続けるのはかなり難しい」が3.5%あり、《継続困難》は12.6%となります。第9期の調査結果に比べ《継続困難》が2.5ポイント上昇しています。
- ▶勤務形態別にみると、「問題なく、続けていける」はフルタイムに比べパートタイムが9ポイント上回っていますが、《継続困難》もフルタイムに比べパートタイムが5ポイント以上上回っています。

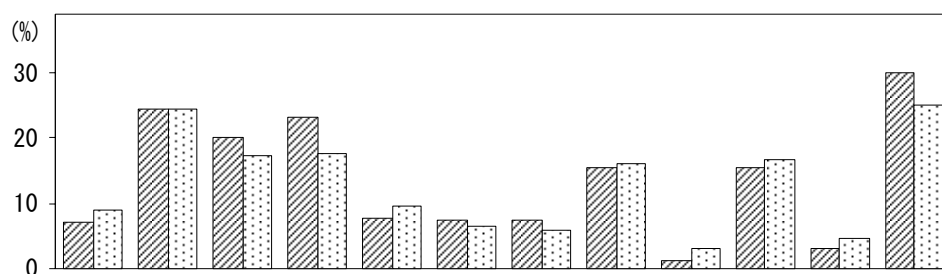
図表3-74 仕事と介護の両立



(12) 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援

- ▶仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇など制度の充実」が24.6%と最も高くなっています。次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が17.6%、「制度を利用しやすい職場づくり」が17.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が16.0%などとなっています。
- ▶勤務形態別にみると、フルタイムでは「介護休業・介護休暇など制度の充実」「制度を利用しやすい職場づくり」および「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が30%を超える高い割合となっています。

図表3-75 仕事と介護の両立に効果があると思われる支援（複数回答）

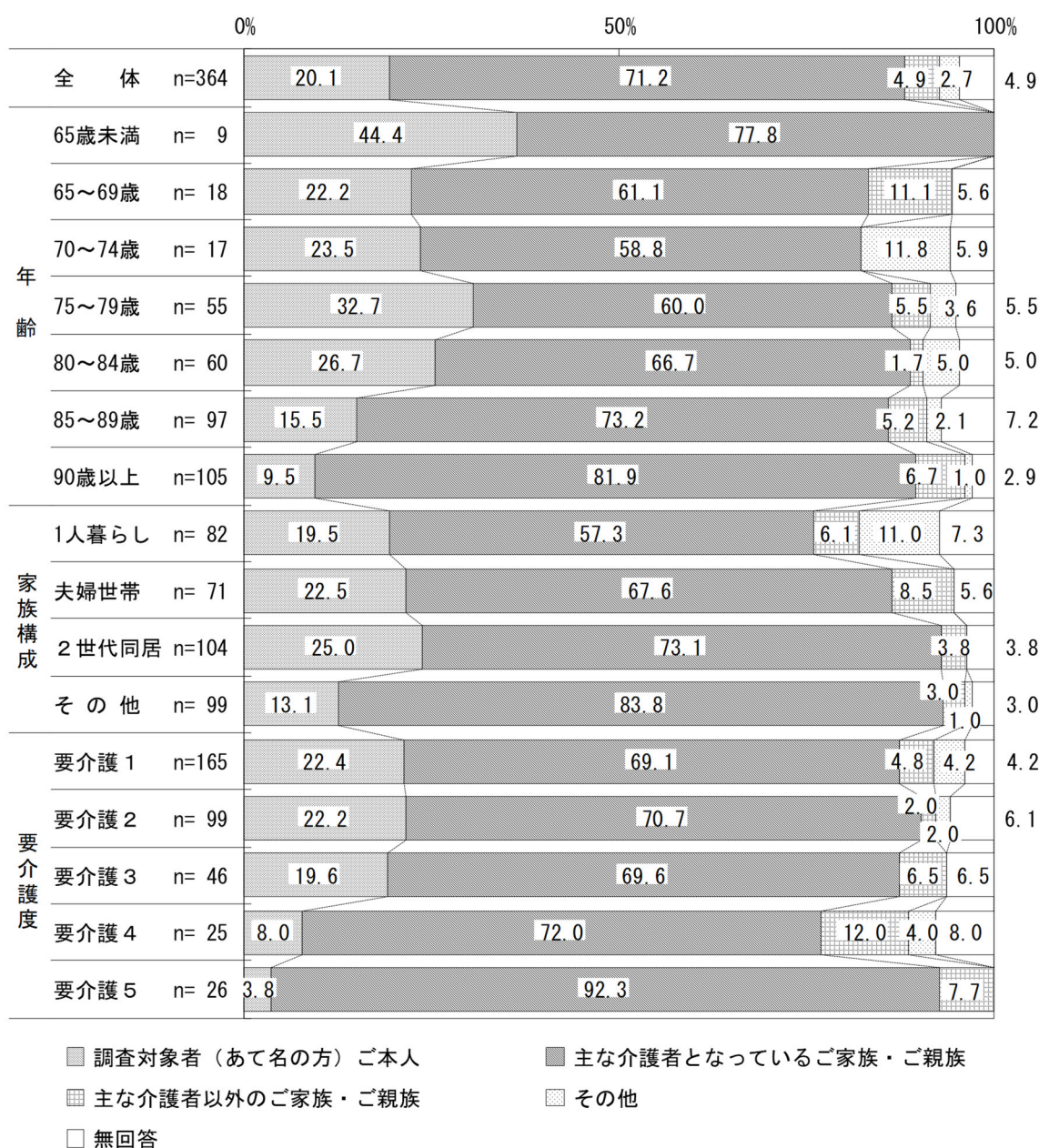


区 分		n	自営業・フリーランス（個人事業主等）等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇など制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報提供	介護に関する相談窓口・担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特になし	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全 体	第 9 期	319	7.2	24.5	20.1	23.2	7.8	7.5	7.5	15.4	1.3	15.4	3.1	30.1
	第 10 期	313	8.9	24.6	17.3	17.6	9.6	6.4	5.8	16.0	3.2	16.6	4.5	25.2
勤 務 形 態	フルタイム	73	19.2	43.8	37.0	32.9	12.3	9.6	6.8	27.4	-	4.1	1.4	4.1
	パートタイム	70	14.3	27.1	10.0	14.3	2.9	5.7	8.6	24.3	5.7	30.0	2.9	2.9
	未就労	134	1.5	17.2	14.2	14.9	14.2	5.2	4.5	8.2	3.7	20.1	6.0	36.6

1 1 調査票の記入者

- ▶調査票の記入者は「調査対象者（あて名の方）ご本人」が20.1%、「主な介護者となっているご家族・ご親族」が71.2%、「主な介護者以外の家族・親族」が4.9%、「その他」が2.7%です。
- ▶要介護度別にみると重度化にしたがい「調査対象者（あて名の方）ご本人」が低くなっています。

図表 3-76 調査票の記入者



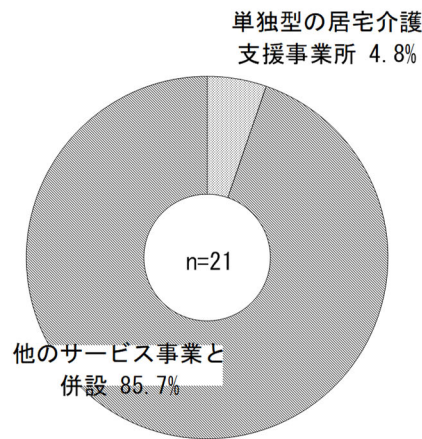
第4章 介護支援専門員実態調査

1 調査対象者の属性等

(1) 事業所の形態

▶回答のあった21人の所属する事業所の形態は、「他のサービス事業と併設」が85.7%、「単独型の居宅介護支援事業所」が4.8%（1人）です。

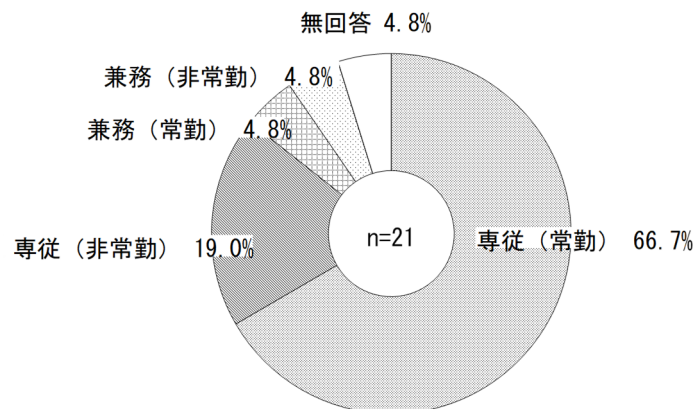
図表4-1 事業所の形態



(2) 勤務形態

▶回答のあった21人の勤務形態は、「専従（常勤）」が66.7%、「専従（非常勤）」が19.0%、「兼務（常勤）」および「兼務（非常勤）」がそれぞれ4.8%（1人）です。

図表4-2 勤務形態



2 ケアマネジメントの現状

(1) ケアプランを担当している利用者の状況

- ▶回答のあった介護支援専門員17人が、介護（予防）サービス計画を担当している利用者の人数は636人で、要支援が21.2%（135人）、要介護が78.8%（501人）です。
- ▶認知症自立度別にみると、軽・中度（Ⅱ・Ⅲ）が42.3%（269人）、なし（自立・Ⅰ）が34.1%（217人）、重度（Ⅳ・Ⅴ）が5.0%（32人）です。

図表4-3 ケアプランを担当している利用者の状況

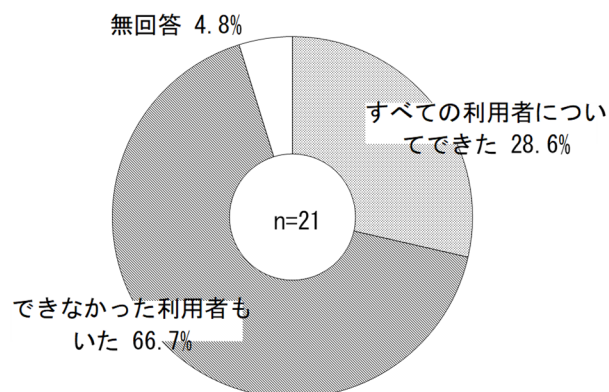
単位：人、（ ）%

区 分		n	要支援・要介護別	
			要支援	要介護
全 体		636 (100.0)	135 (21.2)	501 (78.8)
認知症自立度別	なし（自立・Ⅰ）	217 (34.1)	83	134
	軽・中度（Ⅱ・Ⅲ）	269 (42.3)	15	254
	重度（Ⅳ・Ⅴ）	32 (5.0)	—	32
	不 詳	118 (18.6)	37	81

(2) 利用者に合ったケアプランを作成できたか

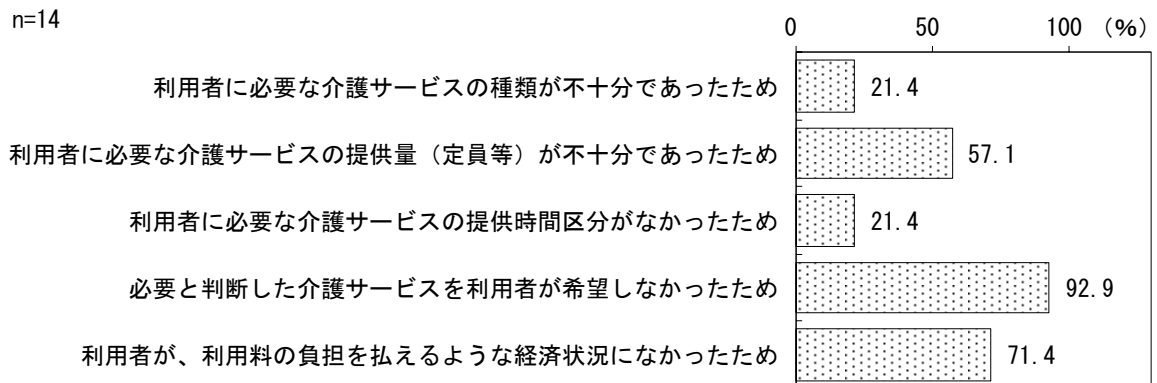
- ▶利用者の身体や生活等の状況に合ったケアプランを作成できたか否かについては、「すべての利用者についてできた」が28.6%、「できなかった利用者もいた」が66.7%です。

図表4-4 利用者の状況に合ったケアプランを作成できたか



▶「できなかった利用者もいた」と回答した14人にできなかった理由をたずねたところ、「必要と判断した介護サービスを利用者が希望しなかったため」が92.9%と最も高く、次いで「利用者が、利用料の負担を払えるような経済状況になかったため」が71.4%、「利用者に必要な介護サービスの提供量（定員等）が不十分であったため」が57.1%などとなっています。

図表４－５ 利用者の状況に合ったケアプランを作成できなかった理由（複数回答）

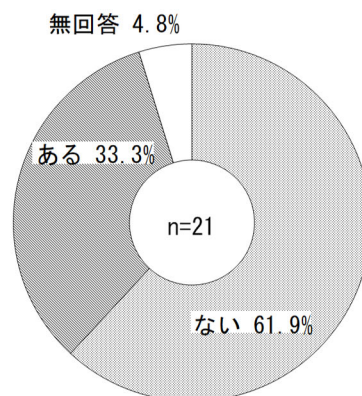


(3) ケアプランの作成を断ったことの有無

▶ケアプランの作成を断ったことが「ある」のは33.3%です。

▶作成を断った理由として、「担当件数が増え、対応できなかった」（3件）「退院のための調整の日程が確保できなかった」（2件）「サービス開始までの業務調整が難しかった」などの記載がありました。

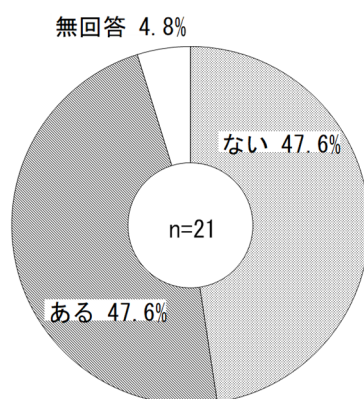
図表４－６ ケアプランの作成を断ったことの有無



(4) 事業者 서비스에サービス提供を拒否されたことの有無

- ▶ 事業者 サービス提供を拒否されたことが「ある」のは47.6%です（図表 4－7）。
- ▶ 提供を拒否された理由として、「人員不足」（4件）「定員を超える・空きがない」（3件）「認知症が重度で、他利用者にも影響が出る」「暴力・暴言」「あるデイサービスが日曜日を併用しないと利用できないと言われた」「家族に不安がある」「利用者宅が遠い」が記載されていました。

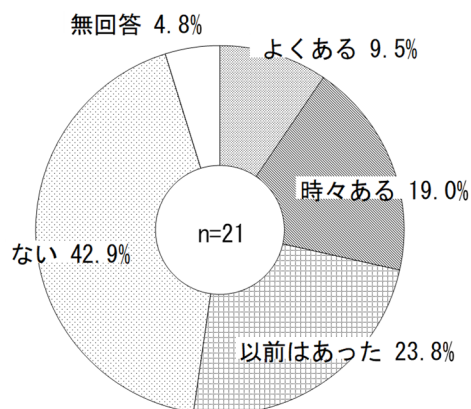
図表 4－7 事業者 サービス提供を拒否されたことの有無



(5) 希望しないサービスを事業者から求められたことの有無

- ▶ 事業者から利用者が希望していないサービスをケアプランに組み入れるように求められたことがあるかをたずねたところ、「ない」が42.9%、「以前はあった」が23.8%ですが、「時々ある」は19.0%、「よくある」は9.5%となっています。

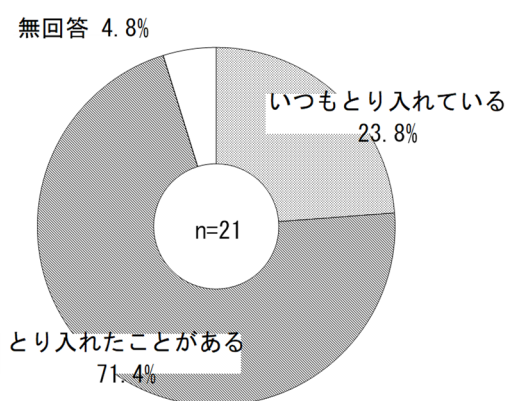
図表 4－8 希望しないサービスを事業者から求められたことの有無



(6) 介護保険以外のサービス

- ▶ケアプランに介護保険以外のサービスを、「いつもとり入れている」のは23.8%、「とり入れたことがある」のは71.4%です。「とり入れたいが該当サービスがない」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。（図表4－9）
- ▶とり入れている介護保険以外のサービスについてたずねたところ、図表4－10の内容が記載されていました。

図表4－9 介護保険以外のサービス



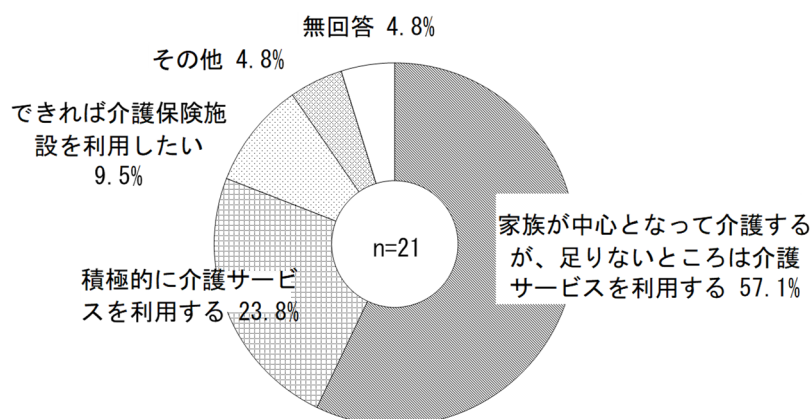
図表4－10 とり入れているサービス（自由記載）

- ・ 配食サービス（5件）
- ・ 医療保険適用での訪問看護やリハビリ等（4件）
- ・ 自費サービス（4件）
- ・ 地域住民による支援（4件）
- ・ 宅老所（4件）
- ・ 生活支援サービス（4件）
- ・ 介護タクシー（3件）
- ・ 訪問マッサージ（3件）
- ・ 健康自生地（2件）
- ・ 生活支援員（2件）
- ・ 緊急通報装置（2件）
- ・ SOSネットワーク（2件）
- ・ 家族・友人・親戚の支援（2件）
- ・ 民生委員の訪問（2件）
- ・ ボランティア、インフォーマルサービス（2件）
- ・ 通院介助
- ・ 院内付き添い
- ・ デイケアの加算
- ・ 訪問理美容
- ・ 障害福祉サービス

(7) 介護サービスについての利用者の意向

▶介護サービスについて利用者の意向として多いと感じるのは、「家族が中心となって介護するが、足りないところは介護サービスを利用する」が57.1%と最も高く、次いで「積極的に介護サービスを利用する」が23.8%、「できれば介護保険施設を利用したい」が9.5%などとなっています。

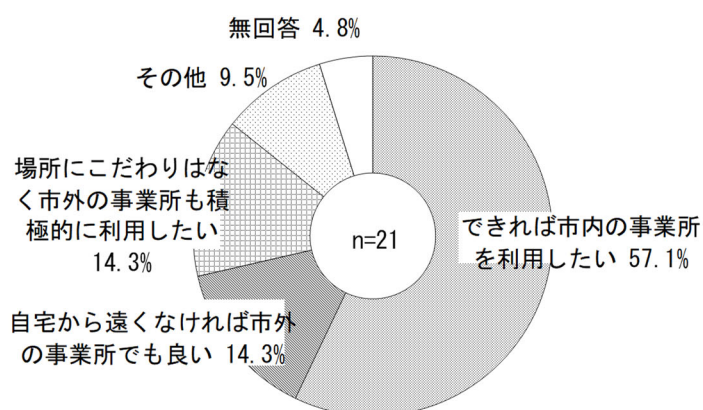
図表 4-11 介護サービスについての利用者の意向



(8) 通所サービスの提供場所についての利用者の意向

▶通所サービスの提供場所等について利用者の意向として多いと感じるのは、「できれば市内の事業所を利用したい」が57.1%を占め、「自宅から遠くなければ市外の事業所でも良い」および「場所にこだわりはなく市外の事業所も積極的に利用したい」はそれぞれ14.3%となっています。

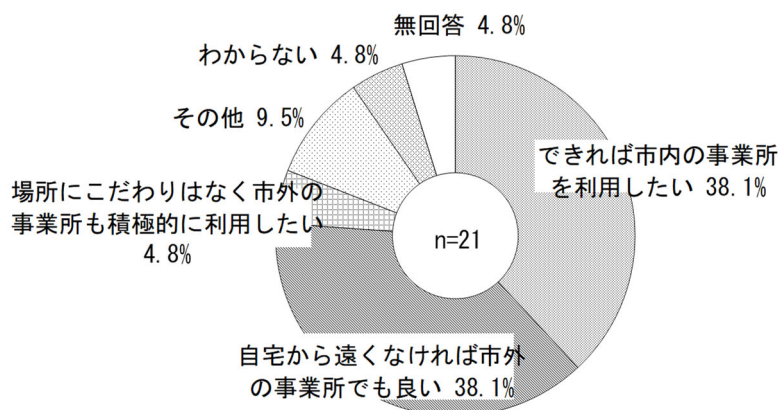
図表 4-12 通所サービスの提供場所についての利用者の意向



(9) 施設・居住系サービスの提供場所についての利用者の意向

▶施設・居住系サービスの提供場所等について利用者の意向として多いと感じるのは、「できれば市内の事業所を利用したい」および「自宅から遠くなければ市外の事業所でも良い」がそれぞれ38.1%、「場所にこだわりはなく市外の事業所も積極的に利用したい」は4.8%となっています。

図表 4-13 施設・居住系サービスの提供場所についての利用者の意向

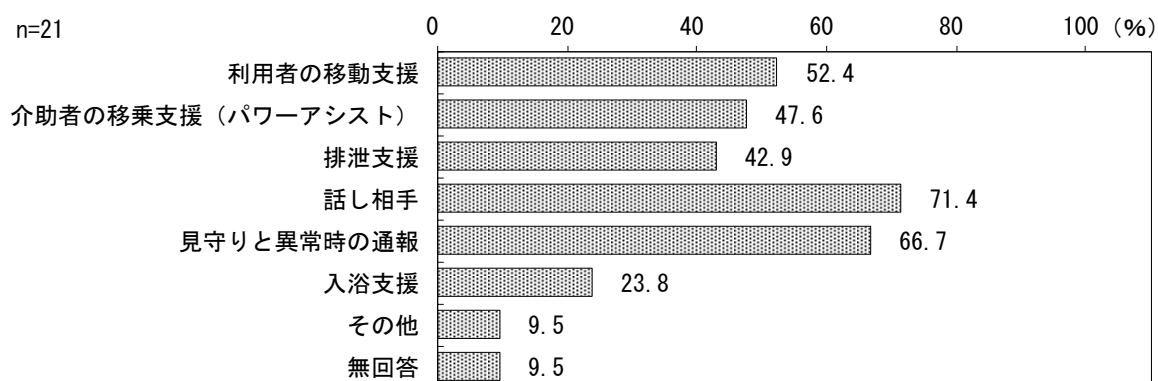


(10) どのような機能をもつ介護ロボットがあると良いと思うか

▶利用者が在宅生活を送る上で、どのような機能をもつ介護ロボットがあると良いと思うかをたずねたところ、「話し相手」が71.4%と最も高く、次いで「見守りと異常時の通報」が66.7%、「利用者の移動支援」が52.4%、「介助者の移乗支援（パワーアシスト）」が47.6%、「排泄支援」が42.9%などとなっています。

▶「その他」として「服薬確認」「服薬支援」が記載されていました。

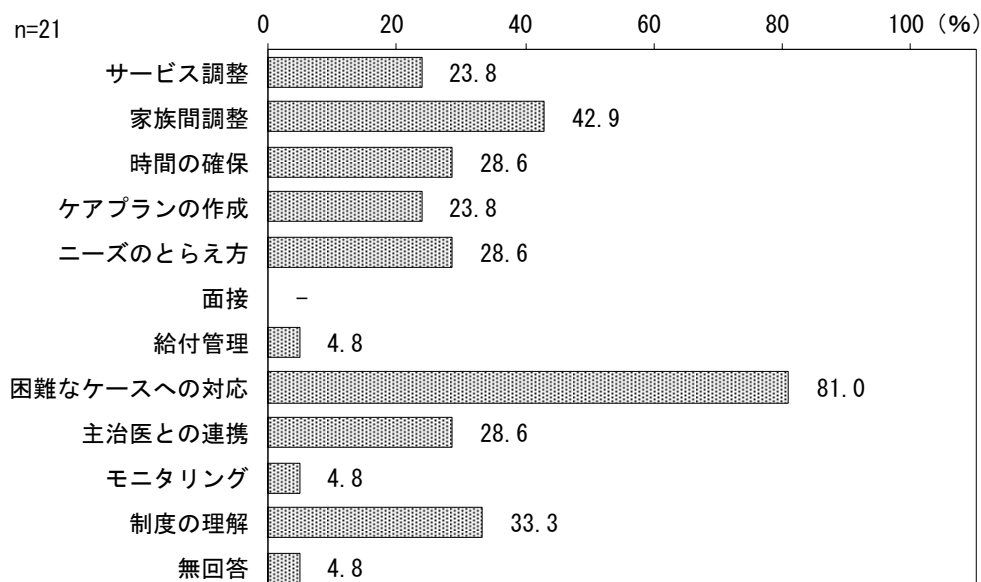
図表 4-14 どのような機能をもつ介護ロボットがあると良いと思うか（複数回答）



(11) 業務としてむずかしいこと

▶介護支援専門員の業務でむずかしいこととしては、「困難なケースへの対応」が81.0%と最も高く、次いで「家族間調整」が42.9%、「制度の理解」が33.3%などとなっています。

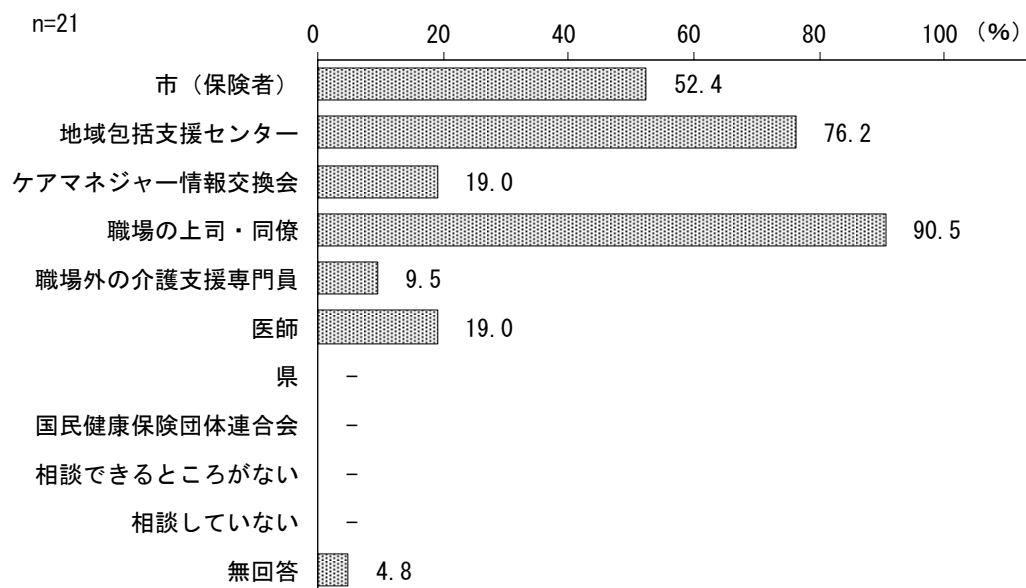
図表 4-15 業務としてむずかしいこと（複数回答）



(12) 業務上の相談先

▶業務を進める上で困ったときの相談相手は、「職場の上司・同僚」が90.5%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が76.2%、「市（保険者）」が52.4%などとなっています。

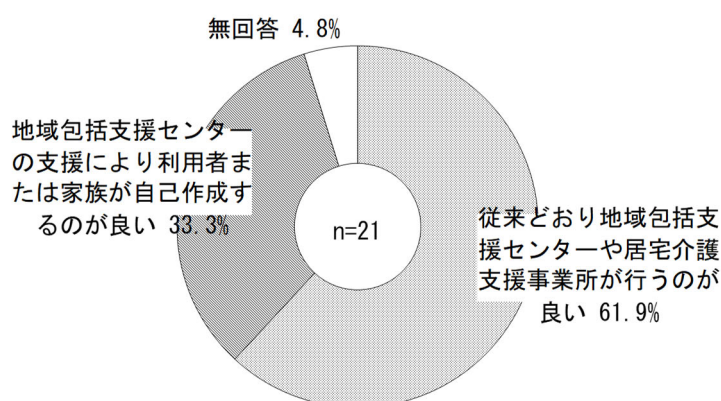
図表 4-16 業務上の相談相手（複数回答）



(13) 要支援者に対するケアマネジメントのあり方

▶要支援者に対するケアマネジメント（介護予防支援と介護予防ケアマネジメント）のあり方について、どう思うかをお聞きしたところ、「従来どおり地域包括支援センターや居宅介護支援事業所が行うのが良い」が61.9%、「地域包括支援センターの支援により利用者または家族が自己作成するのが良い」が33.3%でした。「居宅介護支援事業所の支援により利用者または家族が自己作成するのが良い」という選択肢が用意されていましたが回答はありませんでした。

図表 4-17 要支援者に対するケアマネジメントのあり方



(14) 業務をしやすいようにあると良い支援

▶介護支援専門員としての業務をしやすいように、どのような支援があると良いと思うかをたずねた結果は、図表 4-18のとおりです。

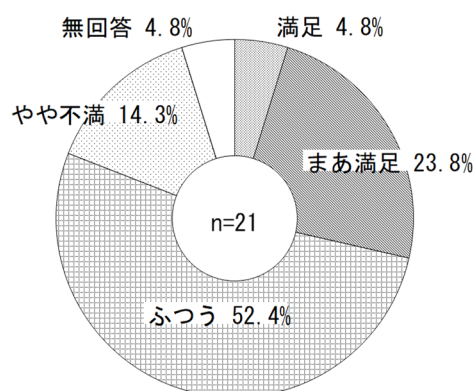
図表 4-18 業務をしやすいようにあると良い支援（自由記載）

- ・ デジタル化、紙媒体を減らし、業務の効率化
- ・ I C T 機器の補助
- ・ I C T 導入のための費用負担や主導
- ・ ケアプランデータ連携システムのための主導
- ・ 連絡方法を F A X 中心ではなく、メールやえんjoyネットを活用（ペーパーレス）
- ・ データ連携システムが普及してほしい
- ・ 難しいと思うケースに対して、公的機関へのつながりのしやすさ
- ・ 重層的支援のワンストップ窓口
- ・ ケアプラン情報連携システムの導入（金銭的支援）
- ・ ケアプラン作成へのヒント等
- ・ 規定時間外の支援してくれる所
- ・ 介護支援専門員の能力に応じた、I T ツール活用への習熟、「身につく」ような研修
- ・ 各サービス事業者がもう少し支援を手伝ってくれるとありがたい
- ・ 記録業務が膨大にあるため、IT化、AIを活用できる仕組みがほしい

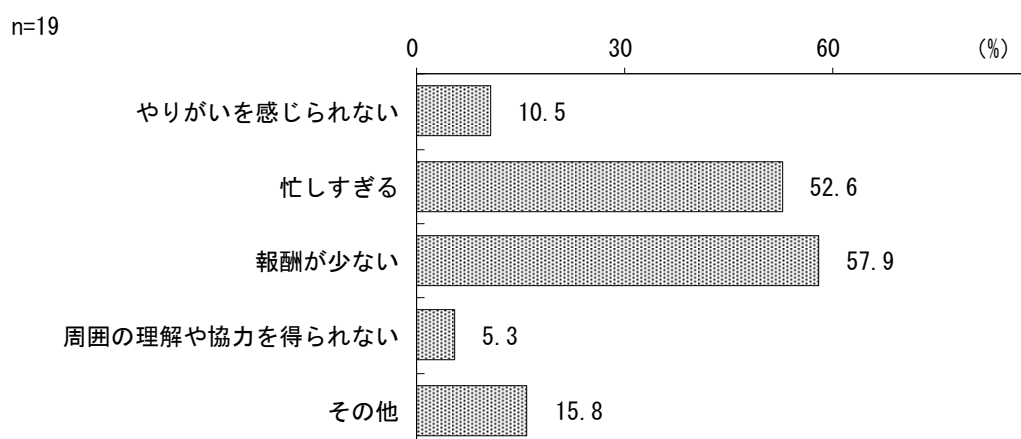
(15) 仕事の満足感

- ▶介護支援専門員の仕事全般の満足感は、「ふつう」が52.4%と最も高く、次いで「まあ満足」が23.8%、「やや不満」が14.3%、「満足」が4.8%（1人）です。「不満」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした（図表4-19）。
- ▶仕事の満足感を阻害している要因としては、「報酬が少ない」が57.9%と最も高く、次いで「忙しすぎる」が52.6%などとなっています（図表4-20）。
- ▶仕事の満足感を阻害している要因の「その他」として、「バーンアウト（燃え尽きる）しそうと常々思っている」「新人のため、全体が把握できていない」「家族や事業所との時間調整が難しい」の記載がありました。

図表4-19 仕事の満足感



図表4-20 仕事の満足感を阻害している要因（複数回答）

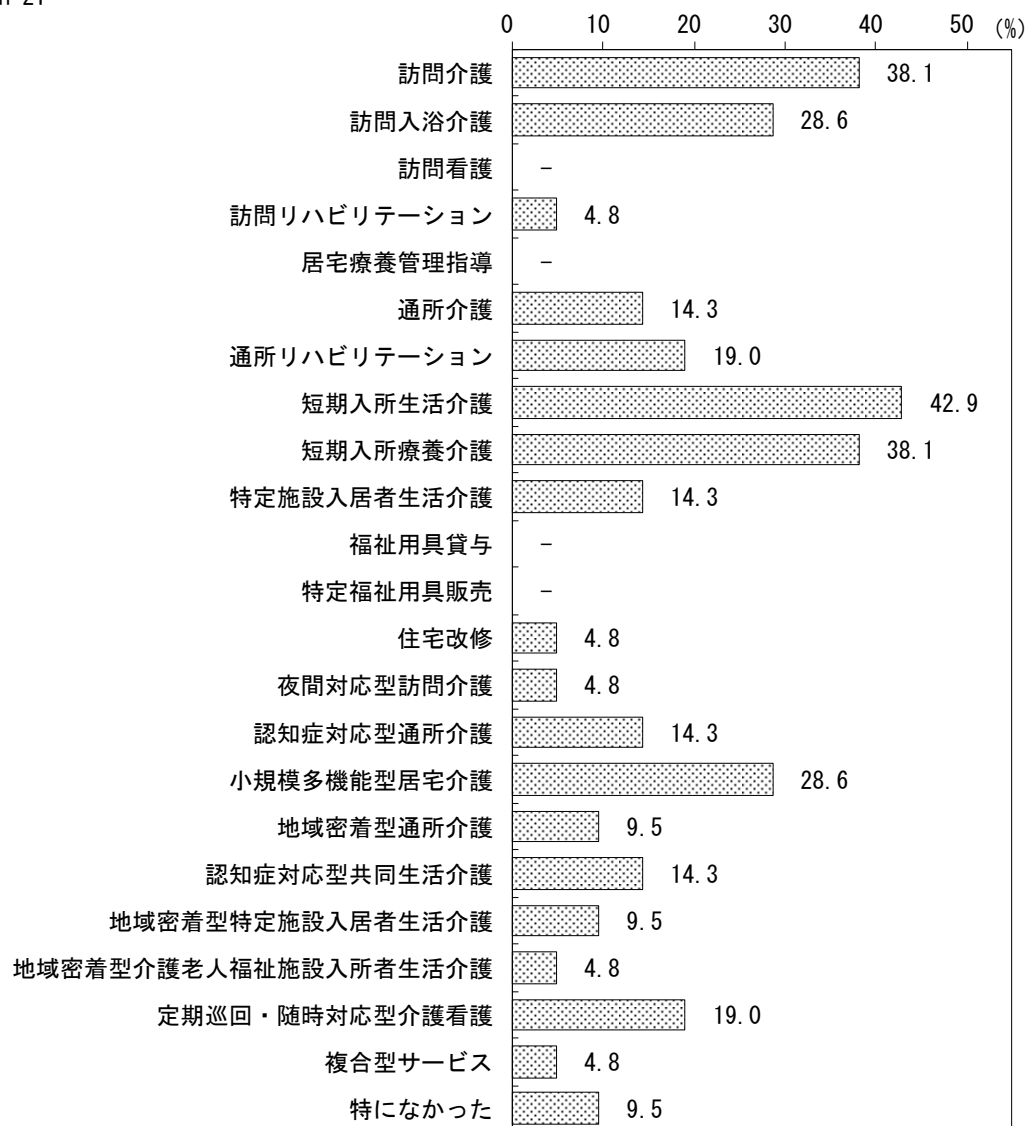


(16) 確保することが困難だったサービス

▶ケアプラン作成にあたり、確保することが困難だった介護サービスとしては、「短期入所生活介護」が42.9%と最も高く、次いで「訪問介護」および「短期入所療養介護」がそれぞれ38.1%、「訪問入浴介護」および「小規模多機能型居宅介護」がそれぞれ28.6%などとなっています。

図表 4-21 確保することが困難だったサービス（複数回答）

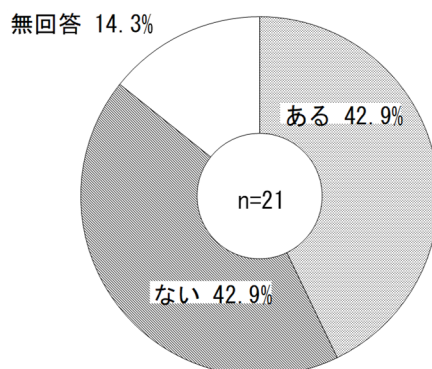
n=21



(17) 医療行為が必要なため困っていること

- ▶医療行為が必要なためにケアマネジメントで困っていることが「ある」のは42.9%です。
- ▶困っている内容として、図表4-23の記載がありました。

図表4-22 医療行為が必要なため困っていること



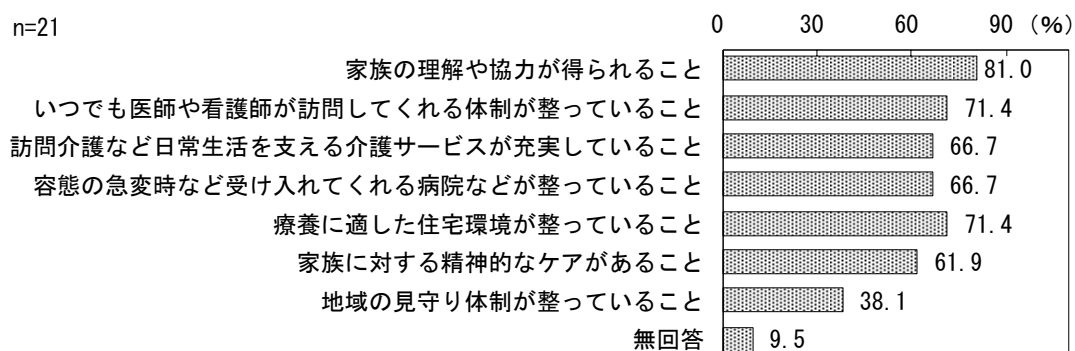
図表4-23 困っている内容（自由記載）

- ・訪問マッサージ
- ・医療行為の内容がよくわからないことがある。医療行為を行うサービスが限られる
- ・毎日2人対応の訪問看護が必要な状態のため、単位数が大きくなる（訪問入浴や福祉用具等もあるため）
- ・経管栄養をしている人の受け入れ
- ・吸引の機械や点滴棒などが福祉用具貸与でない
- ・酸素吸入・吸引の必要な方のショートステイ受け入れ可の施設が限定される
- ・インスリン注射、摘便
- ・レスパイト目的の介護保険適用施設の利用が困難

(18) 利用者が自宅で安心して最期を迎えられる条件

- ▶高浜市において、どのような条件がそろえば、利用者が自宅で安心して最期を迎えられると思うかについては、「家族の理解や協力が得られること」が81.0%と最も高くなっています。いずれの項目も多くの人を選択しており、本人やその家族を中心に医療と介護の一層の連携が重要であることがわかります。

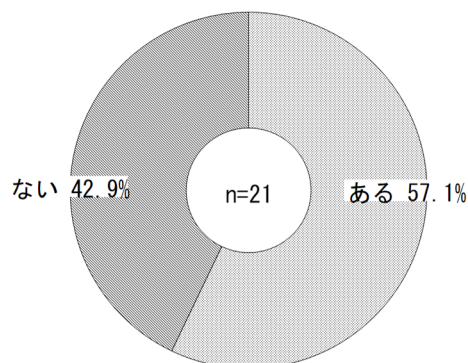
図表4-24 利用者が自宅で安心して最期を迎えられる条件（複数回答）



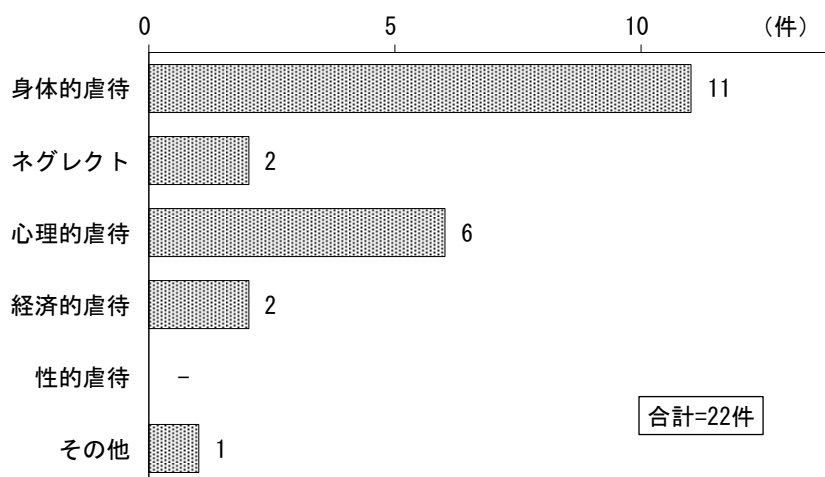
(19) 虐待の疑われるケースに関わったこと

- ▶この1年間に虐待の疑われるケースに関わったことが「ある」のは57.1%です。
- ▶虐待の疑われるケースの合計は22件で、「身体的虐待」が11件、「心理的虐待」が6件、「ネグレクト」および「経済的虐待」がそれぞれ2件、「その他」が1件となっています。
- ▶「その他」として「スピーチロックによる行動制限」という記載がありました。

図表 4-25 虐待の疑われるケースに関わったこと



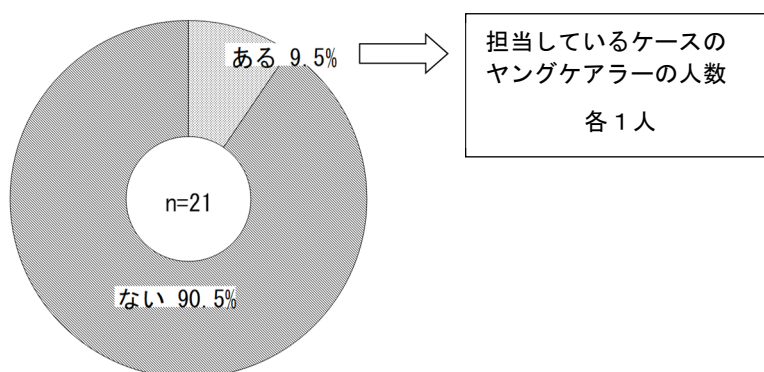
図表 4-26 虐待の分類（複数回答）



(20) 主な介護者がヤングケアラーであるケース

- ▶「担当している利用者と、主に介護しているのが、通学や仕事をしている子ども（ヤングケアラー）であるケースはありますか」とたずねたところ、「ある」が9.5%（2人）ありました。
- ▶「ある」と回答した2人が担当しているケースのヤングケアラーの人数については、それぞれ1人です。

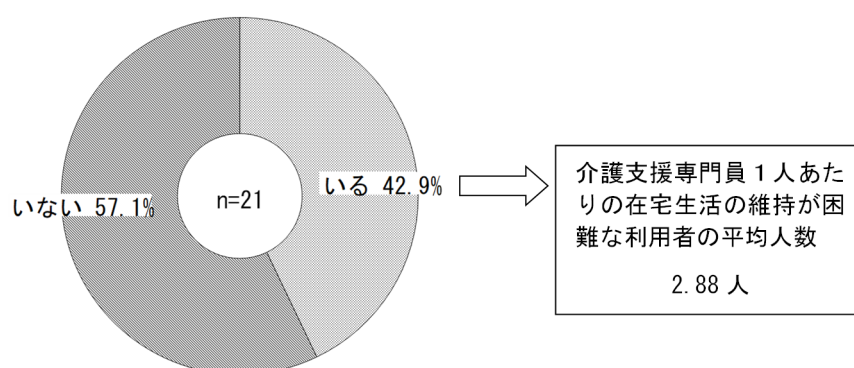
図表 4-27 主な介護者がヤングケアラーであるケースはあるか



(21) 在宅生活の維持が困難な利用者

- ▶現在のサービス利用では、自宅等での生活の維持が難しくなっている利用者がいるか否かについて、「いる」と回答した介護支援専門員は42.9%です。
- ▶介護支援専門員1人あたりの在宅生活の維持が困難な利用者の平均人数は2.88人です。

図表 4-28 在宅生活の維持が困難な利用者



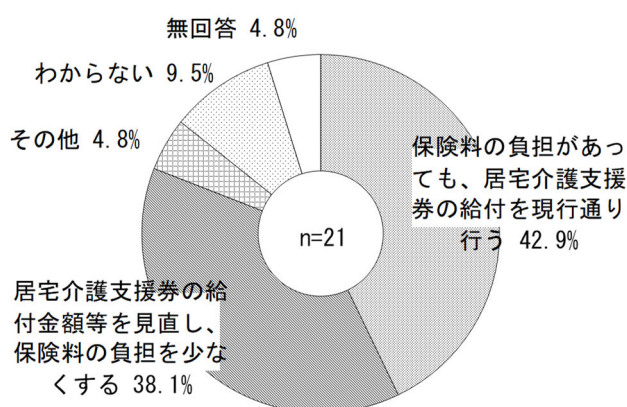
3 介護保険や高齢者福祉サービスについて

(1) 居宅介護支援券の給付について

▶介護認定を受けて自宅で介護を受けている人に、介護度に応じて居宅介護支援券の給付を行う「横だしサービス」についての考えとしては、「保険料の負担があっても、居宅介護支援券の給付を現行通り行う」が42.9%と最も高く、次いで「居宅介護支援券の給付金額や内容の見直しを行い、保険料の負担を少なくする」が38.1%などとなっています。

「居宅介護支援券の給付は行う必要はない」という選択肢が用意されていましたが回答はありませんでした。

図表 4-29 居宅介護支援券の給付について

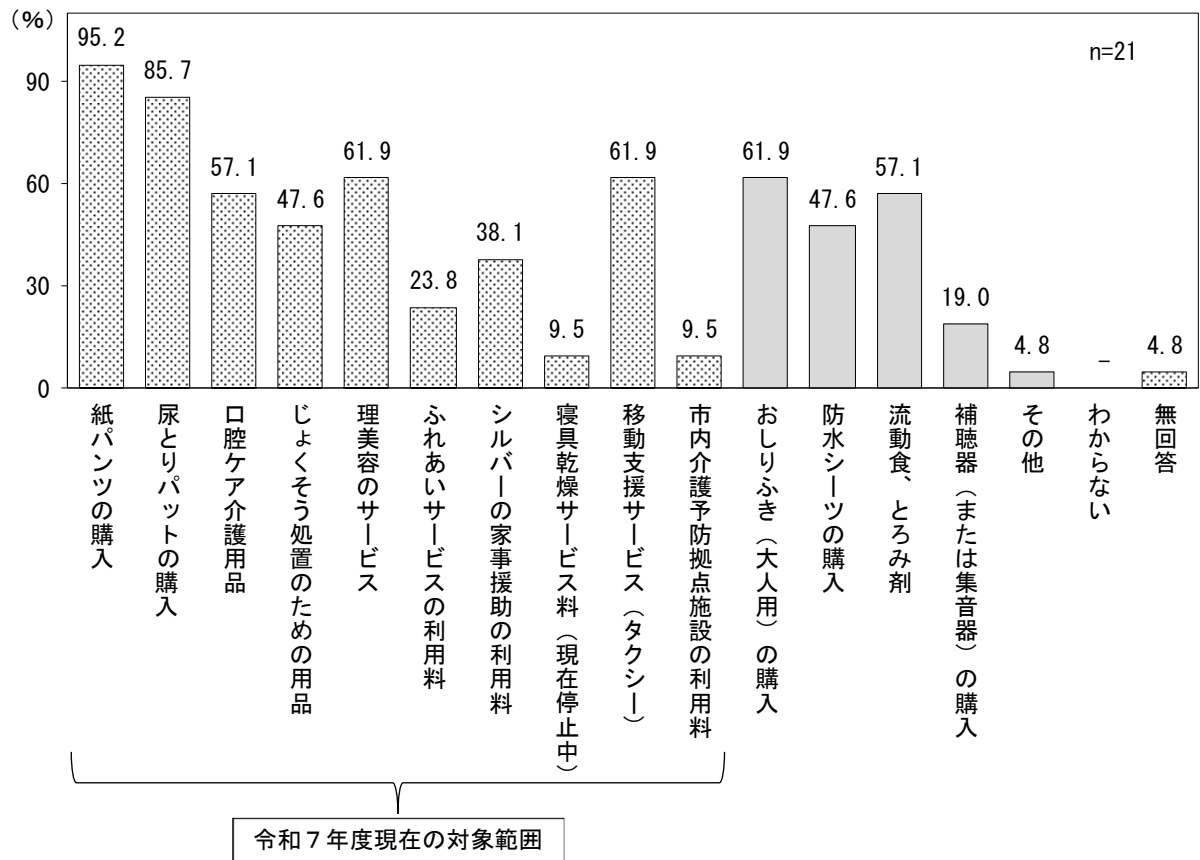


(2) 居宅介護支援券の利用品目等

▶居宅介護支援券の利用範囲について、どのサービスについて利用すべきかをお聞きしたところ、「紙パンツの購入」が95.2%と最も高く、次いで「尿とりパットの購入」が87.5%、「理美容サービス」「移動支援サービス（タクシー）」および「おしりふき（大人用）の購入」がそれぞれ61.9%などとなっています。

▶「その他」として「血圧計、体温計、SpO2測定器等」の記載がありました。

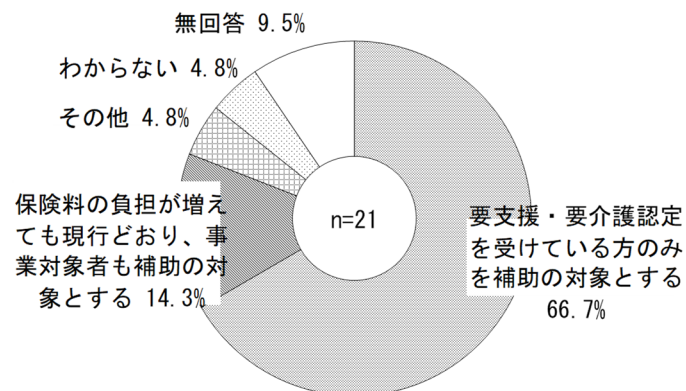
図表 4-30 居宅介護支援券の利用品目等（複数回答）



(3) 居宅介護支援券の給付対象者

▶居宅介護支援券の給付対象者についてどうすべきかをたずねたところ、「要支援・要介護認定を受けている方のみを補助の対象とする」が66.7%、「保険料の負担が増えても現行どおり、事業対象者も補助の対象とする」が14.3%となっています。

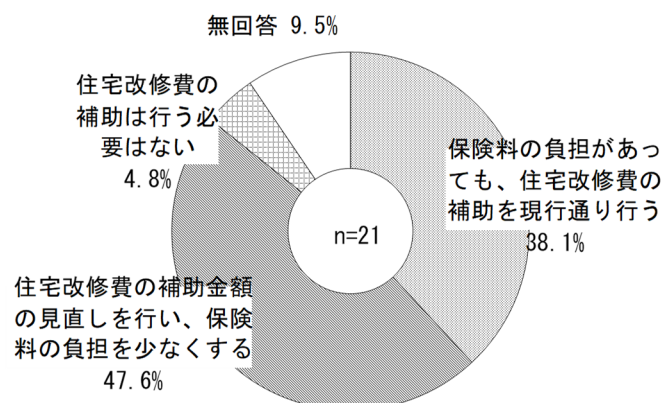
図表 4-31 居宅介護支援券の給付対象者



(4) 住宅改修費の補助について

▶介護保険制度に上乗せして住宅改修費を補助していることについては、「住宅改修費の補助金額の見直しを行い、保険料の負担を少なくする」が47.6%と最も高く、次いで「保険料の負担があっても、住宅改修費の補助を現行通り行う」が38.1%、「住宅改修費の補助は行う必要はない」が4.8%（1人）となっています。

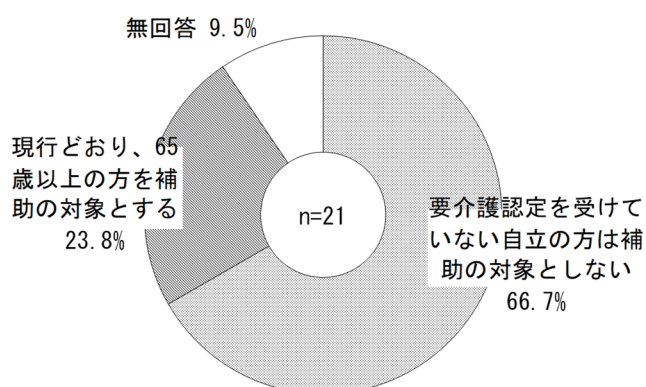
図表 4-32 住宅改修費の補助について



(5) 住宅改修費の補助の対象者

▶住宅改修費の補助の対象者についてどうすべきかをたずねたところ、「要介護認定を受けていない自立の方は補助の対象としない」が66.7%、「現行どおり、65歳以上の方を補助の対象とする」が23.8%となっています。

図表 4-33 住宅改修費の補助の対象者



(6) 高齢者施策に関する満足度

▶高浜市の高齢者施策について7つの項目ごとに満足度をお聞きしたところ、いずれの項目も「ふつう」が50～60%台を占めています。《満足度》は①健康づくりやフレイル（虚弱）予防の施策、②医療の提供体制および⑥生きがいくりに関する施策が28.6%、③介護保険サービスが23.8%、④生活支援サービスや見守り体制、⑤住まいに関する施策および⑦相談支援体制が19.0%となっています。

図表 4-34 高齢者施策の満足度

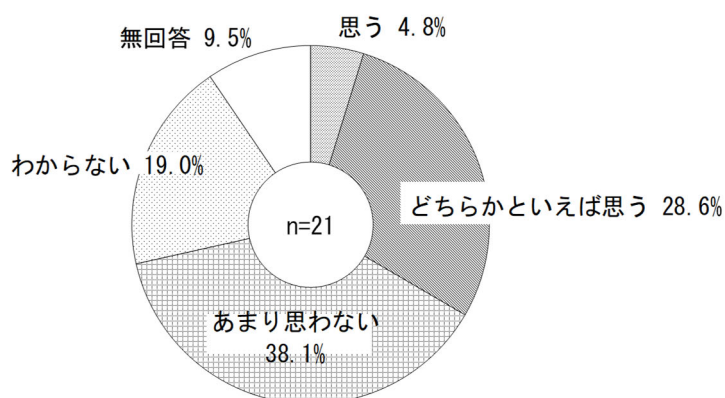
単位：%

区 分 n=21	満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	《満足度》 (満足+まあ満足)
①健康づくりやフレイル予防の施策	4.8	23.8	57.1	4.8	-	9.5	28.6
②医療の提供体制	-	28.6	52.4	9.5	-	9.5	28.6
③介護保険サービス	-	23.8	57.1	4.8	4.8	9.5	23.8
④生活支援サービスや見守り体制	-	19.0	61.9	9.5	-	9.5	19.0
⑤住まいに関する施策	-	19.0	66.7	4.8	-	9.5	19.0
⑥生きがいくりに関する施策	4.8	23.8	61.9	-	-	9.5	28.6
⑦相談支援体制	-	19.0	61.9	9.5	-	9.5	19.0

(7) 新しい認知症感

▶「高浜市は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちだと思いますか」という設問に対しては、「あまり思わない」が38.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば思う」が28.6%となっており、「思う」(4.8% (1人))との合計《暮らし続けられると思う》は33.4%です。

図表 4-35 高浜市は認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちか



(8) 地域包括ケアシステムの構築

▶「地域包括ケアシステム」を実現するためにどのような課題を解決する必要があると思うかを具体的に記載していただいたところ、随時対応できるサービスや見守り体制の充実、介護人材の確保などがあげられています。

図表 4-36 地域包括ケアシステム実現のために解決すべき課題（自由記載）

- ・ 個人情報の利用についての法整備
- ・ 夜間対応が不安
- ・ 生活を支えるヘルパーさんの人材不足
- ・ 土・日・祝も対応する
- ・ 自宅内での見守りシステムの公的負担（見守りカメラなど）
- ・ 日中独居や、ひとり暮らしなど、家族が遠方でも安心してサポートできるように
- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護が必要

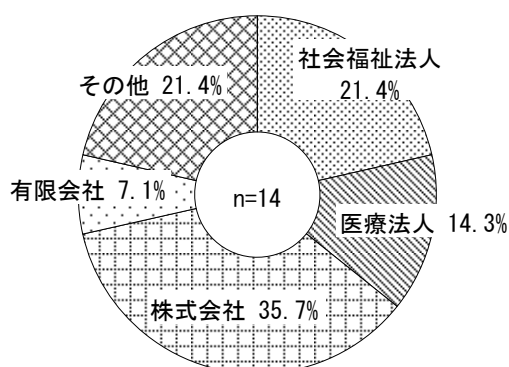
第5章 介護サービス提供事業者調査

1 サービス提供の現状

(1) 経営主体

- ▶回答のあった14事業所の経営主体は、「株式会社」が35.7%、「社会福祉法人」が21.4%、「医療法人」が14.3%、「有限会社」が7.1%です。
- ▶「その他」として「合同会社」（2件）「合資会社」の記載がありました。

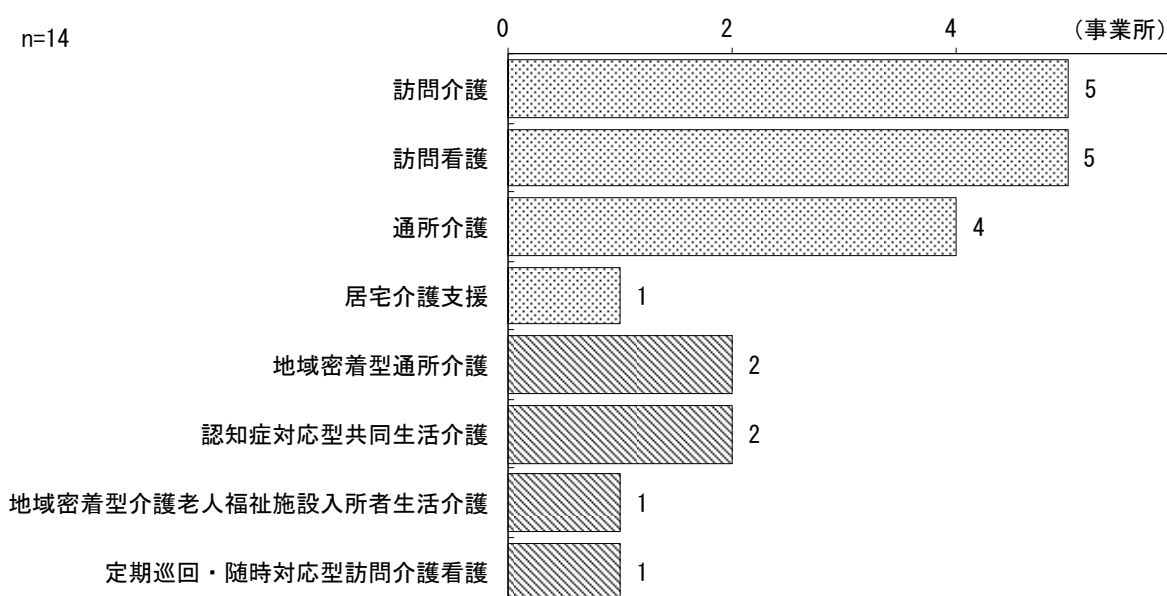
図表5-1 経営主体



(2) 実施しているサービス

- ▶実施しているサービスは、「訪問介護」および「訪問看護」が5事業所、「通所介護」が4事業所、「地域密着型通所介護」および「認知症対応型共同生活介護」が各2事業所などとなっています。

図表5-2 実施しているサービス（複数回答）



(3) サービスを提供するうえで困っていること

■図表５－３は、介護保険サービスを提供するうえで困っていることを、サービスごとに自由に記入していただいた結果です。人材不足に関する記載がみられました。

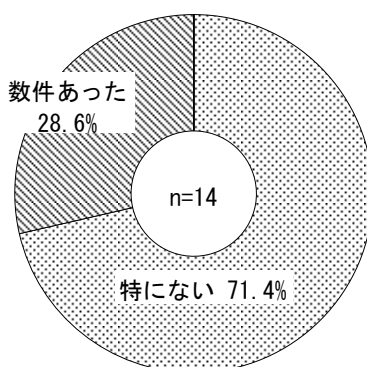
図表５－３ サービスを提供するうえで困っていること（自由記載）

- | |
|--|
| 〈訪問介護〉 |
| ・ヘルパー人材不足（３件） |
| 〈訪問看護〉 |
| ・看護師不足（普段の訪問をはじめ、夜間、日祝等の待機ができる人材、若手の担い手、後継者など） |
| 〈通所介護〉 |
| ・生活相談員不足 |
| 〈居宅介護支援〉 |
| ・業務拡張するための人材不足 |

(4) 利用者からの苦情

- ▶過去１年間ににおける利用者からの苦情は、「特にない」が71.4%、「数件あった」が28.6%で、「かなりあった」という選択肢が用意されていましたが回答はありませんでした。（図表５－４）。
- ▶苦情の内容を具体的に記入していただいたところ、図表５－５の内容が記載されていました。

図表５－４ 利用者からの苦情



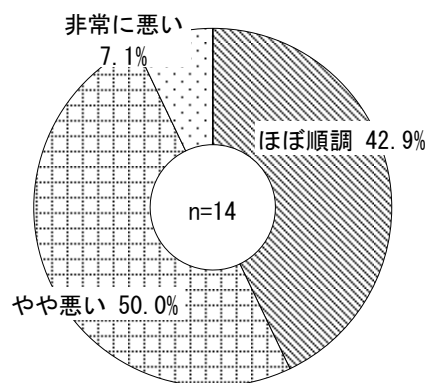
図表５－５ 利用者からの苦情の内容（自由記載）

- | |
|---|
| ・サービス内容から外れた要求 |
| ・「血圧が200を超えていたからといって、入浴させない理由にはならない。倒れたら対処すればいいだけのことから、入浴をさせてほしい」（長男から） |
| ・通所介護の送迎時間が遅れたこと |
| ・提供サービスの内容ではなく人間性が合わないから、担当を外してほしい（訪問介護） |
| ・施設が暑い、寒い。お弁当がおいしくない（通所介護） |
| ・サービス内容を細かく要望され、対応しかねる内容についてお伝えしても納得していただかず苦情として連絡いただく |

(5) 事業所の運営（経営）状況

▶事業所の運営（経営）状況は、「やや悪い」が50.0%を占めています。「ほぼ順調」が42.9%、「非常に悪い」が7.1%で、「非常によい」という選択肢が用意されていましたが回答はありませんでした。

図表 5－6 事業所の運営（経営）状況

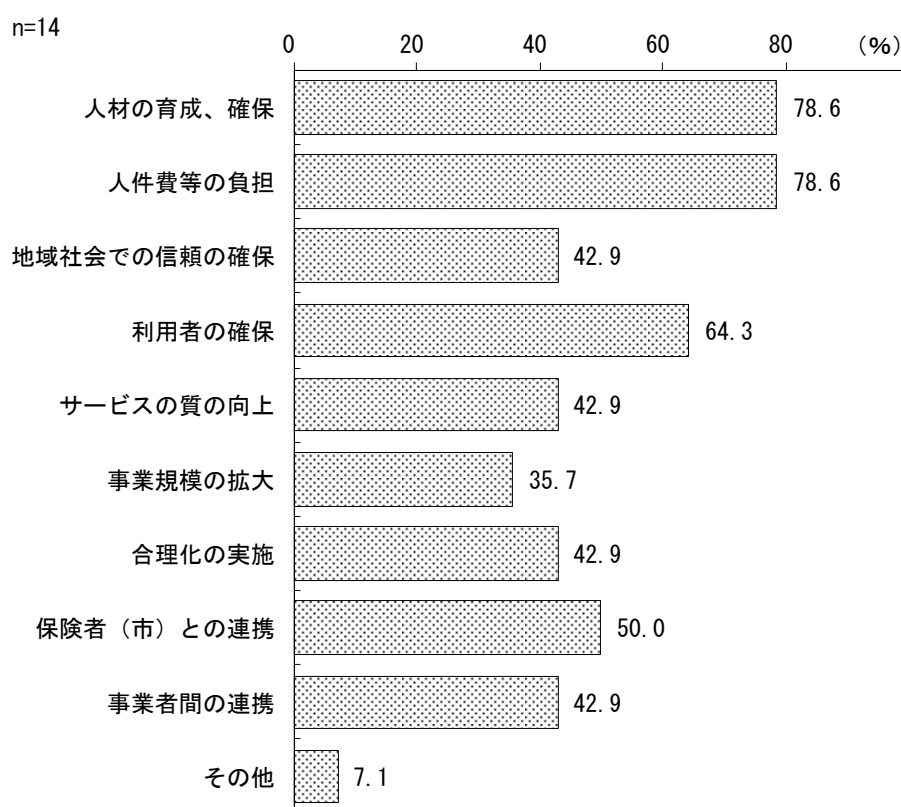


2 今後の事業展開等について

(1) 今後の課題

- ▶今後、事業を展開していく上での課題としては、「人材の育成、確保」および「人件費等の負担」が78.6%と最も高く、次いで「利用者の確保」が64.3%、「保険者（市）との連携」が50.0%などとなっています（図表5－7）。
- ▶課題を解決するために、あるといいと思う支援を具体的に記載していただいたところ、図表5－8の内容が記載されていました。

図表5－7 今後の課題（複数回答）



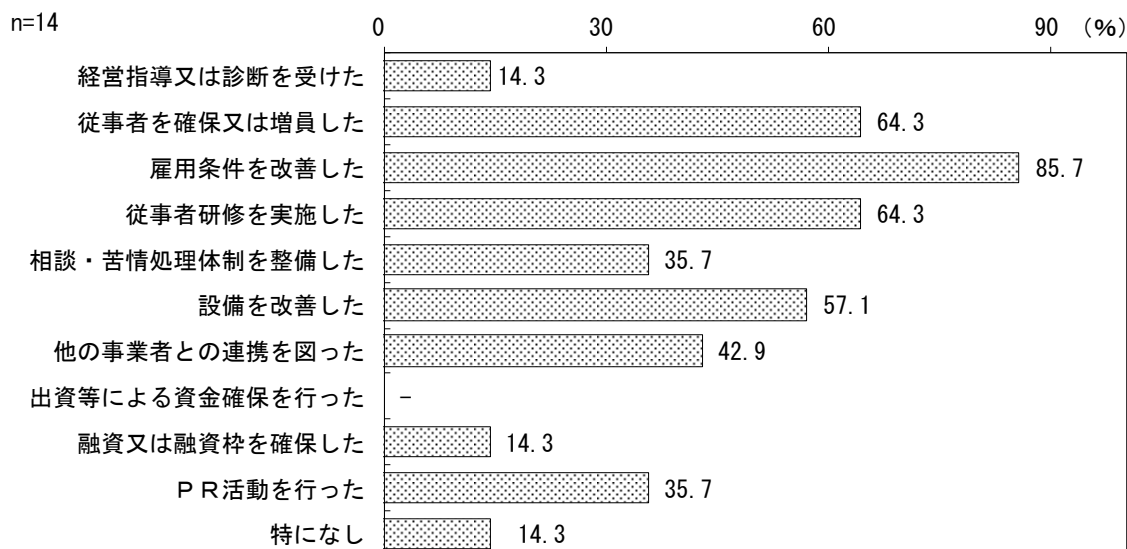
図表5－8 課題解決のためにあるといい支援（自由記載）

- ・ 初任者研修の講習が安価で回数多く、研修の機会があれば良いと思う
- ・ 仕事の割り振りの検討
- ・ 人件費の負担を軽減するために、介護報酬の増加
- ・ サービスの質の向上を図るために、会議等を最小限にして、事業所から職員が出ていかないようにすることで、外出の機会を増やせる
- ・ 人材紹介や斡旋力を強化して介護の窓口を広げる取り組みがあると良い
- ・ 定期的な勉強会や交流会、人材の紹介など

(2) 経営改善等

▶介護保険制度が導入されてから現在までに行った経営改善等に関する行為については、「雇用条件を改善した」が85.7%と最も高く、次いで「従事者を確保又は増員した」および「従事者研修を実施した」が64.3%、「設備を改善した」が57.1%などとなっています。

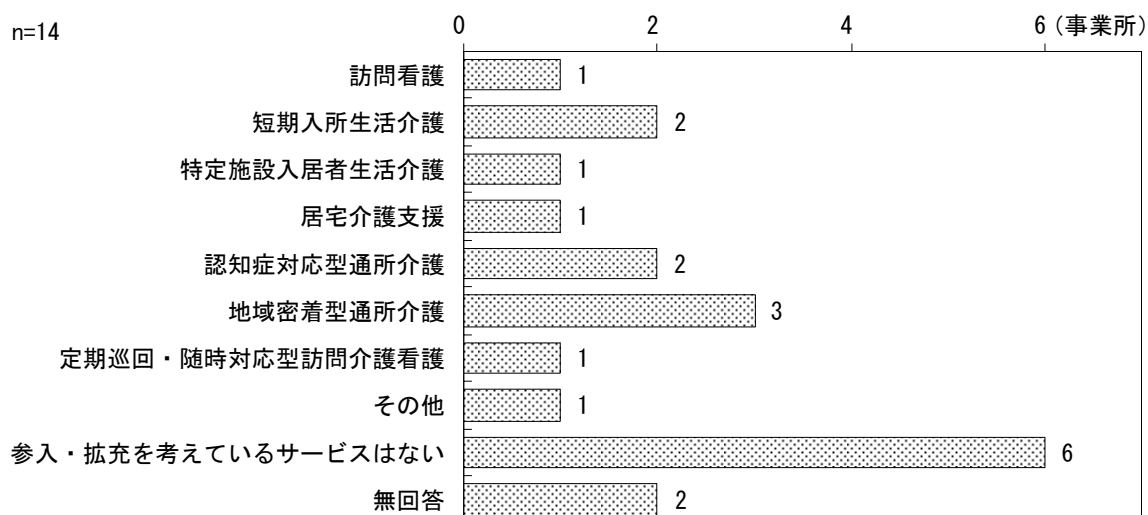
図表5-9 経営改善等（複数回答）



(3) 参入・拡充を考えている介護保険事業

▶新規参入又は拡充を考えているサービスとしては、「地域密着型通所介護」が3事業所、「短期入所生活介護」および「認知症対応型通所介護」が2事業所、「訪問看護」、「特定施設入居者生活介護」、「居宅介護支援」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」および「その他」（住宅型有料老人ホーム）が各1事業所となっています。

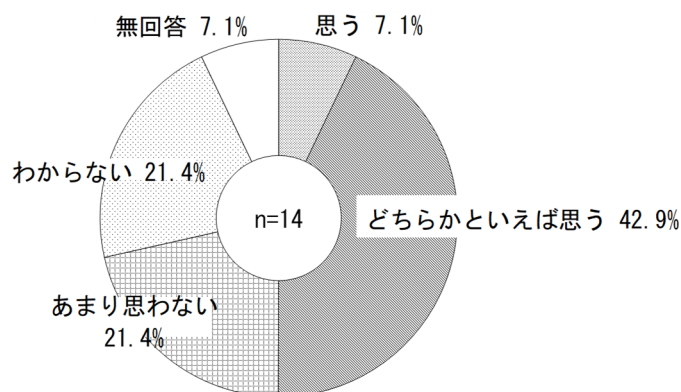
図表5-10 参入・拡充等を考えている介護保険事業（複数回答）



(4) 新しい認知症感

▶「高浜市は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちだと思いますか」という設問に対しては、「どちらかといえば思う」が42.9%と最も高く、次いで「あまり思わない」および「わからない」がそれぞれ21.4%となっています。

図表 5-11 高浜市は認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちか



(5) 地域包括ケアシステムを実現するための課題

▶『地域包括ケアシステム』を実現するためにどのような課題を解決する必要があると思うかを具体的に記載していただいたところ、事業所間の連携強化、夜間対応の強化などがあげられています。

図表 5-12 地域包括ケアシステムを実現するための課題（自由記載）

- ・各事業所間の連携や協力が不十分と感じることが多い。利用者のより良い生活を支援する姿勢が不足している
- ・意思決定支援、ACP支援に関して、高齢単身者、認知症者は特に把握がしづらい。過不足なくその人が望む支援を提供できる体制。限りある財源をどう活用するのか
- ・サービス事業者のシステムの理解はもちろんのこと、利用する市民の方々の地域包括ケアシステムの認知、理解が必要と思います
- ・夜間の対応力がまだまだ弱いのでそこを強化していく必要があると思う
- ・医療、介護、予防、住まい、生活支援のそれぞれが役割を持ち、「一人ひとり、どう支援していくのか」を関係者が集まりカンファレンスする

第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
のための市民アンケート結果報告書

発 行 ____ 令和8年3月

発行者 ____ 高浜市役所

福祉部 介護障がいグループ

〒444-1334

愛知県高浜市春日町五丁目165番地 いきいき広場内

TEL:0566-95-9557 FAX:0566-52-7918